

埋蔵文化財調査報告書 9

—平成 26・27 年度 国庫補助事業 市内遺跡調査報告書—

小郡若山遺跡 8 福童町遺跡 13 大保西小路遺跡 7

小郡市文化財調査報告書 第 310 集

2017

小郡市教育委員会

埋蔵文化財調査報告書 9

—平成 26・27 年度 国庫補助事業 市内遺跡調査報告書—

小郡若山遺跡 8 福童町遺跡 13 大保西小路遺跡 7

小郡市文化財調査報告書 第 310 集

2017

小郡市教育委員会

序

福岡県の中西部に所在する小都市では、これまで市域北部のニュータウン開発や中・東部の工業団地造成に先立って埋蔵文化財の発掘調査が行われ、国指定史跡「小郡官衙遺跡群」や重要文化財「小郡若山遺跡出土多鈕細文鏡」のような文化財が発見されています。今では、考古学ファンや研究者にとっては「歴史の宝庫」として全国的に著名となりました。

小郡市教育委員会では、現在「ほんもの教育力おごおり」をキーワードに、教育施策を展開しています。郷土の伝統と文化に触れ、学ぶことは、次の世代を担う子どもたちの精神的な支柱をはぐくむとともに、世代を超えた全ての人の生活を豊かにしてくれます。埋蔵文化財の発掘調査現場は、それに欠かせない「ほんものの教材」と出会える、まさに最前線と言えるでしょう。

今回ここに報告いたしますのは、平成 26・27 年度の国庫補助事業として発掘調査を実施した埋蔵文化財です。小規模な発掘調査ながら、郷土の財産となる貴重な資料をえられました。本書が、地域の歴史と文化を伝えるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査において近隣にお住まいのみなさまには、多大なご協力をいただきました。記して御礼申し上げます。

平成 29 年 3 月 31 日
小郡市教育委員会
教育長 清武 輝

例言

1. 本書は平成 26・27 年度国庫補助事業として小郡市教育委員会が実施した、個人住宅建設に先立つ発掘調査の報告書である。
2. 本書に掲載する遺構の実測は調査担当者が行い、製図は宮崎美穂子が行った。遺物の実測は調査担当者と西江幸子・久住愛子・藤岡恵子が、製図は久住が行った。
3. 本書に掲載する遺構の写真撮影は調査担当者が行い、遺物写真撮影は有限会社システム・レコに委託した。
4. 出土遺物の洗浄・復元には佐々木智子・藤岡恵子・永富加奈子・山川清日・牛原真弓の協力を得た。
5. 本調査に関わる出土遺物・写真・カラースライド等は小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管している。広く活用されることを希望する。
6. 本書の執筆は上田（小郡若山遺跡 8A～D 区・福童町遺跡 13）・杉本（小郡若山遺跡 8E～G 区・大保西小路遺跡 7）が、編集は上田が行った。

凡例

1. 本書で用いた北は座標北を基準とし、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に拠っている。
2. 本書で用いた標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準としている。
3. 本書で用いている略号は以下のとおりである。
 竪穴住居；SC 祭祀土坑；SF 土坑；SK 甕棺墓；ST 溝状遺構（溝）；SD ピット；SP 堀立柱建物；SB
4. 挿図中に示している数字は本文中の各遺物番号と一致する。

本文目次

序 凡例

第1章 調査の経過と組織1

第2章 位置と環境3

第3章 調査の成果6

1. 小郡若山遺跡 8

(1) 平成 26 年度の調査

1) A 区6

2) B 区 10

3) C 区 18

4) D 区 33

(2) 平成 27 年度の調査

1) E 区 36

2) F 区 39

3) G 区 53

(3) 調査成果のまとめ 61

2. 福童町遺跡 13 63

3. 大保西小路遺跡 7 66

遺物観察表 79

抄録 奥付

挿 図 目 次

第1図	調査地位置図 (S=1/5,000) ……………	1
第2図	周辺遺跡分布図 (S=1/50,000) ……………	5

【小郡若山遺跡8】

第3図	A区遺構配置図 (S=1/100) ……………	6
第4図	A区1号住居平・断面図 (S=1/40) ……………	7
第5図	1・2号土坑平・断面図 (S=1/40) ……………	8
第6図	1号土坑・1号住居出土土器 (S=1/4) ……	8
第7図	B区遺構配置図 (S=1/100) ……………	10
第8図	10～13号土坑平・断面図 (S=1/40) ……	11
第9図	10号土坑出土土器(1)(S=1/4) ……………	12
第10図	10号土坑出土土器(2)(S=1/4、*付は1/6) ……………	13
第11図	11号土坑出土土器 (S=1/4) ……………	14
第12図	12・13号土坑、7号溝状遺構出土土器 (S=1/4) ……………	16
第13図	6号溝状遺構平・断面図 (S=1/40) ……	16
第14図	C区遺構配置図 (S=1/100) ……………	17
第15図	2号住居平・断面図 (S=1/60) ……………	18
第16図	2号住居出土土器 (S=1/4) ……………	19
第17図	5・7号土坑平・断面図 (S=1/40) ……	20
第18図	5・7号土坑出土土器 (S=1/4) ……………	21
第19図	8・9号土坑平・断面図 (S=1/40) ……	23
第20図	8号土坑出土土器(1)(S=1/6、*付は1/4) ……	24
第21図	8号土坑出土土器(2)(S=1/6) ……………	25
第22図	8号土坑出土土器(3)(S=1/4) ……………	26
第23図	8号土坑出土土器(4)(S=1/4) ……………	27
第24図	8号土坑出土土器(5)(S=1/4) ……………	28
第25図	8号土坑出土土器(6)(S=1/4) ……………	29
第26図	9号土坑出土土器(1)(S=1/6) ……………	29
第27図	9号土坑出土土器(2)(S=1/4) ……………	30
第28図	C区出土石器 (S=1/3 *付は1/2) ……	30
第29図	2・3号溝状遺構平・断面図 (S=1/40) ……	31
第30図	C区1号甕棺墓平・断面図 (S=1/20) ……	32
第31図	C区1号甕棺実測図 (S=1/6) ……………	32
第32図	D区遺構配置図 (S=1/100) ……………	33・34
第33図	14・15号土坑平・断面図 (S=1/40) ……	35
第34図	E区遺構配置図 (S=1/100) ……………	36
第35図	E区1～3号土坑平・断面図 (S=1/40) ……	37
第36図	E区1・2・7・8号ピット平・断面図 (S=1/40) ……………	38
第37図	E区出土土器 (S=1/4) ……………	39
第38図	F区遺構配置図 (S=1/100) ……………	40
第39図	1・2号祭祀土坑平・断面図 (S=1/40) ……	41
第40図	1号祭祀土坑出土土器(1)(S=1/4) ……	42
第41図	1号祭祀土坑出土土器(2)(S=1/4) ……	43
第42図	1号祭祀土坑出土土器(3)(S=1/4) ……	44
第43図	1号祭祀土坑出土土器(4)(S=1/4) ……	45
第44図	1号祭祀土坑出土土器(5)(S=1/4、*付は1/6) ……………	46
第45図	1号祭祀土坑出土土器(6)(S=1/4) ……	47
第46図	1号祭祀土坑出土土器(7)(S=1/4) ……	48
第47図	F区1・4・5号土坑平・断面図 (S=1/40) ……	49

第48図	2号祭祀土坑、4号土坑出土土器 (S=1/4) ……	51
第49図	F区出土石器・土製品 (S=1/3、*付は1/4) ……	52
第50図	G区遺構配置図 (S=1/100) ……………	53
第51図	G区1号住居平・断面図 (S=1/60) ……	54
第52図	G区1号住居出土土器 (S=1/4) ……………	55
第53図	G区1～4号土坑、1号ピット平・断面図 (S=1/40) ……………	56
第54図	G区1～4号土坑出土土器・土製品 (S=1/4) ……………	57
第55図	G区出土石器・土製品 (S=1/3) ……………	57
第56図	G区1号甕棺実測図 (S=1/6) ……………	59
第57図	G区1号甕棺墓平・断面図 (S=1/20) ……	60
第58図	小郡若山遺跡調査地配置図 (S=1/1,000) ……	62

【福童町遺跡13】

第59図	遺構配置図 (S=1/100)・西壁土層断面図 (S=1/60) ……………	63
第60図	福童町遺跡調査地配置図 (S=1/1,000) ……	65

【大保西小路遺跡7】

第61図	遺構配置図 (S=1/60) ……………	66
第62図	1・2号掘立柱建物平・断面図 (S=1/60) ……	68
第63図	3・4号掘立柱建物平・断面図 (S=1/60) ……	69
第64図	1・3号土坑平・断面図 (S=1/40) ……	70
第65図	2号土坑平・断面図 (S=1/40) ……………	71
第66図	4～7号土坑、1号溝平・断面図 (S=1/40) ……	73
第67図	8～10号土坑平・断面図 (S=1/40) ……	75
第68図	土坑出土土器 (S=1/4) ……………	76
第69図	ピット等出土土器 (S=1/4) ……………	77
第70図	出土鉄器・石器 (S=1/3) ……………	78

写真図版目次

【小郡若山遺跡8】

- 図版1 ①A区全景(西から)
②1号土坑 遺物出土状況(北東から)
③2号土坑 土層断面・完掘状況(南東から)
④1号住居 土層断面(南から)
⑤1号住居 完掘状況(南東から)
- 図版2 ①B区南側全景(北西から)
②B区全景(南東から)
- 図版3 ①10号土坑 遺物出土状況(北東から)
②10号土坑 土層断面(北東から)
③10号土坑 完掘状況(南西から)
④11号土坑 遺物出土状況(北西から)
⑤11号土坑 完掘状況(南西から)
⑥11号土坑 土層断面(北西から)
⑦6号溝状遺構 完掘状況(北西から)
- 図版4 ①C区全景(1)(南西から)
②C区全景(2)(北東から)
- 図版5 ①7号土坑北半部 遺物出土状況(南から)
②7号土坑南半部 遺物出土状況(南から)
③7号土坑 土層断面(南から)
④7号土坑 完掘状況(南西から)
⑤8号土坑 土層断面(北東から)
⑥8号土坑 完掘状況(北西から)
⑦9号土坑 土層断面(北東から)
⑧9号土坑 遺物出土状況(南西から)
- 図版6 ①9号土坑 完掘状況(南東から)
②2号住居 遺物出土状況(1)(南西から)
③2号住居 遺物出土状況(2)(西から)
④2号住居 遺物出土状況(3)(南東から)
⑤2号住居 遺物出土状況(4)(南西から)
⑥2号住居 遺物出土状況(5)(南西から)
⑦2号住居 遺物出土状況(6)(北西から)
⑧2号住居 土層断面(1)(北東から)
- 図版7 ①2号住居 土層断面(2)(北西から)
②2号住居 全景(北西から)
③2号住居 完掘状況(南東から)
④1号甕棺墓 検出状況(東から)
⑤2号溝状遺構 完掘状況(北西から)
⑥3号溝状遺構 完掘状況(南から)
⑦4号溝状遺構 完掘状況(北東から)
⑧5号溝状遺構 完掘状況(北西から)
- 図版8 ①2トレンチ 全景(北から)
②3トレンチ 全景(南から)
③8号溝状遺構 完掘状況(北西から)
④15号土坑 完掘状況(南西から)
⑤4トレンチ 全景(1)(北西から)
⑥4トレンチ 全景(2)(南西から)
- 図版9 ①E区全景(1)(西から)
②E区全景(2)(南東から)
- 図版10 ①1号土坑 土層断面(北西から)
②1号土坑 完掘状況(北西から)
③2号土坑 土層断面(北東から)
④3号土坑 土層断面(西から)
⑤2・3号土坑 完掘状況(東から)
⑥1・2号ピット 土層断面(西から)
⑦8・9号ピット 完掘状況(南西から)
⑧発掘作業風景
- 図版11 ①F区全景(1)(北東から)
②F区全景(2)(南東から)
- 図版12 ①1号祭祀土坑 土層断面(東から)
②1号祭祀土坑 遺物出土状況(南から)
③2号祭祀土坑 土層断面(北から)

- ④2号祭祀土坑 完掘状況(北から)
⑤1号土坑 完掘状況(南から)
⑥4号土坑 土層断面(北から)
⑦4号土坑 完掘状況(北から)
⑧5号土坑 完掘状況(北西から)

- 図版13 G区全景(東から)
- 図版14 ①1号住居 土層断面(1)(西から)
②1号住居 土層断面(2)(北から)
③1号住居 全景(1)(東から)
④1号住居 全景(2)(西から)
⑤1号住居 貼床土層断面(1)(西から)
⑥1号住居 貼床土層断面(2)(北から)
⑦1号住居 完掘状況(西から)
⑧1号土坑 土層断面(西から)
- 図版15 ①1号土坑 完掘状況(北から)
②3号土坑 土層断面(南から)
③4号土坑 土層断面(南から)
④4号土坑 完掘状況(北から)
⑤1号甕棺墓 土層断面(南から)
⑥1号甕棺墓 完掘状況(南から)
⑦1号甕棺墓 墓壇完掘状況(北から)
⑧発掘調査風景
- 図版16 出土遺物(1)
- 図版17 出土遺物(2)
- 図版18 出土遺物(3)
- 図版19 出土遺物(4)
- 図版20 出土遺物(5)

【福童町遺跡13】

- 図版21 ①調査区全景(1)(南から)
②調査区全景(2)(南西から)
③西壁 土層断面(東から)

【大保西小路遺跡7】

- 図版22 ①調査区全景(西から)
②1号土坑 東西土層断面(北から)
③1号土坑 南北土層断面(西から)
④1号土坑 完掘状況(南から)
⑤2号土坑 土層断面(北から)
- 図版23 ①2号土坑 完掘状況(南から)
②3号土坑 南北土層断面(西から)
③3号土坑 東西土層断面(南から)
④3号土坑 完掘状況(西から)
⑤4号土坑 完掘状況(南西から)
⑥5号土坑 完掘状況(東から)
⑦6号土坑 土層断面(南から)
⑧6号土坑 完掘状況(南から)
- 図版24 ①7号土坑 完掘状況(北から)
②8号土坑 土層断面(西から)
③8号土坑 完掘状況(西から)
④9号土坑 土層断面(南東から)
⑤9号土坑 完掘状況(南東から)
⑥10号土坑 完掘状況(北西から)
⑦1号溝 土層断面(西から)
⑧1号溝 完掘状況(南西から)
- 図版25 出土遺物(1)
- 図版26 出土遺物(2)

第1章 調査の経過と組織

本書で報告する発掘調査は、各事業に先立つ事前協議の結果、平成26・27年度の国庫補助事業の一環として実施し、調査報告書を平成28年度の国庫補助事業として作成することとなった。それぞれの調査に至る経緯については下記のとおりである。

【小郡若山遺跡8】

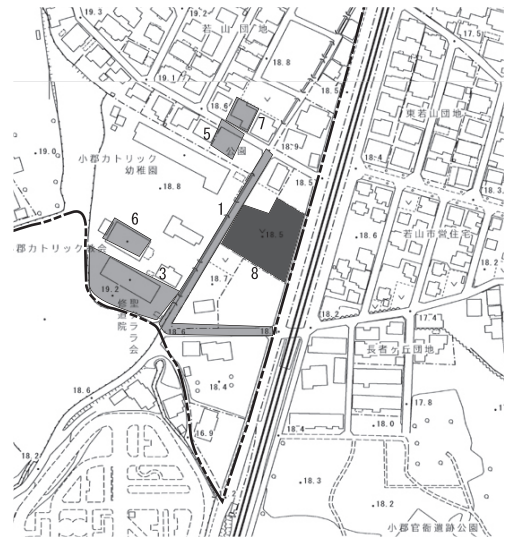
本調査は、平成26年度に宅地造成に先立って「埋蔵文化財の有無に関する照会」(事前審査番号14004)が提出されたことに始まる。これを受けて小郡市教育委員会では造成予定地の試掘調査を実施し、埋蔵文化財の存在を確認したため、発掘調査による記録保存が必要な旨の回答を行った。その後、事業者と教育委員会で協議した結果、宅地造成に伴う下水道関連工事の実施箇所は工事立会を行い、9区画に分割・造成する宅地については、建築時に基礎工事の内容に応じて別途個別に協議を行うことで同意を得た。平成26年度は工事立会と、個人住宅3軒(4区画分)の発掘調査を、平成27年度は個人住宅3軒(3区画分)の発掘調査を行った。残り2軒については、埋蔵文化財に影響が及ばない基礎工事であったため、遺跡の保存が成っている。

【福童町遺跡13】

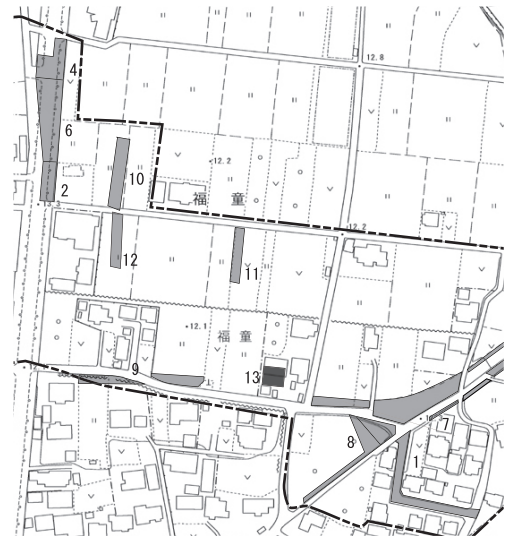
本調査は、個人住宅建設に先立って「埋蔵文化財の有無に関する照会」(事前審査番号14148)が提出されたことに始まる。小郡市教育委員会では建設予定地の試掘調査を実施し、埋蔵文化財の存在を確認したため、発掘調査による記録保存が必要な旨の回答を行った。その後事業者と教育委員会の協議により、国庫補助事業として調査を行うことで同意を得た。

【大保西小路遺跡7】

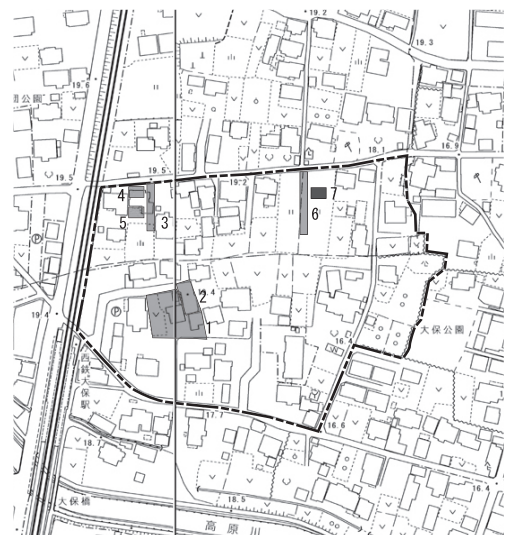
本調査は、個人住宅建設に先立って「埋蔵文化財の有無に関する照会」(事前審査番号15076)が提出されたことに始まる。隣接地において、宅地造成に伴う道路新設工事を原因とする発掘調査が実施されており、遺跡が延長することが確実であるため、発掘調査による記録保存が必要な旨の回答を行った。その後事業者と教育委員会の協議により、国庫補助事業として調査を行うことで同意を得た。



【小郡若山遺跡8】



【福童町遺跡13】



【大保西小路遺跡7】

第1図 調査地位置図 (S=1/5,000)

* 図面内の数字は調査次数

<調査の経過>

【小郡若山遺跡 8】

(D区) 平成26年9月10日下水工事に伴う工事立会。遺構面まで重機で表土を除去したのち、遺構検出、埋土から弥生時代の遺構と推測されるものを一部掘削 11日記録図面作成および写真撮影を実施

(A区) 平成27年1月7日重機による表土剥ぎ開始 13日人力による遺構検出・掘削開始 14日全景写真撮影 19日記録図面作成 20日埋め戻し完了、引き渡し

(B・C区) 平成27年1月20日C区で重機による表土剥ぎ開始 23日人力による遺構検出・掘削開始、以後随時遺構掘削、記録図面作成および写真撮影を実施 2月20日全景写真撮影 23日埋め戻し完了 24日B区で重機による表土剥ぎ開始、同日より人力による遺構検出・掘削開始、以後随時遺構掘削、記録図面作成および写真撮影を実施 3月4日全景写真撮影 6日記録図面作成 10日埋め戻し完了、引き渡し

(E・F区) 平成27年6月2日E区で重機による表土剥ぎ開始 4日E区で人力による遺構検出・掘削開始、以後随時遺構掘削、記録図面作成および写真撮影を実施 8日F区で重機による表土剥ぎ開始 9日F区で人力による遺構検出・掘削開始、以後随時遺構掘削、記録図面作成および写真撮影を実施 15日E区全景写真撮影 16～19日E区記録図面作成 22日F区全景写真撮影、E区埋め戻し開始 23日F区記録図面作成 24日E・F区ともに埋め戻し完了、引き渡し

(G区) 平成27年9月24日重機による表土剥ぎ開始 28日人力による遺構検出・掘削開始、以後随時遺構掘削、記録図面作成および写真撮影を実施 10月8日全景写真撮影 9～15日記録図面作成、一部ベルト等掘削 16日埋め戻し完了、引き渡し

【福童町遺跡 13】

平成27年5月11日遺構面まで重機で表土を除去 13日人力による遺構検出を実施、中近世の所産と思われるピット群を確認、随時ピットを掘削 20日調査区全景写真を撮影、記録図面作成 21日記録図面の作成完了 22日現地引き渡し

【大保西小路遺跡 7】

平成28年1月18日重機による表土剥ぎ開始 21日人力による遺構検出・掘削開始、中世の土坑・ピットを確認、以後随時遺構掘削、記録図面作成および写真撮影を実施 2月22日調査区全景写真を撮影 23日記録図面作成 24日座標測量実施 25日埋め戻し開始 26日埋め戻し完了、引き渡し

なお各調査とも、現地調査終了後は図面・遺物整理作業及び報告書作成を実施している。

<調査の組織>

【小郡若山遺跡 8】(A~D区 平成 26 年度)

小郡市教育委員会 教育長 清武 輝
部長 佐藤秀行
文化財課長 片岡宏二
係長 柏原孝俊
技師 上田 恵

(E~F区 平成 27 年度)

小郡市教育委員会 教育長 清武 輝
部長 佐藤秀行
文化財課長 片岡宏二
係長 柏原孝俊
技師 杉本岳史
嘱託技師 宮本博喜 (現大牟田市教育委員会)

【福童町遺跡 13】

小郡市教育委員会 教育長 清武 輝
部長 佐藤秀行
文化財課長 片岡宏二
係長 柏原孝俊
嘱託技師 宮本博喜 (現大牟田市教育委員会)

【大保西小路遺跡 7】

小郡市教育委員会 教育長 清武 輝
部長 佐藤秀行
文化財課長 片岡宏二
係長 柏原孝俊
技師 杉本岳史

第 2 章 位置と環境

(1) 地理的環境

小郡市は福岡県中西部に位置し、東西約 6 km、南北約 12 kmの南北に長い行政区域を有する。市域は宝満山から派生する宝満川によって東西に二分されている。東岸には独立丘陵である花立山(城山)が、西岸には脊振山系に由来する丘陵(通称・三国丘陵)があり、これらが南に行くに従って段丘・台地へと緩やかに移行し、沖積地を経て筑後平野へ連なる。低台地の多くは小規模河川の浸食によって舌状に独立した形状になっており、この台地上に多くの遺跡が分布している。

(2) 歴史的環境

小郡市では昭和 46 (1971) 年に実施された津古内畑遺跡の発掘を嚆矢に、これまで開発事業に先立つ調査が多数実施されている。主体は小郡・筑紫野ニュータウン造成に伴う三国丘陵上の大規模調査であるが、市域中・南部でも、道路改良工事や宅地開発などに伴って小・中規模な調査が実施されてきた。以下、本書で報告する遺跡と関連性の高いものを中心に歴史的環境の概要を記す。

旧石器・縄文時代の遺構・遺物は、市内のごく限られた地域でわずかに確認されているのみであり、集落の詳細な様相がわかる例は未確認である。弥生時代になると、三国丘陵の南端に位置する力武内畑遺跡 (8) で水田耕作を伴う集落経営が始まる。これを嚆矢に三国丘陵では前期の集落・墓域・生産域の開発が進展し、中期になると市内全域へ集落形成が拡大していく。中南部の小郡 (14)・大板井 (15) 遺跡は、当地域を代表する中期の大規模集落であり、小郡遺跡には大型円形住居、大板井遺跡は青銅製祭器を有することから、拠点的存在であったと考えられる。両者と隣接する小郡若山遺跡 (13) では、竪穴住居や祭祀土坑によって構成される集落内で、多鈕細文鏡 2 面の埋納遺構が確認されている。このほかにも、銅戈 9 本の埋設遺構を検出した寺福童遺跡 4 (22) や、前期から中期にかけての墓域である寺福童遺跡 5 (22) などが確認されていることから、同時期の有力集落の存在が想定されている。

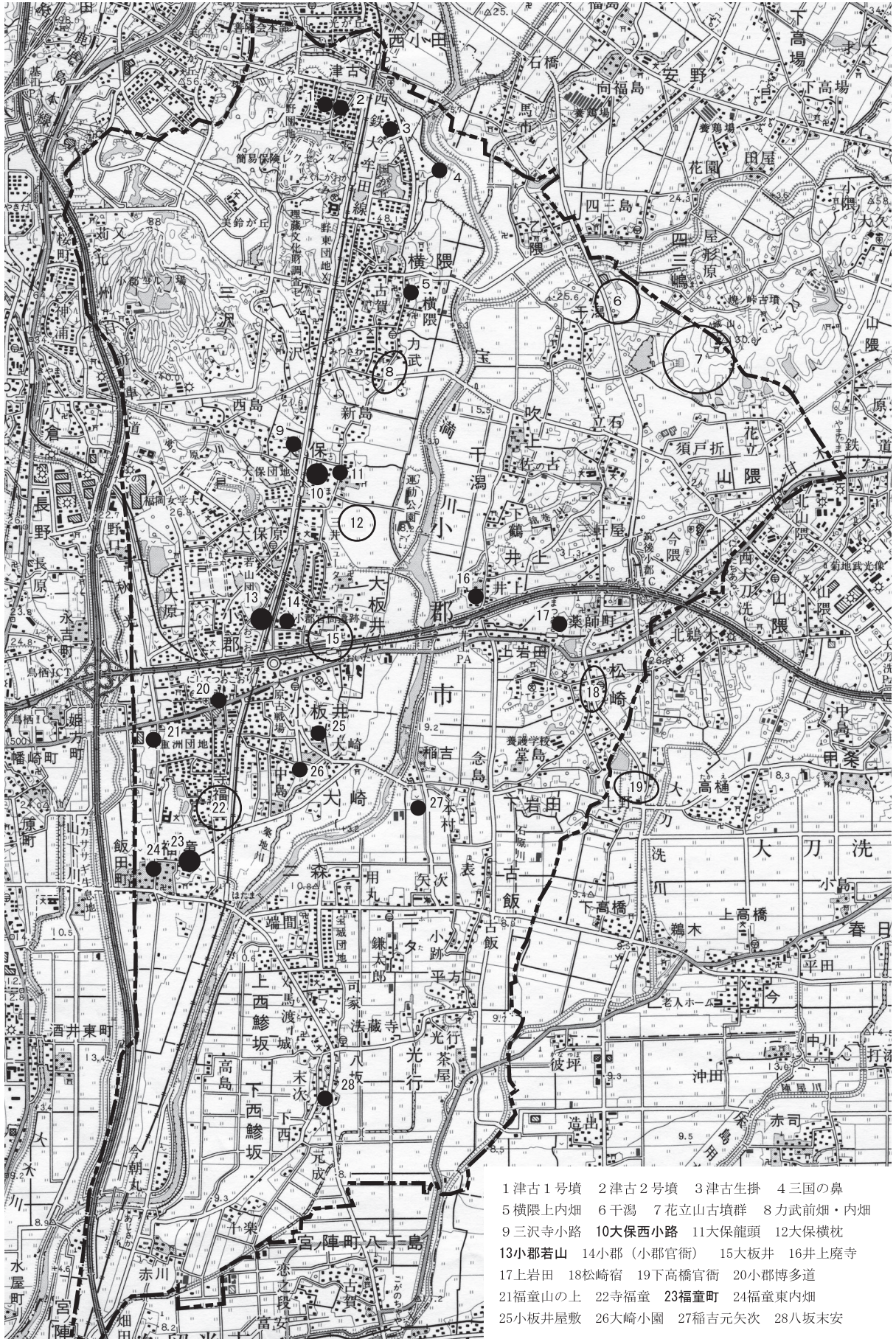
古墳時代は三国丘陵における前期古墳の登場に始まり、大崎小園遺跡 (26) や福童町遺跡 1 (23) といった前期集落、寺福童遺跡 (22) のような方形周溝墓を伴う墓域が形成される。中期の様相は資料が少ないため不明な点が多いが、後期から末期にかけては再度集落・墓地が成立し、一定期間継続して経営されるようになる。

これらの集落・墓地は律令期に大々的な再編が行われたようで、旧来の集落が断絶したのち、新たな集落が成立する。当時の小郡市は筑後国御原郡に相当し、ここを納める郡衙が初期評衙とされる上岩田遺跡 (17) から小郡官衙遺跡 (14)、三井郡大刀洗町の下高橋官衙遺跡 (19) へ変遷することが確認されている。市域西端は筑後・肥前国境 (現・福岡―佐賀県境) に面し、この境界に沿って西海道が敷かれていた。市域南西部の条里制施行には、この西海道の影響が認められる。

中世に入ると再び集落立地が変化し、八坂末安遺跡 (28) のように市域南部の低地へも集落域が拡大し、3重溝を持つ拠点集落である稲吉元矢次遺跡 (27) が成立する。その後、市域中部の大保龍頭遺跡 (11)・大保横枕遺跡 (12)、中南部の福童山の上遺跡 (21)・福童町遺跡 4・6 (23) で集落の隆盛を見たのち、南北朝期の太保原合戦を経て三沢寺小路遺跡 (9) や大保西小路遺跡 (10) へ展開する。中世の小郡市は寺社荘園領が多くを占めていたが、この頃の農村集落の変遷がどのような政治的影響を受けていたのか、今後詳細な検討を行う必要がある。

近世には、筑後国久留米藩の領地に編成され、その財政を支える農村地帯として位置付けられた。市域には旧筑前街道や薩摩街道が縦走し、筑後国最北端の宿場町である松崎宿 (18) や街道沿いの在郷町である横隈上内畑遺跡 (5)・小坂井屋敷遺跡 (25)、道路状遺構を検出した小郡博多道遺跡 (20) や当時の農村である福童東内畑遺跡 (24) でも遺構・遺物が確認されている。

このように調査地周辺では古くから人々の生活が連綿と営まれてきた。



- 1 津古1号墳 2 津古2号墳 3 津古生掛 4 三国の鼻
- 5 横限上内畑 6 干潟 7 花立山古墳群 8 力武前畑・内畑
- 9 三沢寺小路 10 大保西小路 11 大保龍頭 12 大保横枕
- 13 小郡若山 14 小郡 (小郡官衙) 15 大板井 16 井上虜寺
- 17 上岩田 18 松崎宿 19 下高橋官衙 20 小郡博多道
- 21 福童山の上 22 寺福童 23 福童町 24 福童東内畑
- 25 小坂井屋敷 26 大崎小園 27 福吉元矢次 28 八坂末安

第2図 周辺遺跡分布図(S=1/50,000)

第3章 調査の成果

1. 小郡若山遺跡 8

(1) 平成26年度の調査

【調査の概要】

小郡若山遺跡は、市内を南流する宝満川の西岸に位置する。遺跡の所在する洪積台地には、弥生時代前期後半から集落が営まれるようになり、中期前半から中頃にかけて、小郡遺跡・大板井遺跡と小郡若山遺跡において最盛期を迎える。周辺ではこれまで7次の発掘調査が行われ、弥生時代から古墳時代にかけての複合遺跡であることが判明している。

今回の調査対象地は、1・3次調査地に隣接する場所であり、宅地造成工事以前に市民農園として使用されていた。旧地表より40～50cm下が褐色ロームの遺構検出面であり、耕作に伴うと思われる攪乱が各所に見られる。平成26年度は、宅地造成に先立つ下水工事立会と、個人住宅3軒（うち1軒は2区画にまたがる）の発掘調査を行った。遺構番号はA～D区を通して連番にしており、3・4・6号土坑は欠番となっている。全調査区を合わせて竪穴住居2軒、祭祀土坑を



第3図 A区 遺構配置図 (S=1/100)

含む土坑 15 基、小児甕棺墓 1 基、周溝状遺構 3 基、溝状遺構 5 条と少数のピットを検出している。いずれも弥生時代中期の遺構であり、多くは残存状況が良好であった。

1) A 区

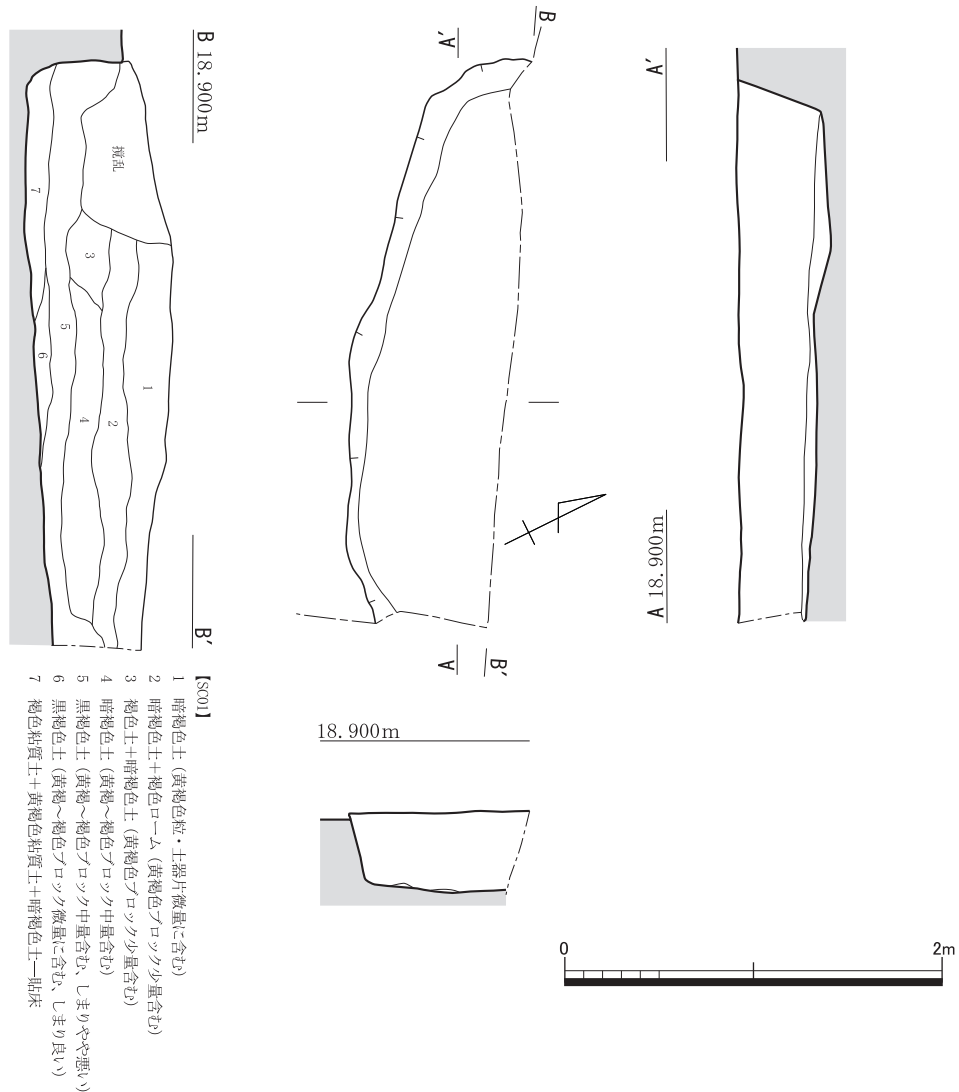
【遺構と遺物】

1号住居 (第4図、図版1)

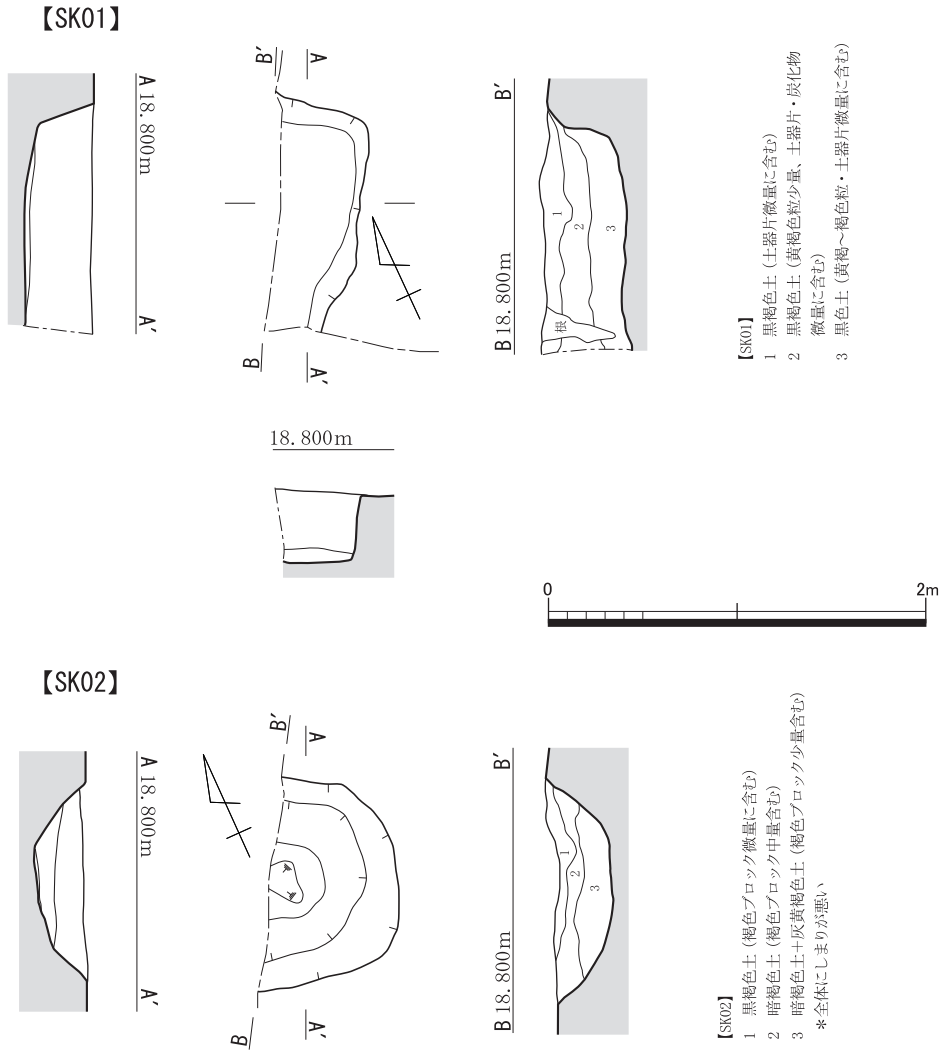
調査区の北東隅に位置し、遺構の大半は調査区外へ延長する。後述する2号住居 (C 区内で検出) と同種の遺構と想定すると、北東—南西方向に主軸を取る小判型住居と考えられる。壁面の立ち上がりはやや外反している。南北検出長 3.0m、東西検出幅 0.9m、深さ 0.4m を測る。埋土は暗褐色土を主体とする水平堆積である。底面に厚さ 0.1m 前後の粘質土で貼床を施す。検出した範囲では、柱穴痕跡やその他住居に付随する施設は確認出来ていない。

出土遺物 (第6図)

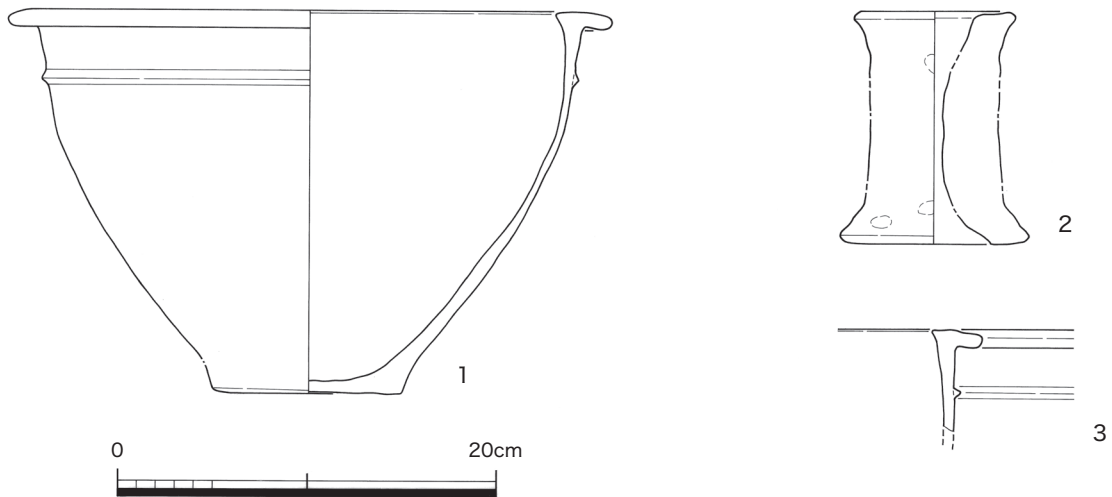
埋土からごく少量の弥生土器が出土しているが、いずれも小片である。3は樽型土器の口縁部



第4図 A区 1号住居平・断面図 (S=1/40)



第5図 1・2号土坑 平・断面図 (S=1/40)



第6図 1号土坑・1号住居 出土土器 (S=1/4)

で、端部がやや下に垂れ、断面三角形の突帯をめぐらすもの。摩滅が著しく調整手法は不明である。

1号土坑（第5図、図版1）

調査区の西隅にあり、遺構の大半は調査区外に延びる。主軸方向は不明、平面プランは長方形と推測される。壁面は緩やかに外反して立ち上がる。南北検出長 1.26m、東西検出幅 0.45m、深さ 0.45m を測る。埋土は黒褐色土を主体し、人為的埋没と考えられる。

出土遺物（第6図）

上層・下層双方からまとまった量の遺物が出土しているが、ほとんどが小片である。1は胴部に断面三角形の突帯を持つ鉢で、口縁端部はわずかに下垂し、体部は工具ナデで仕上げている。2は支脚。全体に厚く、中央部は直立して柱状を呈する。

2号土坑（第5図、図版1）

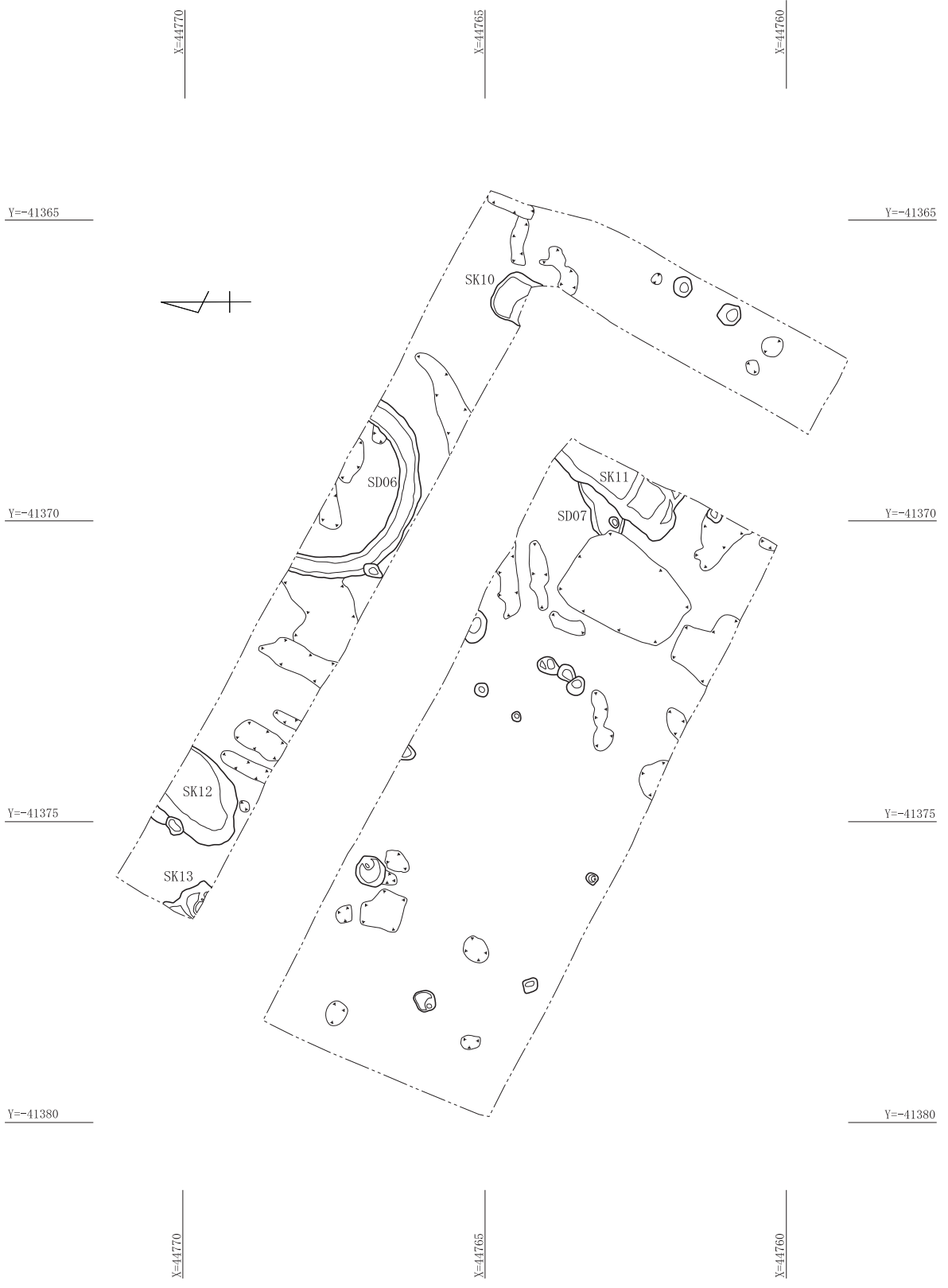
調査区北西隅に位置し、遺構の西半部は調査区外へ延長する。主軸は東西方向、平面プランは楕円形と思われる。東西検出長 0.7m、南北幅 1.1m、深さ 0.3m を測り、底面は播鉢状を呈する。埋土は暗褐色土の水平堆積で、全体的にしまりが悪い。

出土遺物

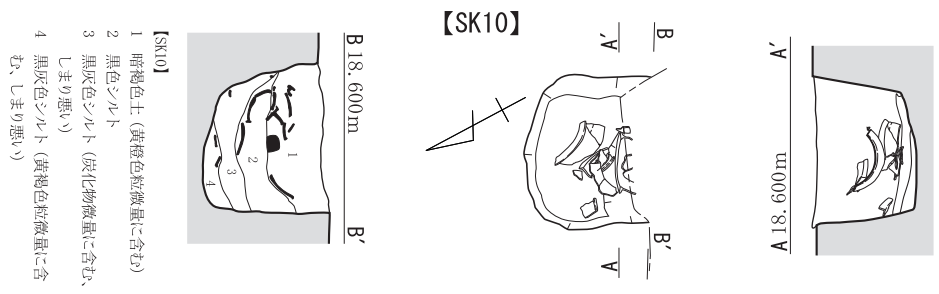
中期の弥生土器が少量出土しているが、いずれも小片のため図示は控えた。

1号溝状遺構（第3図、図版1）

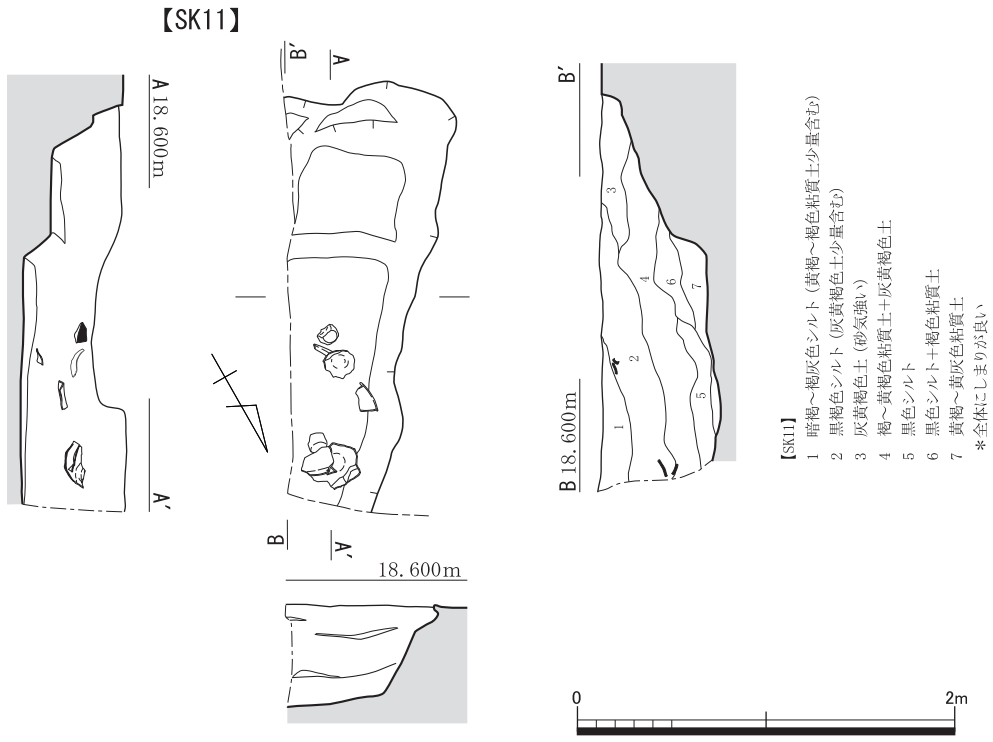
調査区中央に位置し、北東—南北方向に流れる。幅 0.3m、長さ 2.0m、深さ 5 cm を測り、断面は台形を呈する。形状は現代の耕作溝に類するが、埋土の状況から遺構と判断した。



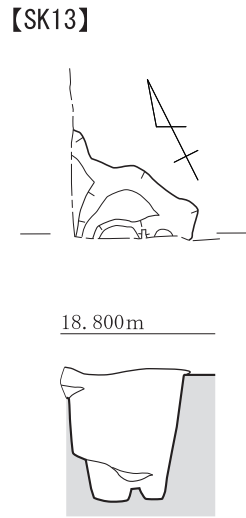
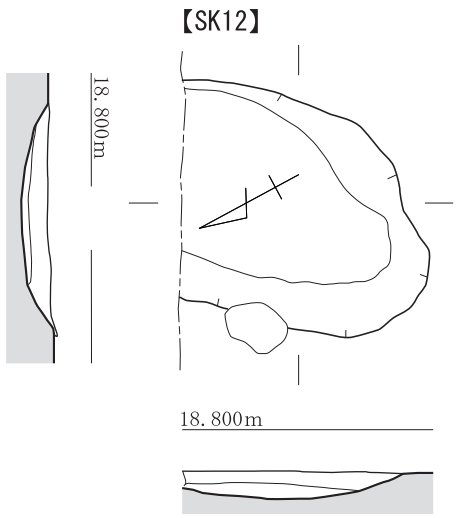
第7図 B区 遺構配置図 (S=1/100)



- 【SK10】**
- 1 暗褐色土 (黄褐色粒微量を含む)
 - 2 黒色シルト
 - 3 黒灰色シルト (炭化物微量を含む、しまり悪い)
 - 4 黒灰色シルト (黄褐色粒微量を含む、しまり悪い)



- 【SK11】**
- 1 暗褐色～褐灰色シルト (黄褐色～褐色粘質土少量含む)
 - 2 黒褐色シルト (灰黄褐色土少量含む)
 - 3 灰黄褐色土 (砂気強い)
 - 4 褐～黄褐色粘質土+灰黄褐色土
 - 5 単色シルト
 - 6 黒色シルト+褐色粘質土
 - 7 黄褐色～黄灰色粘質土
- *全体にしまりが良い



第8図 10～13号 土坑平・断面図 (S=1/40)

2) B区

B区は造成された宅地2区画に建物部分がまたがる設計であった。そのため、南北2つの区画に分割し、同時進行で調査を実施している。北区では土坑3基と溝状遺構1条、南区では土坑1基と溝状遺構1条をそれぞれ検出した。遺構は全て各区内及び調査区外にあり、両区にまたがっているものは見られない。

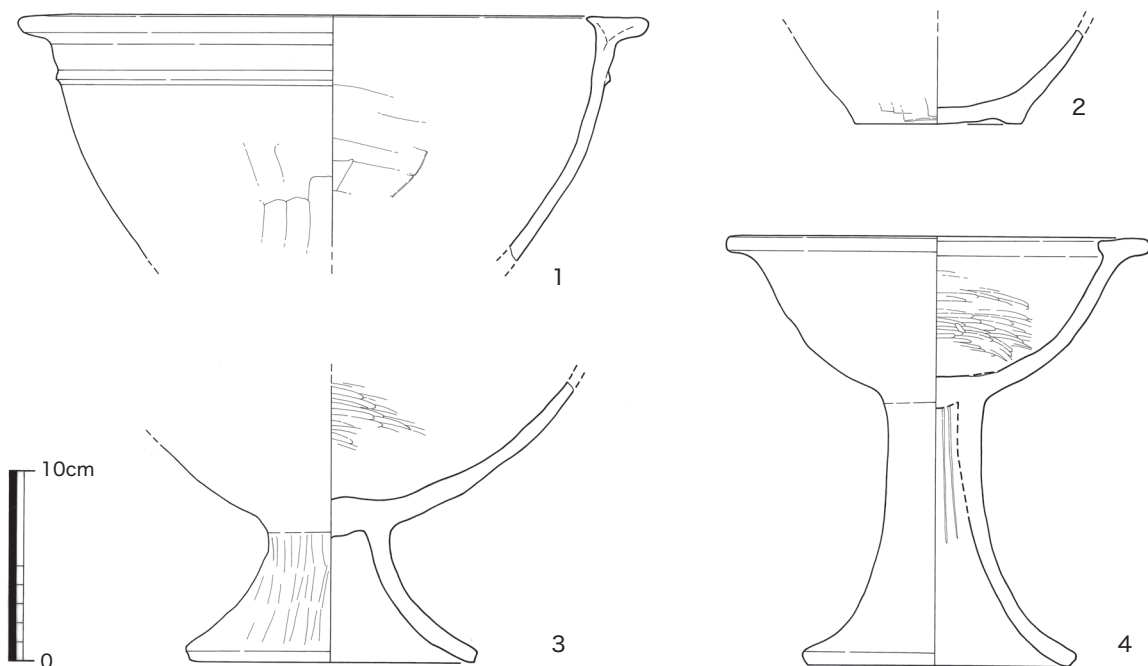
【遺構と遺物】

10号土坑（第8図、図版3）

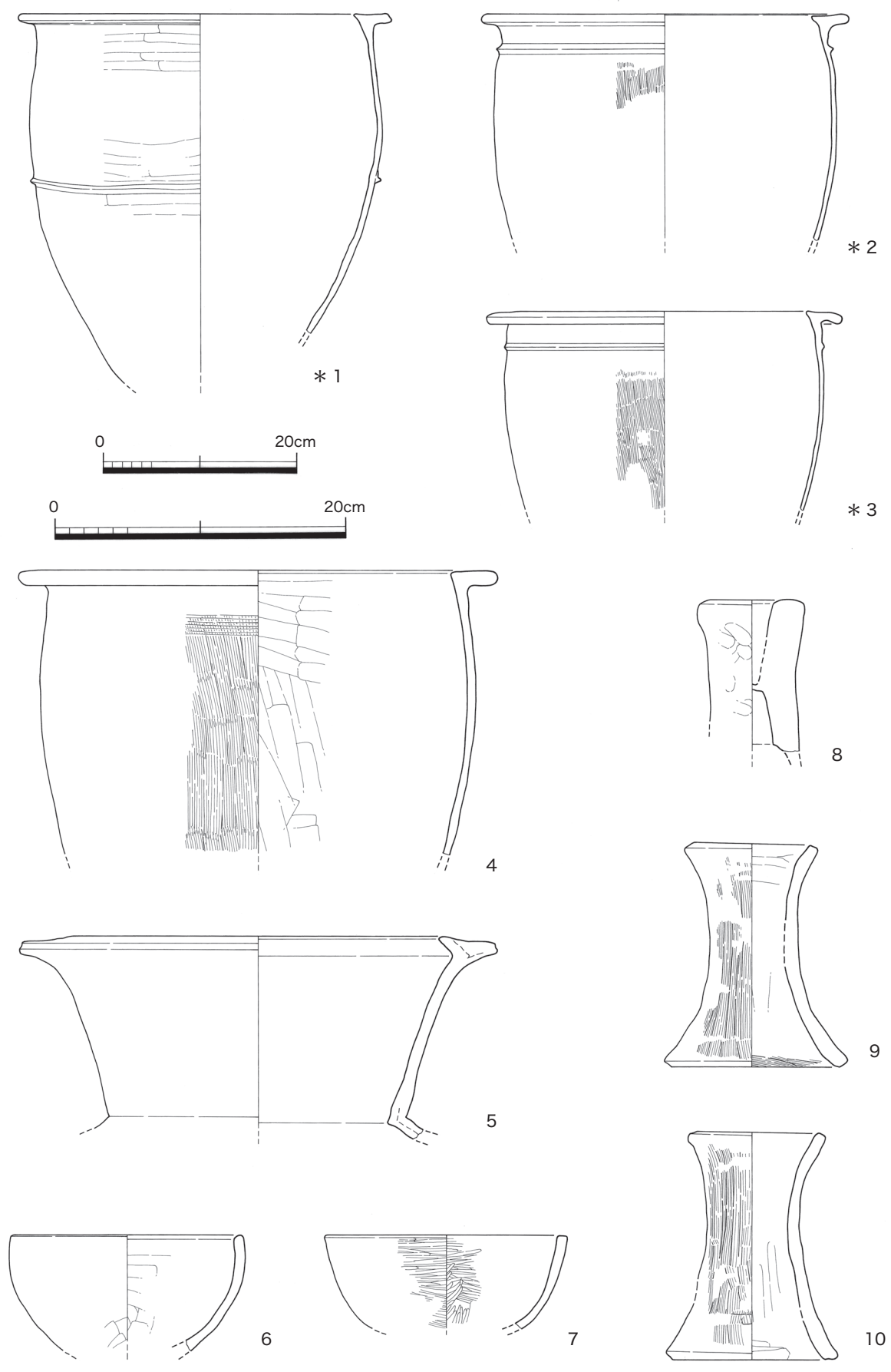
北区東隅に位置し、遺構の南半部は調査区間に所在する。主軸は北東—南西方向、平面プランは楕円形と考えられる。北端に幅0.4mのテラス状の平坦面があり、南北検出長0.55m、東西幅0.8m、深さ最大0.65mを測る。埋土は黒灰色土を主体とし、部分的に炭化物を含む。1・2層から原型を留める遺物が多数出土している。廃棄土坑もしくは祭祀土坑の可能性はある。

出土遺物（第9・10図、図版16）

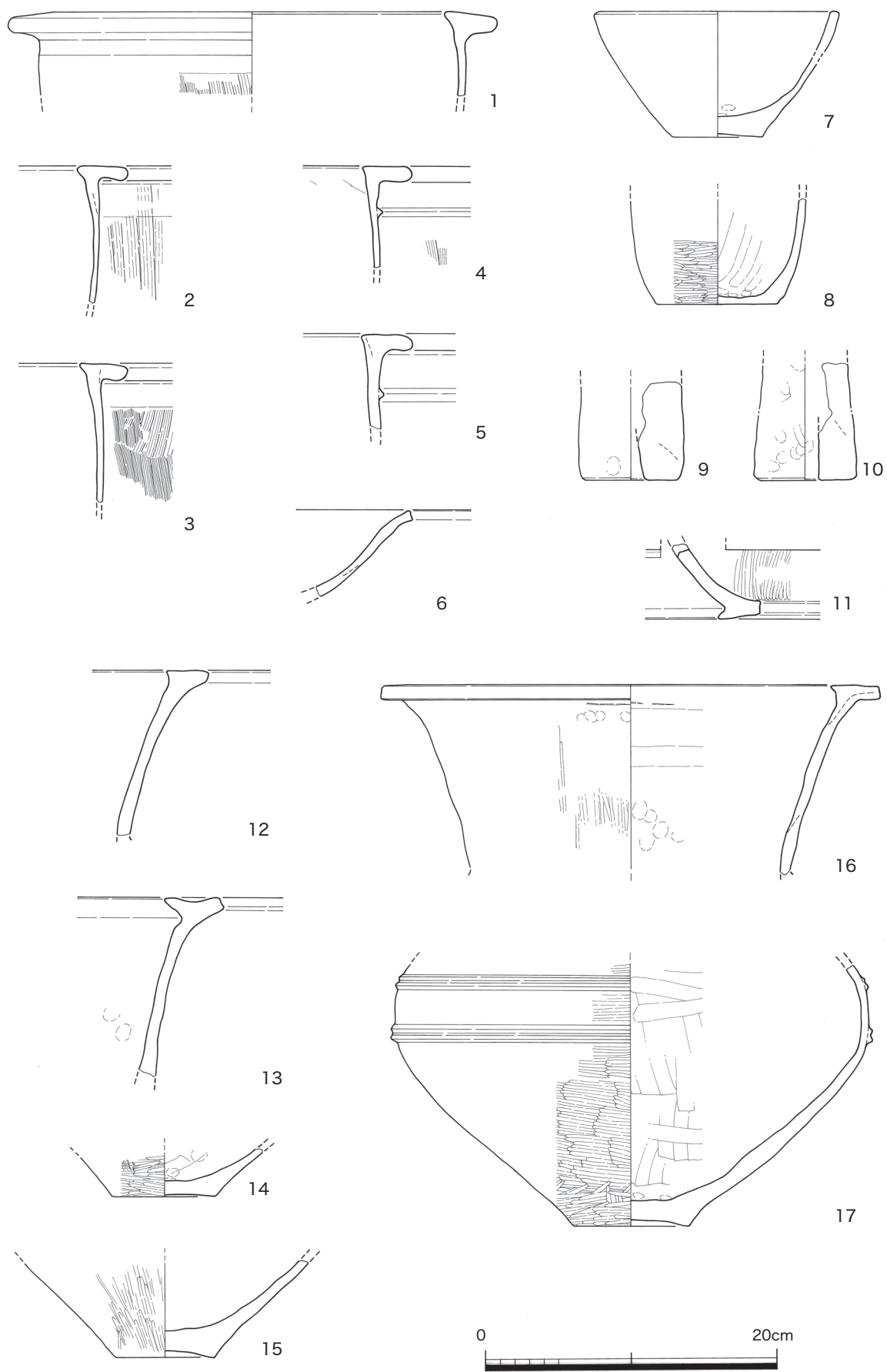
出土遺物の主体は甕だが、多様な器形が見られる。中期中頃から後半にかけての資料が混在している。第9図1・2は鉢。口縁端部はL字でやや厚いが底部径が小さいタイプのもの。体部は工具ナデで平滑に仕上げている。3・4は高坏。いずれも器表の摩滅が著しいが、全面ミガキ調整と考えられる。3は坏部がやや大型だが、脚部が短いタイプのもの。4は鋤型口縁でやや古手の様相を示す。第10図1～3は中型、4は小型の甕。1は胴部中位に突帯を巡らし、体部は板状工具ナデで仕上げられており、器壁のひずみが著しい。2・3は肩部に断面三角形の突帯を持ち、体部外面は明瞭なタテハケで仕上げる。5は壺の頸部。口縁端部が内側に返る時期のものだが、立ち上がりがやや直線的である。6・7は小型の鉢。6は工具ナデ、7はミガキで体部全体を平滑に仕上げている。8は支脚。中心の軸が上下から差し込まれているが、中位に未貫通の箇所が残る。9・10は撥型の器台。外面に丁寧なタテハケを施す。



第9図 10号土坑 出土土器(1) (S=1/4)



第10図 10号土坑 出土土器(2) (S=1/4、*付は1/6)



第11图 11号土坑 出土土器 (S=1/40)

11号土坑（第8図、図版3）

南区東隅に位置し、遺構の北端部は調査区外へ延長する。主軸は北東—南西方向で、平面プランは楕円形を呈する。南端に2段のテラスを持つ。南北検出長 2.25m、東西幅 0.85m、深さ最大 0.6m を測る。埋土は上層が灰黄褐色土、下層が黒色シルトを主体とし、人為的埋没の様相を呈する。4層を中心に遺物が出土している。廃棄土坑もしくは祭祀土坑の可能性はある。

出土遺物（第11図、図版16）

さまざまな器形が出土しているが、いずれも残存状況は悪い。1～3は甕の口縁部。端部がやや下垂するタイプのもの。肥厚するものと厚さが均一なものが混在している。4・5はL字口縁の樽型土器と思われる破片。6は高坏の口縁部で、口縁端部に平坦面を持つやや古手のもの。ミガキは施していない。7・8は鉢類。8はコップ状の形態で、外面にミガキと丹塗りを施す。9・10は支脚の下部。表面は指オサエののち、ナデで平滑に仕上げている。11は筒型器台の裾部で、端部が鋤型に返るタイプのもの。外面にタテミガキの痕跡が見られる。12～17は壺。12は他と比べてやや古い様相を示す。14は体部内面に赤色顔料が部分的に残存している。15は外面下部にタテミガキを施しており、ススの付着が認められる。16は鋤型口縁で外面をタテミガキで調整したもの。17は胴部中央が最大径となる時期のもので、2本の断面M字突帯が付されている。なお、17と同一個体と見られる頸部の破片も出土している。

12号土坑（第8図、図版2）

北区北西隅に位置する。遺構の北半部は調査区外だが、主軸を北東—南西方向に取る楕円形の平面プランと考えられる。南北検出長 1.3m、東西幅 1.2m、深さ 0.15m を測る。

遺構の上部は大半が削平を受けており、残存状況が非常に悪い。

出土遺物（第12図）

出土遺物のごくわずかである。1は断面がL字の甕の口縁部。体部外面に明瞭なタテハケが残る。2は甕の体部～底部で、4号ピット出土資料と接合した。器壁全体に摩滅が著しく、内面にススの付着が見られる。いずれも中期中頃の所産である。

13号土坑（第8図、図版2）

北区北西隅に位置し、遺構の大半は調査区間に延長する。主軸・平面プランともに不明である。南北検出長 0.6m、東西検出幅 0.65m、深さ最大 0.7m を測る。底面の形状から掘立柱建物の柱穴とも考えられるが、調査区内でこれと対応して建物を構成する柱穴は確認出来ていない。

出土遺物（第12図）

遺物の出土はごく少量であった。3・4は甕の口縁部でいずれも断面はL字を呈する。

6号溝状遺構（第13図、図版3）

北区中央部に位置し、遺構の北半部は調査区外にあたる。推定外径 3.3m、内径 2.5m、溝の幅は 0.35m、深さ 0.1m を測る、周溝状遺構である。溝状遺構の内部では、硬化面や付随すると思われる土坑等は確認されていない。埋土は黒褐色シルトの単層である。

出土遺物

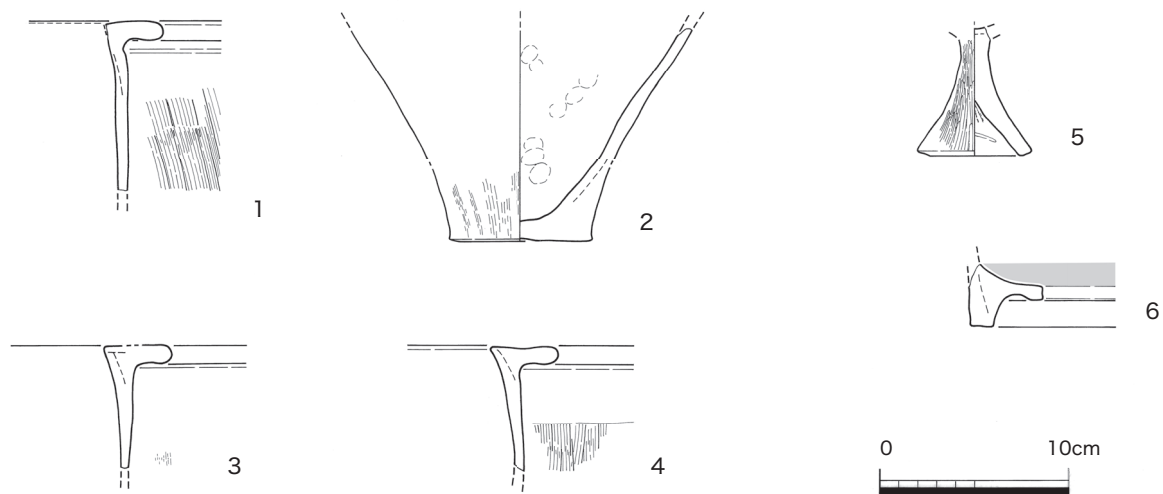
埋土に弥生土器片を含んでいたが、いずれも細片で詳細な時期の特定は困難であった。

7号溝状遺構（第7図、図版2）

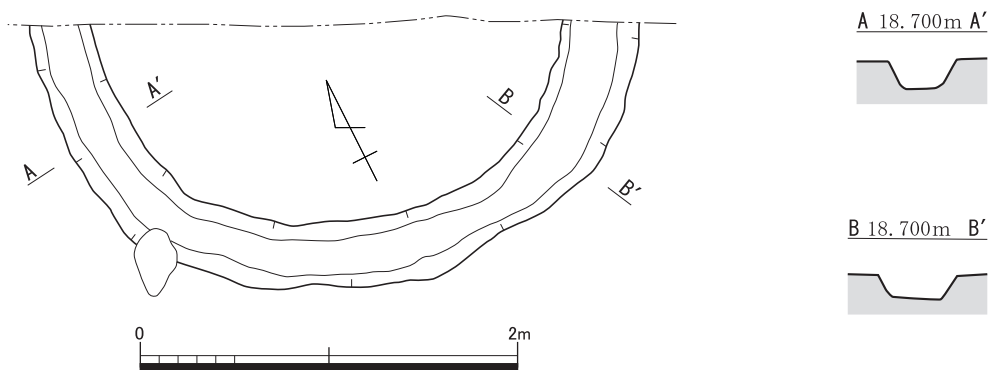
南区東端に位置し、東端は11号土坑に、西端は攪乱に切られる。最大幅0.5m、深さ0.1m前後、断面は台形を呈する。

出土遺物（第12図）

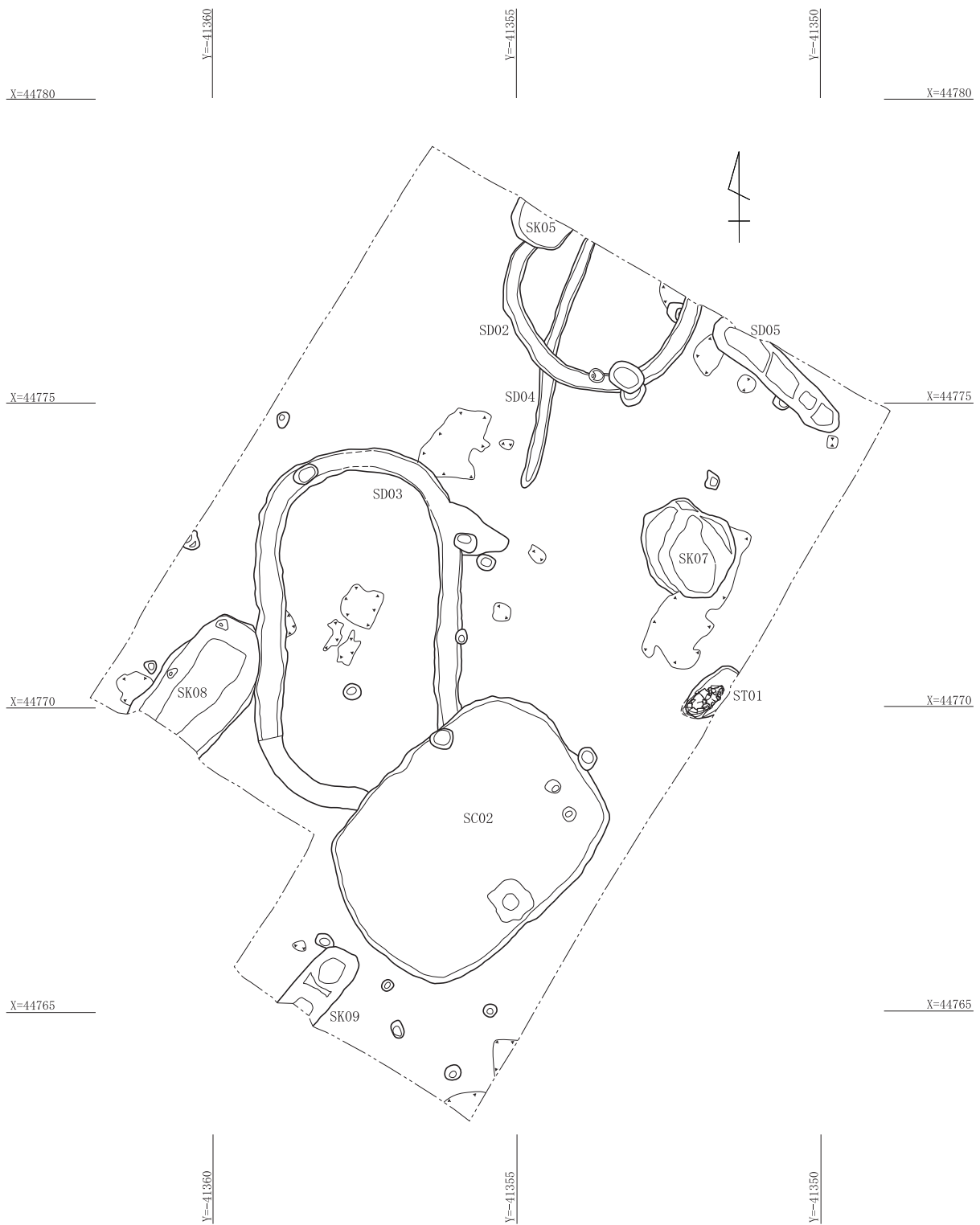
遺構の残存状況が悪く、遺物の出土もわずかであった。5はミニチュア高杯の脚部。外面にタテミガキを施す。6は筒型器台の鏝部で全体に摩滅が激しい。



第12図 12・13号土坑、7号溝状遺構 出土土器 (S=1/4)



第13図 6号溝状遺構 平・断面図 (S=1/40)



第 14 図 C 区遺構 配置図 (S=1/100)

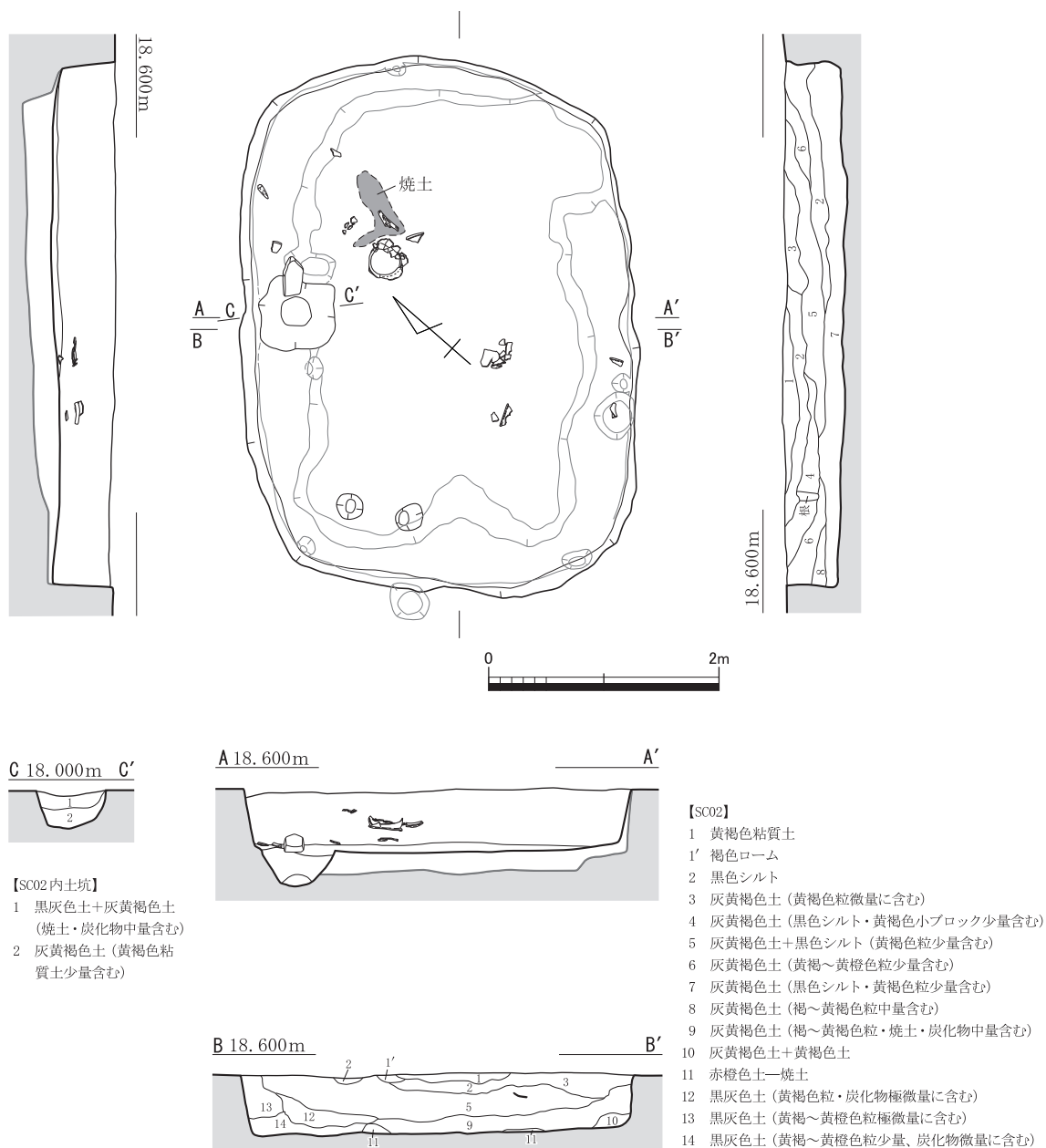
3) C区

小郡若山遺跡8の中心部にあたる。住居・祭祀土坑等、比較的高い密度で遺構を検出している。出土遺物から、弥生時代中期の一定期間に営まれたと想定される。なお、住居や周溝状遺構、祭祀土坑の一部は、他調査区と軸を同じにすることから、同時期の所産と思われる。各遺構の相関関係については、最終項にまとめている。

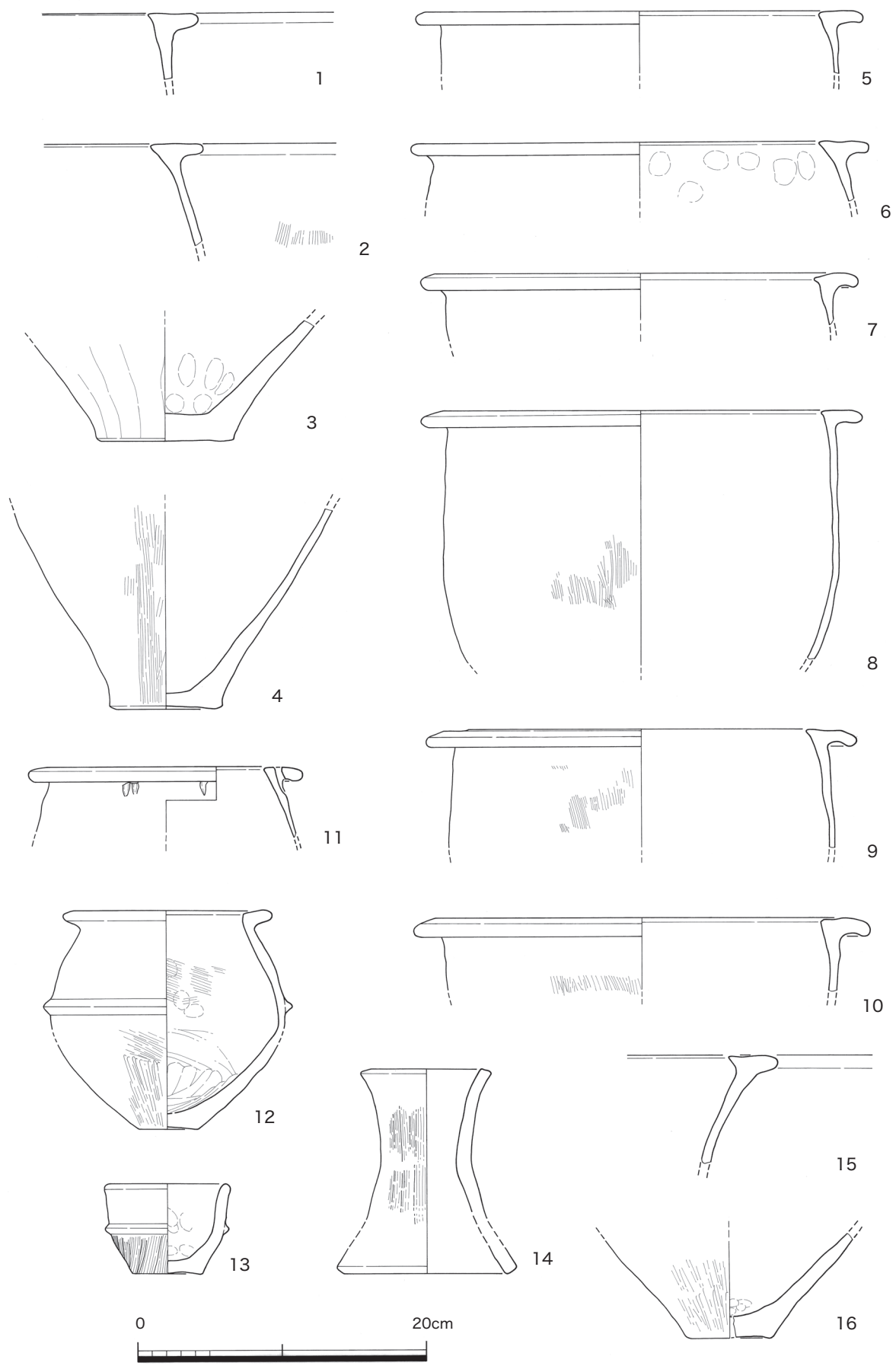
【遺構と遺物】

2号住居（第15図、図版6・7）

調査区南側に位置し、3号土坑を切る。主軸は北東—南西方向で、平面プランは小判型を呈する。長軸4.7m、短軸3.45m、貼床面までの深さ0.45mを測り、厚さ0.2m前後の黄褐色粘質土の貼



第15図 2号住居 平・断面図 (S=1/60)

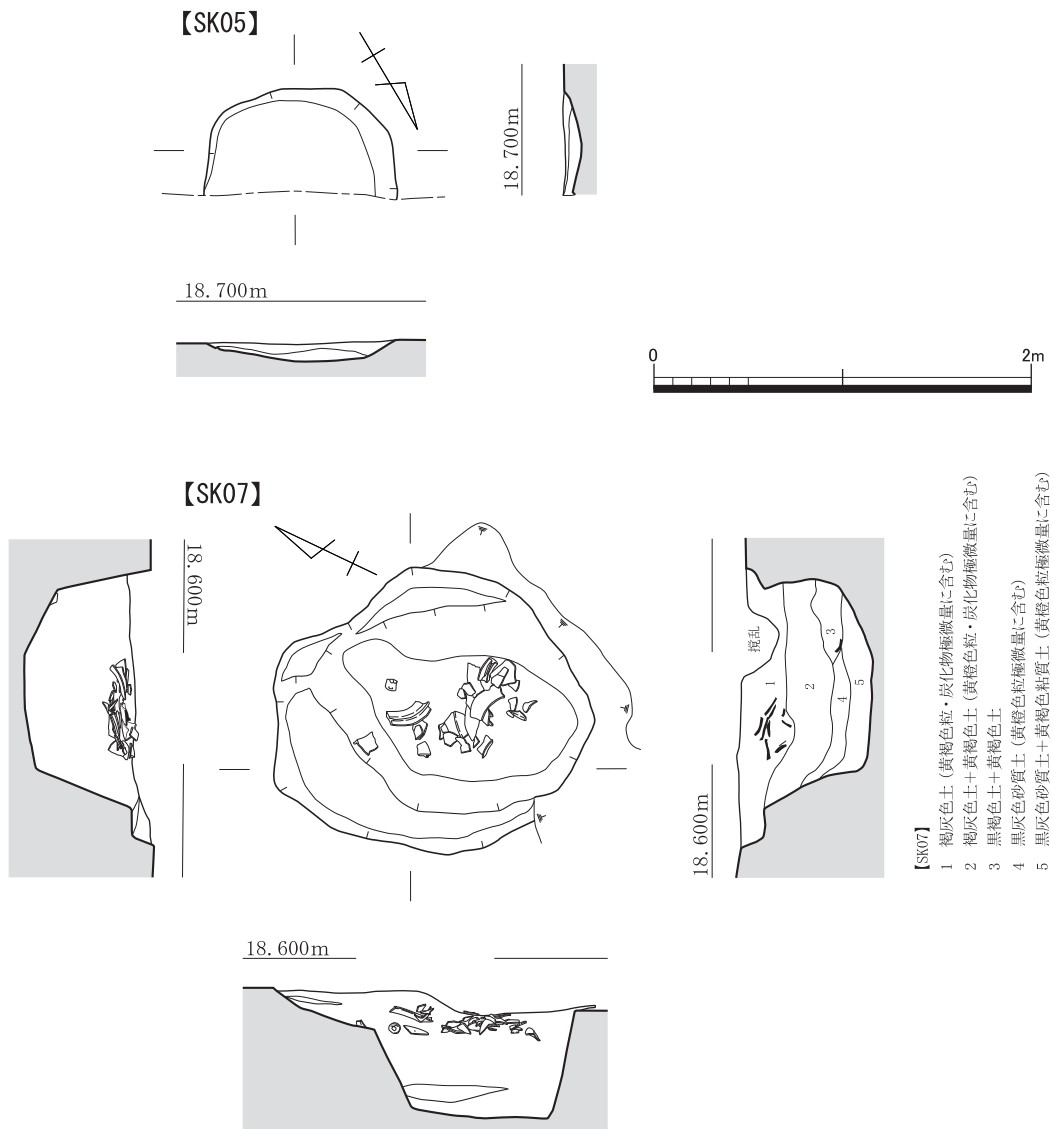


第16图 2号住居 出土土器 (S=1/4)

床が掘り込み面まで施されている。掘り込み面には、壁面に沿って幅 0.3m 前後のテラス状の高まりがあり、その内側を埋めるように粘質土が貼られている。住居に伴う柱穴痕跡は確認出来ない。東辺の中央部に径 0.6m の不整円形土坑が、その両脇にはピットが掘り込まれている。埋土は灰黄褐色土を主体とし、全体に均質でしまりが悪い。比較的短期間に人為的に埋没したと考えられる。貼床上と埋土下位で、住居廃絶時に投棄したと推測される遺物がまとまって出土している。

出土遺物 (第 16・28 図、図版 20)

遺物は甕類を主体とし、ほとんどが破片資料で残存状況は悪い。1～10 は甕で、口縁は肥厚した L 字状のものとやや下垂するものが混在している。1 は口縁部断面が肥厚するもの、2 は口縁部から体部にかけて外へ広がるもの。3 には外面にススの付着が、5 には被熱による赤変が見られる。8 は第 15 図に記載している伏せられた状態で検出したもの。口縁部外面にススが付着し、体部外面は被熱によって赤く変色している。11 は口縁部に 2 個 1 対の穿孔を施す小型のもの。甕



第 17 図 5・7号土坑 平・断面図 (S=1/40)

類は、破片も含めて摩滅の激しい資料が多い。12は無頸壺。器壁は全体的に厚く、粗略なつくりである。内面は黒変した器壁に板状工具ナデが、外面はミガキで調整している。13はミニチュアの鉢で、体部中位に断面三角形の突帯をめぐらす。14は撥型の器台。裾の広がりやや大きめのもの。15・16は壺でいずれも器表の摩滅が著しい。

第28図2は砂岩の砥石。4面全体が使用されている。1は粘板岩の磨製石剣。貼床の直上から出土した。先端及び刃部中央付近に欠損が見られる。表・裏とも、鎬の一部分を研磨して平滑に仕上げようと試みている。削りは非常に浅いが有茎式であろう。刀身の先端から中位にかけてと茎部にそれぞれ全周するように、有機物由来と思われる黒変箇所がある。

5号土坑（第17図、図版4）

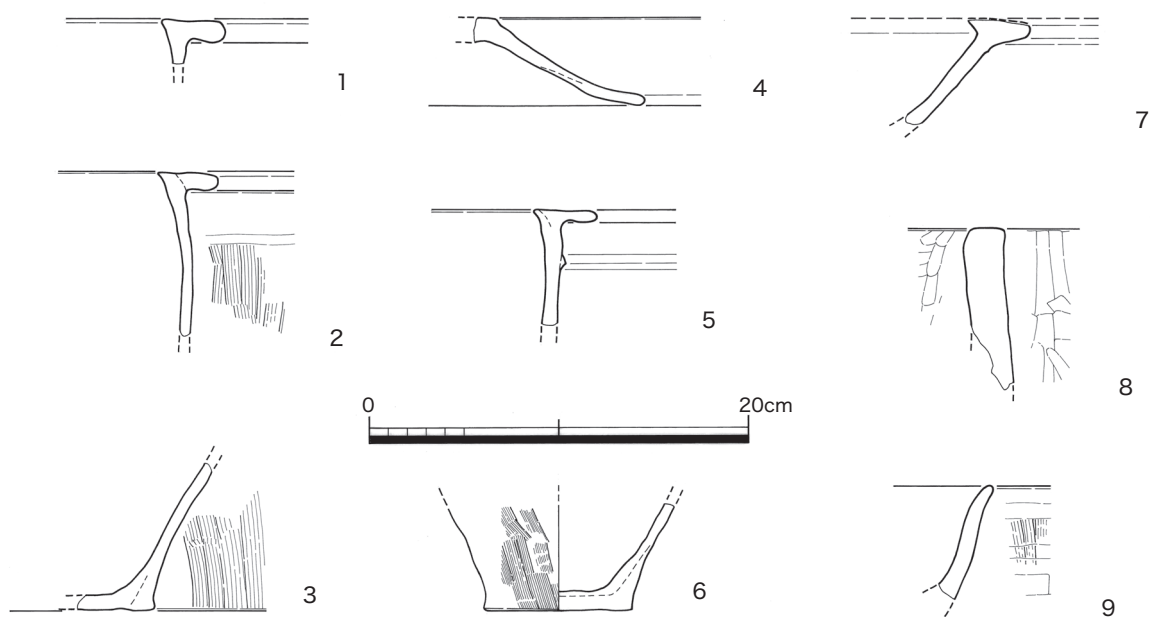
調査区北隅寄りに位置し、2号溝状遺構を切る。遺構の北半部は調査区外であるが、平面プランは楕円形、主軸は北東—南西方向と考えられる。南北検出長0.55m、東西幅1.0m、深さ10cm前後を測る。埋土は黒褐色土の単層である。

出土遺物（第18図）

遺物の出土は少量であり、いずれも小片であった。1は甕の口縁部で端部がやや下垂するタイプのものである。

7号土坑（第17図、図版5）

調査区東寄りに位置する。壁面の崩落が著しいが、南北方向に主軸を取る円形土坑を思われる。東西両辺にテラス状の平坦面を持つ。長軸1.65m、短軸1.5m、深さ最大0.7mを測る。埋土は上層が褐灰色土、下層が黒灰色砂質土を主体とする。まとまった量の土器が出土しているが、最終埋没段階で廃棄されたものがほとんどで、下層からの出土はごくわずかである。



第18図 5・7号土坑 出土土器 (S=1/4)

出土遺物（第18・28図、図版20）

出土量は多いがいずれも小片である。2・3・6は甕。2は口縁端部がやや下垂気味の時期のもの。3・6は底部から斜め上方に直立気味に体部が立ち上がるもの。4は小型の蓋で、残存部に穿孔は認められない。天頂部に被熱による赤変が認められる。5は樽型土器で、口縁端部が非常に薄く、肩部に断面三角形の突帯を巡らす。7は高坏の坏部で、器壁の摩滅が著しい。特に口縁部の平坦面は、全周があばた状に欠損している。内・外面はミガキ調整と思われる。8は支脚で外面を工具で丁寧にナデ仕上げしている。9は器壁の厚さと外面調整が粗略であることから、ミニチュアの甕と判断した。

第28図4・5は赤紫色泥岩の石庖丁。4は細身で刃部の磨ぎ直しを行っており、表面の研ぎは非常に粗い。穿孔の上部に紐ズレの痕跡。5は近い位置に穿孔するタイプのもの。

このほか、成人棺と同等と思われる大型甕の口縁部が出土しているが、周辺に成人用は墓壇は確認していない。

8号土坑（第19図、図版5）

調査区南西隅に位置し、3号溝状遺構に切られる。遺構の南端は調査区外に延長する。主軸は北東―南西方向で、平面プランは隅丸長方形を呈する。検出長2.2m、短軸1.5m、深さ最大1.05mを測る。壁面は直立に近い状態で立ち上がり、底面は播鉢状に緩やかに湾曲していて平坦ではない。北西と西に径0.2m、深さ0.15～0.2mの不整形ピットを確認しているが、遺構の附帯施設か否かは不明である。

埋土は黒褐色土を主体とし、人為的埋没の様相を呈する。最上層以外は炭化物が多く混入していたが、原型を留めるものはなかった。なお、焼土の類は含まれていない。

埋土内全体に、掘削が困難になるほど多量の遺物を含んでおり、特に下層では完形に近い土器が多数出土している。掘削時の視認では、上～中層には甕類が、下層には支脚及び器台が目立つ状況であった。埋土の状況や遺物量及びその内容から、祭祀土坑と考えられる。

出土遺物（第20～25・28図、図版16・17・20）

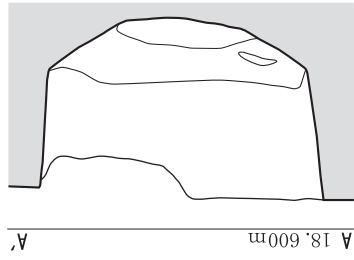
器形は非常にバラエティに富み、それぞれ時期幅のある資料が認められる。

第20・21図は甕類。口縁部径は、第20図3が33.1cm、4が33.2cm、5が32.4cm、6が32.8cmであり、33cmを基準とした規格で作成されたようである。器壁外面は丁寧なタテハケを施している。内面の工具調整痕はナデ消されているが、指頭圧痕が目立つ。口縁部はL字型で端部が水平のものとやや下垂するものが混在している。胴部中位に張りを持つ。第21図6のみ中型のものである。

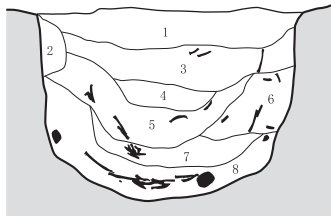
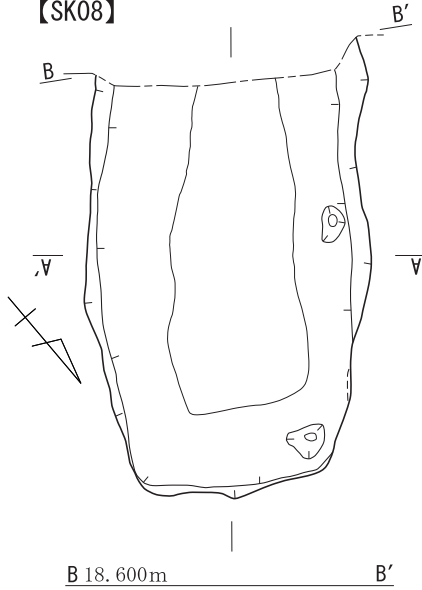
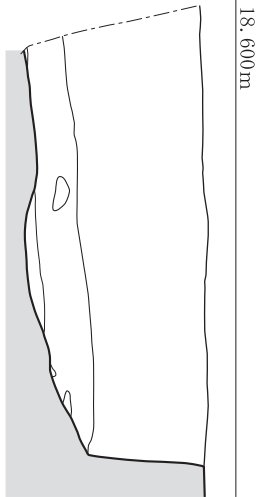
第20図1・2は樽型土器。1は胴部中位が最大径となる時期のもので、2は張りの乏しいやや古手のもの。いずれも肩部に断面三角形の突帯を巡らす。

第22図は壺。1は大型で口縁端部に返りを持ち、短い頸部の古手のもの。肩部に断面三角形の突帯を2条巡らす。器壁は内外面とも工具ナデのみで仕上げている。2は口縁部が最大径となる時期のもの。胴部中央に断面M字の突帯を持つ。全体に丁寧なミガキ調整を施している。

第23図は鉢類・高坏。1・2は体部が丸みを持ち、ミガキ調整で仕上げた小型のもの。4・5は口縁端部がL字になる大型のもの。肩部に突帯を持つものと持たないものが混在している。高坏は6・8のような中型のものと小形のものが混在している。口縁端部は鋤先状を呈するが、そ



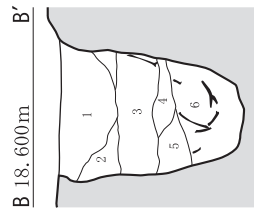
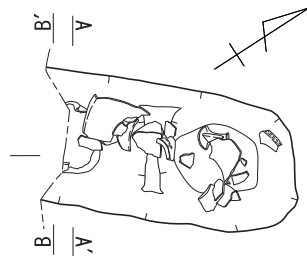
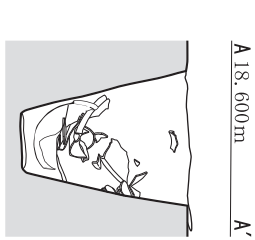
【SK08】



【SK08】

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土+褐色土
- 3 黒褐色土(黄褐色粒・炭化物微量に含む)
- 4 黒褐色土(炭化物微量に含む、しまりやや悪い)
- 5 灰黄褐色土(黄褐～黄褐色粒・炭化物少量含む)
- 6 黒褐色土(褐色ブロック微量に含む、しまり非常に悪い)
- 7 黒灰色土(褐色粒・炭化物微量に含む、しまり非常に悪い)
- 8 黒褐色土(黄褐色粒少量、炭化物中量含む、しまり非常に悪い)

【SK09】

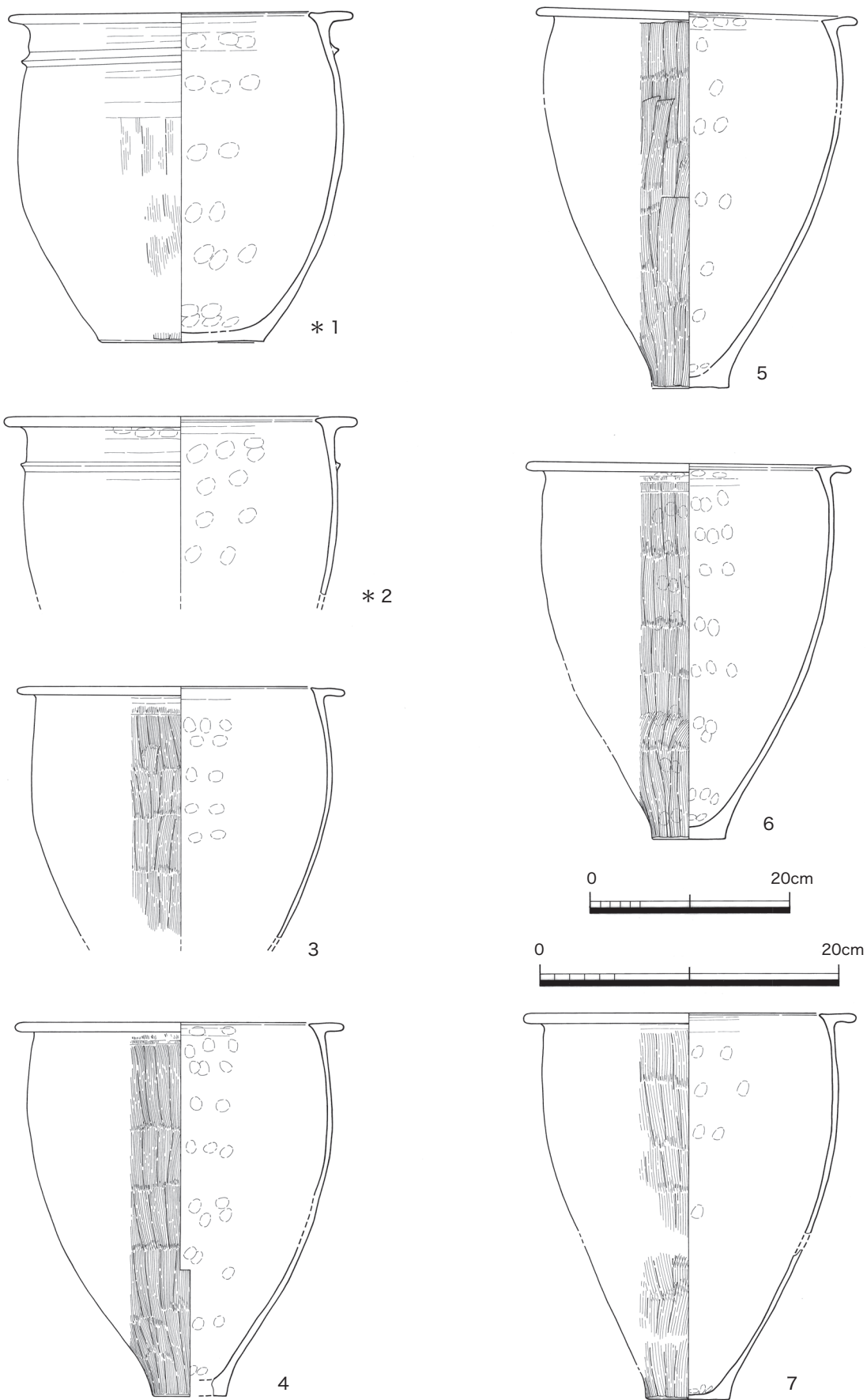


- 【SK09】
- 1 褐色粘質土+灰黄褐色土
 - 2 黒灰色シルト(黄褐色粒微量に含む)
 - 3 黒色シルト(黄褐色粒微量に含む)
 - 4 黒色シルト(黄褐色ブロック微量に含む)
 - 5 黒灰色シルト(褐色ブロック・炭化物微量に含む)
 - 6 黒色シルト(黄褐色粒微量、炭化物中量含む、しまり非常に悪い)

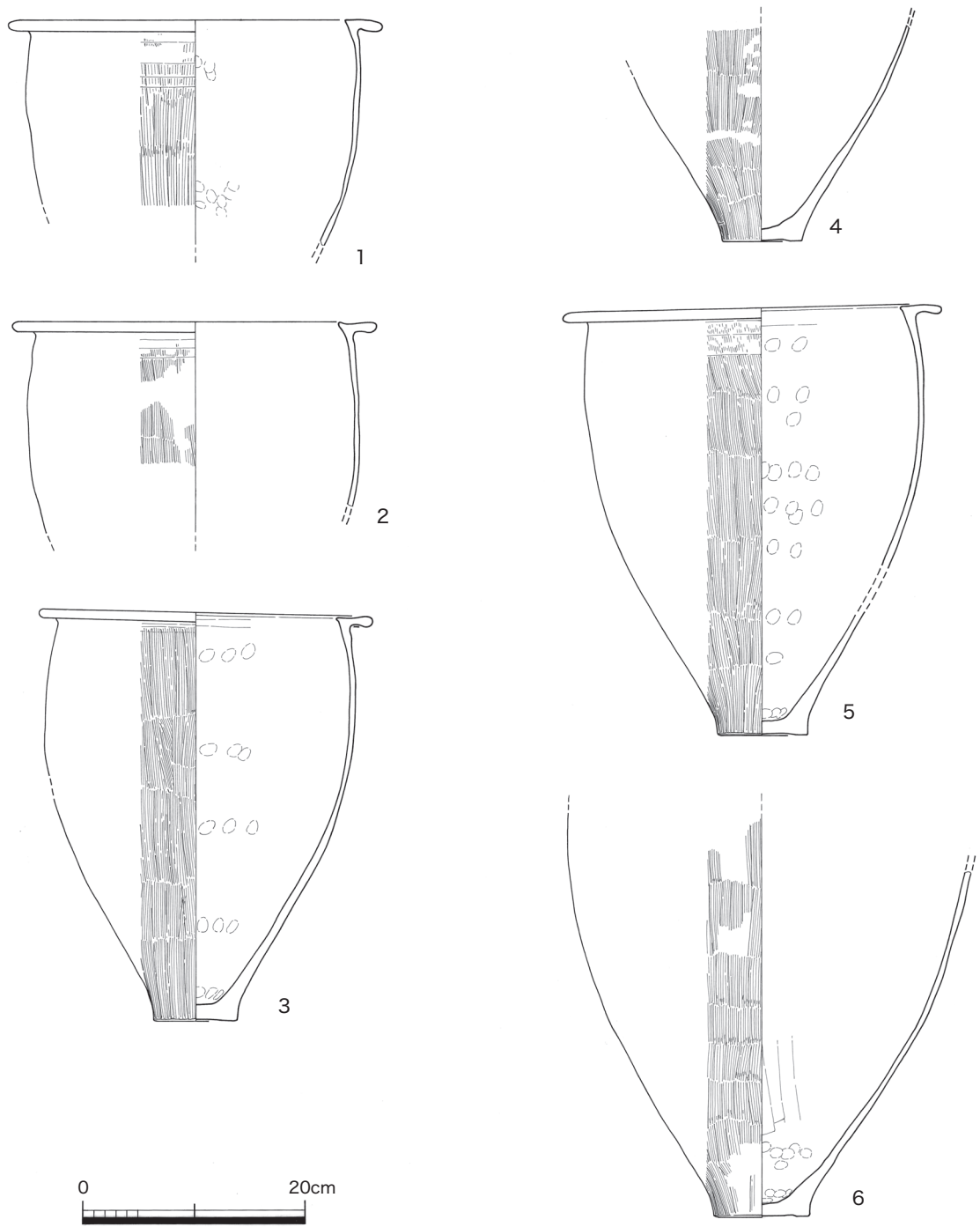
18.600m



第19図 8・9号土坑 平・断面図 (S=1/40)



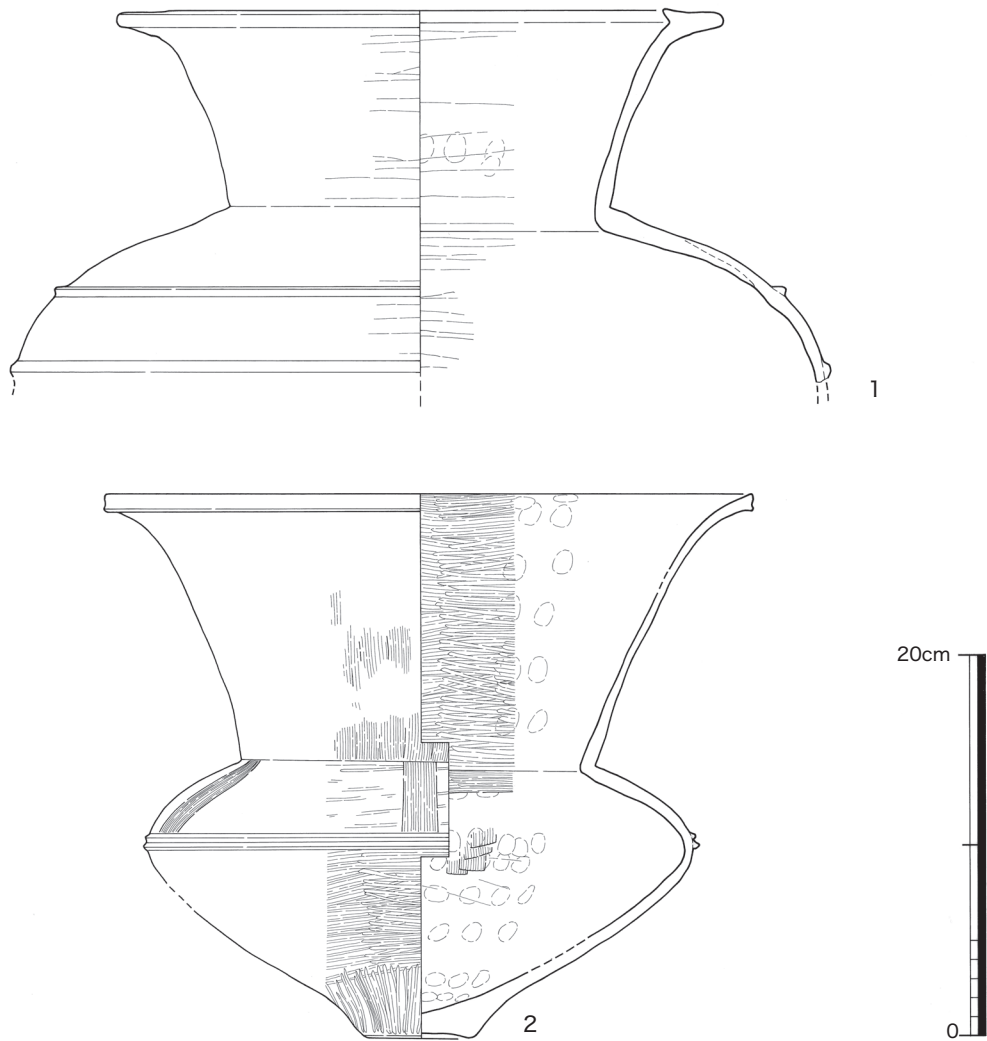
第20図 8号土坑 出土土器(1) (S=1/6、*付は1/4)



第21図 8号土坑 出土土器(2) (S=1/6)

のうちでも6は内側へ長い返りを持つ新しい様相のもの。

第24図1~10は器台。撥型のタイプのもは、1・2・5のようにやや小ぶりのものと、3・4・6のような細身のものが混在している。いずれも丁寧なハケ及び工具ナデ調整で仕上げている。3と4については、形状や細部の調整から同一工人が作成したと思われる。7~10は器壁が厚く、粗略なオサエ・ナデ調整で仕上げた新しい時期のもの。8は上下に膨らみを持つダンベル状の形態を取る。11はミニチュア土器で、頂部のオサエ痕跡から甕蓋と判断した。12・13は筒型器台。12は脚部径こそ一般的な筒型器台と同程度だが、高さが約1/2の小型のもので、全面に丹塗りとミガキ調整を施す。13は破片資料で、鏝部より上は確認出来なかった。内面にオサエ調整

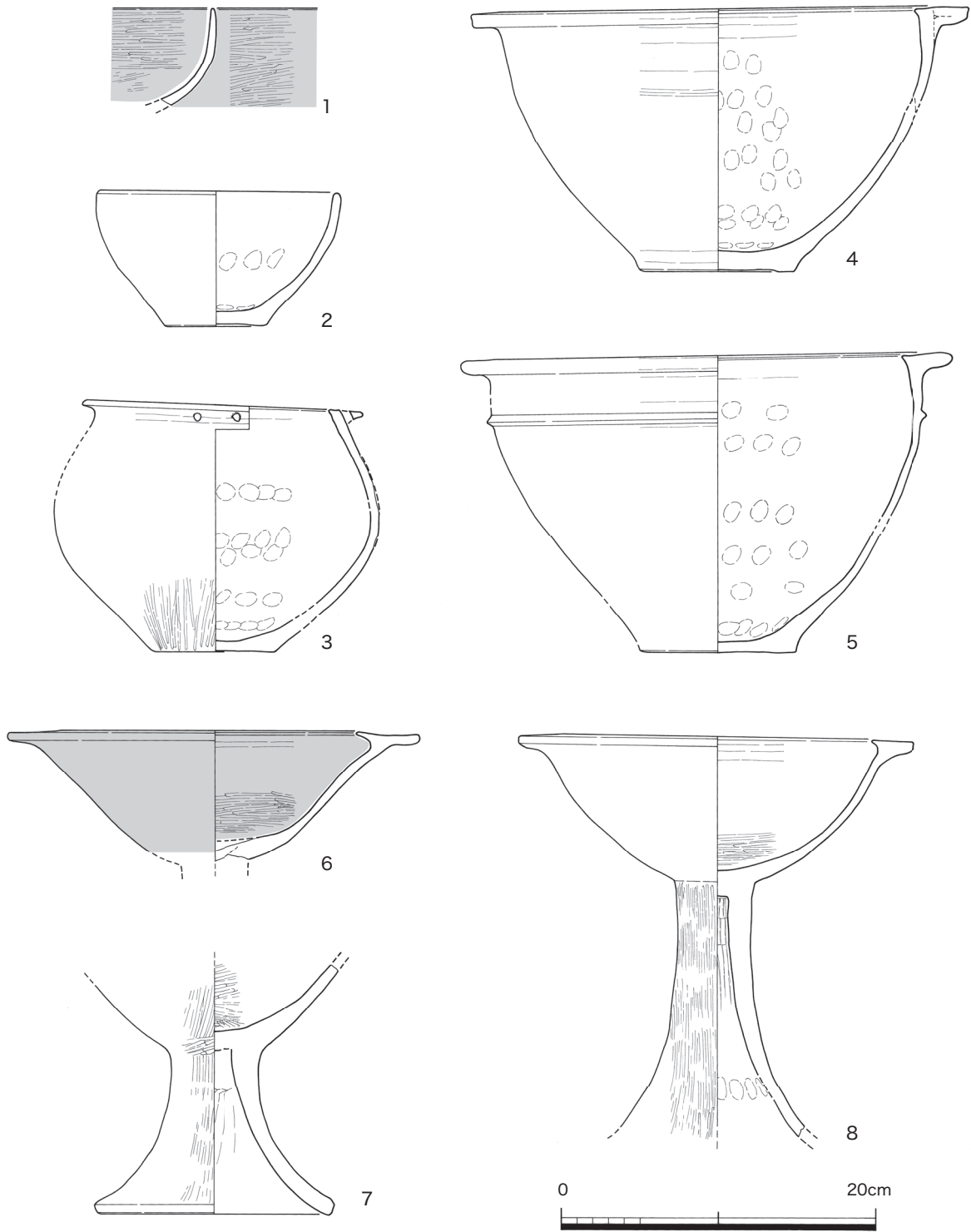


第22図 8号土坑 出土土器(3) (S=1/4)

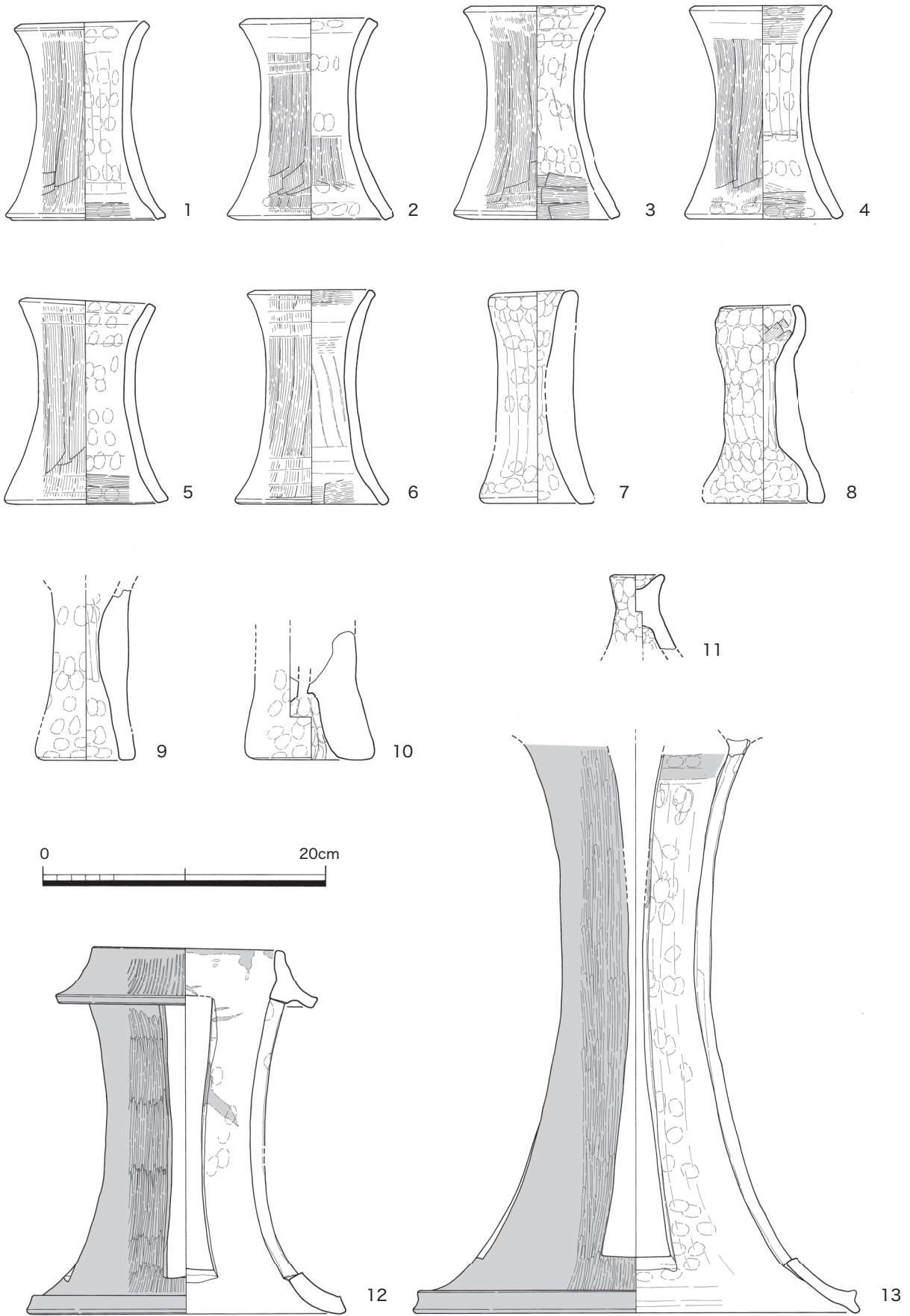
の痕跡が目立つ。

第25図は甕の蓋。つまみ部分の立ち上がりが長く、天頂部を深くくぼませたものと、やや短めのものがある。2・3は外面に放射状のハケ調整を施し、3はつまみ部分を横位のハケで仕上げている。

第28図6は安山岩系凝灰岩の大型蛤刃磨製石斧。表面の摩滅及び剥離が著しく、刃部・基部ともに欠損している。3は赤紫色泥岩の石庖丁。刃こぼれが多く、部分的に研ぎ直しを行っている。穿孔の上部に紐ズレと思われる痕跡が見られる。



第23图 8号土坑 出土土器(4) (S=1/4)



第24图 8号土坑 出土土器(5) (S=1/4)

9号土坑（第19図、図版5・6）

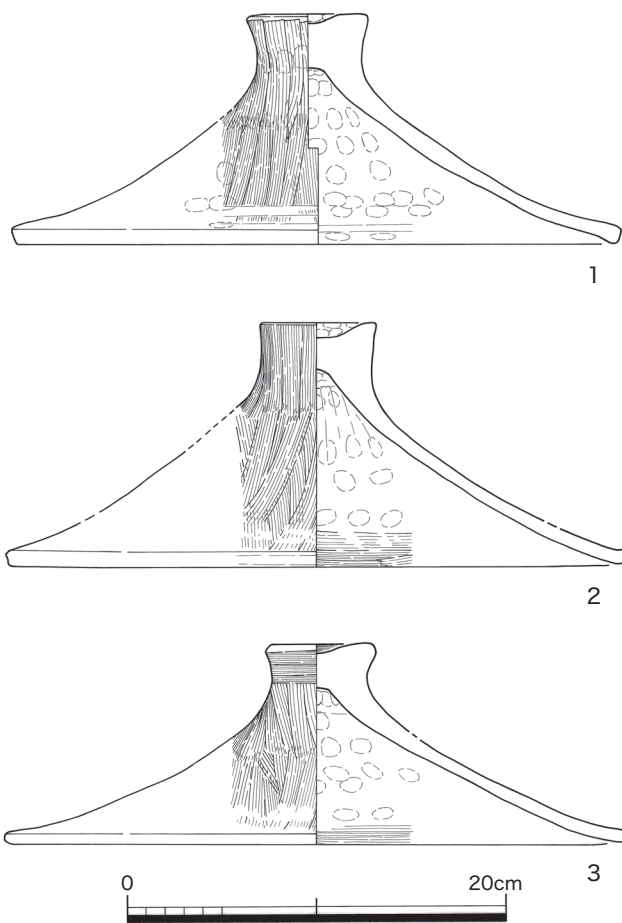
調査区南端に位置し、遺構の南半部は調査区外へ延長する。主軸は北東—南西方向で、平面プランは長楕円形を呈し、底面は部分的にくぼみを持つ。検出長1.3m、短軸0.75m、深さ最大1.0mを測る。埋土は黒～黒灰色シルトを主体とし、下層に炭化物を多く含む。

中～下層から、完形に近い土器がまとまった量出土している。祭祀土坑と考えられる。

出土遺物（第26・27図、図版18）

遺物量は多いが、その大多数は破片資料であった。第26図は第19図にも示している中型の甕。口縁部はL字で、体部内面の工具調整は丁寧にナデ消されている。

第27図1はL字口縁の中型鉢。肩部に断面三角形の突帯を1条巡らす。2は樽型土器の体部。3は高坏の脚部で外面のミガキ調整の残りが悪い。4・5は支脚。外面を工具ナデで比較的平滑に仕上げたもの。



第25図 8号土坑 出土土器(6) (S=1/4)

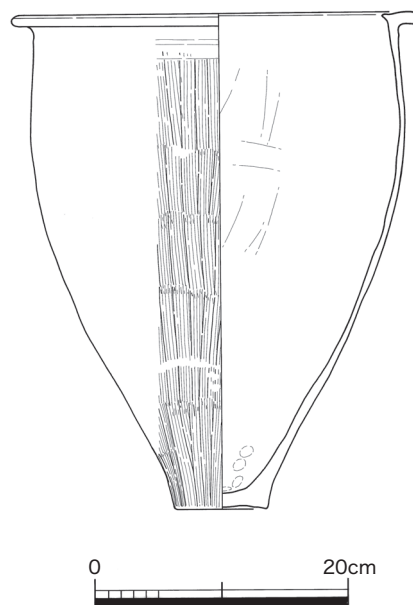
2号溝状遺構（第29図、図版7）

調査区北側に位置し、5号土坑に切られ、4号溝状遺構を切る周溝状遺構である。遺構の北半部は調査区外へ延長する。

外径3.3m、内径2.7m、溝の幅は0.25m、深さ0.1mを測る。溝状遺構の内部に付随施設は確認されなかった。埋土は黒褐色シルトの単層である。

出土遺物

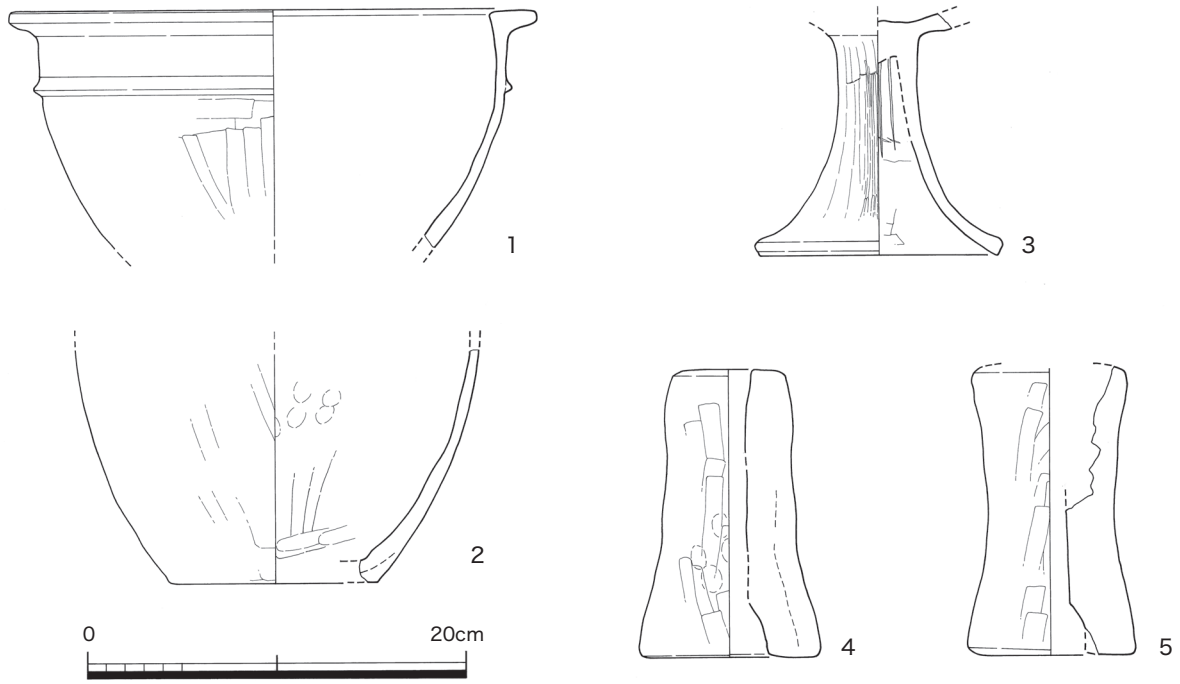
弥生土器の細片がごく少量出土しているが、詳細な時期の特定は困難であった。



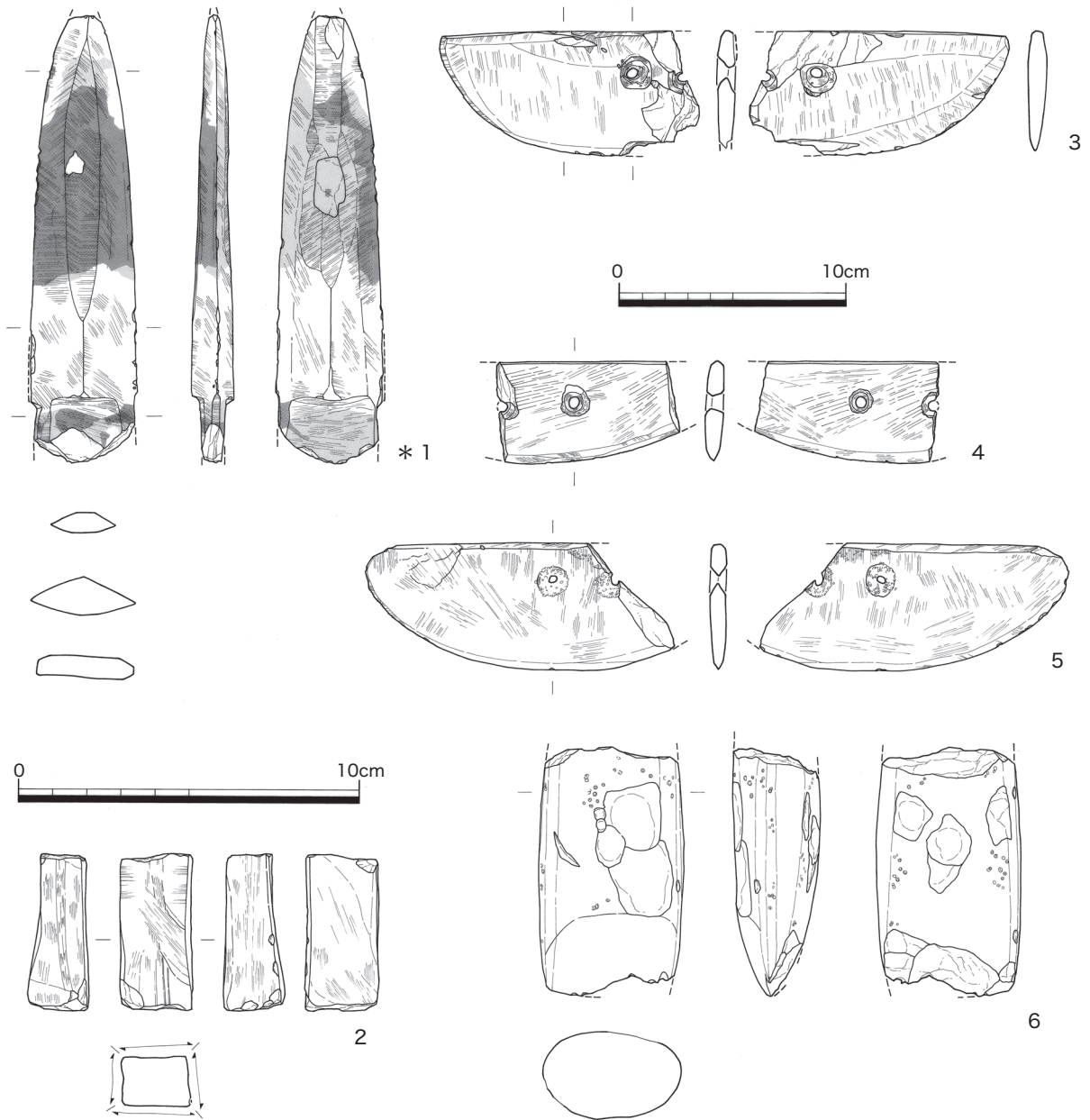
第26図 9号土坑 出土土器(1) (S=1/6)

3号溝状遺構（第29図、図版7）

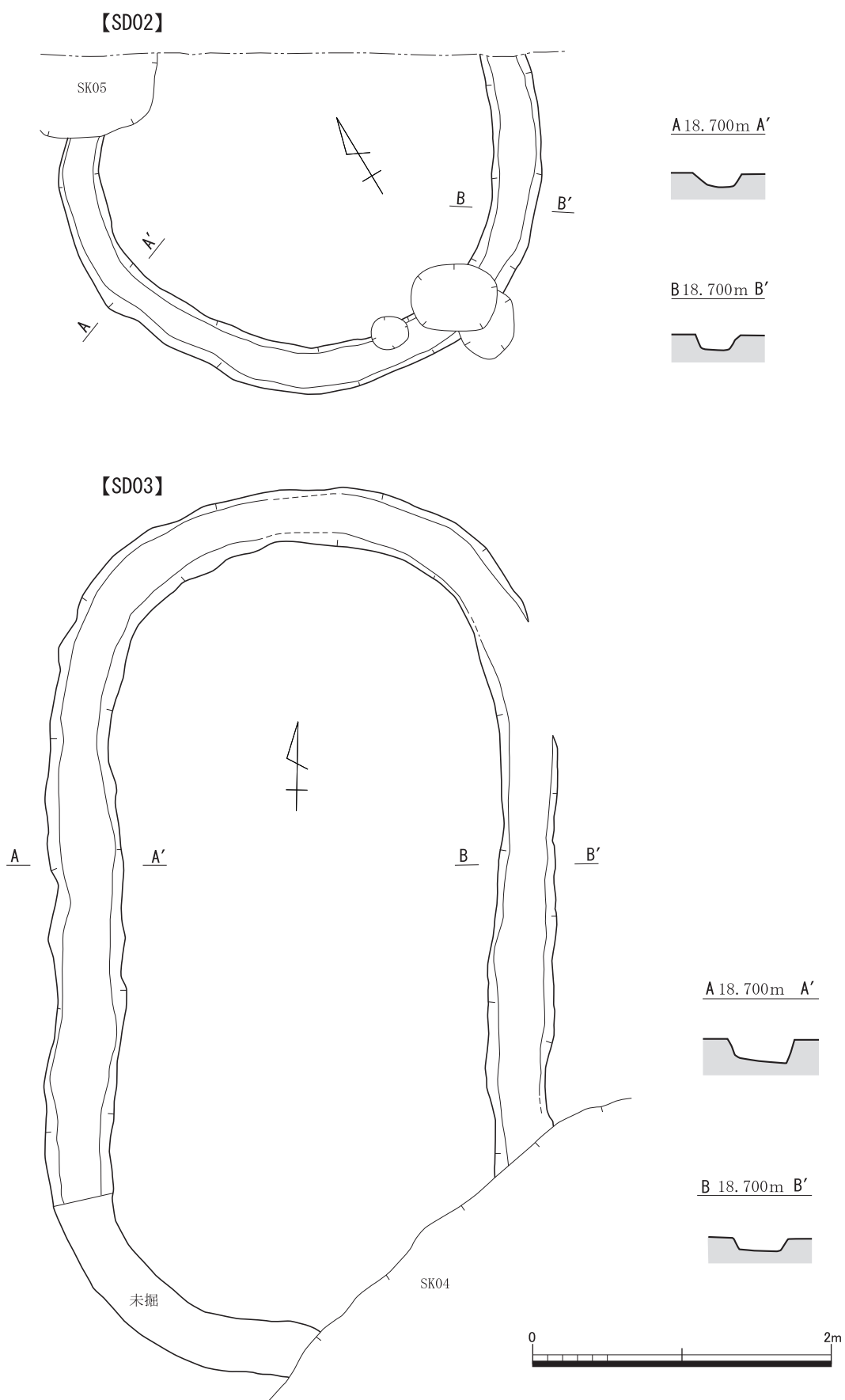
調査区中央西寄りに位置する周溝状遺構である。8号土坑を切り、2号住居に切られる。南北



第27图 9号土坑 出土土器(2) (S=1/4)



第28图 C区 出土土器 (S=1/3、*付は1/2)

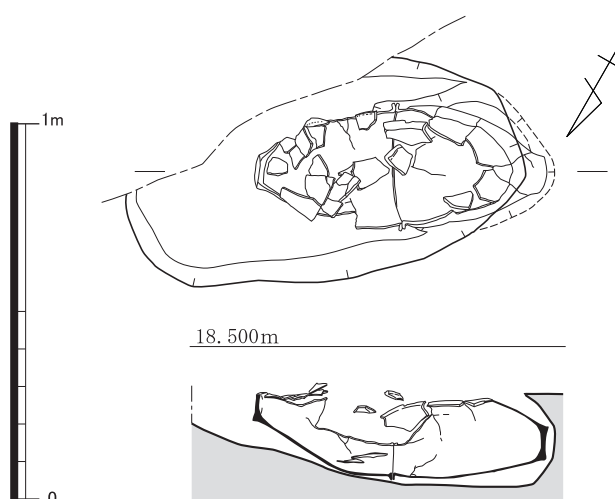


第 29 图 2・3号溝状遺構 平・断面図 (S=1/40)

5.2m、東西 2.5m の範囲を圍繞しており、方位を意識して掘削されたと考えられる。溝の幅は 0.35m、深さ 0.1m を測る。溝状遺構の内部や周辺には、これに付随すると考えられる遺構や整地痕跡等は認められない。埋土は黒褐色土の単層である。

出土遺物

弥生土器と思われる細片が少量出土している。



第 30 図 C 区 1 号甕棺墓 平・断面図 (S=1/20)

4号溝状遺構 (第 14 図、図版 7)

調査区北端に位置し、2号溝状遺構に切られる。北側は調査区外へ延長し、南端は調査区内で断絶する。幅 0.2m、深さ 5cm で断面は台形を呈する。埋土は黒褐色シルトの単層である。

5号溝状遺構 (第 14 図、図版 7)

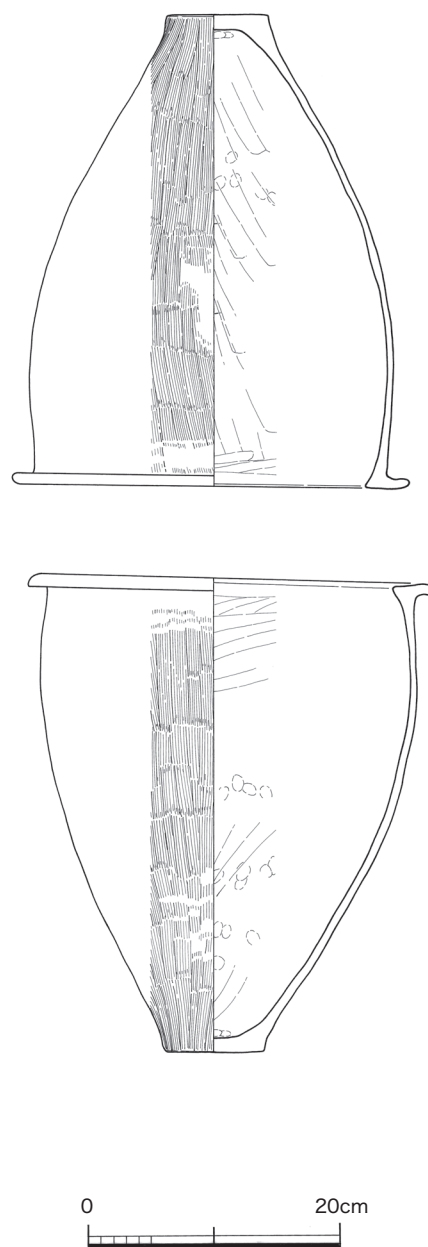
調査区北東に位置し、幅 0.6m、長さ 2.6m、深さ最大 0.4m を測る。長さ と 幅 の 比 率 から 溝 状 遺 構 と 判 断 したが、平面プランが長楕円形の土坑の可能性もある。

1号甕棺墓 (第 30 図、図版 7)

調査区東辺中央に位置し、墓壇の一部は調査区外にあたる。主軸は北東—南西方向で、南東側にやや挟り込むように掘削されている。上部が削平されているが、小型の甕型土器を 2 点、ほぼ完形の状態で検出した。

甕棺 (第 31 図、図版 19)

上甕は口径 31.8cm、底径 8.1cm、器高 37.7cm、下甕は口径 32.7cm、底径 7.9cm、器高 38.1cm を測る。口縁部上位が平坦なタイプのものである。



第 31 図 C 区 1 号甕棺 実測図 (S=1/6)

4) D区

D区は宅地造成に先立つ下水工事の立会で記録を作成した範囲である。敷地の東西両端で計4箇所の工事箇所があったため、それぞれをトレンチ1～4として作図し、一部のピット、土坑、溝状遺構を掘削した。東側のトレンチ1～3では、遺構面の上部が削平を受けており、遺構密度も非常に低い状況であった。西側のトレンチ4では、耕作に由来すると考えられる攪乱が多く見られた。トレンチ2～4で計0.4m前後のピットを少数、トレンチ2で土坑1基、トレンチ4で土坑1基と溝状遺構1条を検出している。

【遺構と遺物】

14号土坑（第33図、図版8）

トレンチ3の南東隅に位置し、東半部は調査区外へ延長する。主軸は北東—南西方向、平面プランは楕円形と思われる。底面にピット状の掘り込みを伴うが、用途は不明である。検出長1.5m、検出幅0.4m、深さ最大0.5mを測る。

15号土坑（第33図、図版8）

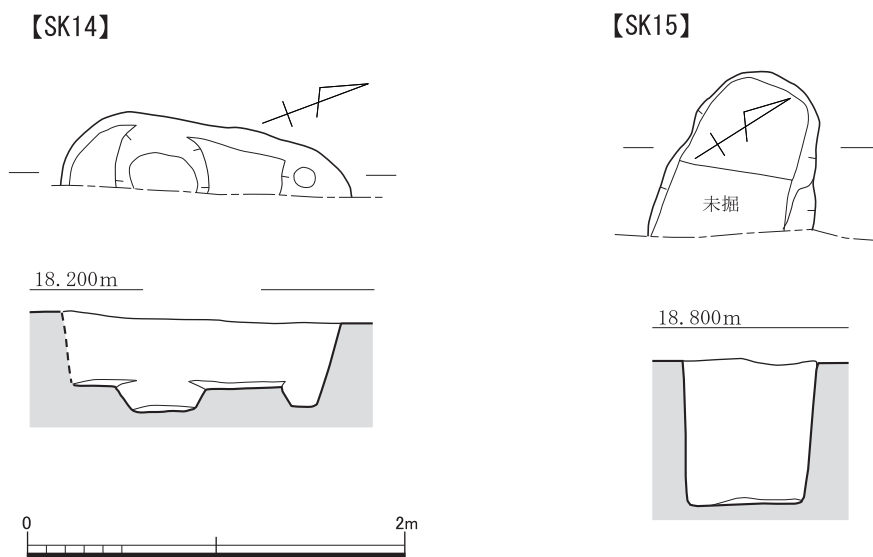
トレンチ4の西辺中央に位置し、遺構の西半部は調査区外へ延長する。主軸は東西方向、平面プランは楕円形と考えられる。検出長0.9m、幅0.75m、深さ0.8mを測る。黒色シルトを主体とする埋土内には遺物を多く含んでおり、小型の祭祀土坑の可能性はある。

出土土器

弥生時代中期中葉の甕、高坏片などが出土しているが、いずれも破片資料である。

8号溝状遺構（第32図、図版8）

トレンチ4の北寄りに位置する。正方位に沿った方形区画溝と考えられるが、調査対象範囲では区画の南東部分のみを検出している。幅0.35m、深さ0.15～0.2mを測り、断面は台形を呈する。埋土は黒褐色土の単層であった。



第33図 14・15号土坑 平・断面図 (S=1/40)

(2) 平成 27 年度の調査

【調査の概要】

平成 27 年度は、個人住宅 3 軒の発掘調査を行った。調査区は E~G で、遺構番号は各区それぞれで付した。遺構の時期はいずれも弥生時代中期で、残存状況は比較的良好である。ピットのうち、掘立柱建物を構成すると考えられるものは確認できていない。

1) E 区

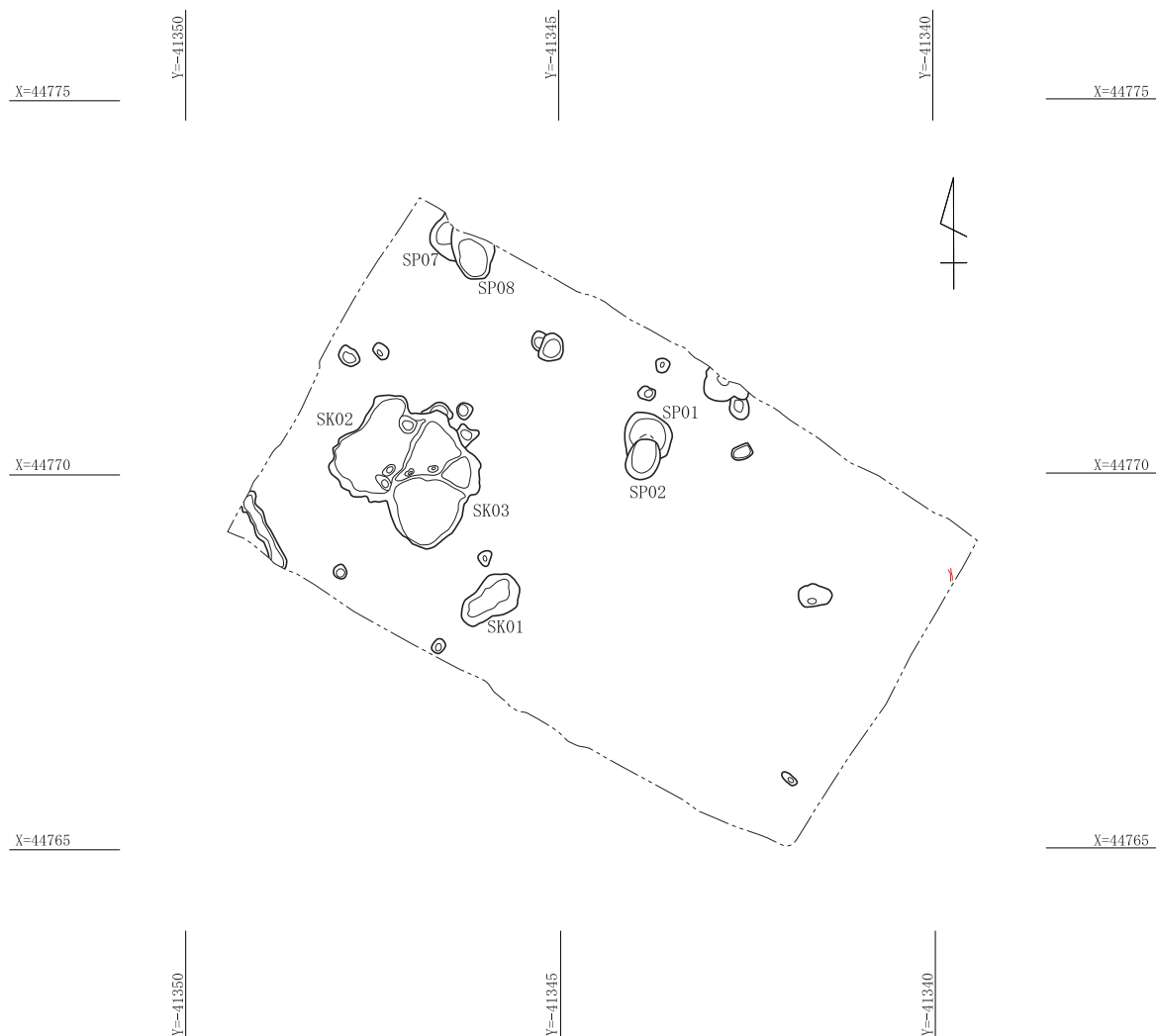
E 区では、土坑 3 基とピット群を検出した。調査区南東半は遺構密度が非常に低い。

【遺構と遺物】

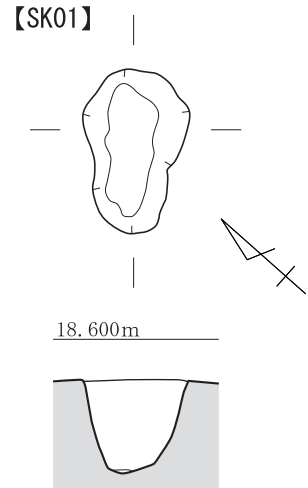
1号土坑 (第 35 図、図版 10)

調査区の南西部に位置する。主軸はN-47° -Eを測り、平面プランは隅丸長方形である。壁面は比較的直線的に立ち上がる。南北長 0.86m、東西幅 0.56m、深さ 0.55mを測る。埋土は黒褐色土を主体とし、人為的埋没と考えられる。

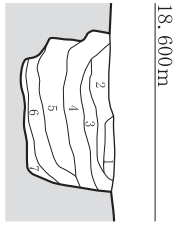
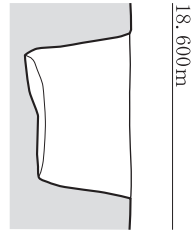
出土遺物には一部丹塗りを含む弥生土器が少量あるが、いずれも小片で図示していない。



第 34 図 E 区 遺構配置図 (S=1/100)



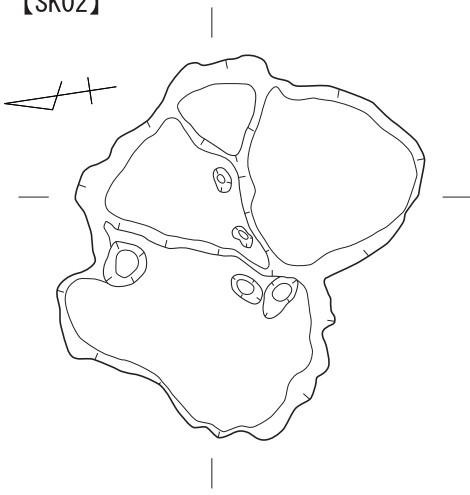
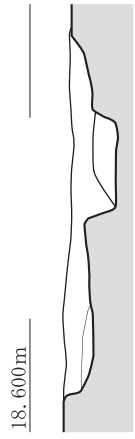
【SK01】



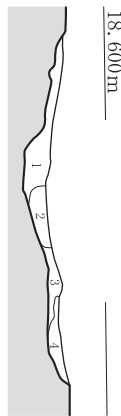
【SK01】

- 1 暗褐色粘質土 (にぶい、黄褐色フロック混じり)
- 2 黒褐色シルト
- 3 黒褐色シルト
- 4 黒色シルト (2~3cm大の黄褐色フロック混じり)
- 5 黒褐色+暗褐色シルト
- 6 暗褐色シルト (黄褐色フロック混じり)
- 7 褐色粘質土

【SK02】

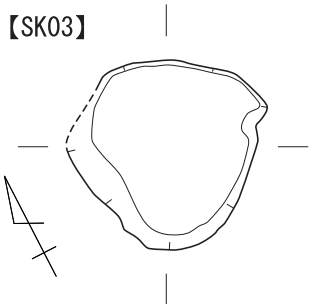
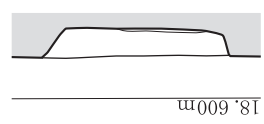


18.600m

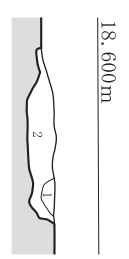
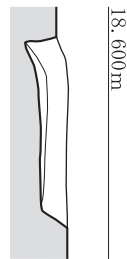


【SK02】

- 1 黒褐色シルト (2~5cmの暗褐色フロックを多量に含む、しまり良い)
- 2 黒褐色シルト (2cm大の暗褐色フロックをごく少量含む、しまり良い)
- 3 暗褐色シルト (黒色粘土少量含む、しまり良い)
- 4 黒色シルト (3cm大の黒褐色フロックをごく少量に含む、しまり良い)



【SK03】



【SK03】

- 1 黒色シルト (しまり良い)
- 2 黒褐色シルト (6~7cm大の暗褐色フロックを多く含む、しまり良い)

第35図 E区1~3号土坑 平・断面図 (S=1/40)

2号土坑 (第35図、図版10)

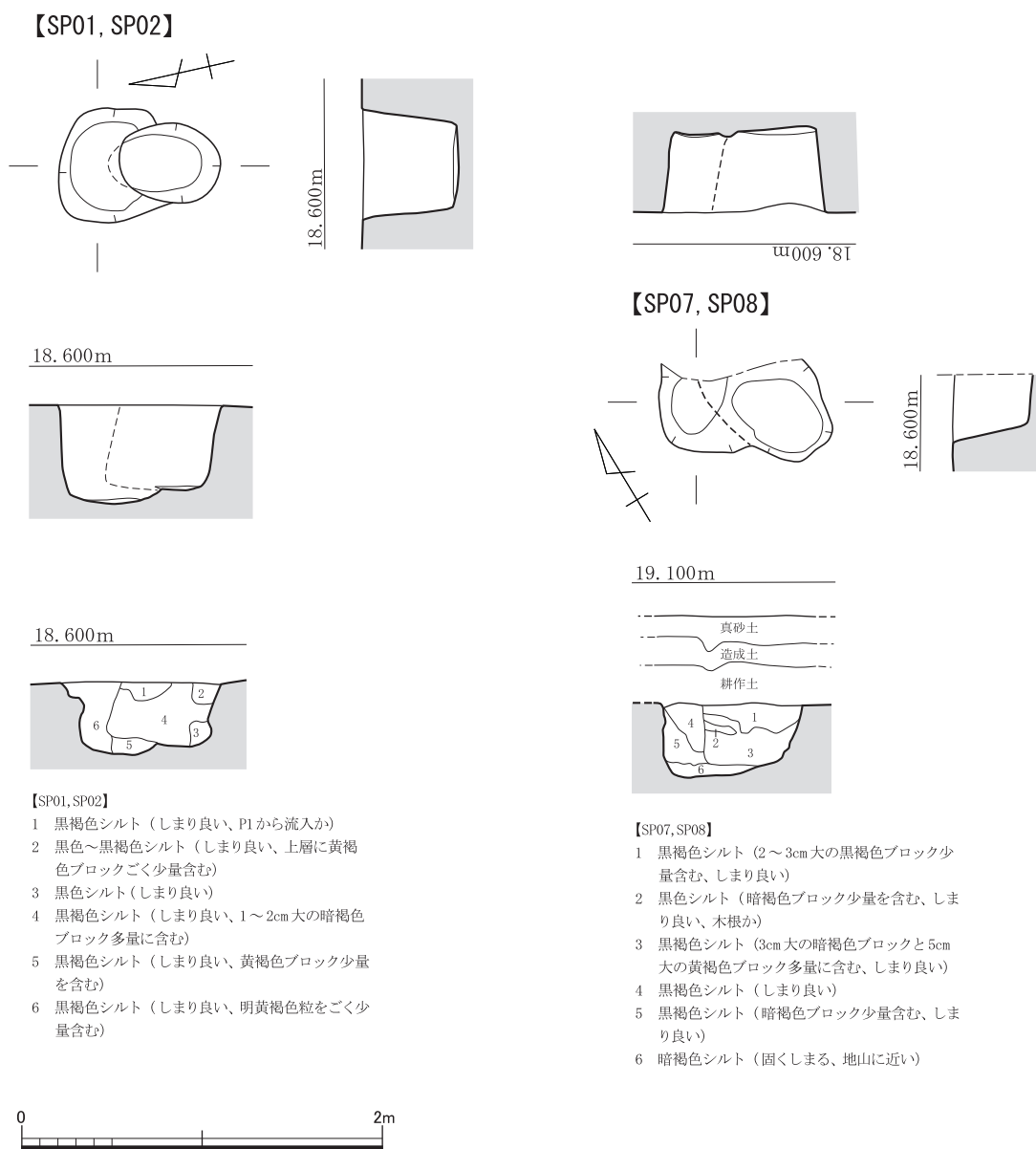
調査区西端付近に位置し、3号土坑に切られる。主軸は東西方向、平面プランは不整形である。遺構の残存状況は悪く、床面も凹凸が目立つ。東西長1.89m、南北幅1.62m、深さ0.24mを測る。埋土は黒褐色土を主体とし、人為的埋没と考えられる。

出土遺物 (第37図)

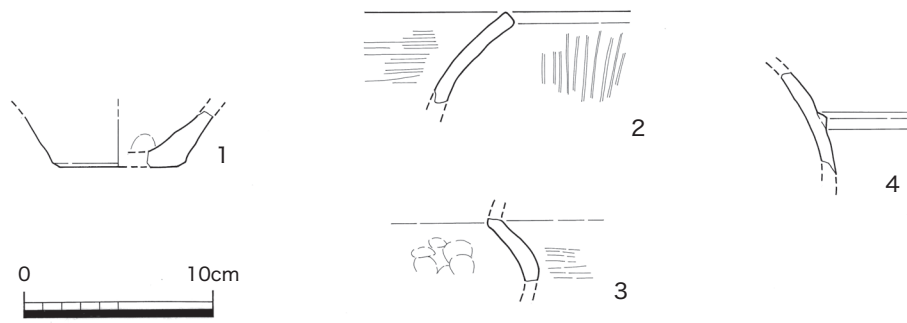
第37図1は、弥生土器甕の底部片である。他にも甕胴部小片が少量あるが、図示していない。

3号土坑 (第35図、図版10)

調査区西端付近に位置し、2号土坑を切る。2号土坑と同一遺構の可能性はあるが、遺構の形状、埋土の様相から別遺構と判断した。主軸は東西方向、平面プランは楕円形である。東西長1.19m、



第36図 E区1・2・7・8号ピット 平・断面図 (S=1/40)



第 37 図 E 区 出土土器 (S=1/4)

南北幅 1.06m、深さ 0.16m を測り、底面はほぼ平坦である。埋土は黒褐色土を主体とする。出土遺物はない。

ピット群 (第 36 図)

調査区北側を中心に、約 20 基のピットを検出した。このうち大型の P 1・2・7・8 については土層観察を行ったが、明確な柱痕は確認できなかった。

出土遺物 (第 37 図)

第 37 図 2 から 4 はいずれも P 6 出土の弥生土器壺小片である。2 は、頸部から口縁部にかけてで、外面に暗文を施す。本来丹塗りと考えられるが、残存していない。3・4 はいずれも胴部上位である。4 は外面に突帯を 1 条有する。

2) F 区

F 区では、祭祀土坑 2 基、土坑 3 基、ピット群を検出した。遺構の残存状況は良好で、祭祀土坑からは大量の遺物が出土している。

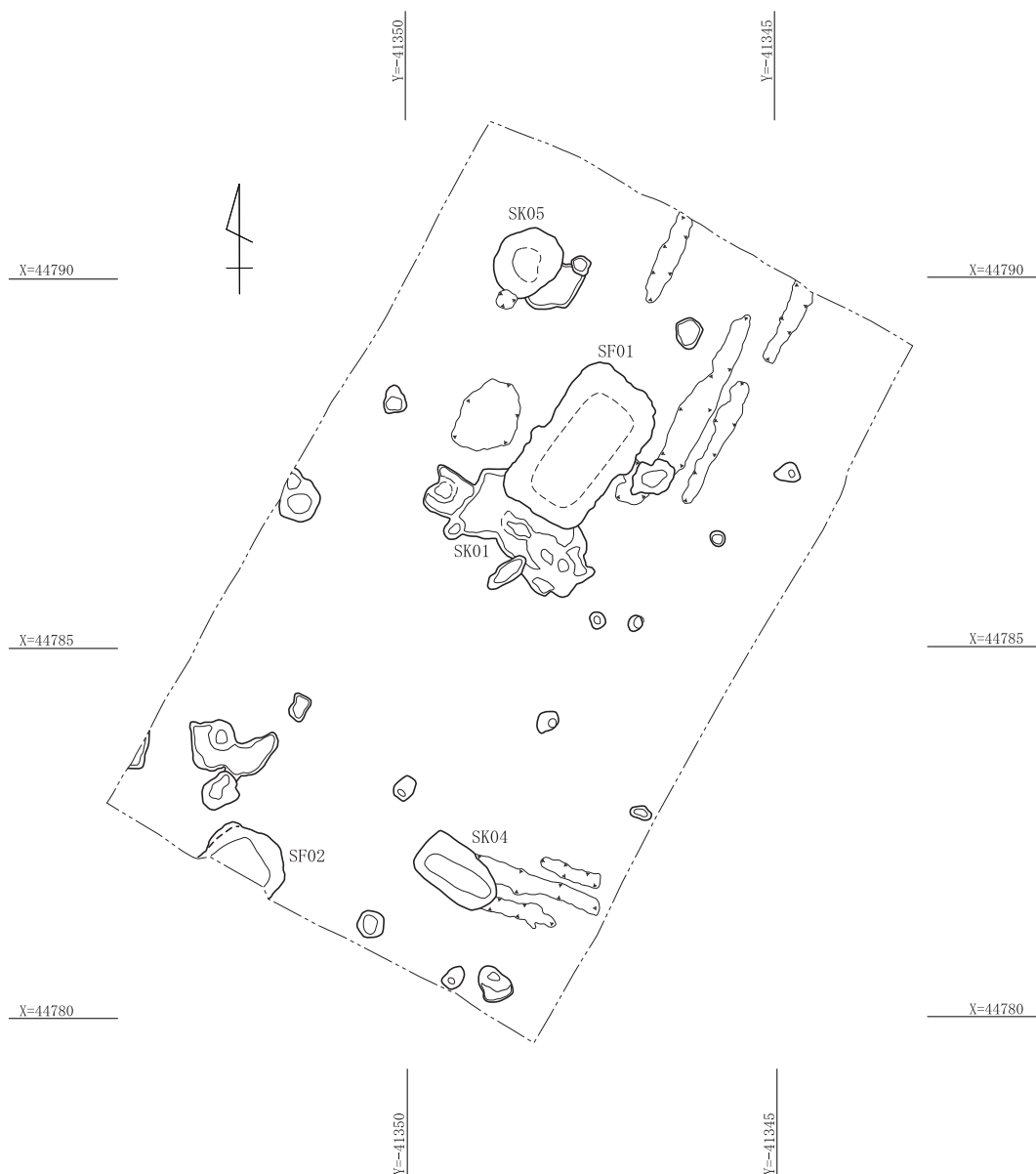
【遺構と遺物】

1 号祭祀土坑 (第 39 図、図版 12)

調査区の中央やや北側に位置する。主軸は N-34° -E で、平面プランは整った長方形である。南北長 2.25m、東西幅 1.32m、深さは復元で最大 1.16m を測る。遺構検出面から約 40 cm 掘り下げると、そこから厚さ数 10 cm は土器層と呼べる程の遺物の出土があった。埋土は黒褐色土を主体とする乱れのないきれいな堆積で、人為的埋没と考えられる。なお、第 39 図に掲載した遺構実測図のうち出土遺物は、最上位のもののみを表現している。

出土遺物 (第 40~46・49 図、図版 18~20)

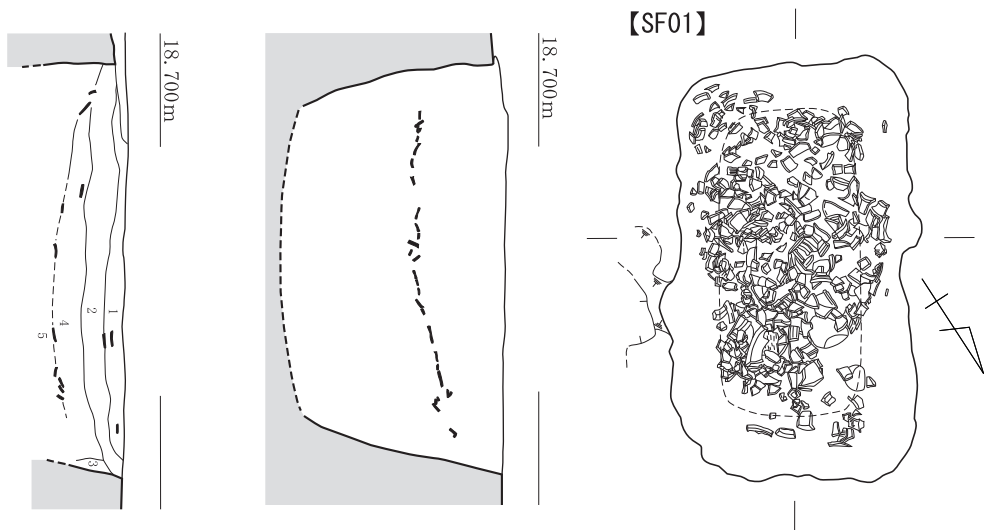
第 40 図 1 は口径 32.1 cm、器高 38.9 cm を測る甕で、口縁部は断面逆 L 字状を呈する。外面口縁部付近にススが付着している。2 は口径 32.0 cm を測り、口縁部上面がやや内傾する。胴部外面中に黒斑を有する。3 は口径 31.9 cm を測る。口縁部上面は平坦で、内側へのつまみ出しは小さい。4 は口径 29.8 cm を測る。5 は口径 32.3 cm を測り、胴部外面にまばらにコゲが残る。6 は口径 32.3 cm を測り、外面にはスが残る。7 は口径 32.1 cm を測り、口縁部上面はやや外傾する。外面には 2 次焼成に伴う剥離が見られる。第 41 図 1 はやや大型の甕で、口径 35.7 cm を測る。外面口縁部下位に突帯を 1 条有する。胴部は丸みを帯びる。2~8 は甕の底部から胴部にかけてである。いずれも平底で、2 は内外面ともにススが付着している。3 は外面底部付近に被熱痕があり、それ



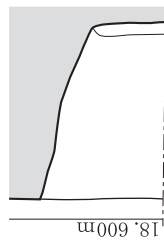
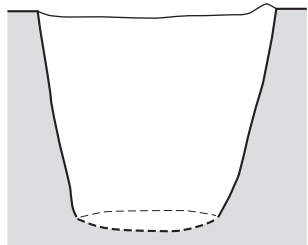
第 38 図 F 区 遺構配置図 (S=1/100)

以上の器面の剥離が激しい。5 は内面底部にコゲの付着が見られ、外面にも全面ススが付着している。7 は内面底部付近にコゲの付着が見られ、外面には被熱痕が確認できる。

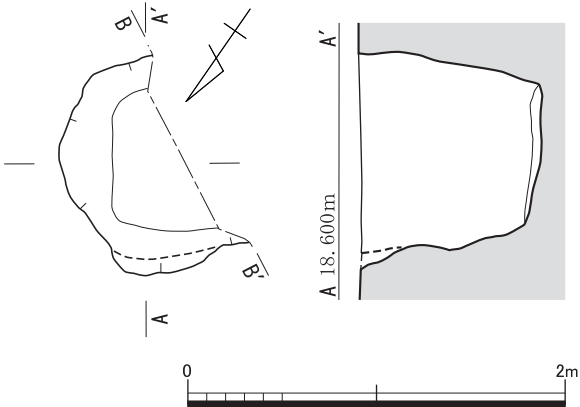
第 42 図 1 は口径 22.0 cm を測る甕で、球胴形を呈する。2～11 は小型の甕で、いずれも外面口縁部下位に突帯を 1 条有する。2 は口径 26.6 cm、底径 10.6 cm、器高 21.7 cm を測る。底部裏面に黒班がある。3 は口径 25.2 cm、底径 11.4 cm、器高 20.7 cm を測る。底部裏面から胴部に黒班がある。4 は口径 23.8 cm、底径 11.4 cm、器高 20.8 cm を測る。胴部の調整は内外面ともナデである。底部裏面から胴部に黒班がある。5 は口径 25.2 cm、底径 11.2 cm、器高 23.9 cm を測る。胴部はやや外湾する。外面底部から胴部に黒班がある。6 は口径 24.2 cm、底径 11.2 cm、器高 21.5 cm を測る。口縁部は小さく、上面は内傾する。胴部の調整は内外面ともナデである。外面底部付近に黒班がある。7 は口径 23.0 cm、底径 10.0 cm、器高 21.5 cm を測る。器壁が非常に薄く、口縁部外端



18.700m

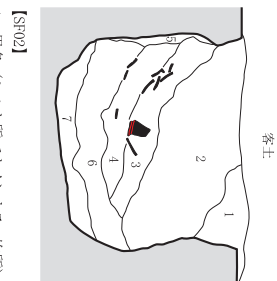


【SF02】



B 19.100m

B'



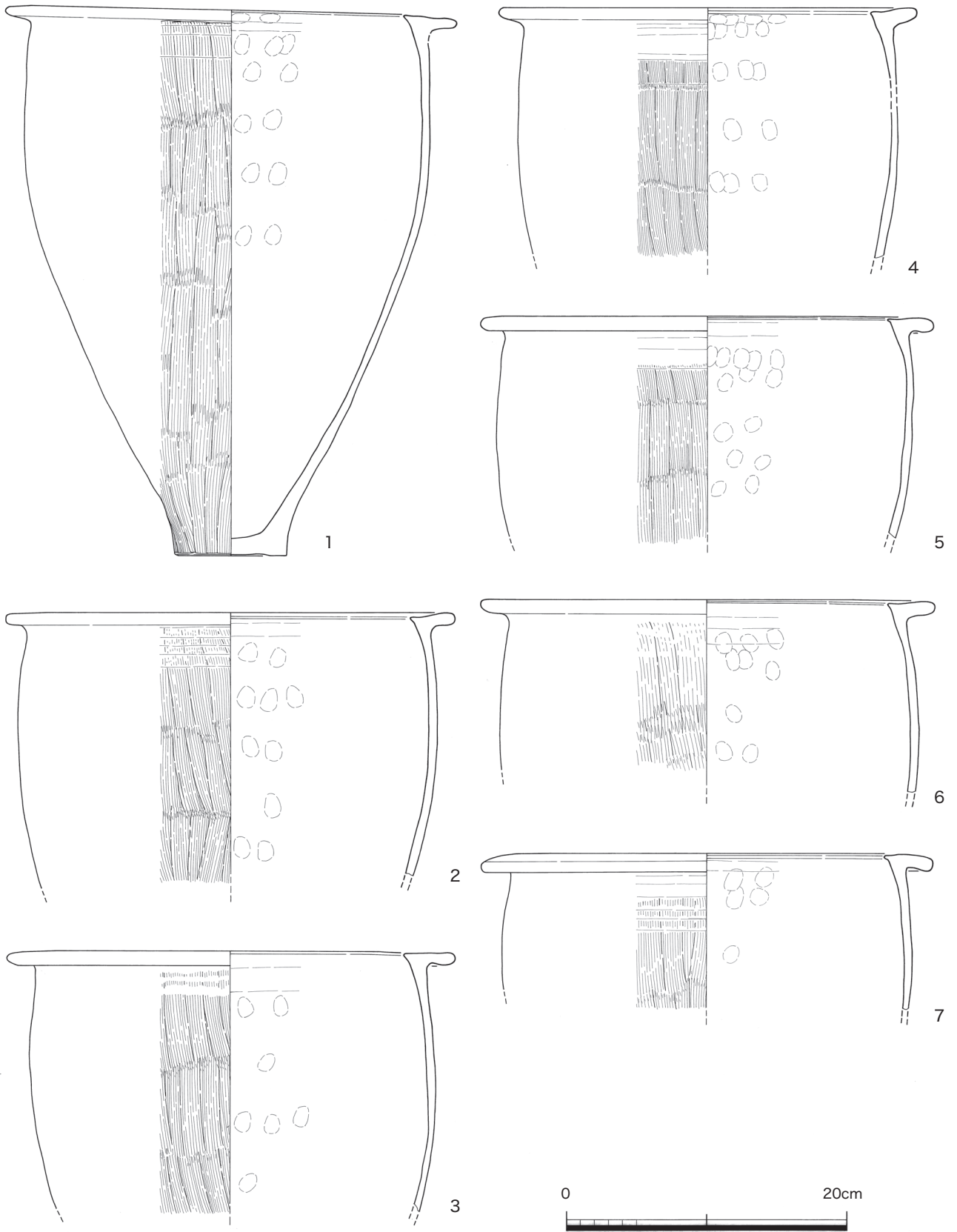
【SF02】

- 1 黒色（シルト質でよくしまる、均質）
 - 2 黒褐色（シルト質で固くしまる、土器を少量含む）
 - 3 黒褐色（やや砂質でしまりあり、土器を大量に含む）
 - 4 黒色（シルト質でしまりあり、土器を多く含む）
 - 5 灰黄褐色（3、4層+壁面の崩落土、しまりあり）
 - 6 黒褐色（砂質でよくしまる、遺物は少量）
 - 7 明黄褐色（地山と同質、ややしまらない）
- ※すべて人為的堆積、東から廃棄か

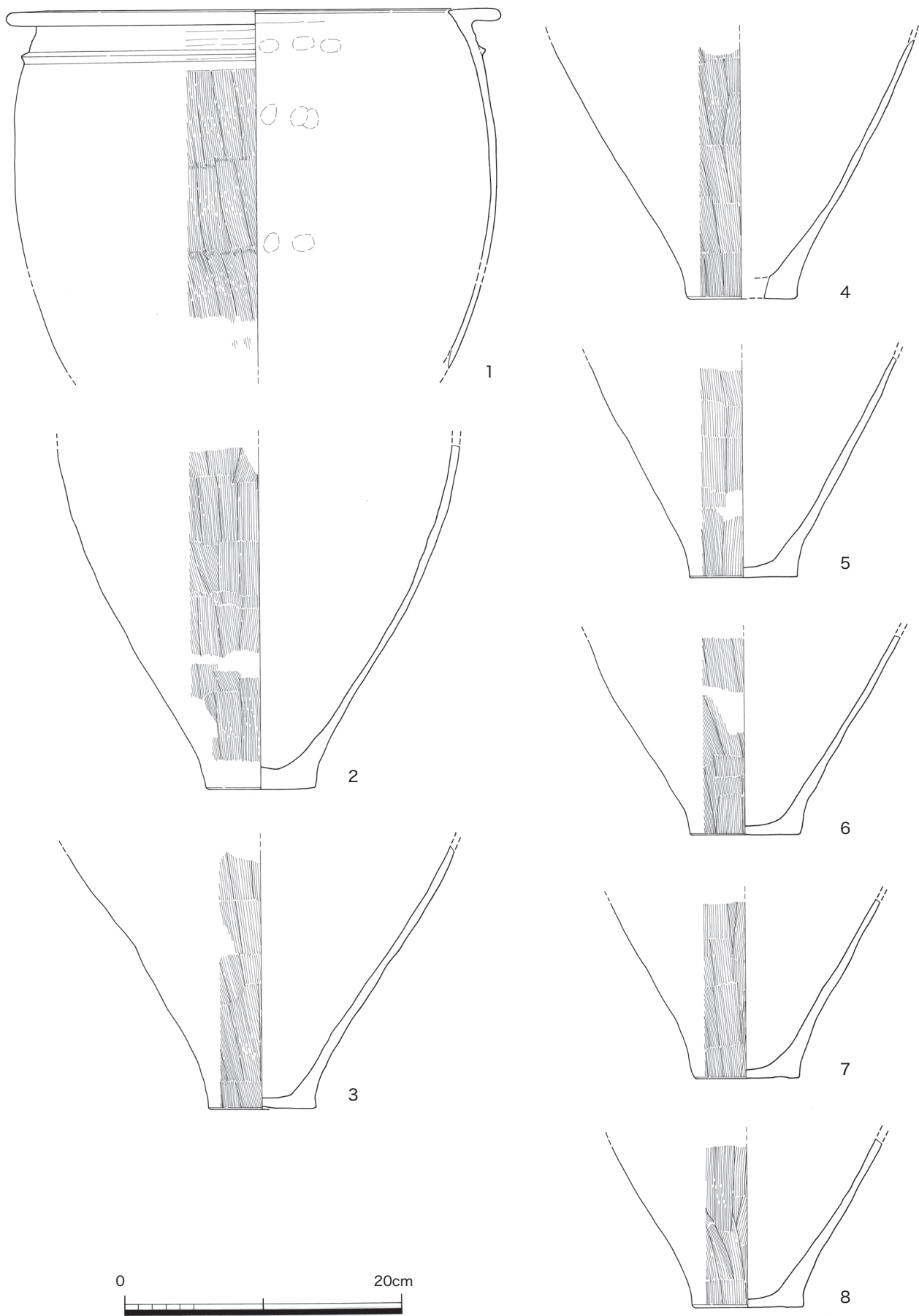
【SF01】

- 1 黒色（やや砂質でしまらない、遺物は少量）
 - 2 黒褐色（シルト質でしまりあり、遺物は少量）
 - 3 褐灰色（4層+壁面の崩落土、しまりあり）
 - 4 黒褐色（2層に近いがより粘性が高い、多くの遺物を含む）
 - 5 黒色（シルト質で非常によくしまる、廃棄された遺物の層）
- ※乱れのないきれいな堆積（人為的埋戻し）
- 5層はかわゆる遺物層で、埋土自体は4層とほぼ同質

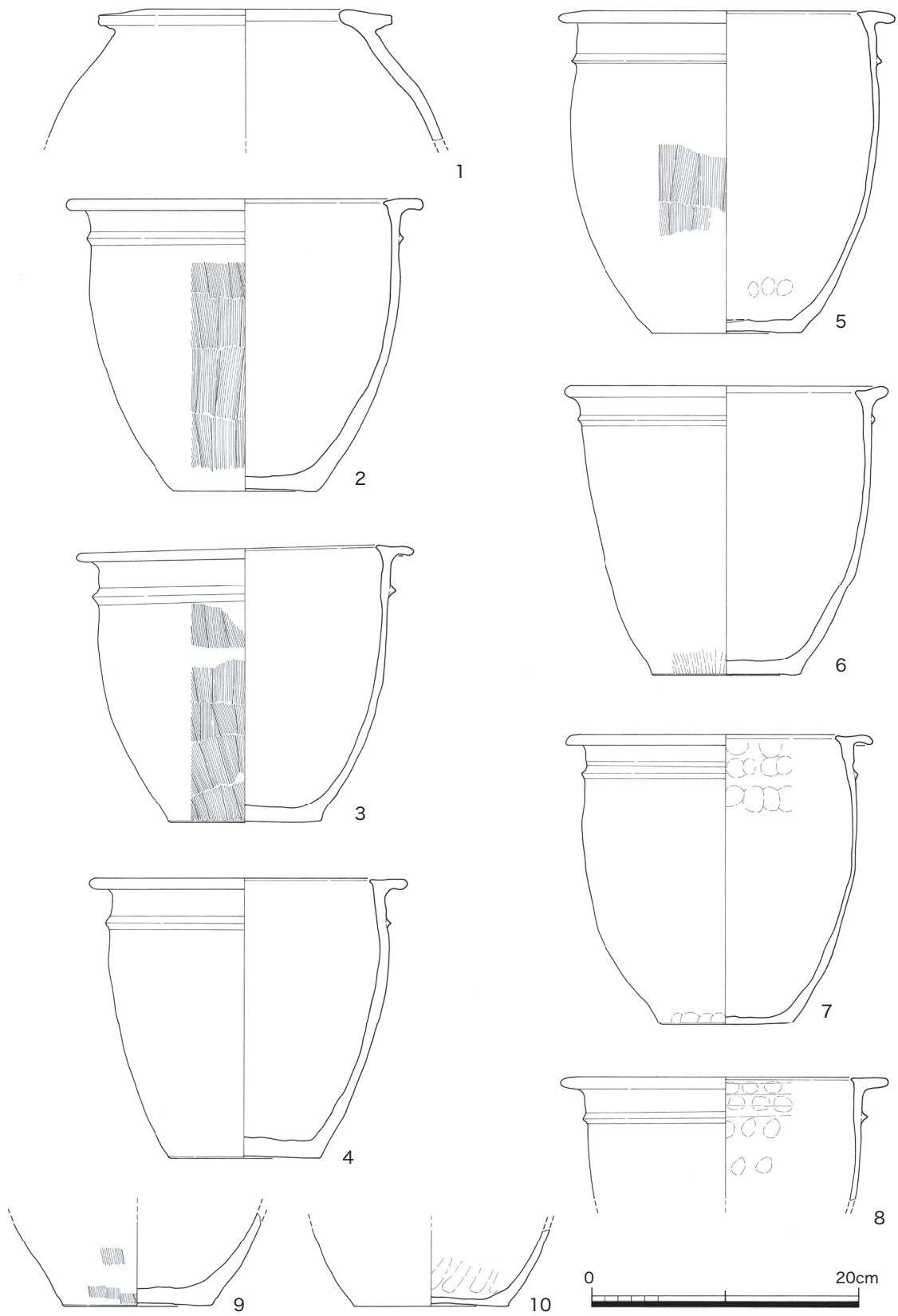
第 39 図 1・2号祭祀土坑 平・断面図 (S=1/40)



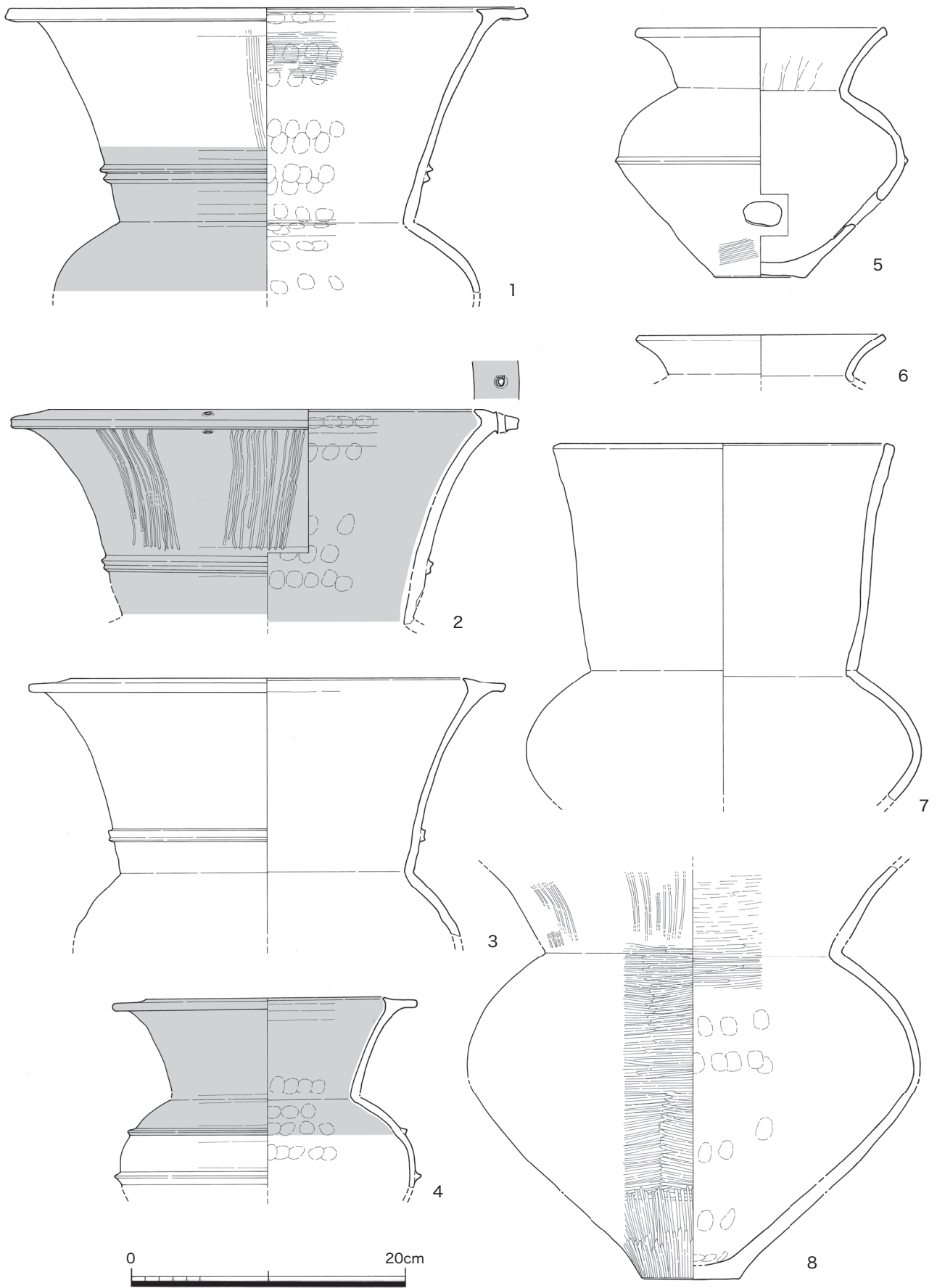
第 40 图 1 号祭祀土坑 出土土器 (1) (S=1/4)



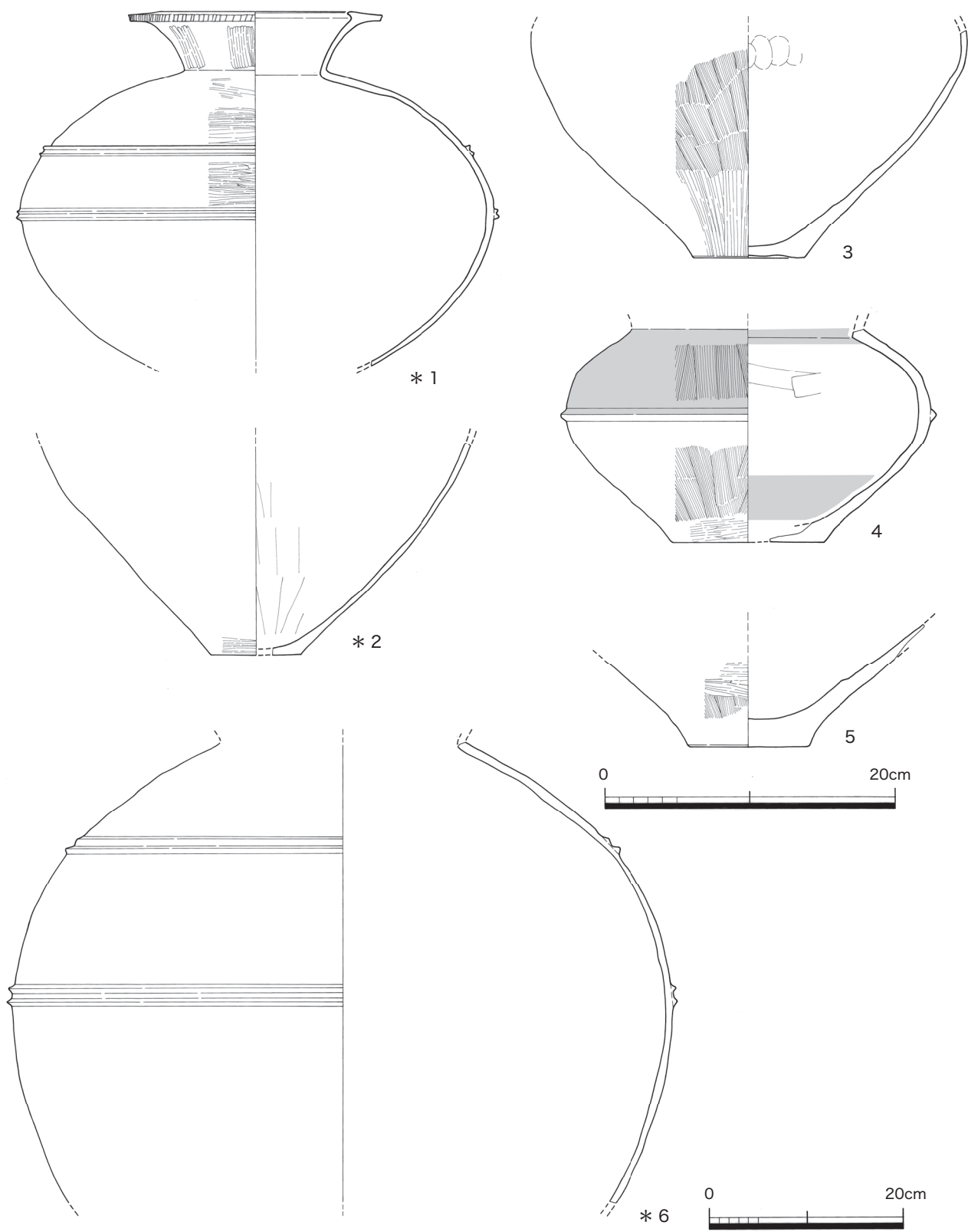
第 41 图 1号祭祀土坑 出土土器 (2) (S=1/4)



第42图 1号祭祀土坑 出土土器(3) (S=1/4)



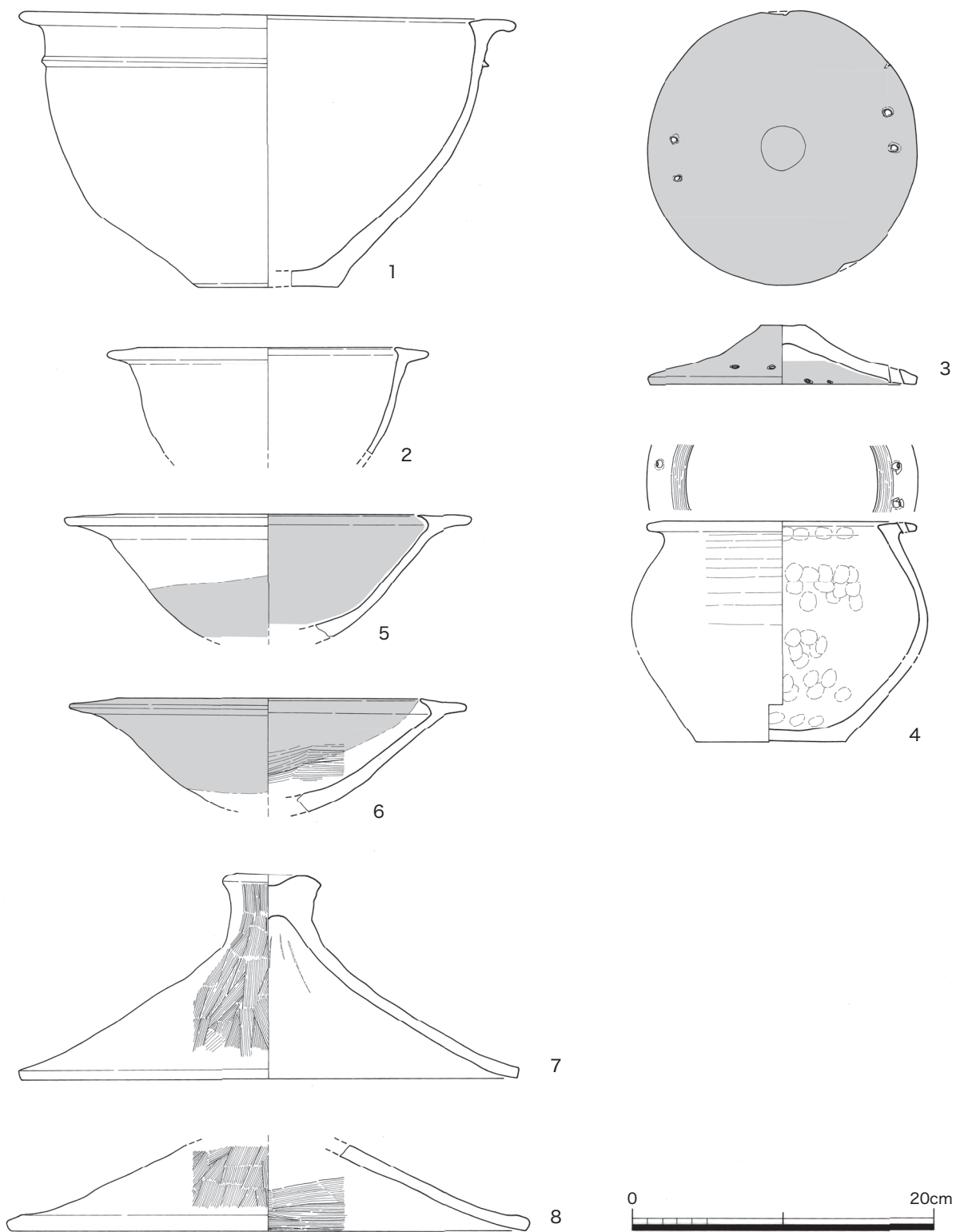
第43图 1号祭祀土坑 出土土器(4) (S=1/4)



第44図 1号祭祀 土坑出土土器(5) (S=1/4、*付はS=1/6)

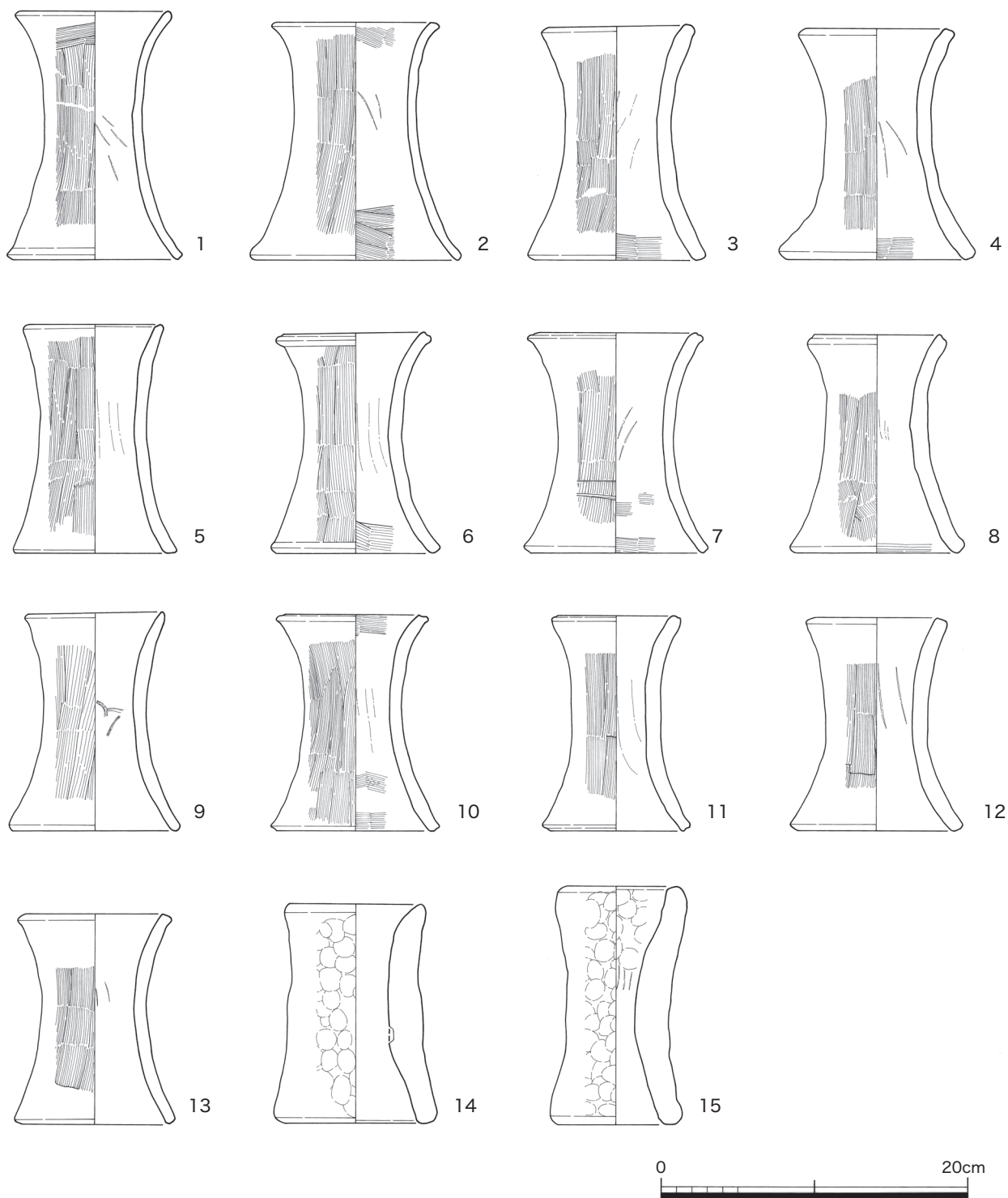
は下方に延びる。底部裏面に黒斑がある。8は口径24.4cmを測る。外面口縁部から胴部上位にススが付着している。9・10は底部から胴部にかけてで、それぞれ底径11.2cm、11.5cmを測る。10は内面に強いナデの痕跡が残る。

第43・44図は壺で、形態はバラエティに富む。第43図1は口径38.0cmを測る。口縁部のつく



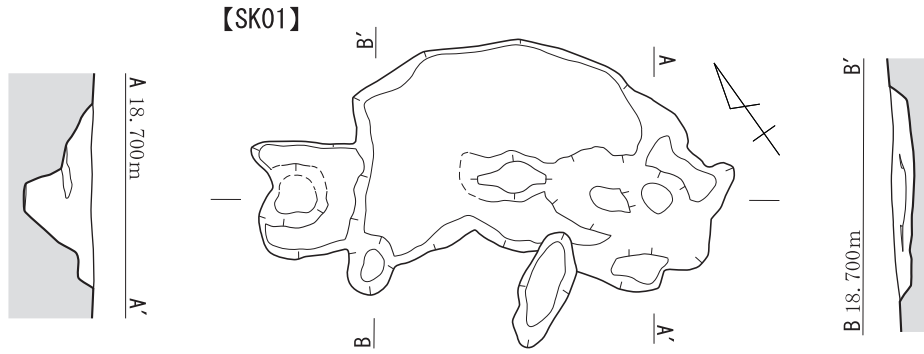
第45図 1号祭祀土坑 出土土器(6) (S=1/4)

りは丁寧で、外側に長い。外面頸部下位には断面M字状の突帯を1条有する。外面は黒色で、顔料の塗布が考えられる。2は口径37.0cmを測り、口唇部1か所に上下両側から穿孔を施す。頸部外面下位に断面M字状の突帯を有するが、その上位に10~14本一単位の暗文を7か所施す。暗文は、土器を倒置した状態で、左から右へ施文されている。1と同じく外面は黒色で、顔料の塗布が考えられる。3は口径34.6cmを測り、頸部外面下位に断面M字状の突帯を有する。調整は内外面ともナデである。4は口径22.2cm、胴部最大径22.3cmを測る。胴部には断面三角形の突帯を

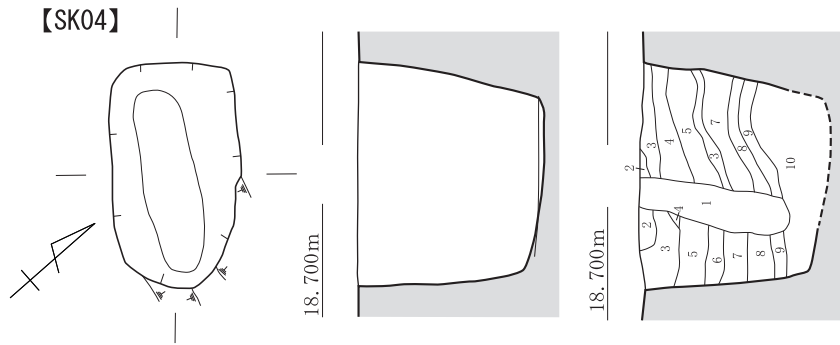
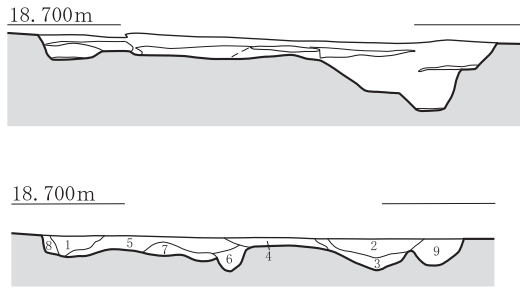


第46図 1号祭祀土坑 出土土器(7) (S=1/4)

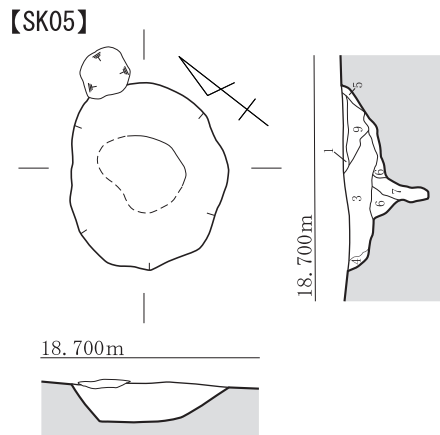
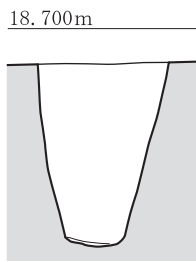
2条持つ。調整は内外面ともナデで、外面には黒色顔料が施される。5は口径18.3cm、胴部最大径21.2cm、器高18.0cmを測る素口縁の小型壺である。胴部下位に2.8×1.8cmの穿孔を施す。6は口径18.3cmを測り、頸部の立ち上がりは非常に短い。7は頸部から口縁部が直線的に立ち上がる大型の壺で、口径24.9cm、胴部最大径28.7cm、頸部以上の高さ16.4cmを測る。在地系ではなく、以東系と考えられる。8は口縁部を欠損する。胴部最大径32.9cm、残存高29.9cmを測る。頸部外面には10本程度一単位の暗文を施す。底部外面に黒斑がある。第44図1・2・6は大型の壺である。1は断面鋤先状を呈し、口唇部に刻み目を施す。口径26.3cm、胴部最大径49.4cm、



- 【SK01】**
- 1 黒褐色 (砂質、しまりあり)
 - 2 にぶい黄褐色 (砂質、しまりあり)
 - 3 黄褐色の地山ブロック+黒褐色 (しまらない)
 - 4 にぶい黄褐色 (地山と同質、しまりあり)
 - 5 黒褐色+明黄褐色ブロック (しまりあり、ブロックはφ3cm程度)
 - 6 にぶい褐色 (しまらない、木根によるカクラン)
 - 7 にぶい黄褐色 (シルト質、しまりあり)
 - 8 明黄褐色 (砂質、しまりあり)
 - 9 黒褐色 (砂質、しまりあり)



- 【SK04】**
- 1 黒褐色 (ざらざらした砂質土層、しまりあり、柱痕、木痕)
 - 2 にぶい黄褐色 (砂質土層、しまりあり)
 - 3 明黄褐色 (地山と同質の粗い砂質土層、しまりあり)
 - 4 黒褐色+明黄褐色にぶい黄褐色 3+5層、しまりあり)
 - 5 黒褐色 (非常に粘性が高くよくしまる)
 - 6 3層と同質
 - 7 5層と同質
 - 8 3、6層と同質
 - 10 明黄褐色 (地山に近い砂質の層、しまらない)



- 【SK05】**
- 1 にぶい黄褐色 (砂質、しまりあり)
 - 2 黒色 (シルト質、よくしまる)
 - 3 にぶい黄褐色 (シルト質、よくしまる)
 - 4 明黄褐色 (砂質、しまらない)
 - 5 明黄褐色 (4層と同質)
 - 6 黄褐色 (やや粘性が高いがしまらない)
 - 7 木根によるカクラン



第 47 図 F 区 1・4・5号土坑 平・断面図 (S=1/40)

残存高 36.2 cmを測る。外面頸部には単位の一定しない暗文を施す。胴部中位と上位に断面M字状の突帯を各1条有する。2は底径 9.4 cm、残存高 21.9 cmを測る。外面胴部に黒斑がある。3は底径 7.6 cm、胴部最大径 30.0 cmを測る。外面の調整は、中位がハケで、下位がミガキである。4は扁平な小型壺で、底径 10.4 cm、胴部最大径 24.8 cm、残存高 14.6 cmを測る。外面胴部中位に断面三角形の突帯を1条有する。内外面にまばらに丹が残る。5は底径 8.4 cmを測る。6は頸部以上と底部を欠損する。球胴状を呈し、胴部最大径 69.2 cmを測る。調整は内外面ともナデである。

第45図1は鉢で、口径 32.8 cm、器高 18.0 cmを測る。外面口縁部下位に突帯を1条有する。調整は内外面ともナデである。2は小型の鉢で、口径 21.2 cmを測る。3・4は小型の甕と蓋のセットである。2個1組の穿孔を2か所に施す。3は口径 17.8 cm、器高 3.9 cmを測り、4は口径 17.8 cm、器高 14.5 cmを測る。調整はいずれもナデで、4の口縁部上面に一部ハケ目が残る。5・6は高坏の坏部で、口径は5が 26.2 cm、6が 26.8 cmを測る。いずれも広範囲に丹塗りを施す。7・8は蓋で、7は口径 33.0 cm、頂部径 6.5 cm、器高 13.4 cmを測る。内面口縁部付近に黒斑がある。8は口径 34.6 cmを測る。口縁部の内外面にススが付着している。

第46図1～15は器台で、14・15のみ器壁の厚いタイプである。器高は 13.6 cm～16.0 cmを測る。

第49図1は手捏ね土器で、底径 2.2 cm、残存高 4.3 cmを測る。底部は比較的平坦で、安定する。内外面とも指頭痕が多く残る。2・3は土製投弾である。2は長さ 4.7 cm、幅 2.3 cm、3は長さ 5.3 cm、幅 2.6 cmを測る。焼成はいずれも良好である。他に大型の台石があるが、図示していない。

2号祭祀土坑（第39図、図版12）

調査区南西端部に位置し、遺構の南半は調査区外へ延びる。主軸はN-55° -Eで、平面プランは整った長方形である。南北検出長 1.00m、東西幅 1.14m、深さ最大 0.95mを測る。埋土は黒褐色土を主体とし、東側から廃棄されたような堆積状況である。出土遺物は多く、祭祀土坑と考えられる。

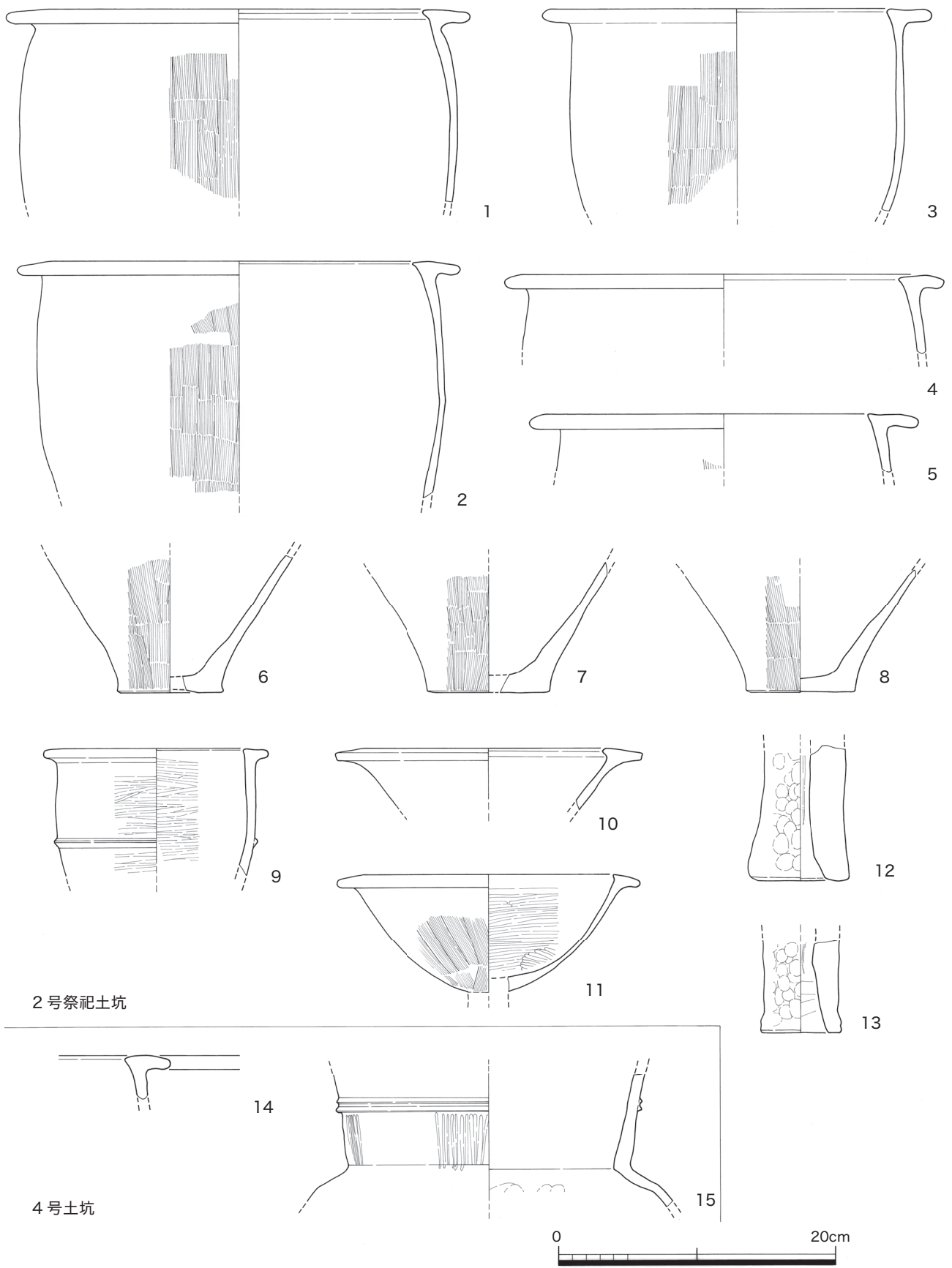
出土遺物（第48・49図、図版19・20）

第48図1～8は甕で、中型と小型がある。1は口径 33.4 cmを測り、口縁部は内側につまみ出す。2は口径 32.0 cmを測り、口縁部上面はやや外傾する。胴部外面に黒斑がある。3は口径 28.0 cmとやや小さい。外面に被熱痕とススの付着が見られる。4は口径 31.6 cm、5は口径 28.0 cmを測る。6から8は底部から胴部にかけてで、いずれも平底である。9は口径 16.2 cmを測る小型の精製の甕である。外面胴部中位に突帯を1条持ち、調整は内外面ともミガキである。10は壺の頸部から口縁部にかけてで、口径 22.2 cmを測る。11は高坏で、口径 22.0 cm、坏部の高さ 8.5 cmを測る。内面にわずかに丹が残る。12・13は器台で、13は横断面がやや隅丸方形に近い。

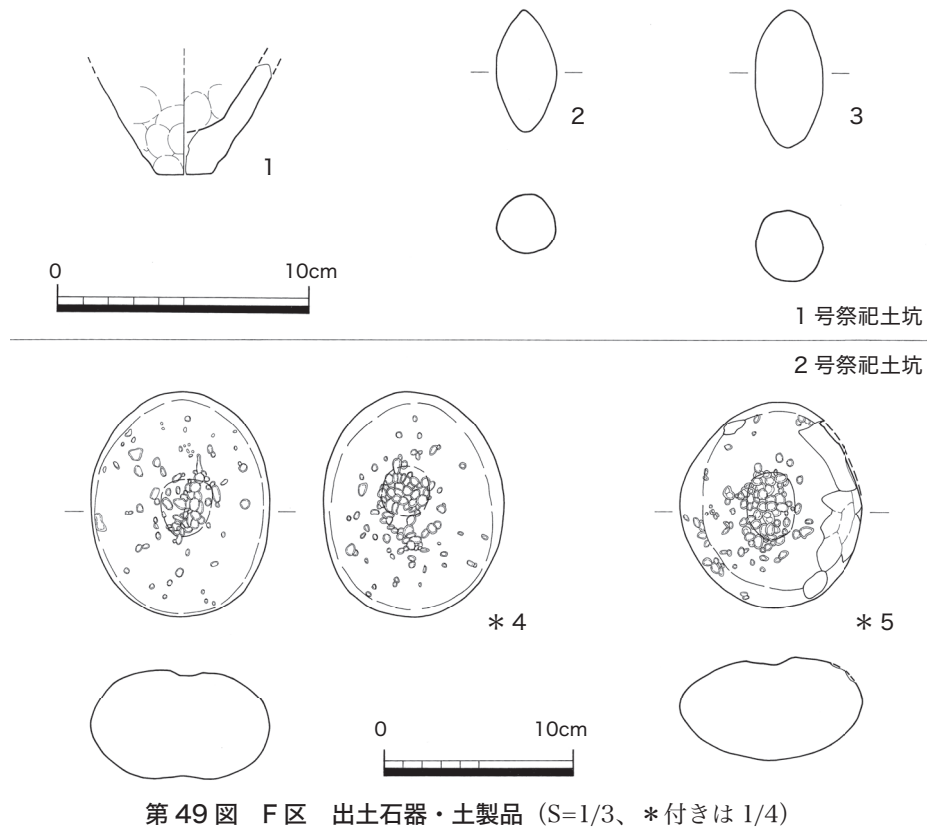
第49図4・5は磨石である。4は長さ 11.8 cm、幅 9.4 cm、5は長さ 10.8 cm、幅 9.6 cmを測る。4は上下両面に、5は片面に凹部がある。

1号土坑（第47図、図版12）

調査区ほぼ中央に位置し、1号祭祀土坑を切る。主軸は北西—南東方向に取る。遺構の形状は不整形で、床面にも凹凸が目立つ。東西長 2.56m、南北幅 1.40m、深さ 0.36mを測る。埋土は黄褐



第 48 图 2号祭祀土坑、4号土坑 出土土器 (S=1/4)



色土系と黒褐色土系で、ブロック状に堆積している。出土遺物に弥生土器壺の口縁部小片があるが、図示していない。

4号土坑 (第47図、図版12)

調査区の南東部に位置する。主軸方位はN-48°-Wで、非常に整った長方形を呈する。東西長1.18m、南北幅0.68m、深さ最大0.98mを測る。埋土のうち3・6・8層は黄色系砂質土、5・7・9層は黒色系粘質土の互層構造で、人為的な埋め戻しである。

出土遺物 (第48図)

少量の土器が出土した。第48図14は甕の口縁部小片で、外面にコゲやススが付着している。15は壺の胴部から頸部にかけてで、頸部外面に断面M字状の突帯を1条有する。突帯の下位には単位不明の暗文を施す。

5号土坑 (第47図、図版12)

調査区の北西部に位置する。主軸は北東-南西方向で、長さ0.99m、幅0.82m、深さ0.18mを測る。壁面は楯鉢状を呈し、埋土は自然堆積である。出土遺物はない。

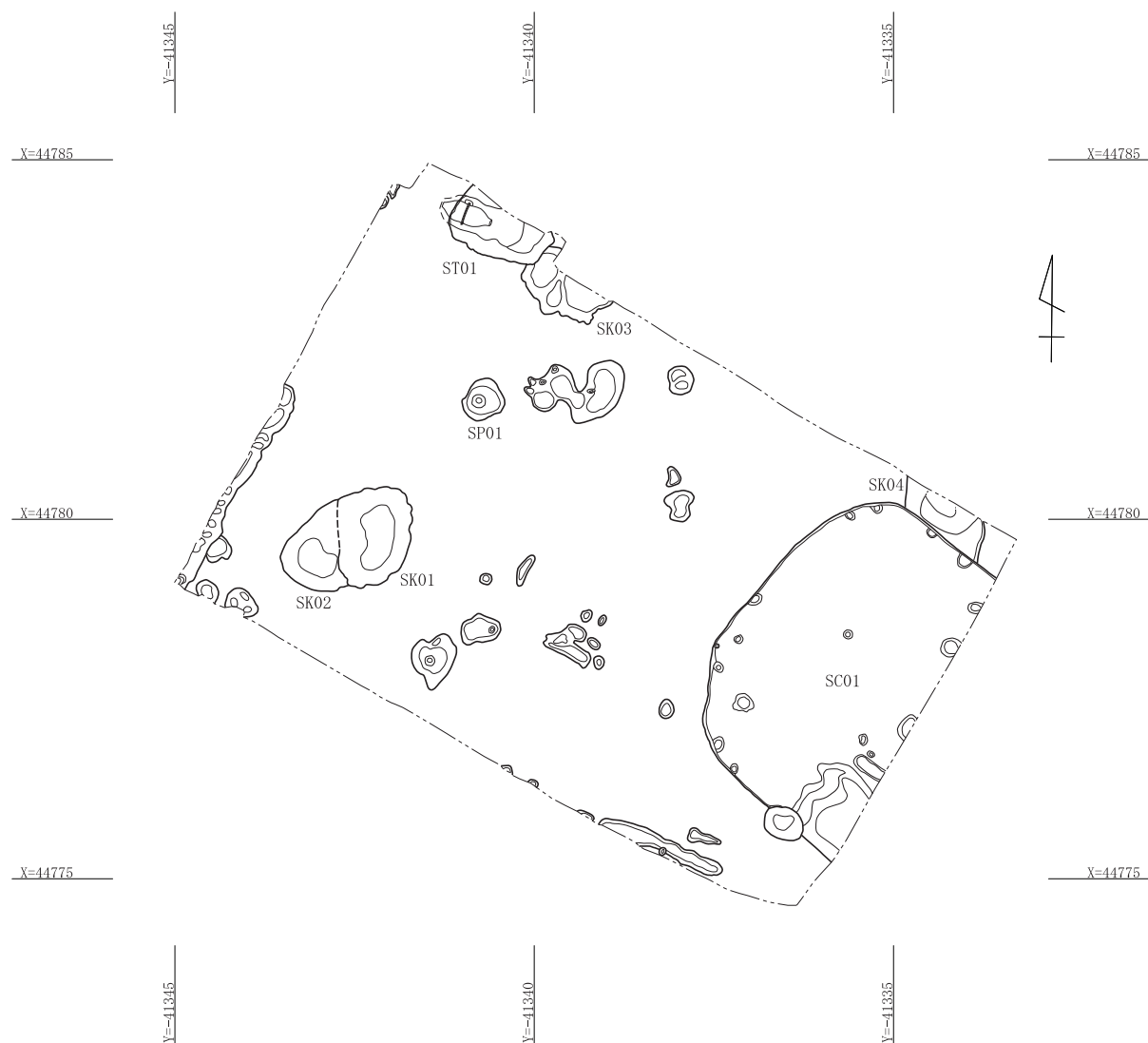
3) G 区

【遺構と遺物】

G区では、弥生時代中期の住居1軒、土坑4基、ピット群及び小型甕棺墓1基を検出した。1号住居は、壁面沿いに小ピットが巡るタイプである。当調査区西側の3・6次調査地では多数の住居が確認されており、集落のさらに東側への広がり把握できた。

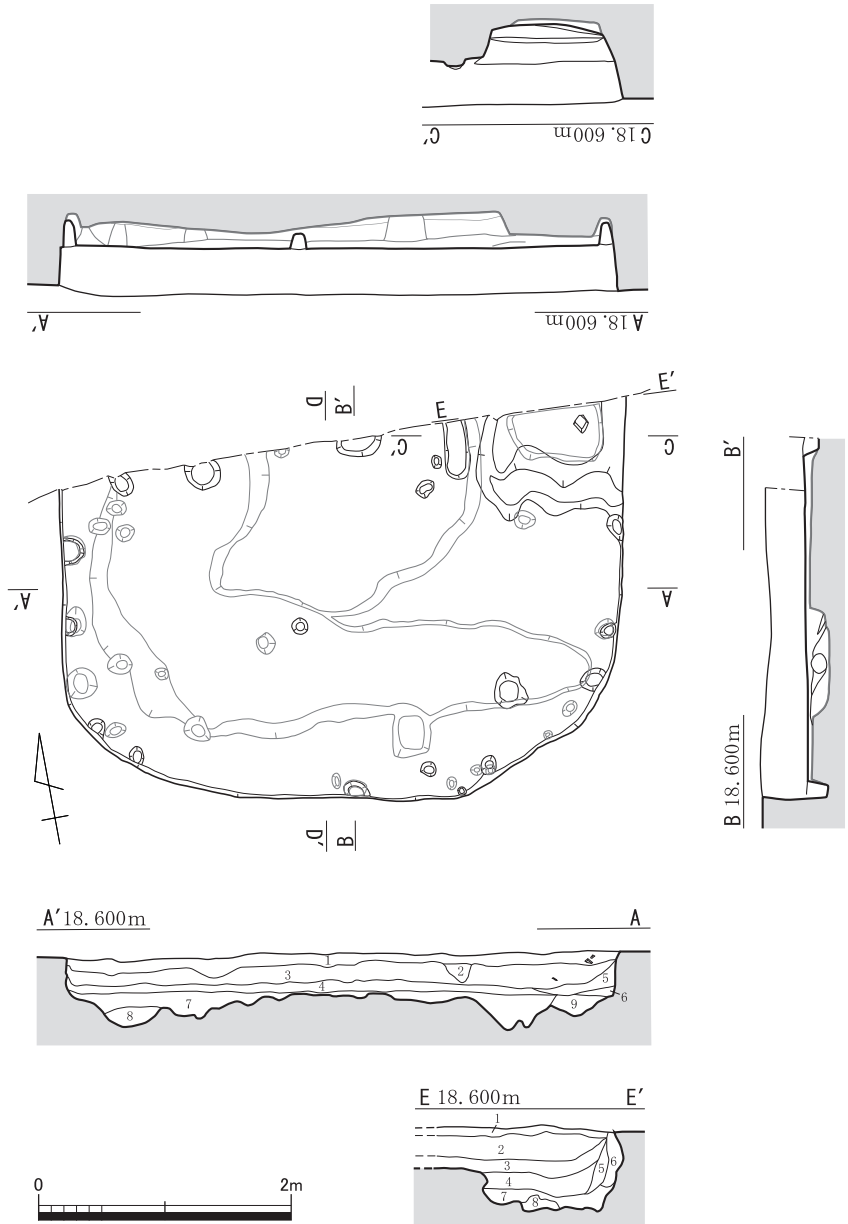
1号住居 (第51図、図版14)

調査区南東部に位置し、全体の約1/2が調査区外に広がる。4号土坑を切る。主軸はN-49° - Wで、平面プランは小判型を呈する。長軸長は現状で2.85mだが、約5.7mに復元される。短軸長は4.46mで、貼床面までの深さ0.35mを測り、厚さ5~20cm前後の暗褐色粘質土の貼床が施されている。南西側壁沿い中央部に屋内土坑を設ける。南東側は調査区外に延びるため、長さは現状



第50図 G区遺構 配置図 (S=1/100)

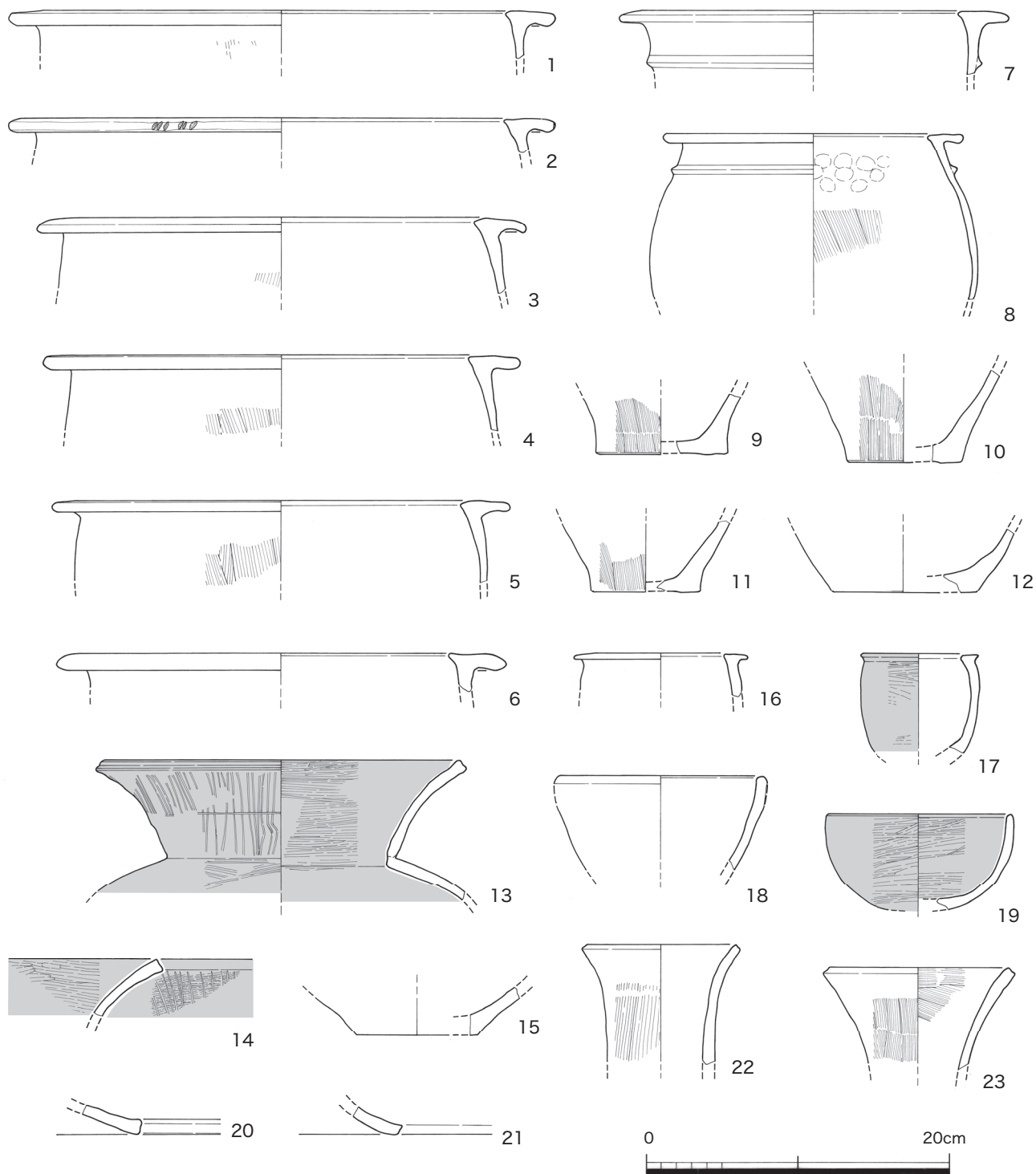
- 【南北ベルト】
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、 ϕ 1cm大の黒褐色 (10YR2/3) 粒少量含む、砂粒少量含む、土器包含、しまり良い)
 - 2 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、砂粒少量含む、しまりやや悪い、攪乱)
 - 3 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、黒褐色 (10YR2/3) フロツク中量含む、砂粒多量含む、土器・炭化物を包含、しまり良好)
 - 4 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、砂粒中量含む、土器包含、よくしまる)
 - 5 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、砂粒少量含む、しまり良い)
 - 6 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、 ϕ 5cm大の褐色 (10YR4/4) フロツク多量含む、しまり良い)
 - 7 暗褐色土 (10YR3/4) (粘質土、褐色 (10YR4/4)・黒褐色 (10YR3/2) フロツク多量含む、よくしまる)
 - 8 暗褐色土 (10YR3/4) (砂質土、褐色 (10YR4/4) フロツク中量・ ϕ 2~3cmの黒色 (10YR1/1) フロツク極少量含む、しまり良い、7に近いが7よりさらさら)
- ※ 1・5は同質、集落の活動期間中に丁寧に埋め戻しを行っていると思われる



- 【東西ベルト】
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、暗褐色 (10YR3/3) 粒中量含む、砂粒中量含む)
 - 2 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、暗褐色 (10YR3/3) ブロック中量含む、砂粒多量含む、土器・炭化物を包含、よくしまる)
 - 3 2と同じ
 - 4 2と同じ
 - 5 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、暗褐色 (10YR3/3) ブロック中量含む、砂粒中量含む、よくしまる、2より硬い)
 - 6 5に同じ
 - 7 5に同じ
 - 8 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、暗褐色 (10YR3/3) ブロック多量含む、砂粒少量含む、しまりやや悪い、1よりふわふわ)
 - 9 黒褐色土 (10YR3/4) (粘質土、褐色 (10YR4/4) ブロック・褐色 (10YR3/2) ブロック多量含む、よくしまる、地山混じり、貼床)
 - 10 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、暗褐色 (10YR3/4) ブロック・褐色 (10YR4/4) ブロック中量含む、しまりやや悪い、ピット?)
- ※ 西側で貼床が厚くなっている

- 【屋内土坑】
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、砂粒少量含む、しまり良い)
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) (シルト、暗褐色 (10YR3/2) ブロック少量含む、土器・炭化物を包含、砂粒多量含む、しまり良い)
 - 3 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、 ϕ 1~2cmの黒褐色 (10YR2/3) ブロック中量含む、砂粒中量含む、しまり良好)
 - 4 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、黄褐色 (10YR5/6) ブロック極少量含む、砂粒中量含む、土器・炭化物を包含、しまり良い)
 - 5 4と同じ、しまりやや悪い
 - 6 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、明黄褐色 (10YR6/8)・暗褐色 (10YR3/3) ブロック極少量含む、砂粒少量含む、しまり悪い)
 - 7 黒褐色土 (10YR2/3) (粘質土、明黄褐色 (10YR6/8) ブロック中量含む、砂粒少量含む、土器包含、しまり良い)
 - 8 暗褐色土 (10YR3/3) (粘質土、砂粒少量含む、炭化物包含、しまり悪い)
- ※ 1・2・3・4は同質、7・8は土坑内での堆積

第51図 G区1号住居 平・断面図 (S=1/60)

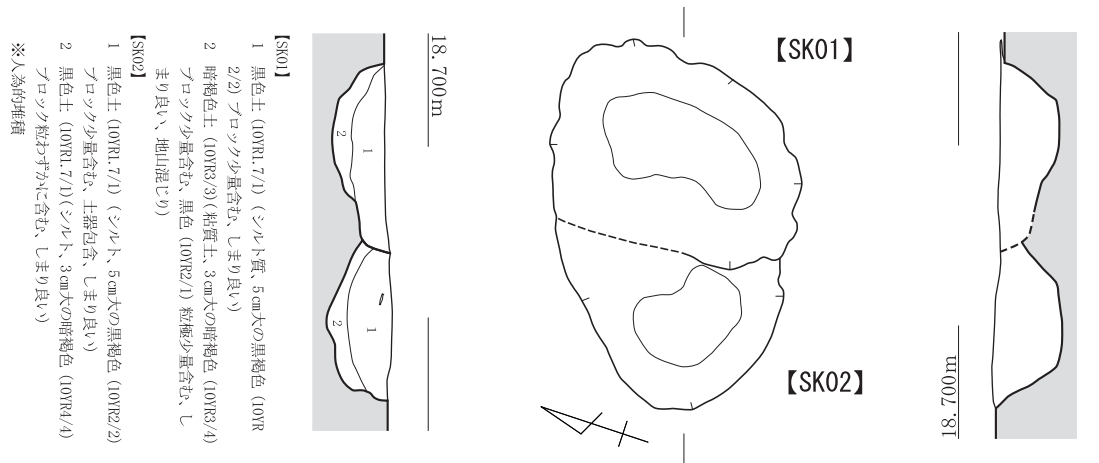


第52図 G区1号住居 出土土器 (S=1/4)

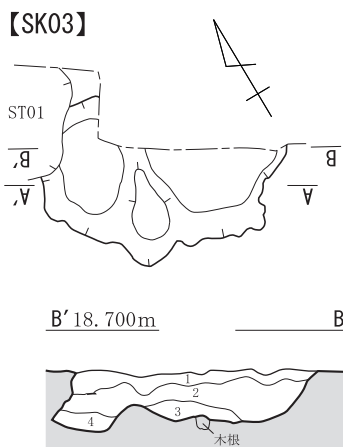
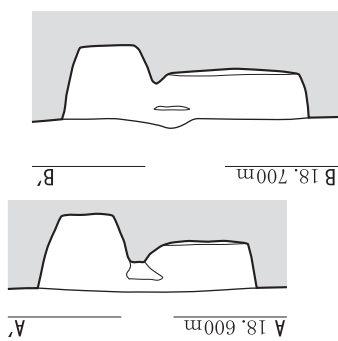
で 0.98m、幅は 1.16mを測る。床面までの深さは 0.25mで、南側に中段を設ける。この住居では、壁面沿いに多くの小ピットを検出した。大きさは直径 8~25 cm程度で、深さも 20 cm前後の浅いものが多い。これらのピットは周辺の調査区で見つかった住居でも確認されており、壁面を支えるための杭痕と考えられる。埋土は黒褐色土が中心となるがいずれも水平堆積で、丁寧に埋め戻された様子が読み取れる。

出土遺物 (第 52・55 図、図版 19・20)

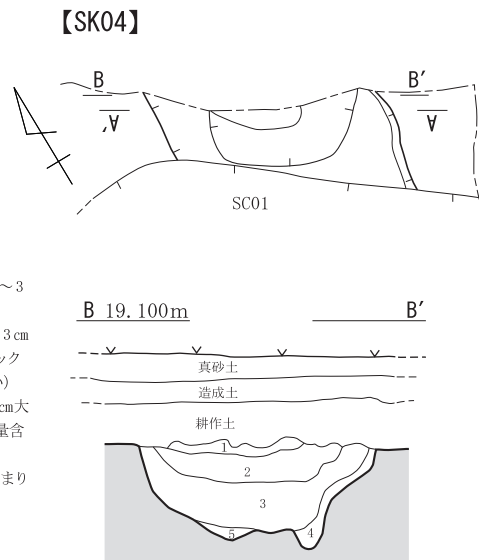
第 52 図 1~12 は甕で、口縁部上面は水平のものがほとんどである。1・2 はやや大型で、口径はいずれも 36.0 cmを測る。2 は口唇部の一部に刻み目を施すが、工具を当てたのみで、木目が



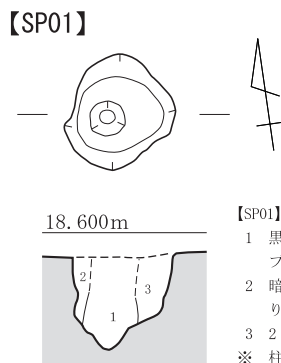
- 【SK01】
- 1 黒色土 (10YR1.7/1) (シルト質、5cm大の黒褐色 (10YR2/2) フロック少量含む、しまり良い)
 - 2 暗褐色土 (10YR3/3) (粘質土、3cm大の暗褐色 (10YR3/4) フロック少量含む、黒色 (10YR2/1) 粉粒少量含む、しまり良い、地山混じり)
- 【SK02】
- 1 黒色土 (10YR1.7/1) (シルト、5cm大の黒褐色 (10YR2/2) フロック少量含む、土器包含、しまり良い)
 - 2 黒色土 (10YR1.7/1) (シルト、3cm大の暗褐色 (10YR4/4) フロック粒わずかに含む、しまり良い)
- ※人為的堆積



- 【SK03】
- 1 黒色土 (10YR1.7/1) (シルト、φ2~3cmの砂粒少量含む、しまり良い)
 - 2 黒色土 (10YR2/1) (シルト、φ2~3cmの砂粒・暗褐色 (10YR3/3) ブロック少量含む、土器包含、しまり良い)
 - 3 黒色土 (10YR1.7/1) (シルト、φ5cm大の暗褐色 (10YR3/3) ブロック少量含む、しまり良い)
 - 4 暗褐色土 (10YR3/3) (粘質土、しまりなし、地山混じり)



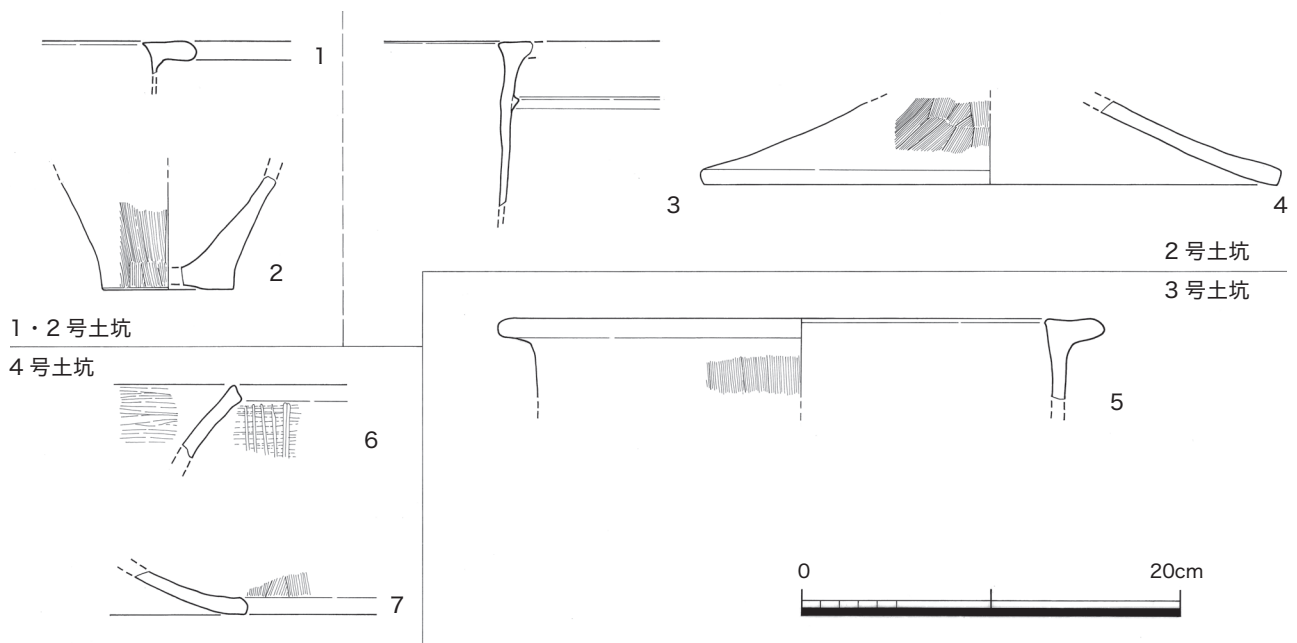
- 【SK04】
- 1 黒色土 (10YR2/1) (シルト、砂粒多量含む、しまり良い)
 - 2 黒色土 (10YR2/1) (シルト、砂粒中量含む、土器包含、しまり良い、ほぼ1層と同じ)
 - 3 黒色土 (10YR1.7/1) (シルト、砂粒少量含む、極わずかに黄褐色ブロック含む、土器包含、しまり良い)
 - 4 黒色土 (10YR2/1) (シルト、黒褐色 (10YR2/2) ブロック・黄褐色 (10YR5/6) ブロック混じり土、しまり悪い、地山混じり)
 - 5 4と同質
- ※ 住居に切られる、遺構の中心はより北側を考えられる、人為的堆積



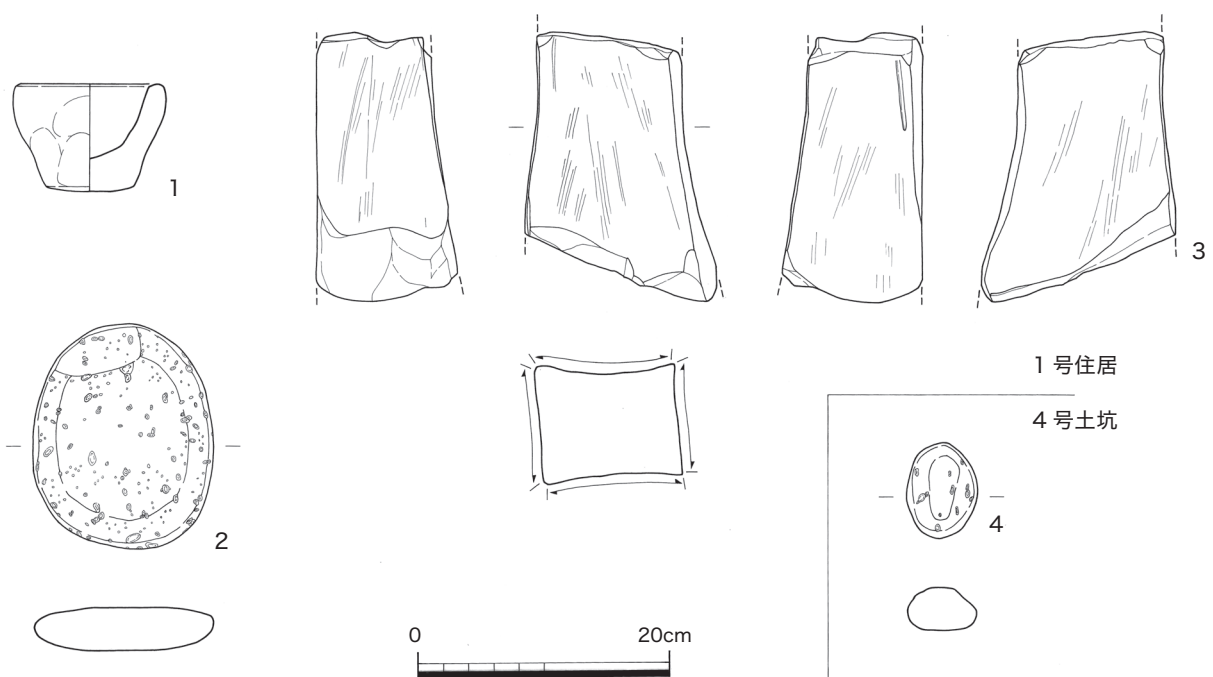
- 【SP01】
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、φ3cm大の暗褐色 (10YR3/3) ブロック中量含む、しまり悪い、柱痕跡か)
 - 2 暗褐色土 (10YR3/3) (シルト、黄褐色ブロック含む、しまり良い、地山混じり)
 - 3 2と同質
- ※ 柱穴と考えられる

第53図 G区1~4号土坑、1号ピット 平・断面図 (S=1/40)

残されている。3から6はそれぞれ口径 32.2 cm、31.4 cm、30.2 cm、29.6 cmを測る。7は口径 25.6 cmと小型で、外面口縁部下位に突帯を1条有する。8は球胴形を呈する。口径 19.8 cm、胴部最大径 21.6 cmと胴部の方が大きい。調整は外面がナデで、内面胴部にハケ目が残る。9から12は底部付近の小片で、12は底径 9.4 cmを測り、樽型甕の底部と考えられる。13~15は壺である。13は胴部上位から口縁部にかけてで、口径 24.4 cmを測る。頸部外面には単位不明の縦方向の暗文が巡るが、中位に1条のみ横方向の暗文も見られる。外面は全面丹塗りを施す。14は口縁部小片で、やはり外面に縦方向の暗文が巡らせる。16から19は小型の鉢である。16・17は口縁形態が甕と近く、上方に面を作る。16は口径 11.4 cmを測る。17は口径 7.8 cmを測るミニチュア土器で、調整は内外面ともにミガキである。外面には丹塗りを施す。18・19は素口縁で、18は口径 13.4 cm、



第54図 G区1~4号土坑 出土土器 (S=1/4)



第55図 G区 出土土器・土製品 (S=1/3)

19は口径12.0cmを測る。19は内外面ともに調整がミガキで、全面に丹塗りを施す。20・21は蓋口縁部小片で、22・23は器台である。

第55図1は手捏ね土器である。口径5.8cm、器高4.2cmを測る。2は磨石で、長さ8.8cm、幅7.1cmを測る。3は砥石で、4面全てを砥面として利用している。

1号土坑（第53図、図版14・15）

調査区の南西部に位置し、2号土坑を切る。平面プランは楕円形で、主軸は南北方向と考えられる。南北長1.44m、東西幅1.05m、深さ0.30mを測る。

出土遺物（第54図）

1・2号土坑は、当初同一遺構として掘削を開始したため、遺物の混入がある。第54図1・2は上層出土遺物で、1は小型の甕口縁部である。2は甕の底部から胴部にかけてで、底径7.0cmを測る。

2号土坑（第53図）

調査区の南西部に位置し、1号土坑に切られる。平面プランは楕円形で、主軸方位は明確でない。南北長1.30m、東西幅1.04m、深さ最大0.37mを測る。埋土の上層から土器が少量出土した。

出土遺物（第54図）

第54図3・4は、明確な2号土坑の出土遺物である。2は甕の胴部から口縁部にかけてで、口唇部を欠損するものの、口縁部は小型である。外面に突帯を1条有する。4は蓋で、口径30.2cmを測る。

3号土坑（第53図、図版15）

調査区北西部に位置し、1号甕棺墓に切られる。遺構の北東部は調査区外に延びる。主軸は北西—南東方向で、平面プランは隅丸長方形を呈する。東西長1.31m、南北長0.92m、深さ最大0.43mを測る。底面は中央部が一段高く、東西が低い。埋土は黒色土を主体とし、人為的埋没の様相を呈する。

出土遺物（第54図）

第54図5は甕で、口径32.0cmを測る。口縁部は内外に延びず、小型である。

4号土坑（第53図、図版15）

調査区北東端に位置し、遺構の北側は調査区外に延び、南側は1号住居に切られる。主軸は南北方向である。東西残存長0.94m、南北幅1.15m、深さ最大0.55mを測る。埋土は黒色土を主体とする。

出土遺物（第54・55図、図版20）

第54図6は壺の頸部から口縁部にかけての小片で、外面に上下方向の暗文を施す。7は蓋の口縁部小片である。

第55図4は小型の投弾で、長さ3.7cmを測る。

1号ピット (第 53 図、図版 13)

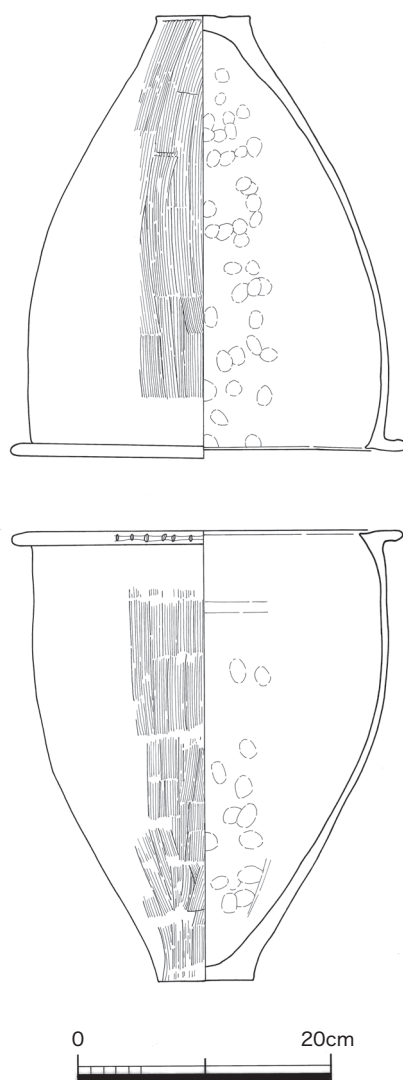
調査区北西部に位置する小型のピットである。土層観察により、径 25 cm 程度の柱痕が確認された。

1号甕棺墓 (第 57 図、図版 15)

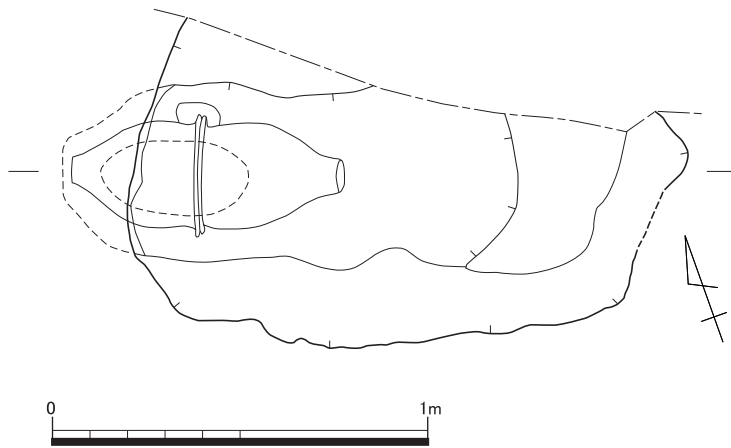
調査区北西端に位置する。3号土坑を切り、墓壇の北側は調査区外へ延びる。墓壇は2段掘りで、1次墓壇は長軸 1.46m、短軸 0.87m + α を測り、2次墓壇は長軸 1.20m、短軸 0.47m を測る。深さは検出面から床面までで 0.83m である。甕棺は床面から 5 cm 程度上位に埋置され、角度は 7° を測る。墓壇の埋土は黒褐色土と黒色土の互層状を呈し、いずれも地山混じりで丁寧に埋め戻されている。

甕棺 (第 56 図、図版 19)

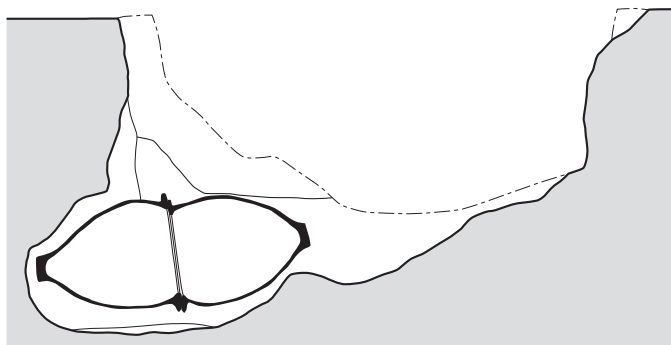
上甕は口径 31.5 cm、底径 7.4 cm、器高 34.8 cm を測る。口縁部上位は平坦で、内側に小さく摘み出す。下甕は口径 31.0 cm、底径 7.4 cm、器高 35.5 cm を測る。口縁部形態は上甕と同様である。口唇部に一部刻み目を施す。



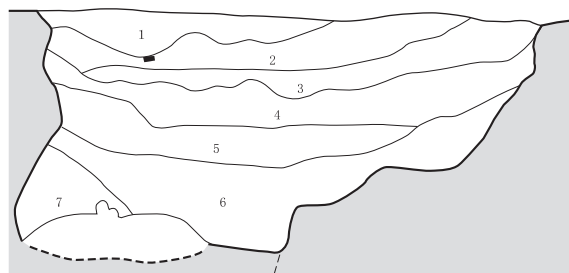
第 56 図 G 区 1 号甕棺 実測図 (S=1/6)



18.700m



18.700m



【ST01】

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) (シルト、φ1～2 cmの暗褐色 (10YR3/3) ブロック少量含む)
- 2 黒色土 (10YR1.7/1) (シルト、φ1～2 cmの暗褐色 (10YR3/3) ブロック中量含む、土器包含)
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) (シルト、φ1～2 cmの暗褐色 (10YR3/3) ブロック少量含む)
- 4 黒色土 (10YR1.7/1) (シルト、φ1～2 cmの暗褐色 (10YR3/3) ブロック中量含む)
- 5 黒褐色土 (10YR2/3) (シルト、φ1～2 cmの暗褐色 (10YR3/3) ブロック・黄褐色 (10YR5/6) ブロック多量含む)
- 6 黒色土 (10YR1.7/1) (シルト、φ1～2 cmの暗褐色 (10YR3/3) ブロック・黄褐色 (10YR5/6) ブロック多量含む)
- 7 黄褐色土 (10YR5/6) (粘土質、黒色 (10YR1.7/1) ブロック少量含む、しまりなし、壁の崩落か)

地山混じり、しまり良い

第 57 図 G 区 1 号 甕 棺 墓 平・断面図 (S=1/20)

(3) 調査成果のまとめ

小郡若山遺跡は、これまでの調査により、市域中部の低台地上で展開した「小郡・大板井遺跡」の集落域の、西端を構成する遺跡と想定されている。集落形成のピークは弥生時代中期、後期、奈良時代初頭の3時期にあると判明しているが、今回の調査地で検出した遺構群はこの最初の段階の集落を構成する要素である。

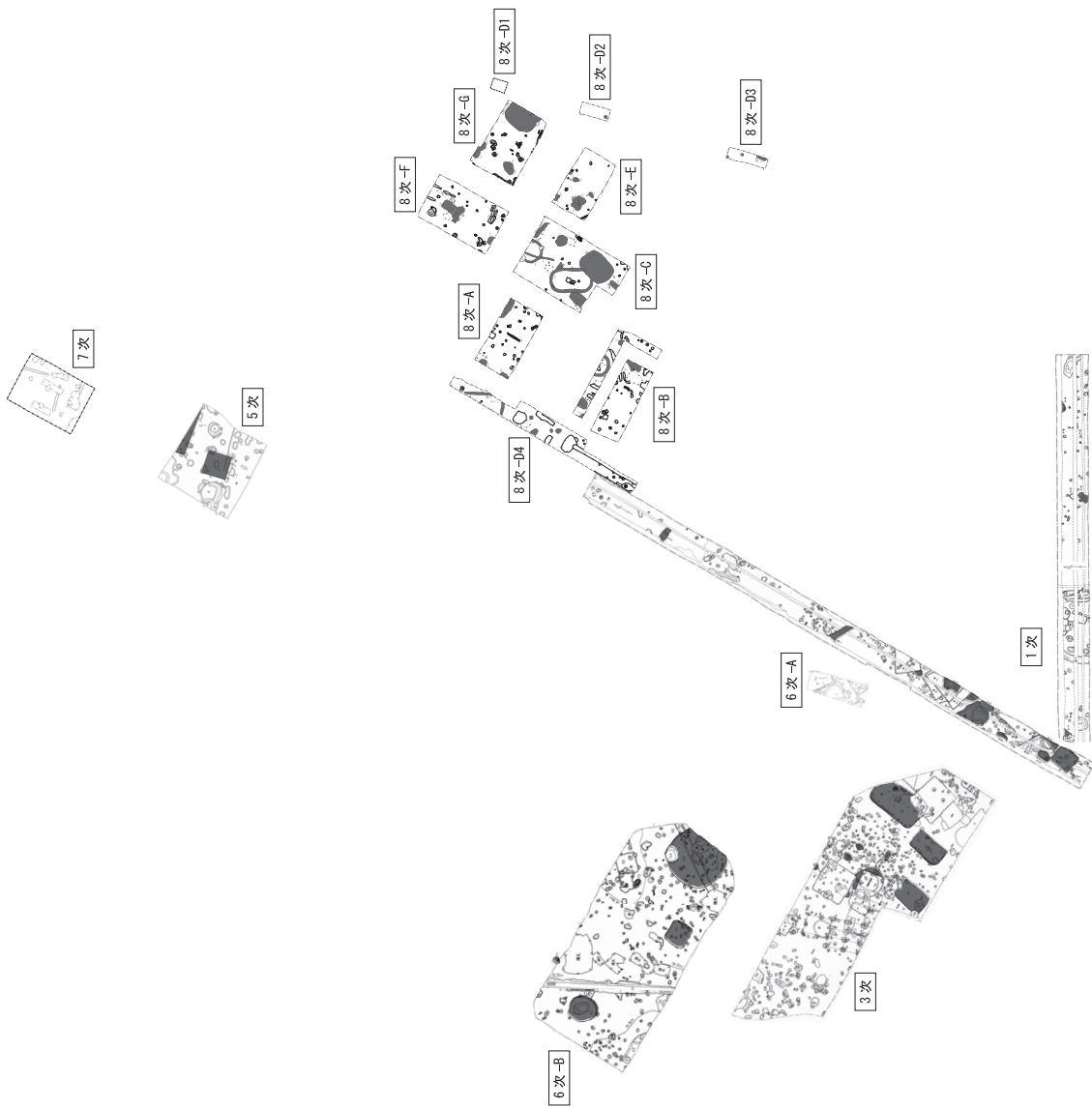
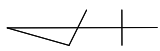
遺跡は標高 18～19m の低台地端に位置し、西側は緩やかに、南側はやや傾斜して谷に至る。同一の台地の中央部には小郡遺跡の弥生時代遺構群が存在しており、そのさらに東には小規模な谷を隔てて大板井遺跡の集落が広がっている。これまでの調査地で確認している弥生時代中期の遺構分布は、第 58 図に示したとおりで、台地の西側（6次）から南西側（1・3次）にかけてと、北東側（8次）に住居群や土坑群のまとまりが見られる。対して、これらに囲まれる中心部分（1次北半部・8次-D区）にはほとんど遺構が認められない。ここを集落内の空闲地とし、その周辺を居住空間に設定したと推測される。

西～南西側居住域では、住居群に2つのグループが見られる。1つ目は、主軸を北東―南西方向に取る小判型の竪穴住居2軒（1次 C7・10）で、いずれも残存状況が非常に悪い。もう1つは、径 8.0m の大型円形住居（6次 C3）と主軸を北東―南西方向に取る隅丸長方形の竪穴住居3軒（3次 C7・8・9）、一辺が 3.0m 前後の方形住居2軒（1次 C9・6次 C1）のグループである。後者の住居群に囲まれた中央部に、径 4.0m の周溝状遺構（3次）と多鈕細文鏡出土遺構（3次 P94）が所在している。3次 C8 も一辺が 8.0m と大型であり、祭器埋納遺構と近接することから、首長の居宅もしくは集会場所であったと想定される。また、この住居群から東へ 2m 前後の位置では、北西―南東方向に延びる幅 0.9m の溝（1次 D1）を検出しており、これが西～南西側居住域の境界を示すと考えられる。

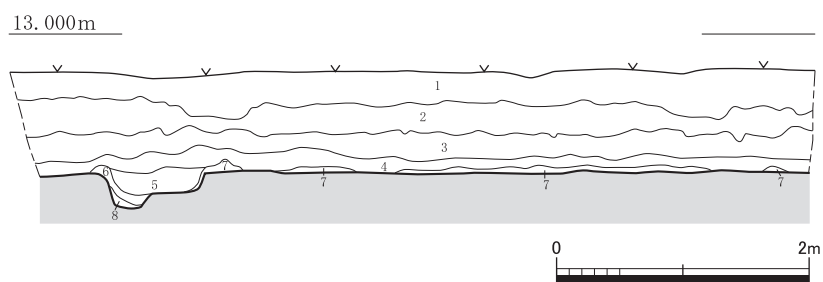
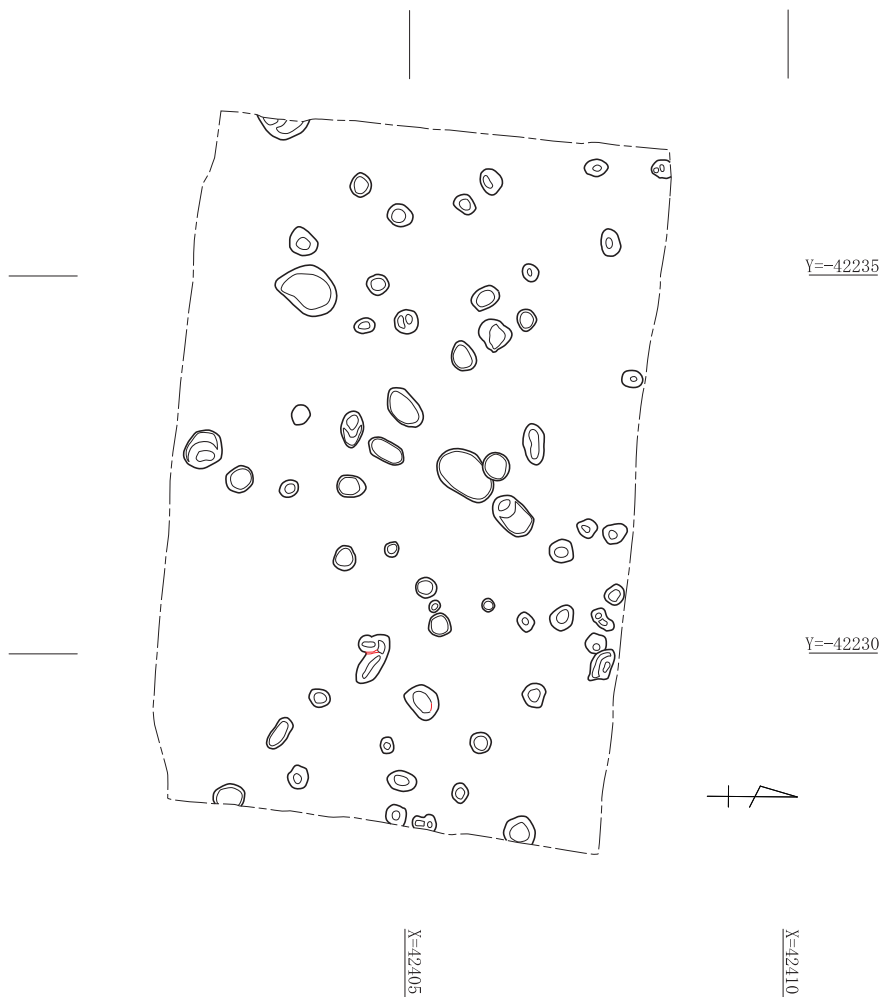
今回調査地である東側居住域では、主軸を北東―南西方向に取る楕円形の竪穴住居3軒（A区 SC01・C区 SC02・G区 SC01）と、これと方位を同じくする祭祀土坑5基（B区 SK10・C区 SK08・09・F区 SF01・02）、周溝状遺構3基（B区 SD06・C区 SD02・03）を検出している。周溝状遺構のうち SD03 は、祭祀土坑の廃絶後に正方位を意識して掘削され、埋没後はこれを切って竪穴住居が構築されている。こちらの居住域を圍繞する施設は存在しないようである。

上記の2箇所の居住域の特徴として、祭祀の場と住居が極めて近接していることが挙げられる。これまでの調査で検出された祭祀土坑は、いずれも集落内祭祀に伴う施設であるが、そのほとんどが竪穴住居から 10m 以内の範囲に掘削されており、同時期の住居との切り合うものもある。今回調査地では、小児甕棺墓2基を検出しているが、こちらもやはり住居と近接した位置にある。周溝状遺構も同様であり、居住域の中では祭祀の場と居住の場の明確な区別がつけられていなかったと考えられる。このように居住域において祭祀空間を特別視しない傾向は、隣接する大板井遺跡で検出された遺構の状況にも認められる。

弥生時代中期の「小郡・大板井遺跡」においては、大板井遺跡・小郡遺跡・小郡若山遺跡のそれぞれの地点に集団がおり、各所の大型住居を中心に居住域が構築されていたことが判明している。集落内祭祀での土地利用の共通性は、これらの集団が相互に関連して当時のムラを形成していた証左と言えよう。また、大板井遺跡と小郡遺跡では、集落の縁辺部に墓域を形成するという共通点もある。小郡若山遺跡では、今回の小児用甕棺墓が墓地の初出となるが、この点についても今後の調査によって明らかになることが期待される。



第 58 図 小郡若山遺跡調査地配置図 (S=1/1,000)



【調査区西壁】

- 1 黄褐色砂質土 (客土)
- 2 黒褐色砂混シルト (黄褐色ブロック少量含む、しまり良い)
- 3 黒色砂混シルト (黄褐色粒少量含む、しまり良い、遺物を含む、旧表土、均質で遺構面をバックしている)
- 4 黒色砂混シルト (黄褐色粒少量含む、しまりやや悪い、遺物を含む、旧表土、均質で遺構面をバックしている)
- 5 黒色砂混シルト (黄褐色ブロック少量含む、しまり良い、埋土)
- 6 黒色砂混シルト (黄褐色粒少量含む、しまり良い、流入した土)
- 7 黒色砂混シルト (黄褐色粒少量含む、しまり良い、地山)
- 8 暗褐色粘質土 (黄褐色粒多量含む、しまり良い)

第 59 図 遺構配置図 (S=1/100) ・ 西壁土層断面図 (S=1/60)

2. 福童町遺跡 13

【調査の概要】

福童町遺跡は宝満川の西岸、市域中南部の低台地とその間の谷底平野に位置し、北と西に隣接する福童法司遺跡、福童東内畑遺跡と一連の集落を形成する。周辺では、これまで道路改良工事や個人住宅建設に先立って発掘調査が行われており、縄文時代から近代までの多様な遺構・遺物が確認されている。但し、現在までの調査成果では、集落域としての連続性はなく、その運営は断続的なものであったと考えられる。

今回の調査対象地は、3・7次調査地に隣接する場所である。周辺の調査地では、古墳時代後期の竪穴住居と環濠、中世の区画溝を確認している。遺構の掘り込み面は褐色ローム（基盤層）で、標高 11.9m 前後のほぼ平坦な地形であった。掘り込み面の上層には全体に黒～黒褐色シルト層が堆積しており、周辺調査地とほぼ同じ様相である。

【遺構と遺物】

今回の調査区ではピット状痕跡を検出した。しかし掘削を行ったところ、いずれも不整形で浅いものであり、掘立柱建物の柱穴と判断出来るものは見られなかった。また、周辺調査地で検出した古墳時代後期や中世の遺構群との関連を伺わせる遺構も確認出来なかった。

出土遺物は、中近世の所産と考えられる土師質の皿の小片を、掘り込み面の上層で1点確認したのみである。

【調査成果のまとめ】

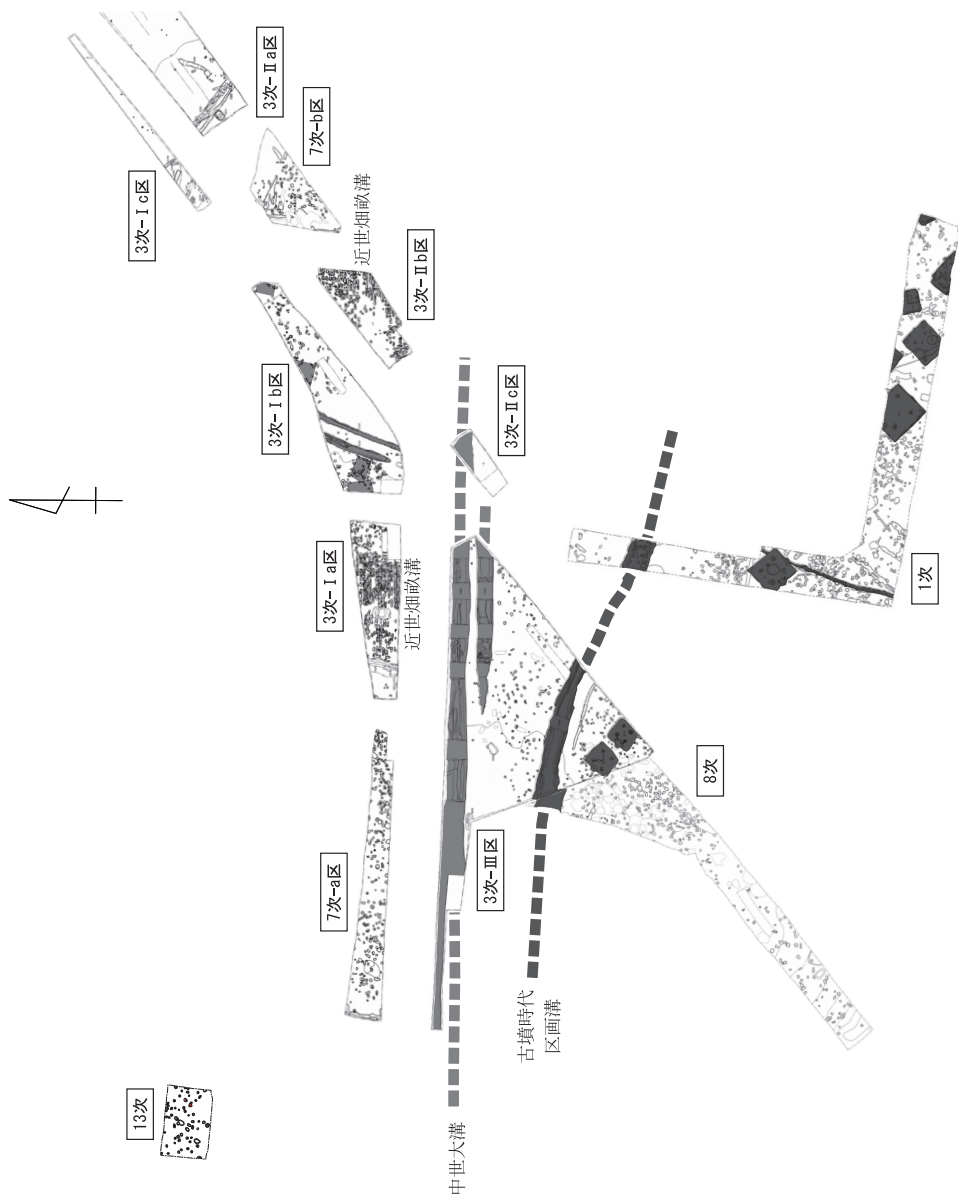
「福童」の地名は南北朝期の文献に「福同」「福堂」の標記で登場し、中世戦記文学『太平記』に記された福童原合戦の舞台として著名である。考古学調査が本格的に行われたのは平成 16 年度からだが、それ以前にも県道工事に伴って弥生時代中期の甕棺が発見されたことがある。

これまでの調査成果から、集落の存在が明確なのは、古墳時代後期と中世、近世の3時期である。古墳時代後期の集落は、遺跡の南東部で確認している（1・3・8次調査）。北東―南西方向を主軸とする竪穴住居群で構成されており、北限が幅 3.4m の湾曲した東西溝で区画されている。これ以北で同時期の遺構・遺物は検出されていないことから、集落域が特定出来る。

中世の遺構・遺物は遺跡全域で散見されるが、南東部で確認されている幅 2.8m の直線的な東西溝が、主な圍繞施設と考えられる（3次調査）。これより北東側でやや時期をさかのぼる掘立柱建物群を確認しており、集落域の中心は遺跡の東側と推定される。但し、南西の福童東内畑遺跡地内でも、前述の圍繞施設と同方向の溝や土坑群が確認されている。

近世の所産である遺構・遺物も遺跡全域で確認されているが、溝状遺構が圧倒的に多い。また、遺構に伴う遺物が非常に少ないという特色から、現在把握している遺跡の範囲は生産域であり、集落の中心はこれより南側と想定される。溝状遺構には基幹水路と考えられる大型のもの（4・6・10次調査）と、幅 1.0m 弱の小規模なものがあり、双方を併せて田畑の区画・給水に活用していたようである。

今回の調査対象地は、中世集落を圍繞する東西溝の北西に当たる。特筆すべき遺構は確認出来なかったが、溝によって圍繞された中世集落の空閑地もしくは近世の生産域の一部と考えられよう。



第 60 図 福童町遺跡調査区配置図 (S=1/1,000)



第 61 図 遺構配置図 (S=1/60)

3. 大保西小路遺跡 7

【調査の概要】

大保西小路遺跡 7 は、三国丘陵から南になだらかに延びる低丘陵の縁辺部に位置し、遺構検出面の標高は 18m 程度である。周辺には大保龍頭遺跡や大保横枕遺跡など多くの中世の集落が広がっており、今回の調査でもその内容が追認できた。

今回の調査対象地は、6 次調査地の東側に隣接する場所である。遺跡全体を黒褐色のシルト層がパックスし、その下位の黄褐色ローム層が遺構検出面となる。6 次調査では、土坑・ピット等ともに南北・東西方向に走る多くの溝が確認されたが、当調査区で同一遺構と考えられるものは存在しない。

今回の調査では、中世の土坑 10 基、溝 1 条と大量のピット群が検出された。密に重なり合うピットの中には、深さが 50 cm を上回り、掘り方も整ったものが多い。これらは掘立柱建物を構成する柱穴と想定されるが、現地調査の際はその密度ゆえに並びを把握できておらず、今回建物として報告する 4 棟は、いずれも室内整理の際に見出したものである。他にも柵列等が存在する可能性が考えられるが、今回は提示しない。なお、ピット出土遺物は個別の建物としては報告せず、全て第 69 図でまとめて掲載している。

【遺構と遺物】

1号掘立柱建物（第 62 図）

調査区中央部に位置する。長軸は N-88° -W を測り、ほぼ東西方向である。3 × 3 間の建物で、東側に庇を持つ。規模は桁行 4.30~4.40m、梁行 3.96~4.09m である。桁部分の中央 2 柱穴間は狭く、桁間は 0.90~1.88m を測る。一方、逆に梁部分は中央 2 柱穴間が広く、梁間は 0.98~1.83m を測る。柱掘り方は円形から楕円形を基調とし、径は 21~52 cm、深さは 16~67 cm を測る。

2号掘立柱建物（第 62 図）

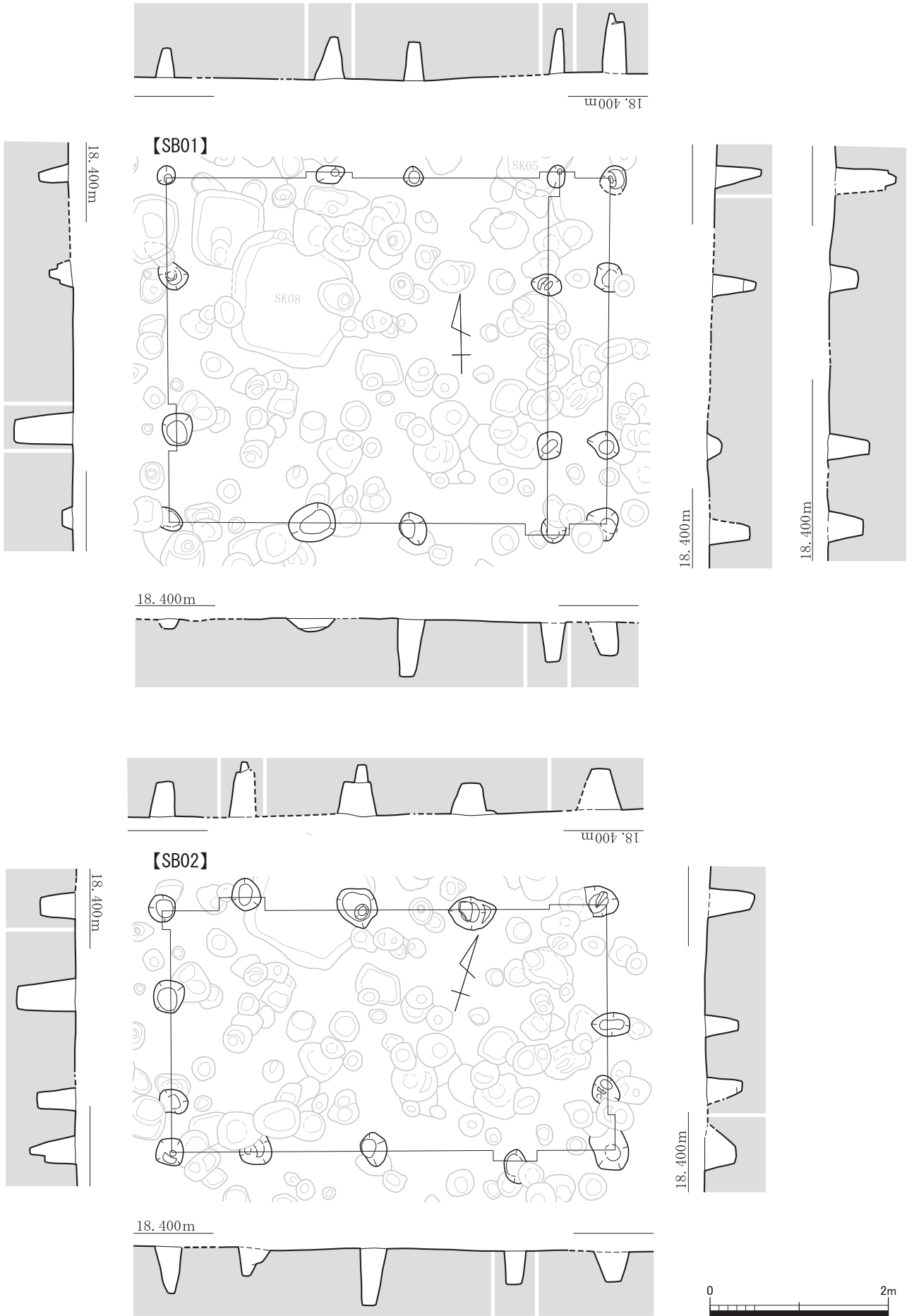
調査区中央部に位置し、長軸を N-74° -E にとる。4 × 3 間の建物で、規模は桁行 4.90~4.96 m、梁行 2.72~2.82m、桁間 0.90~1.62m、梁間 0.60~1.28m を測る。柱掘り方は楕円形を基調とし、径は 30~54 cm、深さは 32~65 cm を測る。全体的に深い柱穴が多い。

3号掘立柱建物（第 63 図）

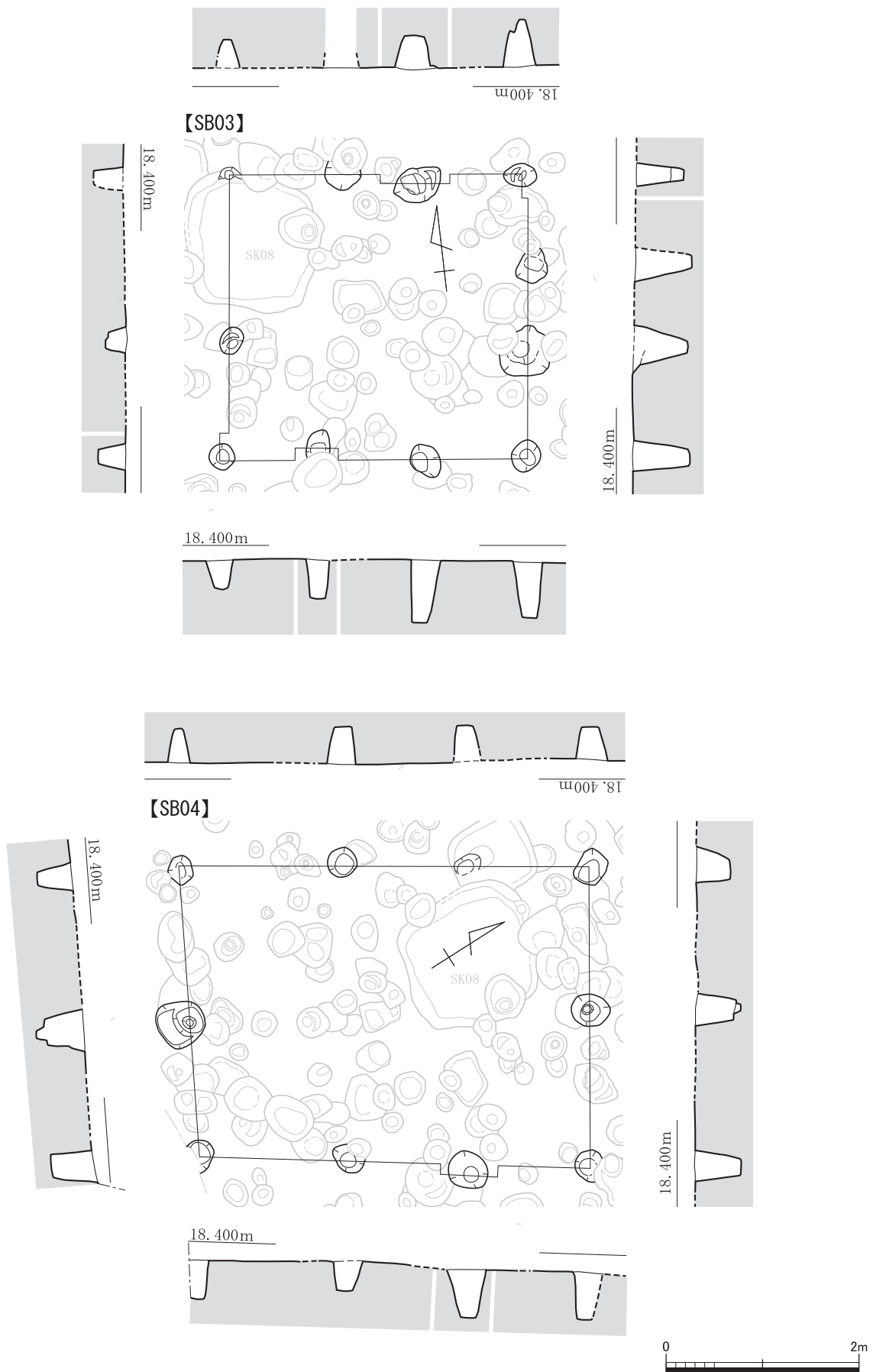
調査区中央部に位置する。長軸は N-83° -W を測り、ほぼ東西方向である。3 × 3 間の建物で、規模は桁行 3.05~3.20m、梁行 2.95m、桁間約 0.80~1.14m、桁間 0.90~1.18m を測る。柱掘り方は楕円形を基調とし、径は 26~52 cm、深さは 30~65 cm を測る。全体的に深い柱穴が多い。

4号掘立柱建物（第 63 図）

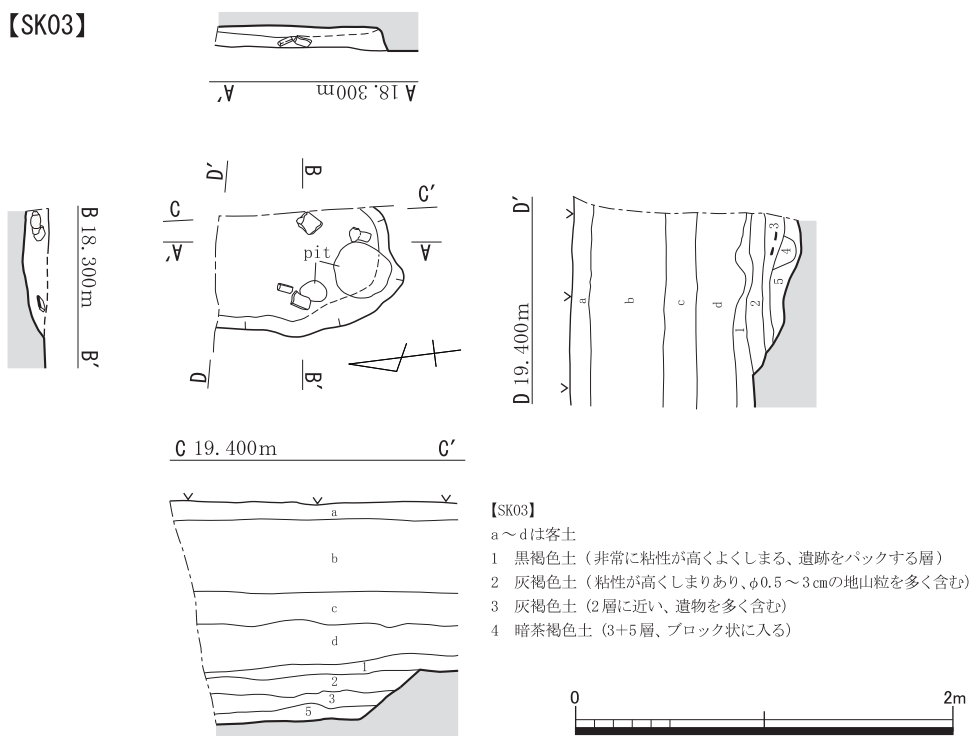
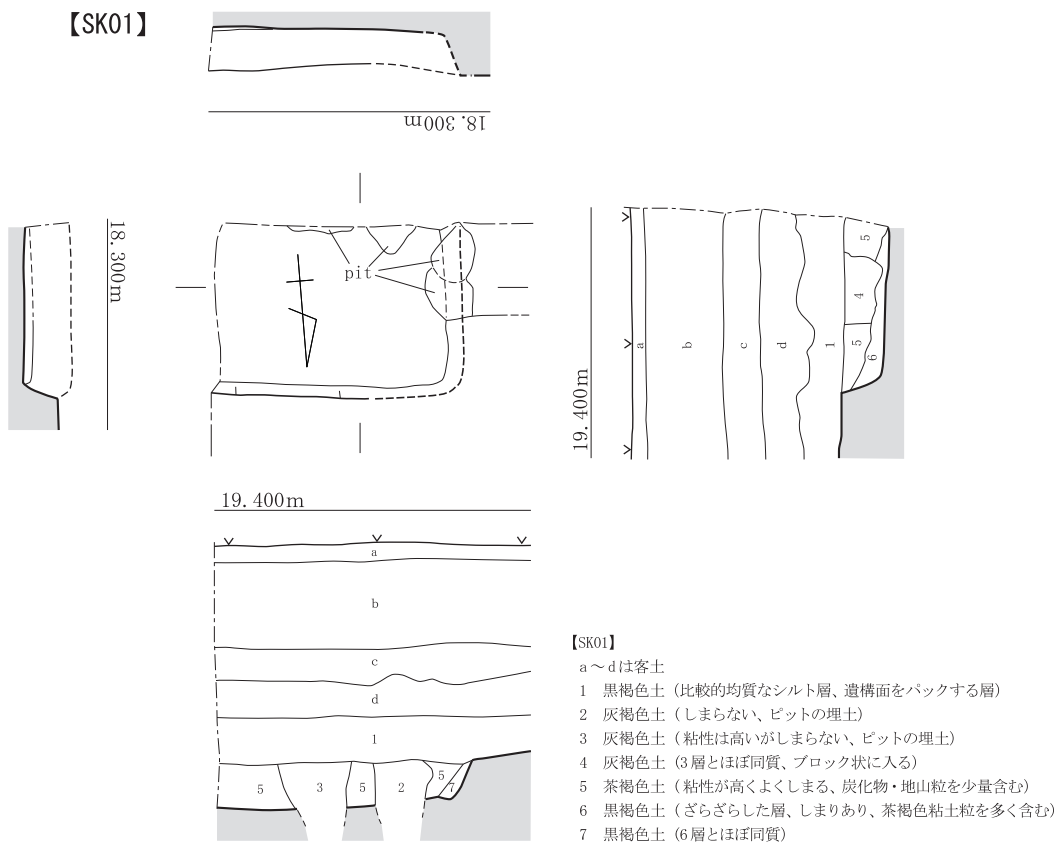
調査区中央部に位置し、長軸を N-32° -E にとる。3 × 2 間の建物で、規模は桁行 4.05~4.26 m、梁行 3.02~3.11m、桁間 1.20~1.70m、桁間 1.42~1.65m を測る。柱掘り方は楕円形を基調とし、径は 28~50 cm、深さは 32~50 cm を測る。桁間・梁間の長さ、柱穴の深さが比較的整う建物である。



第62图 1·2号掘立柱建物 平·断面图 (S=1/60)



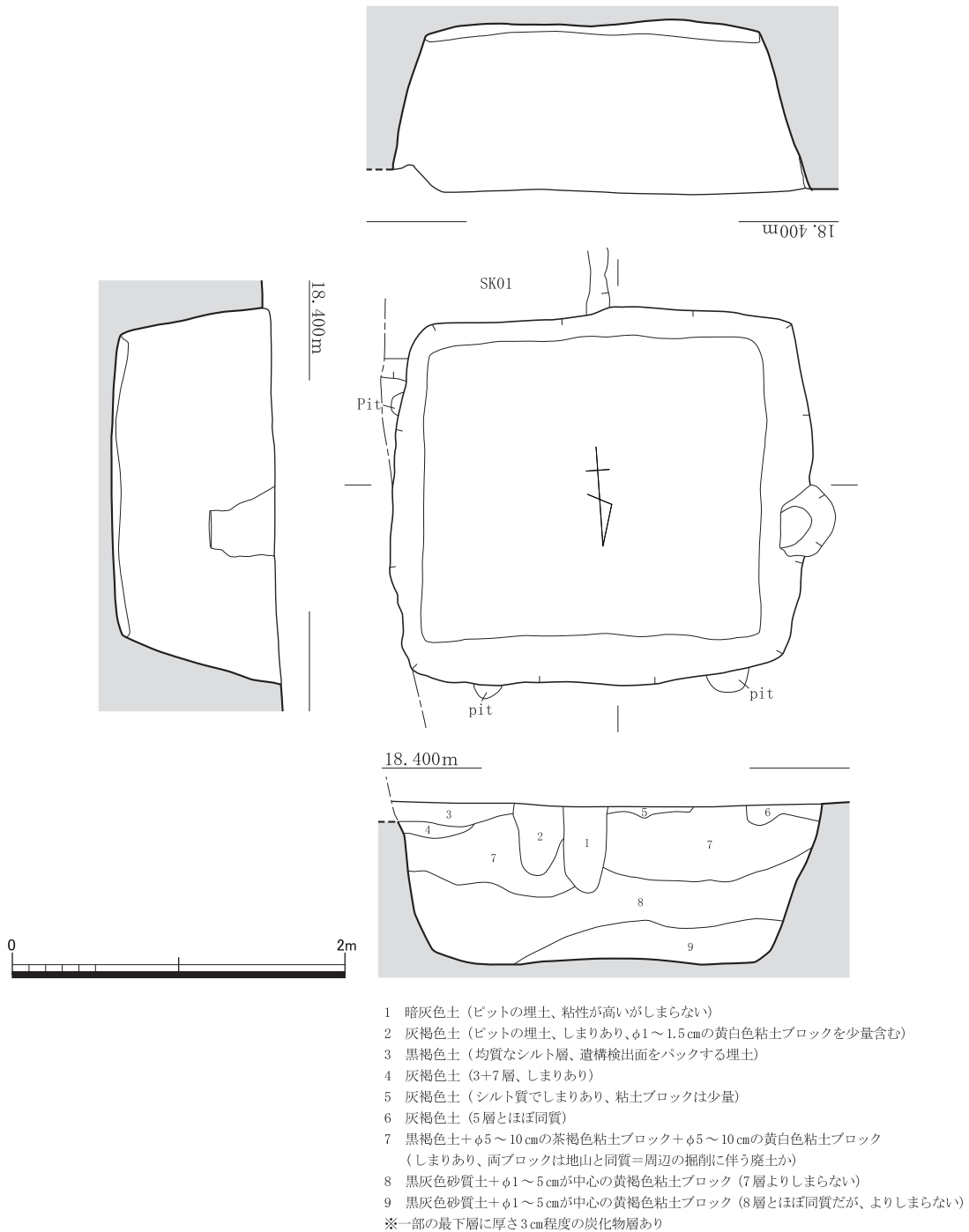
第 63 图 3・4号掘立柱建物 平・断面图 (S=1/60)



第64図 1・3号土坑 平・断面図 (S=1/40)

1号土坑 (第 64 図、図版 22)

調査区の南東端部に位置し、遺構の大半は調査区外に延びる。2号土坑を切る。主軸方向はN-85° -Wで、平面プランは長方形と推測される。非常に整った形状で、東西検出長 1.33m、南北検出幅 0.92m、深さ 0.25m を測る。埋土は茶褐色土を中心し、出土遺物は土師器の極小片のみである。



第 65 図 2号土坑 平・断面図 (S=1/40)

2号土坑（第65図、図版22・23）

調査区の南東端部に位置し、1号土坑に切られる。主軸はN-86°-Wを測り、1号土坑とほぼ同様である。平面プランは整った長方形で、検出面の東西長2.52m、南北幅2.27m、床面の東西長2.06m、南北幅1.82m、深さ1.05mを測る。埋土は全体的にブロック状で、床面の中央部には厚さ3cm程度の炭化物層が確認された。

出土遺物（第68図、図版25・26）

第68図1は高麗青磁の碗で、高台部の径は5.7cmを測る。内面には時計回りの螺旋状沈線が見られ、体部外面には象嵌を施す。2～4は鉢で、4は内面に4本1組の摺り目がある。5・6は皿で、5は底径7.3cm、6は底径6.6cmを測る。7～9は鍋の口縁部小片である。

3号土坑（第64図、図版23）

調査区の北東端部に位置し、北側と東側は調査区外に延びる。主軸はN-7°-Eを測り、平面プランは長方形と考えられる。壁面は緩やかに立ち上がる。南北検出長0.92m、東西検出幅0.68mを測り、深さは土層断面から本来0.22m程度と推測される。埋土は灰～茶褐色土を主体とした水平堆積で、人為的埋没と考えられる。

出土遺物（第68図、図版25・26）

第68図10は椀、11は鉢の口縁部小片である。12は把手付鍋の把手部分で、残存高8.4cmを測る。調整は、鍋部内面が板状工具ナデ及びナデで、鍋部外面及び把手部内面は板状工具によるナデの後ナデである。13は五徳で、3片が同一個体と考えられる。残存高は3片合わせて18.5cmを測る。調整は受部上下両端部がヘラ切り後丁寧なナデで、脚部が丁寧なタテ方向のナデ及びヨコナデである。脚部外面下半の他は、全体的にススの付着が見られる。14も五徳の脚部の可能性が考えられるが、端部に面を作る形状が異なるため、ここでは足鍋として報告する。色調や調整は13に近い。残存高11.1cmを測る。

4号土坑（第66図、図版23）

調査区の北東部に位置し、東側は一部調査区外へ延びる。主軸はN-12°-Wを測り、平面プランは隅丸長形状を呈する。南北長1.12m、東西検出幅1.00m、深さ0.24mを測る。埋土は水平堆積に近く、全体的によくしまる。

出土遺物（第68図）

第68図15は皿で、口径5.8cm、底径3.8cm、器高1.5cmを測る。

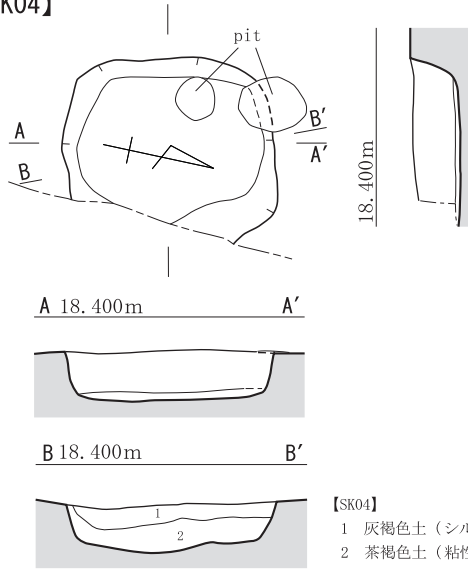
5号土坑（第66図、図版23）

調査区の北東部に位置し、北側は調査区外に延びる。南側はピット群に切られる。主軸方向は南北方向で、平面プランは長方形に近い。南北検出長0.99m、東西幅0.84m、深さ0.12mを測る。床面の北側はピット状に凹み、深さは22cmを測る。出土遺物に皿の小片があるが、図示していない。

6号土坑（第66図、図版23）

調査区の北東部に位置し、遺構の西側を5号土坑に切られる。主軸はN-70°-Wを測り、平面プ

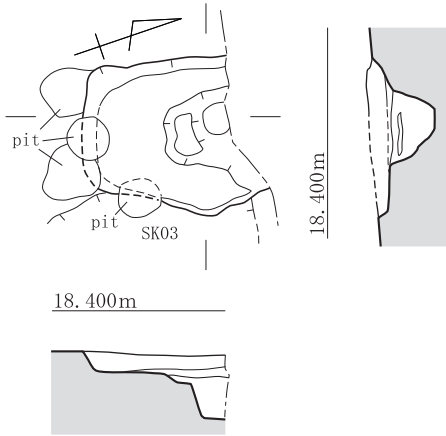
【SK04】



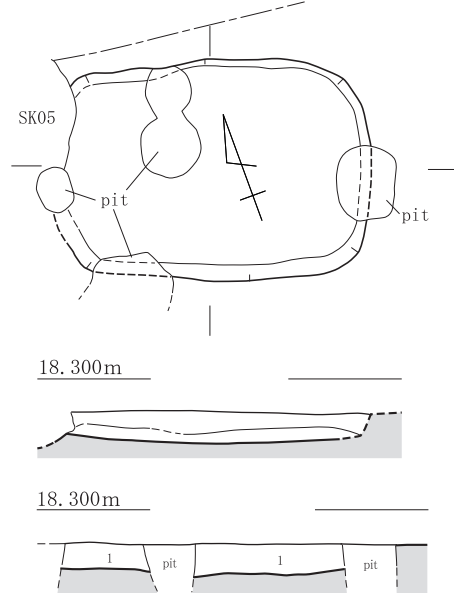
【SK04】

- 1 灰褐色土（シルト質でよくしまる、茶褐色粘土粒を多く含む）
- 2 茶褐色土（粘性が高くしまりあり、 $\phi 3 \sim 5$ cmの茶褐色粘土ブロックを多く含む）

【SK05】



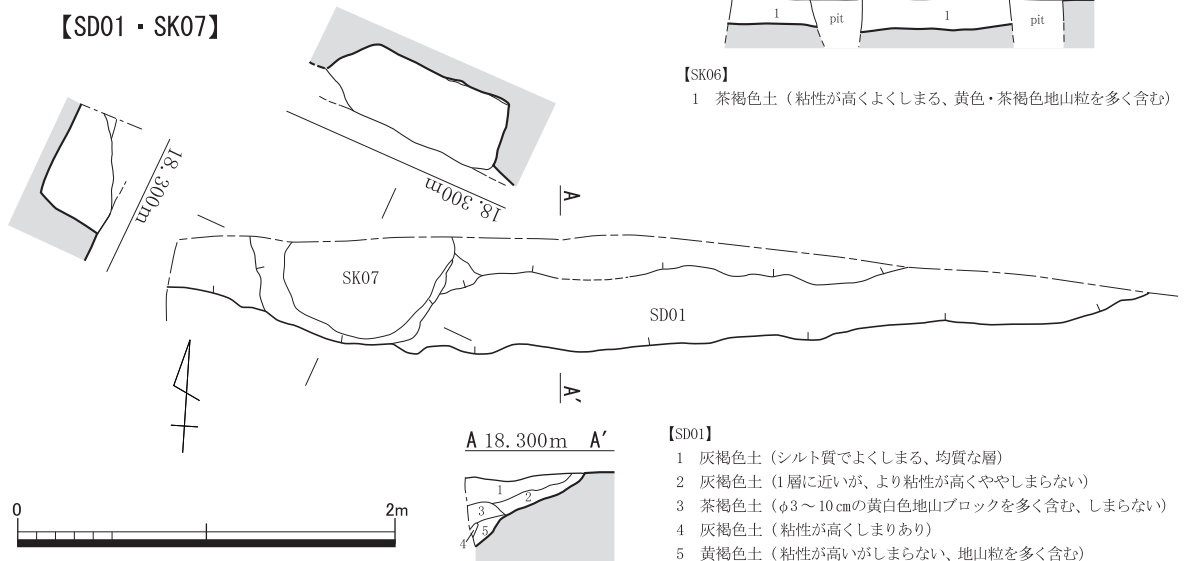
【SK06】



【SK06】

- 1 茶褐色土（粘性が高くよくしまる、黄色・茶褐色地山粒を多く含む）

【SD01・SK07】



【SD01】

- 1 灰褐色土（シルト質でよくしまる、均質な層）
- 2 灰褐色土（1層に近いが、より粘性が高くやしまらない）
- 3 茶褐色土（ $\phi 3 \sim 10$ cmの黄白色地山ブロックを多く含む、しまらない）
- 4 灰褐色土（粘性が高くしまりあり）
- 5 黄褐色土（粘性が高いがしまらない、地山粒を多く含む）

第 66 図 4～7号土坑、1号溝 平・断面図 (S=1/40)

ランは隅丸長方形を呈する。東西検出長 1.68m、南北幅 1.18m、深さ 0.20m を測る。埋土は茶褐色土の単層で、よくしまる。出土遺物に皿の小片があるが、図示していない。

7号土坑（第66図、図版24）

調査区の北西端部に位置し、1号溝状遺構に切られる。遺構の北側は調査区外に延びる。主軸は北西-南東方向で、平面プランは隅丸長方形と考えられる。東西検出長 1.03m、南北検出幅 0.76m、深さ 0.37m を測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

出土遺物（第68図）

第68図16は皿の小片である。

8号土坑（第67図、図版24）

調査区のほぼ中央部に位置し、多くのピット群に切られる。主軸はN-10°-Eを測り、平面プランは隅丸方形に近い。東西長 1.46m、南北幅 1.38m、深さ 0.42m を測る。壁面は直線的に立ち上がる。埋土は全て廃土で、比較的多くの遺物が出土した。

出土遺物（第68図、図版25・26）

第68図17は高麗青磁碗の小片である。内面に象嵌を施す。18は陶器瓶子の口縁部小片で、口径 3.8 cmを測る。19は東播系須恵器鉢の口縁部小片である。口縁部外面に自然灰釉が見られる。21~23は皿で、22は口径 9.4 cm、底径 6.9 cm、器高 1.5 cmを測る。24・25は鍋である。

9号土坑（第67図、図版24）

調査区の北西部に位置する。主軸を北東-南西方向にとり、平面プランは楕円形を呈する。長さ 0.85m、幅 0.77m、深さ 0.29m を測る。埋土はレンズ状堆積で、全て廃土である。出土遺物には鍋の小片があるが、図示していない。

10号土坑（第67図、図版24）

調査区の南西部に位置する。ピット群との切り合いが多く、西側は調査区外に延びる。主軸はN-60°-Eを測り、平面プランは楕円形に近い。検出長 1.17m、幅 0.98m、深さ 0.42m を測る。

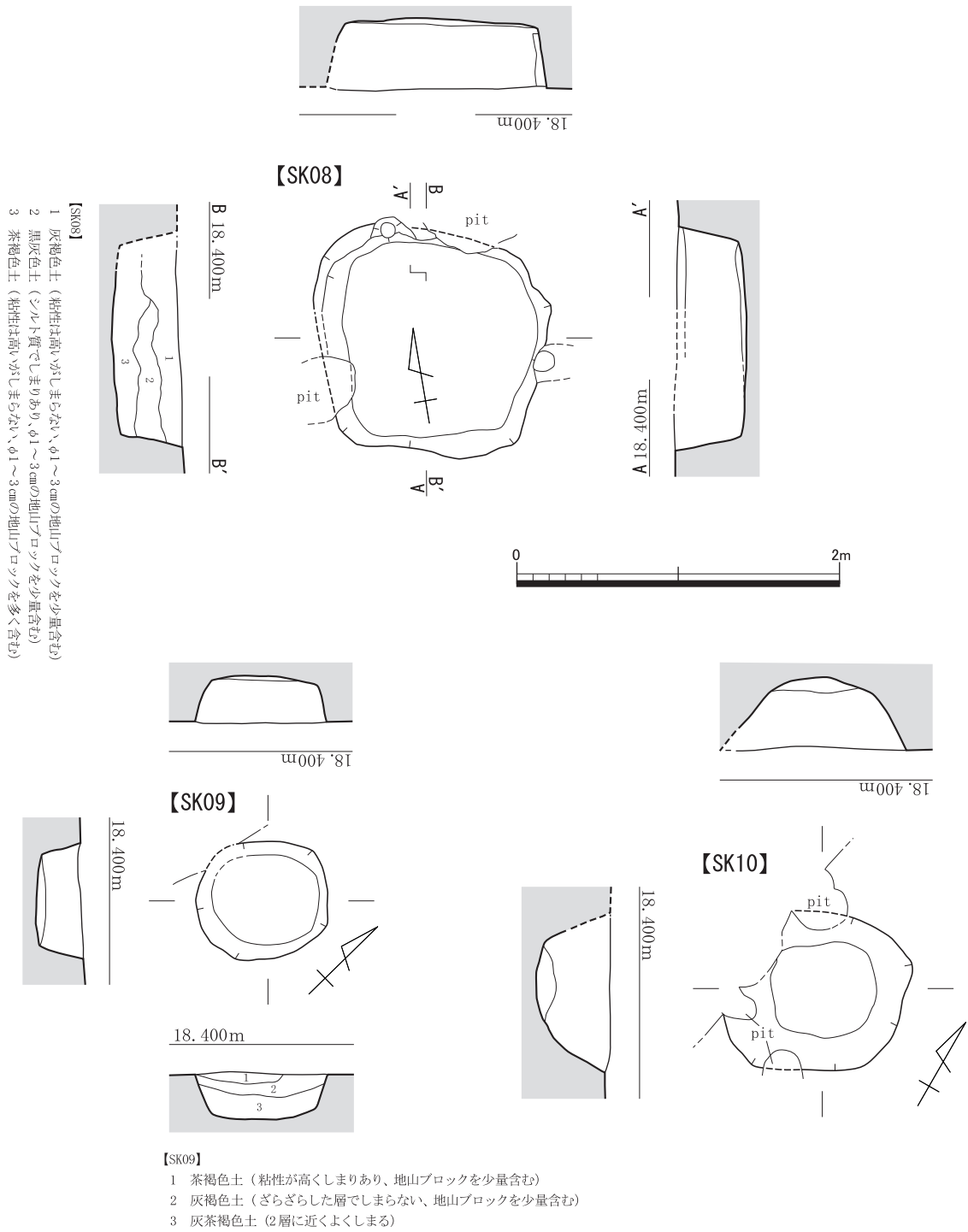
出土遺物（第68・70図）

第68図26・27は皿の小片で、27は底径 6.7 cmを測る。

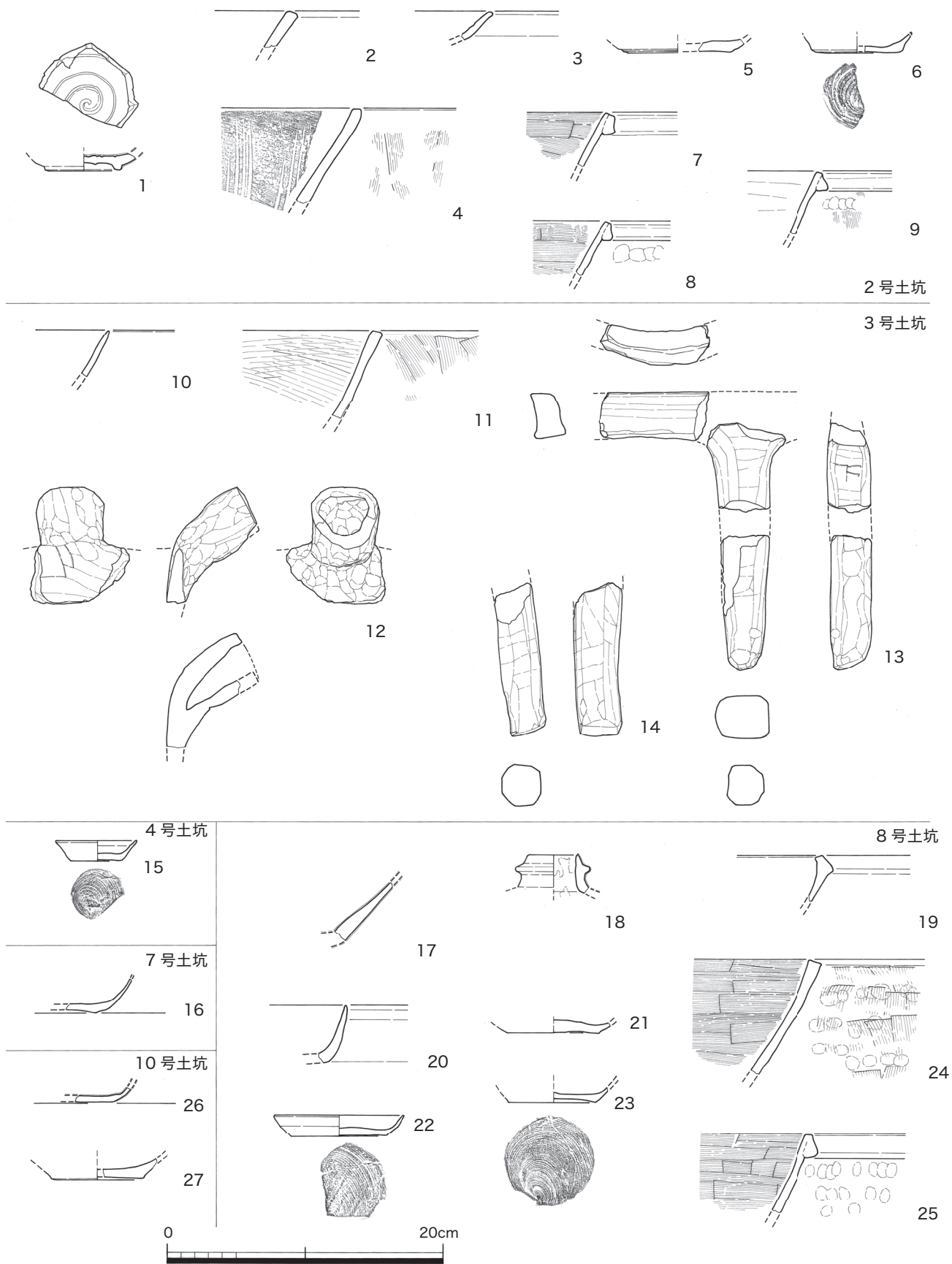
第70図10は砥石で、砥面は1面のみである。現存長 5.3 cm、現存幅 4.9 cm、厚さ 1.7 cmを測る。

1号溝状遺構（第66図、図版24）

調査区北端部を東西方向に走り、7号土坑を切る。遺構の東西及び北側は調査区外に延び、全容は不明である。現状で、長さ 5.19m、幅 0.60m、深さ 0.38m を測る。壁面は上端から幅 40 cm程度なだからに下るが、そこから傾斜が急になる。出土遺物に火鉢の小片があるが、図示していない。



第 67 図 8～10号土坑 平・断面図 (S=1/40)

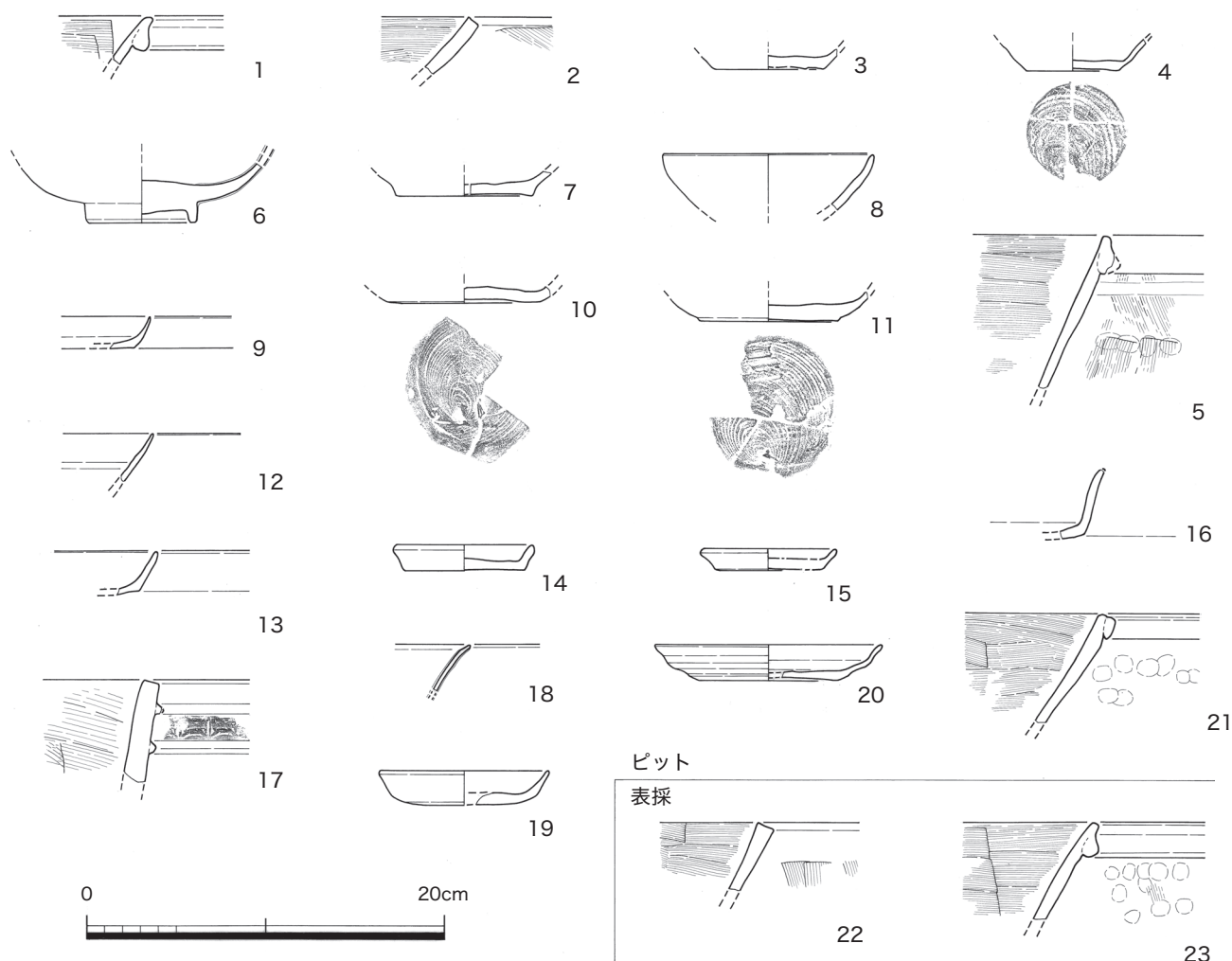


第 68 图 土坑 出土土器 (S=1/4)

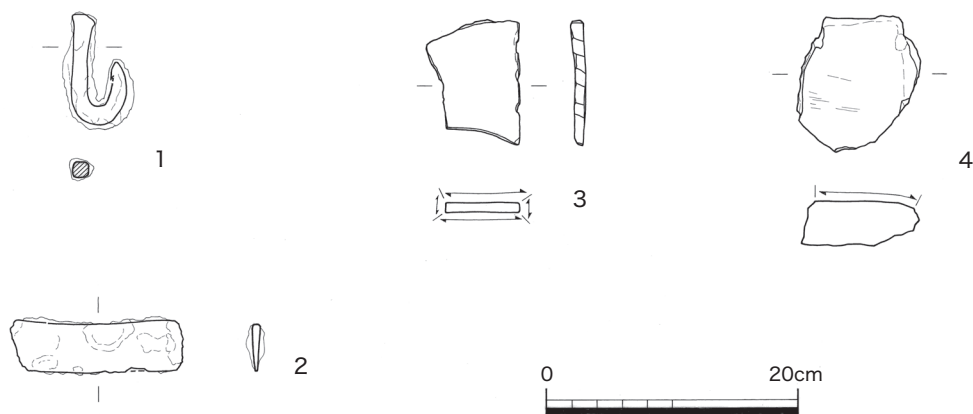
ピット出土遺物 (第 69 図、図版 25)

第 69 図 6 は P8 出土の陶器椀で、高台部径 6.2 cm、残存高 3.3 cm を測る。内外面の立ち上がり部分に釉を施す。8 は P19 出土の坏で、口径 11.8 cm を測る。14 は P43 出土、15 は P47 出土の小型皿で、14 は口径 7.9 cm、底径 6.7 cm、器高 1.4 cm、15 は口径 7.6 cm、底径 6.1 cm、器高 1.2 cm を測る。14 の底部には板状圧痕が残る。17 は P57 出土の瓦質火鉢の小片で、外面に印花が施される。

第 70 図 1 は P24 出土の鉄製釣針で、長さ 4.4 cm、幅 2.2 cm、厚さ 0.6 cm を測る。断面形は隅丸正方形と考えられる。内側に返しがあると考えられるが、X線からも明確には把握できなかった。2 は P63 出土の鉄製刀子である。残存長 6.8 cm、残存幅 1.9 cm を測る。右端は基部になる可能性がある。3 は P15 出土の砥石である。右辺に 3 か所、左辺の 1 か所の穿孔が見られる。現存長 4.9 cm、現存幅 3.7 cm、厚さ 0.4 cm を測る。



第 69 図 ピット等 出土土器 (S=1/4)



第 70 図 出土鉄器・石器 (S=1/3)

【調査成果のまとめ】

当遺跡で検出した遺構のうち、遺物から時期が判別できるものは全て中世の所産である。ただし、出土した土師器坏・皿類は小片が多く、全体的に 13 世紀から 14 世紀という広い枠の中で捉えるべきであろう。

当調査区の西側に隣接する大保西小路遺跡 6 区では、13 世紀中頃から 15 世紀にかけての区画溝や土坑が検出されている。中でも 3・5・8 号溝の走行方位は東西または南北の正方位に近く、今回の調査区内で主軸方位に近い 1 号掘立柱建物、2・8 号土坑等はその区画内に設けられた施設である可能性が考えられる。なお、2・8 号土坑からは高麗青磁碗の出土があり、注目される。

当調査区では、約 70 m²の中で、250 基を上回るピット群が検出された。深さ 50 cm を越すものも多く、建物の存在が想定されるが、明確な柱配置が確認できるものはない。今回掲載した 4 棟の掘立柱建物はいずれも現地調査後の室内整理の際に確認したものであり、あくまで想定の域を出ないことを報告しておく。ただし、6 区のさらに西側に位置する 8 区（平成 29 年度報告予定）では、井戸などの遺構は確認されたものの、ピットはほとんど検出できなかった。これは、区画溝の持つ意味の大きさ、そして区画内の特殊性を表すものと言えよう。

この他、注目される遺物に 3 号土坑から出土した把手付鍋がある。把手部分は中空で、内外面とも板状工具によるナデの後にナデ調整を施す。市内では大板井遺跡 VI 区西 2 号溝からも同様の土師器が出土しており（『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-15-』上巻、福岡県教育委員会、1988）、片口の可能性も考えられる。同じく 3 号土坑からは五徳も出土しており、興味深い。

小郡若山遺跡 8 遺物観察表

法量=口：口径、高：器高、底：底径、体：体部最大径、天：天頂部径、上：上部、裾：裾部径
器種=弥：弥生土器

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量 cm・(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	実測番号
第6図1		1号土坑	- 弥・鉢	口：(25.8) 高：20.0 底：9.9	内：浅黄橙色 外：にぶい黄橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：下半はタテ方向ナデ 体・外：上半はヨコナデ、下半は板状工具ナデ?器表摩滅のため不鮮明 底・外：工具ナデ?部分的にヘラミガキ ほかは器表摩滅のため調整不明	体部外面下位~底部外面に黒斑。	A区 SK01-1
第6図2			- 弥・支脚	上：(8.6) 高：12.1 底：(10.0)	橙色	やや粗 1.5mm以下の砂粒をやや多く含む	良	上・底：ヨコナデほかはナデ		A区 SK01-2
第6図3		1号住居	- 弥・樽形土器?	残：5.3	黄橙色	ほぼ密 0.5mm以下の砂粒を少し含む	良	ヨコナデ		A区 SC01-1
第9図1			南壁面 弥・鉢	口：(26.7) 残：12.8	橙色	ほぼ密 0.5mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：工具ヨコ or ナナメナデ 体・外：工具タテナデ		B区 SK10-6
第9図2			南壁面 弥・鉢	底：8.7 残：4.95	橙色~にぶい黄橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	体・内：工具ナデ、底部は不定ナデ 体・外：工具タテナデ	底部外面の一部に黒斑。	B区 SK10-8
第9図3	16		図④・南壁面 弥・高坏	脚：14.6 残：14.8	内：褐灰色 外：明黄褐色	やや粗 5mm以下の砂粒をやや多く含む	良	坏：ヨコミガキ 脚・内：器表摩滅のため調整不明 脚・外：タテミガキ		B区 SK10-10
第9図4	16		南壁面 弥・高坏	口：(17.0) 脚：13.8 高：22.0	内：明黄褐色 外：橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を少し含む	良	口：器表摩滅のため調整不明 坏・内：ヨコミガキ 坏・外：器表摩滅のため調整不明 脚・内：下位はヨコナデ 脚・外：タテミガキ	全体に器表摩滅が著しい。	B区 SK10-9
第10図1	16		図②③⑤・南壁面 弥・甕	口：31.3 残：38.0	内：橙色 外：橙~黒色	ほぼ密 1.5mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：工具タテナデ or ナナメナデ上位~中位はその後ナデ 体・外：上位は板状工具ヨコナデ、ほかは工具タテ or ナナメナデ 突：板状工具ヨコナデ		B区 SK10-1
第10図2			図④・南壁面 弥・甕	口：(30.0) 残：23.3	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位はヨコナデ、中位は器表摩滅のため調整不明 体・外：ハケメ		B区 SK10-3
第10図3			図②・上層・南壁面 弥・甕	口：(29.4) 残：20.45	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位はヨコナデ、中位はタテナデ 体・外：ハケメ 突：ナデ	内面に薄く全体的にスス附着。	B区 SK10-2
第10図4			図④・南壁面 弥・甕	口：(26.5) 残：19.4	にぶい黄橙色	ほぼ密 0.5mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位は工具ヨコナデ、ほかは工具タテナデ 体・外：頸部は工具ヨコナデ、ほかはタテハケ		B区 SK10-4
第10図5			上層 弥・広口壺	口：(24.8) 残：13.9	内・外：橙色 断：褐灰色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 頸：工具ヨコナデ		B区 SK10-上層1
第10図6			上層 弥・鉢	口：(15.4) 残：7.9	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位は工具ヨコナデ、ほかは工具不定ナデ 体・外：工具ヨコ or ナナメナデ		B区 SK10-上層2
第10図7			南壁面 弥・鉢	口：(16.5) 残：6.4	内：橙色 外：褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	口：工具ヨコナデ 体・内：ヨコ or ナナメミガキ 体・外：ヨコミガキ	体部外面中位に部分的に黒斑。	B区 SK10-7
第10図8			南壁面 弥・支脚	上：4.5 残：10.4	にぶい橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	上：工具ナデ 体・内：芯痕跡 体・外：不定ナデ		B区 SK10-13
第10図9	16		南壁面 弥・器台	受：(8.0) 底：(12.2)	橙色~にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	受：ヨコナデ 底：工具ヨコナデ 体・内：上位は工具ヨコナデ、ほかは工具タテナデ 体・外：タテハケ		B区 SK10-12
第10図10	16		南壁面 弥・器台	受：8.2 底：10.4	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	受：ヨコナデ 底：工具ヨコナデ 体・内：上位はヨコナデ、下位はタテナデ 体・外：タテハケ		B区 SK10-11
第11図1			図⑤ 弥・甕	口：(26.5) 残：5.75	橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテハケ	体部内面に薄くスス附着。	B区 SK11-1
第11図2			上層 弥・甕	残：9.4	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテハケ	体部内面に薄くスス附着。	B区 SK11-上層1
第11図3			上層 弥・甕	残：9.55	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ? 体・外：タテハケ	口縁部直下外面にスス附着。	B区 SK11-上層3
第11図4			上層 弥・樽形土器?	残：6.95	明黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：工具ナデのちナデ消し 体・外：タテハケ		B区 SK11-下層1

挿図 番号	図 版 番 号	出土遺構	器種	法量 cm・ (復元値)	色調	胎土	焼 成	成形・調整方法	備考	実測 番号
第11図 5		上層	弥・梅型土 器?	残:6.5	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体:ナデ		B区 SK11-上層2
第11図 6		上層→ 下層	弥・高坏	残:5.9	橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	坏・内:工具ナデ ほかは器表摩滅のため調整不明		B区 SK11-上層 →下層8
第11図 7	16	上層	弥・鉢	口:(16.8) 底:6.1 高:8.6	内:明黄褐色 外:浅黄色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	器表摩滅のため調整不明	体部外面下位~底部外 面に黒斑。	B区 SK11-上層7
第11図 8	16	図④	弥・鉢	底:8.2 残:7.25	橙色	ほぼ密 0.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	体・内:放射状ナデ 体・外:ヨコミガキ 底:工具ナデのち円形ミガキ	体部外面下位に黒斑	B区 SK11-3
第11図 9		上層	弥・支脚	底:(6.2) 残:6.7	橙色	ほぼ密 1.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	体:ナデ		B区 SK11-上層 11
第11図 10		上層	弥・支脚	底:(6.1) 残:8.0	橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内:ナデ 体・外:工具ナデのちナデ		B区 SK11-上層 10
第11図 11		上層	弥・筒型器 台	残:5.2	橙色	ほぼ密 0.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	体・外:タテミガキ 底:ヨコナデ		B区 SK11-上層9
第11図 12		上層	弥・壺	残:11.3	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	器表摩滅のため調整不明		B区 SK11-上層4
第11図 13		図④	弥・広口壺	残:12.25	内・外:明黄 褐色 断:褐灰色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体:ヨコナデ		B区 SK11-5
第11図 14		上層	弥・壺	底:7.1 残:3.3	にぶい黄褐色	ほぼ密 1.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	体・内:工具ナデ 体・外:タテハケのちヨコミガ キ 底:工具ナデのちミガキ	体部外面下位~底部中 央に黒斑、体部外面に 被熱赤変、底部内面に 赤色顔料。	B区 SK11-上層5
第11図 15		図②	弥・壺	底:6.8 残:6.65	内:橙~灰褐 色 外:明赤褐色	ほぼ密 1.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	体・内:ヨコナデ 体・外:タテミガキ 底:工具ナデ	体部外面下位~底部中 央に黒斑、体部外面下 位にスス付着。	B区 SK11-7
第11図 16		上層と 接合	弥・壺	口:(27.6) 残:13.0	黄褐色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ナナメハケのち工具ナデ 体・内:工具ヨコナデ 体・外:工具ナデのちタテミガ キ		B区 SK11-4
第11図 17	16	図④⑥	弥・壺	底:7.9 残:17.85	内:橙色 外:にぶい黄 褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内:工具タテ or ヨコナデ 体・外:ヨコミガキ 底:不定ナデ	体部外面下位に黒斑。	B区 SK11-6
第12図 1		-	弥・甕	残:8.9	橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体・内:不定ナデ 体・外:タテハケ		B区 SK12-1
第12図 2		SP04と 接合	弥・甕	底:(9.6) 残:11.1	内:にぶい褐 色 外:橙色	ほぼ密 1.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	体・内:ナデ 体・外:タテハケ 底:ナデ	底部内面にスス付着。	B区 SK12-3
第12図 3		SP04と 接合	弥・甕	残:6.45	黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ? 体・外:タテハケ?		B区 SK13-1
第12図 4		-	弥・甕	残:6.55	内:橙色 外:にぶい黄 褐色	ほぼ密 0.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:タテハケ		B区 SK13-2
第12図 5		-	弥・ミニチ ュア土器	裾:(6.0) 残:6.7	橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	脚・内:ナデ 脚・外:タテミガキ		B区 SD07-1
第12図 6		-	弥・筒型器 台	残:3.3	橙色	ほぼ密 0.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	体・内:ナデ 鏝:ナデ 体・外:工具ナデ	外面に丹塗り。	B区 SD07-2
第16図 1		図⑩	弥・甕	残:4.7	橙色	ほぼ密 3mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体:ナデ		C区 SC02-8
第16図 2		図②	弥・甕	残:7.1	内:にぶい黄 褐色~橙色 外:にぶい黄 褐色	ほぼ密 6mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:タテハケ		C区 SC02-9
第16図 3		南西部 上層	弥・甕	底:9.4 残:8.4	内:橙色 外:黄褐色~ 黒色	ほぼ密 3mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内:ナデ 体・外:工具タテナデ 底:ナデ	体部外面下位に部分的 にスス付着。	C区 SC02-12
第16図 4		図⑧	弥・甕	底:4.8 残:14.0	内:黒褐色~ にぶい黄褐色 外:褐灰色~ 明黄褐色	ほぼ密 3mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内:ナデ 体・外:タテハケ 底:ナデ		C区 SC02-10
第16図 5		図⑨	弥・甕	口:(24.8) 残:4.3	内:にぶい黄 褐色~橙色 外:黒色~橙 色	ほぼ密 3mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:器表摩滅のため調整不 明	体部外面が被熱赤変。	C区 SC02-3
第16図 6		北東部	弥・甕	口:(24.8) 残:4.1	内:灰黄褐色 ~橙色 外:橙色	ほぼ密 3mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体:ナデ		C区 SC02-7
第16図 7		図⑦	弥・甕	口:(24.3) 残:3.6	内:にぶい黄 褐色~橙色 外:にぶい黄 褐色~明赤褐 色	ほぼ密 3mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体:ナデ		C区 SC02-2
第16図 8		図⑪	弥・甕	口:(25.1) 残:17.2	内:にぶい黄 褐色~褐灰色 外:にぶい橙 色~赤褐色	やや粗 4mm以下の砂粒を 多く含む	良	口:ヨコナデ 体・内:器表摩滅のため調整不 明 体・外:タテハケ	口縁部外面にスス付 着、体部外面下方が被 熱赤変。	C区 SC02-1
第16図 9		南西部	弥・甕	口:(22.8) 残:8.2	内:橙色 外:赤色	ほぼ密 3mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:タテハケ		C区 SC02-5
第16図 10		南西部	弥・甕	口:(24.8) 残:5.2	橙色	ほぼ密 5mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:タテハケ		C区 SC02-6

挿図 番号	図 版 番 号	出土遺構	器種	法量 cm・ (復元値)	色調	胎土	焼 成	成形・調整方法	備考	実測 番号
第16図 11		2号住居	図⑧ 弥・甕	口：(13.6) 残：4.9	内：黄橙色 外：にぶい黄 橙色～橙色	ほぼ密 4mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体：ナデ	口縁部に2個1対の穿 孔。	C区 SC02-4
第16図 12			南 ベルト 弥・無頸壺	口：(9.8) 底：4.1 高：15.1	内：黒色 外：灰白色～ 褐灰色	ほぼ密 3mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位は工具ヨコナデ、 下位は工具不定ナデ 体・外：上位はヨコミガキ、下 位はナナメ or タテミガキ 底：ミガキ	体部内面全体に黒変。	C区 SC02-13
第16図 13			南西部 弥・ミニチ ュア土器	口：(8.0) 底：4.8 高：6.2	橙色	ほぼ 密1.5mm以下の砂 粒を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位はヨコナデ、下位 は不定ナデ 体・外：上位はヨコナデ、下位 はタテハケ 底：不定ナデ	体部外面下位に部分的 にスス附着。	C区 SC02-23
第16図 14			南 ベルト 弥・器台	受：(7.6) 底：(11.3) 高：14.1	明褐色	やや粗 1.5mm以下の砂粒 をやや多く含む	良	受：器表摩滅のため調整不明 体・内：ナデ 体・外：タテハケ		C区 SC02-22
第16図 15			図⑩ 弥・広口壺	残：7.45	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：工具ヨコナデ 体：工具ヨコナデ		C区 SC02-14
第16図 16			南西部 弥・壺	底：(6.0) 残：6.8	にぶい黄褐色 ～明黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内：器表摩滅のため調整不 明 体・外：ナナメ or タテミガキ 底：工具ナデ	体部外面下位～底部に 黒斑、体部外面下位～ 中に被熱赤変。	C区 SC02-18
第18図 1		5号 土坑	- 弥・甕	残：2.35	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ		C区 SK05-1
第18図 2		7号 土坑	図⑨ 弥・甕	残：8.6	黄橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテハケ	体部外面上位にスス付 着。	C区 SK07-2
第18図 3			東半部 弥・甕	残：7.7	内：灰黄褐色 外：にぶい黄 褐色～にぶい 橙色	ほぼ密 1.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	体・内：器表摩滅のため調整不 明 体・外：タテハケ 底：ナデ	底部内面にスス附着。	C区 SK07-9
第18図 4			東半部 弥・蓋	残：4.6	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	器表摩滅のため調整不明	天頂部は被熱赤変。	C区 SK07-12
第18図 5			西半部 弥・樽型土 器?	残：6.1	明黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテハケ?	体部外面上位にスス付 着。	C区 SK07-6
第18図 6			西半部 弥・甕	底：7.8 残：5.6	内：褐灰色 外：にぶい黄 褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内：器表摩滅のため調整不 明 体・外：タテハケ 底：工具ナデ		C区 SK07-7
第18図 7			東半部 弥・高坏	残：5.05	内・外：橙色 断：橙色～褐 灰色	ほぼ密 0.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	口：器表摩滅のため調整不明 坏・内：ミガキ 坏・外：工具ナデ or ミガキ		C区 SK07-11
第18図 8			図⑪ 弥・支脚	残：8.4	浅黄褐色～灰 褐色	ほぼ密 1.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	上：工具ナデ 体・内：ナデ 体・外：工具タテナデ	外面上位は被熱赤変。	C区 SK07-14
第18図 9			東半部 弥・ミニチ ュア土器	残：5.9	内・外：黄灰 色断：灰黄色	ほぼ密 0.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	口：ナデ 体・内：不定ナデ 体・外：タテハケのち工具ヨコ ナデ		C区 SK07-15
第20図 1	16	8号 土坑	南半部 弥・樽型土 器	口：23.0 底：11.15 高：21.9	内：にぶい橙 色～橙色 外：にぶい橙 色～にぶい黄 褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：上位ハケのちヨコナデ、 下位タテナデのちナデ? 底：ナデ	体部外面最下位～底部 外面に黒斑。	C区 SK08-5
第20図 2			北半部 弥・樽型土 器	口：23.6 残：11.8	内：橙色 外：にぶい橙 色～褐色	やや粗 6mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体：ナデ		C区 SK08-32
第20図 3			南半部 弥・甕	口：33.1 残：25.15	内：橙色～褐 灰色 外：にぶい橙 色～灰黄褐色	やや粗 5mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテハケ	口縁部～体部外面にス ス附着、体部内面下位 にコゲ痕跡。	C区 SK08-8
第20図 4			南半部 弥・甕	口：33.2 底：7.55 高：37.8	内：にぶい黄 褐色～褐灰色 外：にぶい黄 褐色～灰黄褐 色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位ナデ、下位は器表 摩滅のため調整不明 体・外：タテハケ 底：ナデ	体部外面全体にスス付 着、体部内面中位～下 位にコゲ痕跡。	C区 SK08-7
第20図 5	16		南半部 弥・甕	口：32.4 底：(7.85) 高：38.25	内：浅黄褐色 ～灰黄褐色 外：にぶい黄 褐色～灰黄褐 色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位ナデ、下位は器表 摩滅のため調整不明 体・外：タテナデ 底：ナデ	口縁部に黒斑、体部外 面全体にスス附着、体 部内面中位～下位にコ ゲ痕跡。	C区 SK08-3
第20図 6	16		南半部 弥・甕	口：32.8 底：7.5 高：37.95	内：浅黄褐色 外：にぶい橙 色～にぶい褐 色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテナデ 底：ナデ	体部外面全体にスス付 着、体部内面中位～下 位にコゲ痕跡。	C区 SK08-2
第20図 7			南半部 弥・甕	口：33.6 底：8.5	内：にぶい黄 褐色 外：にぶい黄 褐色～褐灰色	やや粗 5mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位ナデ、下位は器表 摩滅のため調整不明 体・外：タテナデ 底：器表摩滅のため調整不明	体部外面全体にスス付 着、体部内面下位にコ ゲ痕跡、底部外面に黒 斑。同一個体合成図。	C区 SK08-4
第21図 1			北半部 弥・甕	口：27.4 残：20.3	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテナデ	体部外面に薄くスス付 着、口縁部が被熱赤変。	C区 SK08-11
第21図 2			南半部 弥・甕	口：33.1 残：16.6	内：橙色～褐 灰色 外：褐色	ほぼ密 1.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテナデ	体部内面に土器片附着 (融着ではない)、頸部 外面にスス附着。	C区 SK08-12

挿図 番号	図 版 番 号	出土遺構	器種	法量 cm・ (復元値)	色調	胎土	焼 成	成形・調整方法	備考	実測 番号	
第 21 図 3	16	8号 土坑	北半部	弥・甕	口：30.25 底：7.6 高：37.8	内：明黄褐色 ～にぶい黄橙 色 外：にぶい黄 橙色～灰黄褐 色	やや粗 6mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位ナデ、下位は器表 摩擦のため調整不明 体・外：タテハケ 底：ナデ	体部外面上位～中位に スス附着、体部内面中 位～下位にコゲ痕跡。	C区 SK08-1
第 21 図 4			南半部	弥・甕	底：7.2 残：19.4	内：灰黄褐色 ～褐灰色 外：明黄褐色 ～灰黄褐色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内：器表摩擦のため調整不 明 体・外：タテハケ 底：ナデ	体部外面にスス附着、 体部内面全体が黒斑 化。	C区 SK08-34
第 21 図 5	16		北半部	弥・甕	口：34.35 底：8.0 高：38.9	内：浅黄褐色 ～にぶい褐色 外：にぶい橙 色～にぶい黄 橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位ナデ、下位は器 表摩擦のため調整不明 体・外：タテハケ 底：ナデ	体部外面全体にスス付 着、体部内面下位にコ ゲ痕跡。	C区 SK08-6
第 21 図 6	16		南半部	弥・甕	底：8.7 残：36.6	内：褐灰色 外：にぶい黄 橙色～明黄褐 色	ほぼ密 1.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	体・内：下位工具タテナデ、 底部ナデ、ほかは器表摩擦のた め調整不明 体・外：タテハケ底：ナデ	体部外面にスス附着、 体部外面最下位～底部 が被熱赤変。	C区 SK08-101
第 22 図 1			南半部	弥・広口壺	口：(25.8) 残：19.5	内・外：浅黄 色断：黄灰色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 頭：工具ヨコナデ 体：工具ヨコナデ		C区 SK08-48
第 22 図 2	16		南半部	弥・広口壺	口：(34.25) 体：29.3 底：5.95 高：28.55	内：にぶい黄 橙色～にぶい 橙色 外：にぶい橙 色	やや粗 4mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 頭・内：ヨコミガキ 頭・外：タテハケ 体・内：上位はハケのちナデ消し、 中位～下位はナデ 体・外：上位はヨコミガキのち 5ヶ所にタテハケ、中位はヨコ ミガキ、下位はタテミガキ 底：器表摩擦のため調整不明	口縁部内面及び体部内 面中位～底部内面、体 部外面最下位～底部に 黒斑。	C区 SK08-47
第 23 図 1			南半部	弥・鉢	残：8.05	橙色～明赤褐 色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体：ヨコミガキ ほかは器表摩擦のため調整不明	内外面とも丹塗り。	C区 SK08-58
第 23 図 2	16		南半部	弥・鉢	口：(15.5) 底：6.55 高：8.55	内：橙色～に ぶい橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：下位はナデ ほかは器表摩擦のため調整不明		C区 SK08-56
第 23 図 3	17		南半部	弥・無頸壺	口：17.8 体：20.55 底：7.8 高：15.85	内：浅黄褐色 ～にぶい橙色 外：浅黄褐色	やや粗 6mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位は器表摩擦のため 調整不明、中位～底部はナデ 体・外：上位は器表摩擦のため 調整不明、中位～下位はタテミ ガキ 底：器表摩擦のため調整不明	口縁部に2個1組の穿 孔が2対、口縁端部～ 体部外面中位及び体部 外面下位～底部外面に 黒斑。	C区 SK08-46
第 23 図 4	17		北半部	弥・鉢	口：31.55 底：9.9 高：16.65	にぶい橙色	やや粗 5mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：上位はハケのちヨコナデ、 中位～下位は器表摩擦のため調 整不明 底：ナデ	口縁部内面及び体部外 面上位、体部外面下位 ～底部外周に黒斑。	C区 SK08-55
第 23 図 5	17		南半部	弥・鉢	口：31.15 底：(9.9) 高：18.95	内：橙色 外：にぶい橙 色～にぶい黄 橙色	やや粗 7mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ ほかは器表摩擦のため調整不明		C区 SK08-57
第 23 図 6	17		南半部	弥・高坏	口：26.1 残：8.05	橙色～にぶい 黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 坏・内：ヨコミガキ 坏・外：器表摩擦のため調整不 明	丹塗り。	C区 SK08-62
第 23 図 7	17		南半部	弥・高坏	脚：14.9 残：15.7	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	坏・内：ヨコミガキ 坏・外：タテミガキ 脚・内：工具タテナデ 脚・外：タテミガキ	丹塗りの可能性あり。	C区 SK08-63
第 23 図 8	17		南半部	弥・高坏	口：25.05 残：25.1	坏・内：橙色 その他：にぶ い橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	坏・内：上位はヨコナデ、下位 はヨコミガキ 脚・内：ヨコナデ 脚・外：タテミガキ ほかは器表摩擦のため調整不明		C区 SK08-61
第 24 図 1	17		南半部	弥・器台	受：9.5 底：11.25 高：13.9	内：にぶい黄 褐色～浅黄橙 色 外：浅黄褐色 ～橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受：ヨコナデ 体・内：上位～中位工具タテナデ、 下位ヨコハケ 体・外：タテハケ 底：ヨコナデ		C区 SK08-73
第 24 図 2	17		南半部	弥・器台	受：9.75 底：11.75 高：14.1	浅黄褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受：ヨコナデ 体・内：上位～中位ヨコナデ、 下位タテハケ 体・外：タテハケ 底：ヨコナデ	体部内面に黒斑。	C区 SK08-71
第 24 図 3	17	北半部	弥・器台	受：10.0 底：11.75 高：14.95	内：にぶい黄 褐色～にぶい 橙色 外：にぶい黄 褐色～浅黄橙 色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受：ヨコナデ 体・内：上位～中位工具タテナデ、 下位ヨコハケ 体・外：タテハケ 底：ヨコナデ	体部外面に黒斑。	C区 SK08-74	
第 24 図 4	17	南半部	弥・器台	受：10.05 底：11.15 高：14.9	内：浅黄褐色 ～にぶい橙色 外：浅黄褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受：ヨコナデ 体・内：上位及び下位ヨコハケ、 中位工具タテナデ及びナデ 体・外：タテハケ底：ヨコナデ	体部外面に黒斑。	C区 SK08-70	

挿図 番号	図 版 番 号	出土遺構	器種	法量 cm・ (復元値)	色調	胎土	焼 成	成形・調整方法	備考	実測 番号	
第 24 図 5	17	8号 土坑	北半部 弥・器台	受：9.55 底：11.45 高：14.45	内：浅黄橙色 ～淡橙色 外：にぶい黄 橙色～淡橙色	やや粗 4mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受：ヨコナデ 体・内：上位～中位ヨコナデ、 下位ヨコハケ 体・外：タテハケ 底：ヨコナデ	外面中位に黒斑	C区 SK08-75	
第 24 図 6			南半部 弥・器台	受：9.0 底：10.7 高：15.05	浅黄橙色～明 赤褐色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受：ヨコナデ 体・内：上位ヨコハケ、中位工 具タテナデ、下位ヨコナデ及び ヨコハケ 体・外：タテハケ 底：ヨコナデ	底部外面に被熱赤変。	C区 SK08-72	
第 24 図 7	17		南半部 弥・支脚	上：6.35 底：8.1 高：14.95	内：浅黄橙色 ～にぶい黄橙 色 外：にぶい黄 橙色～灰黄褐 色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	上・底：ヨコナデ 体：ナデ		C区 SK08-86	
第 24 図 8	17		南半部 弥・支脚	上：6.35 底：(8.6) 高：13.95	内：灰黄褐色 ～にぶい橙 色 外：にぶい橙 色～浅黄橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	上・底：ヨコナデ 体：ナデ		C区 SK08-85	
第 24 図 9			南半部 弥・支脚	底：6.95 残：11.9	内：灰黄褐色 外：にぶい黄 橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体：ナデ 底：ヨコナデ		C区 SK08-87	
第 24 図 10			南半部 弥・支脚	底：9.1 残：8.7	にぶい橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体：ナデ		C区 SK08-89	
第 24 図 11			北半部 弥・ミニチ ュア土器	受：3.95 残：5.2	内：灰黄褐色 外：にぶい黄 橙色～灰黄褐 色	やや粗 5mm以下の砂粒を やや多く含む	良	全面指ナデ		C区 SK08-100	
第 24 図 12	17		南半部 弥・筒型器 台	上：12.0 底：22.5 高：25.85	橙色	ほぼ密 0.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	上：ヨコナデ 鏝：タテミガキ及び工具ナデ 体・内：ナデ 体・外：タテミガキ 底：工具ナデ	外面丹塗り。	C区 SK08-69	
第 24 図 13	17		南半部 弥・筒型器 台	底：(31.5) 残：40.4	橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内：ヨコナデ及びナデ 体・外：タテミガキ	対面丹塗り。	C区 SK08-84	
第 25 図 1	17		北半部 弥・蓋	天：6.4 口：32.15 高：12.0	内：浅黄橙色 ～褐灰色 外：灰白色～ にぶい黄橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：工具ナデのちナデ消し 体・外：タテハケ 天：ナデ		C区 SK08-64	
第 25 図 2	18		南半部 弥・蓋	天：6.1 口：32.85 高：12.8	内：浅黄橙色 ～にぶい橙 色 外：浅黄橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ハケのちヨコナデ 体・内：上位工具ナデのちナデ 消し、下位ナデ 体・外：タテハケ 天：ナデ		C区 SK08-65	
第 25 図 3	18	南半部 弥・蓋	天：5.85 口：33.0 高：10.55	内：にぶい橙 色～浅黄褐色 外：にぶい黄 橙色～浅黄褐 色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテハケ 天：ヨコハケ及びナデ	体部内面にスス附着。	C区 SK08-66		
第 26 図 1	18	9号 土坑	図⑥⑨ ⑪ 弥・甕	口：26.6 底：7.35 高：39.2	内：浅黄色 外：橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：上位ヨコナデ、中～下 位工具ナメ or タテナデ 体・外：タテハケ 底：ナデ	体部外面にまだらにス ス附着、体部外面中位 ～下位が被熱赤変。	C区 SK09-1	
第 27 図 1			図②③ ⑦ 弥・鉢	口：(22.8) 残：12.4	浅黄橙色	ほぼ密 1.5mm以下の砂粒 を少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：上位工具ヨコナデ、下 位工具タテナデ	体部外面全体にスス付 着。	C区 SK09-5	
第 27 図 2			図③ 弥・樽型土 器	底：10.8 残：12.15	橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内：上位工具タテナデ、不 定ナデ 体・外：工具タテナデ 底：工具ナデ	体部外面が黒変。	C区 SK09-6	
第 27 図 3			図⑧ 弥・高坏	脚：12.5 残：12.6	橙色	ほぼ密 0.5mm 以下 の砂粒を少し含む	良	脚・内：上位ナデ、下位工具ナ デのちナデ消し 脚・外：上位ケズリ、下位ケズ リのちタテミガキ	脚裾端部に黒斑、坏部 接続部分にスス附着。	C区 SK09-7	
第 27 図 4			床面 直上 弥・支脚	上：(6.0) 底：(9.2) 高：15.05	浅黄橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	上：ナデ 体・内：中位芯痕跡、上位・下 位ナデ 体・外：ナデのち工具タテナデ 底：工具ナデ		C区 SK09-8	
第 27 図 5			床面 直上 弥・支脚	上：(7.95) 底：8.75 残：15.1	黄橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	上：ナデ 体・内：中位芯痕跡、下位ナデ 体・外：ナデのち工具タテナデ 底：工具ナデ		C区 SK09-9	
第 28 図 1	20		2号 住居	- 磨製石剣	幅：3.1 長さ：13.1 厚さ：1.2 重量：48.8					粘板岩	C区 SC02-イ 1
第 28 図 2	20			- 砥石	幅：3.15 長さ：6.9 厚さ：2.2 重量：84.0						砂岩
第 28 図 3	20	- 石庖丁		幅：11.35 長さ：5.4 厚さ：0.8 重量：64.0						赤紫色泥岩	C区 SK08-イ 1

挿図 番号	図 版 番 号	出土遺構	器種	法量 cm・ (復元値)	色調	胎土	焼 成	成形・調整方法	備考	実測 番号	
第28図 4	20	7号 土坑	-	石庖丁	幅:8.0 長さ:4.4 厚さ:0.8 重量:52.5				赤紫色泥岩	C区 SK07-イ1	
第28図 5	20		-	石庖丁	幅:13.4 長さ:5.65 厚さ:0.75 重量:75.5				赤紫色泥岩	C区 SK07-イ4	
第28図 6	20	8号 土坑	-	磨製石斧	幅:6.3 長さ:10.9 厚さ:3.75 重量:420				安山岩系凝灰岩	C区 SK08-イ2	
第31図 1	19	1号 甕棺墓	上甕	弥・小児棺	口:31.8 底:8.1 高:37.7	内・外:浅黄 橙色 断:褐灰色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体・内:工具ナナメ or タテナデ 体・外:タテハケ 底:工具ナデ	底部外面~体部最下位 に黒斑。	C区 ST01-上
第31図 2	19		下甕	弥・小児棺	口:32.7 底:7.9 高:38.1	内・外:浅黄 橙色 断:褐灰色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口:ヨコナデ 体・内:工具ナナメ or タテナデ 体・外:タテハケ 底:工具ナデ	底部外面~体部最下位 に黒斑。	C区 ST01-下
第37図 1		5号 土坑	-	弥・壺?	底:(7.0) 残:2.9	橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	器表摩滅のため調整不明	底部外面にコゲ付着。	E区 SK05-1
第37図 2			-	弥・広口壺	残:4.7	橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口:ヨコナデ 頭・内:ヨコミガキ 頭・外:タテミガキ(暗文)		E区 P06-2
第37図 3		6号 ピット	-	弥・無頭 壺?	残:3.35	内:にぶい橙 色 外:にぶい黄 橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・内:ナデ 体・外:ヨコミガキ		E区 P06-4
第37図 4			-	弥・瓢型土 器	残:5.95	橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	やや 悪	体・内:器表摩滅のため調整不 明 体・外:ヨコナデ		E区 P06-3
第40図 1		18	-	弥・甕	口:32.15 底:(8.0) 高:38.9	にぶい橙色~ にぶい黄橙色	やや粗 4mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口:ヨコナデ 体・内:上位ナデ、中位以下は 器表摩滅のため調整不明 体・外:タテハケ 底:ナデ	口縁部にスス付着。	F区 SK02-2
第40図 2			-	弥・甕	口:32.05 残:19.55	にぶい黄橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:タテハケ	体部外面中位に黒斑、 体部内面中位にコゲ痕 跡。	F区 SK02-8
第40図 3			-	弥・甕	口:31.95 残:18.45	にぶい黄橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:タテハケ		F区 SK02-9
第40図 4			-	弥・甕	口:29.8 残:17.65	内:にぶい橙 色~にぶい黄 橙色 外:灰白色~ 浅黄橙色	やや粗 7mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:タテハケ		F区 SK02-17
第40図 5			-	弥・甕	口:32.3 残:15.65	内:橙色~灰 黄褐色 外:にぶい黄 橙色	やや粗 6mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:タテハケ	体部内面に部分的にコ ゲ痕跡。	F区 SK02-10
第40図 6			-	弥・甕	口:32.35 残:13.6	にぶい黄橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:タテハケ	口縁部~体部外面にス ス付着。	F区 SK02-14
第40図 7			-	弥・甕	口:32.15 残:11.0	内:橙色~に ぶい橙色 外:浅黄褐色 ~にぶい橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:タテハケ	口縁部~体部外面にス ス付着。	F区 SK02-16
第41図 1		1号 祭祀 土坑	-	弥・甕	口:35.75 残:25.8	内:橙色 外:橙色~に ぶい橙色	やや粗 4mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口:ヨコナデ 体・内:ナデ 体・外:タテハケ		F区 SK02-12
第41図 2			-	弥・甕	底:7.9 残:24.6	褐灰色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・内:器表摩滅のため調整不 明 体・外:タテハケ 底:ナデ	体部内面及び外面にス ス付着。	F区 SK02-24
第41図 3			-	弥・甕	底:7.8 残:18.8	内:橙色 外:にぶい黄 褐色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・内:器表摩滅のため調整不 明 体・外:タテハケ 底:ナデ	底部内面及び体部外面 中位にスス付着、体部 外面下位が被熱赤変。	F区 SK02-28
第41図 4		18	-	弥・甕	底:8.0 高:18.5	内:黄灰色 外:にぶい黄 褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・内:器表摩滅のため調整不 明 体・外:タテハケ 底:ナデ	体部内面にスス付着。	F区 SK02-23
第41図 5			-	弥・甕	底:7.8 残:15.8	内:にぶい黄 橙色 外:灰黄褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・内:器表摩滅のため調整不 明 体・外:タテハケ 底:ナデ	底部内面及び体部外面 にスス付着。	F区 SK02-29
第41図 6			-	弥・甕	底:7.8 残:14.25	内:にぶい黄 褐色 外:にぶい橙 色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・外:タテハケそのほかは器 表摩滅のため調整不明	体部外面及び体部内面 にスス付着。	F区 SK02-27
第41図 7			-	弥・甕	底:7.6 高:12.8	にぶい黄褐色	やや粗3mm以下の 砂粒を やや多く含む	良	体・内:器表摩滅のため調整不 明 体・外:タテハケ 底:ナデ	体部外面上位が被熱赤 変、体部内面中位及び 底部にスス付着。	F区 SK02-26
第41図 8			-	弥・甕	底:8.1 残:12.1	内:褐灰色 外:にぶい黄 褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・内:器表摩滅のため調整不 明 体・外:タテハケ 底:ナデ	体部外面上位及び内面 にスス付着。	F区 SK02-25

挿図 番号	図 版 番 号	出土遺構	器種	法量 cm・ (復元値)	色調	胎土	焼 成	成形・調整方法	備考	実測 番号
第 42 図 1		-	弥・甕	口：22.0 残：8.7	内：灰黄色 外：浅黄色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：ヨコナデ		F区 SK02-22
第 42 図 2	18	-	弥・樽型土 器	口：26.6 底：10.6 高：21.7	にぶい黄橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテハケのちナデ消し 底：ナデ	底部外面に黒斑。	F区 SK02-1
第 42 図 3	18	-	弥・樽型土 器	口：35.2 底：11.4 高：20.7	内：にぶい黄 橙色 外：浅黄橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテハケ 底：ナデ	体部最下位～底部外面 に黒斑。	F区 SK02-4
第 42 図 4	18	-	弥・樽型土 器	口：23.8 底：11.4 高：20.8	内：橙色 外：にぶい橙 色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体：ナデ 底：ナデ	体部外面下位～底部に 黒斑。	F区 SK02-5
第 42 図 5		-	弥・樽型土 器	口：25.2 底：11.2 高：23.9	浅黄橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテハケのちナデ消し 底：ナデ	体部外面下位～底部に 黒斑。	F区 SK02-6
第 42 図 6		-	弥・樽型土 器	口：(24.2) 底：11.2 高：21.5	浅黄橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：上位～下位ナデ、最下 位タテミガキ 底：ナデ	体部最下位～底部外面 に黒斑。	F区 SK02-7
第 42 図 7	18	-	弥・樽型土 器	口：23.0 底：10.0 高：21.55	内：明赤褐色 外：橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体：ナデ 底：ナデ	底部外面に黒斑。	F区 SK02-3
第 42 図 8		-	弥・樽型土 器	口：24.4 5残：7.45	にぶい橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体：ナデ	口縁部～体部外面上位 にスス附着。	F区 SK02-11
第 42 図 9		-	弥・樽型土 器?	底：11.2 残：7.0	にぶい黄橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・内：ナデ 体・外：タテハケのちナデ消し 底：ナデ	底部外面に黒斑。	F区 SK02-48
第 42 図 10		-	弥・樽型土 器?	底：11.5 残：5.8	内：橙色 外：にぶい黄 橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体：ナデ 底：ナデ		F区 SK02-47
第 43 図 1		-	弥・広口壺	口：(38.0) 残：20.5	内：にぶい橙 色～明褐色 外：にぶい褐 色～にぶい橙 色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 頭・内：ヨコハケのちナデ 頭・外：タテハケのちナデ 体：ナデ	外面に黒色顔料塗布 か?	F区 SK02-32
第 43 図 2		-	弥・広口壺	口：(37.0) 残：15.5	内：にぶい黄 橙色 外：にぶい黄 橙色～浅黄橙 色	やや粗 4mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 頭・内：ヨコナデ 頭・外：ヨコナデのち7カ所の タテミガキ(暗文)	口縁部に穿孔1カ所、 外面に黒色顔料塗布 か?	F区 SK02-38
第 43 図 3		-	弥・広口壺	口：(24.6) 残：18.7	内：にぶい黄 橙色 外：浅黄色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 頭・内：ナデ 頭・外：ヨコナデ		F区 SK02-40
第 43 図 4		-	弥・広口壺	口：(22.2) 体：22.3 残13.75	にぶい黄橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 頭：ヨコナデ 体：ヨコナデ	全体に黒色顔料塗布。	F区 SK02-41
第 43 図 5	18	-	弥・広口壺	口：18.35 底：6.8 高：18.0	内：にぶい黄 橙色 外：浅黄橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 頭：ヨコナデ 底：ナデ ほかは器表摩滅のため調整不明		F区 SK02-30
第 43 図 6		-	弥・広口壺	口：(18.3) 残：3.5	にぶい黄橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ ほかは器表摩滅のため調整不明	底部内面にスス附着、 体部下位に穿孔。	F区 SK02-43
第 43 図 7	18	-	弥・壺	口：24.9 体：28.7 残：25.8	にぶい黄橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 頭・内：ナデ 頭・外：ヨコナデ体：ナデ		F区 SK02-36
第 43 図 8	18	-	弥・広口壺	体：(32.9) 底：7.1 残：29.9	内：橙色～明 褐色 外：にぶい橙 色～明褐色	やや粗 4mm以下の砂粒を やや多く含む	良	頭・内：ヨコミガキ 頭・外：タテミガキ(暗文) 体・内：上位ヨコミガキ、ほか は器表摩滅のため調整不明 体・外：ヨコミガキ、最下位は タテミガキ 底：ナデ	体部外面最下位～底部 外面に黒斑。	F区 SK02-45
第 44 図 1	18	-	弥・壺	口：26.3 残：36.2	内：浅黄橙色 外：にぶい黄 橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 頭・内：ナデ 頭・外：ナデのちタテミガキ(暗 文) 体・内：ナデ 体・外：ヨコミガキのち一部ナ デ消し		F区 SK02-34
第 44 図 2		-	弥・壺	底：9.4 残：21.9	内：浅黄橙色 外：にぶい黄 橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内：タテハケのちナデ消し 体・外：中位～下位ナデ、最下 位ヨコミガキ 底：ナデ	体部外面中位に黒斑。	F区 SK02-35
第 44 図 3		-	弥・壺	底：7.6 残：15.5	にぶい黄橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・内：ナデ 体・外：中位タテハケ、下位タ テミガキ 底：ナデ	体部外面中位～下位に 黒斑。	F区 SK02-33
第 44 図 4		-	弥・壺	底：10.4 残：14.6	内：黄灰色 外：灰黄色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内：ナデ、肩部のみ工具ナ デ 体・外：上位～下位タテハケ、 最下位ヨコミガキ 底：ナデ	外面全面丹塗りか?	F区 SK02-46

挿図 番号	図 版 番 号	出土遺構	器種	法量 cm・ (復元値)	色調	胎土	焼 成	成形・調整方法	備考	実測 番号
第44図 5		-	弥・壺	底: 8.4 残: 8.45	内: にぶい黄 橙色 外: 灰黄褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・外: 下位タテハケのち一部 ヨコミガキ、ナデ 底: ナデ	体部外面スス付着。	F区 SK02-49
第44図 6	18	-	弥・壺	残: 47.4	にぶい黄橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体: ナデ		F区 SK02-39
第45図 1	18	-	弥・鉢	口: 32.8 底: 9.2 高: 18.0	内: にぶい橙 色 外: にぶい黄 橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口: ヨコナデ 体: ナデ 底: ナデ	口縁部～体部外面中位 に黒斑。	F区 SK02-50
第45図 2		-	弥・高坏?	口: (21.2) 残: 7.0	内: にぶい橙 色 外: にぶい黄 橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	器表摩滅のため調整不明		F区 SK02-51
第45図 3	18	-	弥・蓋	天: 2.9 口: 17.9 高: 3.9	内: 橙色 外: にぶい橙 色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口: ヨコナデ 体: ナデ	全面丹塗り。	F区 SK02-54
第45図 4	18	-	弥・無頸壺	口: 17.85 体: (19.5) 底: (9.8) 高: 15.0	内: 橙色～に ぶい橙色 外: にぶい橙 色～浅赤橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口: ヨコナデ、部分的にヨコハ ケ 体・内: ナデ 体・外: ヨコナデ 底: ナデ	口縁部に2個1対の穿 孔が2カ所、体部内面 中位及び外面下位に黒 斑。	F区 SK02-31
第45図 5		-	弥・高坏	口: (26.8) 残: 8.0	内: 明赤褐色 外: 橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	坏・内: ナデ ほかは器表摩滅のため調整不明	全面丹塗り。	F区 SK02-53
第45図 6	19	-	弥・高坏	口: 26.2 残: 7.5	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	やや 悪	口: ヨコナデ 坏・内: 上位ナデ、下位ヨコハ ケのちナデ 坏・外: ナデ	全面丹塗り。	F区 SK02-52
第45図 7	18	-	弥・蓋	天: 6.45 口: (33.0) 高: 13.45	内: にぶい黄 橙色 外: 浅黄色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口: ヨコナデ 体・内: ナデ 体・外: タテハケ 天: ナデ	体部内面に黒斑。	F区 SK02-55
第45図 8		-	弥・蓋	口: (34.6) 残: 5.6	にぶい黄橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口: ヨコナデ 体・内: 下位ナデ、中位～上位 ヨコハケ 体・外: タテ or ナナメハケ	口縁部～体部内外面に スス付着。	F区 SK02-56
第46図 1		-	弥・器台	受: 10.2 底: 11.4 高: 16.0	内: 淡黄色 外: 灰白色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	受: ヨコナデ 体・内: ナデ 体・外: タテハケ		F区 SK02-73
第46図 2	19	-	弥・器台	受: 11.0 底: 13.8 高: 15.35	にぶい褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受: ヨコナデ 体・内: 上位及び下位ヨコハケ 体・外: タテハケ		F区 SK02-69
第46図 3	19	-	弥・器台	受: 10.0 底: 11.8 高: 15.2	にぶい黄橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受: ヨコナデ 体・内: 上位～中位ナデ、下位 ヨコハケ 体・外: タテハケ	体部外面下位が被熱赤 変。	F区 SK02-62
第46図 4		-	弥・器台	受: (10.2) 底: (12.8) 高: 14.9	内: にぶい黄 橙色 外: 浅黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	受: ヨコナデ 体・内: 上位～中位ナデ、下位 ヨコハケ 体・外: タテハケ		F区 SK02-65
第46図 5	19	-	弥・器台	受: 9.4 底: 10.6 高: 14.8	にぶい黄橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受: ヨコナデ 体・内: ナデ 体・外: タテハケ	体部外面下位に黒斑及 び被熱赤変。	F区 SK02-57
第46図 6	19	-	弥・器台	受: 10.15 底: 11.0 高: 14.3	内: にぶい黄 橙色 外: にぶい橙 色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	受: ヨコナデ 体・内: 上位～中位ナデ、下位 ヨコハケ 体・外: タテハケ	体部外面下位が被熱赤 変。	F区 SK02-59
第46図 7	19	-	弥・器台	受: (11.6) 底: 12.0 高: (14.25)	内: にぶい黄 褐色 外: にぶい橙 色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	受: ヨコナデ 体・内: 上位～中位ナデ、下位 ヨコハケのちナデ消し 体・外: タテハケ		F区 SK02-60
第46図 8		-	弥・器台	受: 19.1 底: 11.4 高: 14.1	内: にぶい黄 褐色 外: にぶい橙 色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受: ヨコナデ 体・内: 上位～中位ナデ、下位 ヨコハケ 体・外: タテハケ	体部外面下位が被熱赤 変。	F区 SK02-67
第46図 9	19	-	弥・器台	受: 9.1 底: 11.1 高: 14.2	内: 橙色 外: にぶい黄 褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受: ヨコナデ 体・内: ナデ 体・外: タテハケ	体部外面下位が被熱赤 変。	F区 SK02-61
第46図 10	19	-	弥・器台	受: 10.4 底: 11.0 高: 14.0	内: 橙色 外: にぶい黄 褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受: ヨコナデ 体・内: 上位及び下位ヨコハケ、 中位ナデ 体・外: タテハケ	体部外面が被熱赤変。	F区 SK02-58
第46図 11		-	弥・器台	受: 8.4 底: 9.6 高: 13.95	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	受: ヨコナデ 体・内: ナデ 体・外: タテハケ		F区 SK02-66
第46図 12		-	弥・器台	受: 9.2 底: 11.2 高: 13.8	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	受: ヨコナデ 体・内: ナデ 体・外: タテハケ		F区 SK02-63
第46図 13		-	弥・器台	受: (10.0) 底: (10.4) 高: 13.6	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	受: ヨコナデ 体・内: ナデ 体・外: タテハケ		F区 SK02-68
第46図 14		-	弥・器台	受: (9.2) 底: (10.6) 高: 14.2	内: 灰黄褐色 外: にぶい橙 色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受: ナデ 体: オサエのちナデ 底: ナデ		F区 SK02-71
第46図 15	19	-	弥・器台	受: 8.2 底: 8.6 高: 15.4	にぶい黄褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受: ナデ 体: オサエのちナデ 底: ナデ		F区 S K02-70
第48図 1		2号 祭祀 土坑	弥・甕	口: (31.6) 残: 5.7	内: にぶい橙 色 外: にぶい黄 褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	器表摩滅のため調整不明		F区 SK03-3

挿図 番号	図 版 番 号	出土遺構	器種	法量 cm・ (復元値)	色調	胎土	焼 成	成形・調整方法	備考	実測 番号
第 48 図 2	19	-	弥・甕	口：32.0 残：17.0	内：赤橙色 外：赤色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	やや 悪	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテハケ	体部外面中に黒斑。	F区 SK03-1
第 48 図 3		-	弥・甕	口：(28.0) 残：14.2	内：にぶい橙 外：にぶい黄 橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：器表摩滅のため調整不 明 体・外：タテハケ	体部外面にスス附着。	F区 SK03-2
第 48 図 4		-	弥・甕	口：(33.4) 残：13.8	にぶい黄橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	やや 悪	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：タテハケ		F区 SK03-5
第 48 図 5		-	弥・甕	口：(28.0) 残：4.2	にぶい橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ		F区 SK03-4
第 48 図 6		-	弥・甕	底：(7.6) 残：9.85	内：にぶい黄 橙色 外：にぶい橙 色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・内：ナデ 体・外：タテハケ 底：ナデ		F区 SK03-9
第 48 図 7	2号 祭祀 土坑	-	弥・甕	底：8.8 残：9.35	内：灰白色 外：にぶい橙 色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	やや 悪	体・外：タテハケ ほかは器表摩滅のため調整不明		F区 SK03-7
第 48 図 8		-	弥・甕	底：7.8 残：8.8	内：橙色 外：にぶい橙 色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・外：タテハケ ほかは器表摩滅のため調整不明	内外面に被熱赤変。	F区 SK03-8
第 48 図 9		-	弥・鉢	口：(16.2) 残：9.1	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコミガキ 体・外：ヨコミガキ		F区 SK03-6
第 48 図 10		-	弥・広口壺	口：(22.2) 残：4.4	橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ ほかは器表摩滅のため調整不明		F区 SK03-12
第 48 図 11		-	弥・高坏	口：(22.0) 残：8.5	にぶい橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 坏・内：ヨコミガキ 坏・外：タテハケ	丹塗りか？	F区 SK03-14
第 48 図 12		-	弥・支脚	底：6.0 残：9.7	内：橙色 外：にぶい橙 色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・外：オサエのちナデ 底：ナデ		F区 SK03-15
第 48 図 13		-	弥・支脚	底：(5.6) 残：6.7	内：にぶい黄 橙色 外：浅黄橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・内：ヨコナデ 体・外：オサエのちナデ		F区 SK03-16
第 48 図 14	4号 土坑	-	弥・甕	残：3.2	にぶい橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ	口縁端部にスス附着。	F区 SK04-1
第 48 図 15		-	弥・広口壺	残：9.5	内：灰黄色 外：淡黄色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	頭・内：ナデ 頭・外：ヨコナデのちタテミガ キ(暗文) 体・内：ナデ 体・外：ヨコナデ		F区 SK04-2
第 49 図 1	1号 祭祀 土坑	-	弥・ミニチ ュア土器	底：(2.2) 残：4.3	内：灰黄褐色 外：褐灰色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	やや 悪	体：指オサエ	体部内面にスス附着。	F区 SK02-76
第 49 図 2	20	-	土製投弾	幅：2.35 長さ：4.7 厚さ：2.35	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良			F区 SK02-ド①
第 49 図 3	20	-	土製投弾	幅：2.65 長さ：5.3 厚さ：2.8	橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良			F区 SK03-ド②
第 49 図 4	20	-	磨石	幅：9.45 長さ：11.8 厚さ：5.75 重量：935					安山岩	F区 SK03-イ②
第 49 図 5	20	-	磨石	幅：9.65 長さ：10.8 厚さ：5.25 重量：720					安山岩	F区 SK03-イ①
第 52 図 1	1号 住居	A区	弥・甕	口：(36.0) 残：3.1	内：にぶい橙 色 外：にぶい黄 橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ		G区 SC01-7
第 52 図 2		A区	弥・甕	口：(36.0) 残：2.3	にぶい橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ	口縁端部に刻目。	G区 SC01-4
第 52 図 3		-	弥・甕	口：(32.2) 残：4.9	にぶい橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ		G区 SC01-3
第 52 図 4		C区	弥・甕	口：(31.4) 残：4.9	内：にぶい黄 橙色 外：にぶい橙 色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ		G区 SC01-1
第 52 図 5		D区	弥・甕	口：(30.2) 残：5.3	内：にぶい黄 橙色 外：にぶい橙 色	やや粗 5mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：器表摩滅のため調整不 明 体・外：タテハケ		G区 SC01-5
第 52 図 6		D区	弥・甕	口：(29.6) 残：2.5	浅黄橙色	やや粗 2mm 以下の 砂粒をやや多く含 む	良	口：ヨコナデ		G区 SC01-8
第 52 図 7		D区	弥・樽型土 器？	口：(25.6) 残：4.1	橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ		G区 SC01-6
第 52 図 8		C区	弥・甕	口：(19.8) 残：10.8	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：タテハケのちナデ消し 体・外：ナデ		G区 SC01-2
第 52 図 9		屋内 土坑	弥・甕	底：(8.7) 残：4.0	内：にぶい黄 橙色 外：灰黄褐色	ほぼ密 4mm以下の砂粒を 少し含む	良	体・内：ナデ 体・外：タテハケ底：ナデ	体部外面にスス附着。	G区 SC01-13

挿図 番号	図 版 番号	出土遺構	器種	法量 cm・ (復元値)	色調	胎土	焼 成	成形・調整方法	備考	実測 番号	
第52図 10		屋内 土坑	弥・甕	底：(7.6) 残：6.1	内：暗灰黄色 外：にぶい黄 橙色	粗 1mm以下の砂粒を 多く含む	やや 悪	体・外：タテハケ ほかは器表摩滅のため調整不明	底部内面にコゲ痕跡。	G区 SC01-15	
第52図 11		下層	弥・甕	底：(7.2) 残：4.7	内：灰黄褐色 外：にぶい橙 色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	やや 悪	体・内：ナデ 体・外：タテハケ	底部に靱圧痕あり。	G区 SC01下層-4	
第52図 12		A区	弥・樽型土 器?	底：(9.4) 残：4.2	にぶい黄橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・外：ナデ ほかは器表摩滅のため調整不明	体部外面に黒斑。	G区 SC01-14	
第52図 13		上層	弥・広口壺	口：(24.4) 残：6.35	明赤褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 頭・内：ヨコミガキ 頭・外：タテミガキ (暗文) 体・外：ヨコミガキ	頭部の内外面、体部外 面に丹塗り。	G区 SC01上層 -3・4	
第52図 14		D区	弥・広口壺	残：3.7	橙色	密 1mm以下の砂粒を わずかに含む	良	口：ヨコナデ 頭・内：ヨコミガキ 頭・外：ヨコミガキ及びタテミ ガキ (暗文)	内外面とも丹塗り。	G区 SC01-16	
第52図 15		A区	弥・壺	底：(8.0) 残：3.2	内：橙色 外：にぶい黄 橙色	粗 1mm以下の砂粒を 多く含む	良	体：ナデ 底：器表摩滅のため調整不明		G区 SC01-18	
第52図 16		D区	弥・鉢	口：(11.4) 残：2.8	にぶい黄橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	やや 悪	口・体：ヨコナデ		G区 SC01-24	
第52図 17	19	上層	弥・ミニチ ュア土器?	口：(7.8) 残：6.5	橙色～にぶい 橙色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	やや 悪	口：ヨコナデ 体・内：ナデ 体・外：ヨコミガキのちナデ消 し	外面全面に丹塗り。	G区 SC01上層-5	
第52図 18		下層	弥・鉢	口：(13.4) 残：6.1	橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体・内：ヨコナデ ほかは器表摩滅のため調整不明		G区 SC01下層-6	
第52図 19		下層	弥・鉢	口：(12.0) 残：6.2	内：橙色 外：明赤褐色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体：ヨコミガキ	全面丹塗り。	G区 SC01下層-5	
第52図 20		C区	弥・蓋	残：1.9	にぶい黄橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体：ヨコナデ		G区 SC01-20	
第52図 21		A区	弥・蓋	残：1.9	内：にぶい黄 橙色 外：にぶい橙 色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ		G区 SC01-21	
第52図 22		A区	弥・器台	受：(10.4) 残：7.9	にぶい橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受：ヨコナデ 体・内：不定ナデ 体・外：タテハケ		G区 SC01-22	
第52図 23		D区	弥・器台	受：(12.6) 残：6.7	にぶい黄橙色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	受：ヨコナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：タテハケ	受部～体部外面が被熱 赤変。	G区 SC01-23	
第54図 1		上層	弥・甕	残：1.7	内：にぶい赤 褐色 外：橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ		G区 SK01・2上層 -1	
第54図 2		上層	弥・甕	底：(7.0) 残：5.9	内：黄灰色 外：橙色	やや粗 5mm以下の砂粒を やや多く含む	やや 悪	体・外：タテハケ 底：ナデ	体部内面にコゲ痕跡。	G区 SK01・2上層 -2	
第54図 3		-	弥・甕	残：8.6	内：橙色 外：にぶい褐 色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体：ナデ		G区 SK02-1	
第54図 4		-	弥・蓋	口：(30.2) 残：4.3	内：にぶい橙 色 外：橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコナデ 体・外：タテハケ		G区 SK02-2	
第54図 5		3号 土坑	-	弥・甕	口：(32.0) 残：4.2	内：にぶい黄 褐色 外：にぶい橙 色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ	口縁部直下の内外面に スス付着。	G区 SK03-1
第54図 6		4号 土坑	-	弥・広口壺	残：3.8	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 頭・内：ヨコミガキ 頭・外：ヨコミガキのちタテミ ガキ (暗文)		G区 SK05-1
第54図 7		-	弥・蓋	残：2.3	内：にぶい褐 色 外：橙色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：器表摩滅のため調整不明 体・外：タテハケ		G区 SK05-3	
第55図 1		C区	弥・ミニチ ュア土器	口：(5.8) 底：(3.4) 高：4.2	灰黄褐色	やや粗 9mm以下の砂粒を やや多く含む	やや 悪	全面指ナデ	体部最下位にスス付 着。	G区 SC01-19	
第55図 2	20	1号 住居	A区	磨石	幅：7.1 長さ：8.8 厚さ：1.7 重量：160				安山岩	G区 SC01-イ①	
第55図 3	20	下層 屋内 土坑	砥石	幅：7.6 長さ：10.5 厚さ：4.6 重量：535					砂岩	G区 SC01下層- イ①	
第55図 4	20	5号 土坑	-	石製投弾	幅：2.75 長さ：3.7 厚さ：1.7 重量：18.4				安山岩	G区 SK05-イ①	
第56図 1	19	1号 甕棺墓	上甕	弥・小児棺	口：31.5 底：7.45 高：34.8	浅黄褐色	ほぼ密 3mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ハケのちナデ消し 体・外：タテハケ 底：ナデ	底部外面に黒斑。	G区 ST01-上
第56図 2	19	下甕	弥・小児棺	口：31.0 底：7.4 高：35.5	浅黄褐色	ほぼ密 5mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：工具ナデのちナデ消し 体・外：タテハケ 底：ナデ	口縁端部に刻目、底部 外面に黒斑。	G区 ST01-下	

大保西小路遺跡7 遺物観察表

法量=口：口径、高：器高、底：底径、体：体部最大径、天：天頂部径、上：上部、裾：裾部径
器種=土：土師器、須：須恵器、瓦：瓦質土器、青：青磁、白：白磁、陶：陶器

挿図 番号	図 版 番号	出土遺構	器種	法量 cm・ (復元値)	色調	胎土	焼 成	成形・調整方法	備考	実測 番号
第 68 図 1	25	-	青・碗	高台：(5.7) 残：1.2	素：灰色～に ぶい褐色 釉：緑灰色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体：ロクロ引き、施釉 高台：削り出し、畳付軸ハギ	見込みに螺旋状の沈線 紋。高麗青磁。	SK02-18
第 68 図 2	26	上層	土・鉢	残：2.5	にぶい黄褐色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	器表摩滅のため調整不明		SK02-1
第 68 図 3	26	上層	土・皿	残：2.05	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：回転ナデ		SK02-2
第 68 図 4	26	上層 南半	瓦・播鉢	残：6.7	内：黄灰色 外：黄灰色～ 灰黄色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：4条1組の播目 体・外：タテハケ		SK02-16
第 68 図 5	26	2号 土坑 下層 南半	土・皿	底：(7.3) 残：1.05	浅黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	底：回転糸切り		SK02-6
第 68 図 6	26	北半	土・皿	底：(6.6) 残：1.4	にぶい褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体：回転ナデ 底：回転糸切り		SK02-5
第 68 図 7	26	上層	土・鍋	残：3.9	内：にぶい橙 色 外：灰褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：回転ナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：ナデ	体部外面に厚くスス付 着。	SK02-12
第 68 図 8	26	北半	土・鍋	残：3.85	内：明褐色 外：褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：ナデ	体部外面にスス附着、 内面にコゲ痕跡。	SK02-15
第 68 図 9	26	上層	土・鍋	残：4.4	内：褐色 外：にぶい黄 褐色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：工具ヨコナデ 体・外：タテハケ	体部外面にスス附着。	SK02-14
第 68 図 10	26	-	土・坏?	残：3.3	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：回転ナデ		SK03-1
第 68 図 11	26	-	土・鉢	残：6.15	内：にぶい黄 褐色 外：灰黄褐色 ～にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ナナメ or ヨコハケ 体・外：タテハケ	体部外面にスス附着。	SK03-3
第 68 図 12	25	-	土・把手付 鍋	残：8.45	にぶい黄褐色	粗 2mm以下の砂粒を 多く含む	良	工具ナデのちナデ	部分的にスス附着あ り。	SK03-8
第 68 図 13	25	3号 土坑	-	上端部幅： 1.2～1.5 高：3.3～3.5 下端部幅： 2.1～2.4	灰黄色～灰黄 褐色	粗 2mm以下の砂粒を 多く含む	良	上下・端部：ヘラ切りのちナデ	受部、スス附着あり。	SK03-4
第 68 図 14	25	-	土・五徳?	幅：4.4 厚さ：3.15	灰黄色～灰黄 褐色	粗 2mm以下の砂粒を 多く含む	良	タテナデ、一部ヨコナデ	脚部。	SK03-6
第 68 図 15	25	-	土・五徳?	幅：2.6 厚さ：2.9	灰黄色～灰黄 褐色	粗 2mm以下の砂粒を 多く含む	良	タテナデ、一部ヨコナデ	脚部～受部。	SK03-7
第 68 図 16	25	-	土・足鍋	残：11.1	灰黄褐色～灰 黄色	粗 2mm以下の砂粒を 多く含む	良	ナデ	スス附着あり。	SK03-5
第 68 図 17	4号 土坑	-	土・皿	口：(5.85) 底：3.8 高：1.55	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り		SK04-1
第 68 図 18	7号 土坑	-	土・皿	残：1.1	褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り		SK07-1
第 68 図 19	25	-	青・碗?	残：4.2	素：灰白色 釉：灰色	密 砂粒をほとんど含 まない	良	体：ロクロ引き、施釉	内面に象嵌、砂目あり。	SK08-12
第 68 図 20	25	-	陶・瓶子	口：(3.8) 残：2.8	素：浅黄色～ にぶい黄色 釉：灰オリ ブ色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：ロクロ引き、施釉	内面は釉垂れの露胎。	SK08-13
第 68 図 21	25	-	須・こね鉢	残：3.3	灰色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ	口縁部に自然釉附着。	SK08-11
第 68 図 22	26	-	土・坏	残：4.15	褐色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口・体：回転ナデ		SK08-2
第 68 図 23	26	8号 土坑	-	底：(6.6) 残：0.95	内：淡黄色～ にぶい褐色 外：浅黄褐色	やや粗 5mm以下の砂粒を やや多く含む	良	底：回転糸切り		SK08-4
第 68 図 24	26	-	土・皿	口：(9.4) 底：6.9 高：1.55	浅黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り		SK08-5
第 68 図 25	26	-	土・皿	底：6.4 残：1.1	内：灰黄褐色 外：灰黄褐色 ～浅黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体：回転ナデ 底：回転糸切り		SK08-3
第 68 図 26	26	-	土・鍋	残：7.3	にぶい黄褐色	やや粗 4mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：タテハケのちナデ	体部外面にスス附着、 内面にコゲ痕跡。	SK08-1
第 68 図 27	26	-	土・鍋	残：5.7	にぶい黄褐色	やや粗 2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：ナデ	体部外面にスス附着、 内面にコゲ痕跡。	SK08-10
第 68 図 28	10号 土坑	-	白・皿	残：1.1	素：灰白色 釉：灰白色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体：ロクロ引き、施釉	底部外面は露胎。	SK10-3
第 68 図 29	10号 土坑	-	土・皿	底：(6.7) 残：1.45	内：浅黄色～ にぶい黄色 外：灰黄色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体：回転ナデ底：回転糸切り		SK10-1

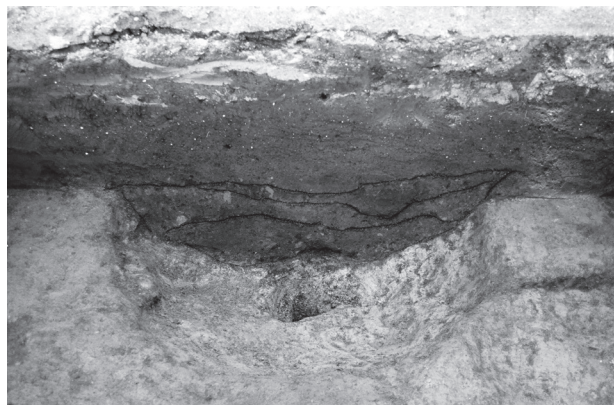
挿図 番号	図 版 番 号	出土遺構	器種	法量 cm・ (復元値)	色調	胎土	焼 成	成形・調整方法	備考	実測 番号	
第69図 1		1号 ビット	-	土・鍋	残：2.6	内：浅黄橙色 外：浅黄褐色 ～灰黄褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：ナデ	体部外面にスス附着。	P1-1
第69図 2		4号 ビット	-	土・鍋	残：3.15	にぶい黄褐色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：ナナメハケのちナデ	体部外面にスス附着、 内面にコゲ痕跡。	P4-1
第69図 3		6号 ビット	-	土・皿	底：(6.0) 残：1.1	にぶい橙色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	底：回転糸切り		P6-1
第69図 4	25	7号 ビット	-	土・皿	底：(5.2) 残：1.7	内：にぶい黄 橙色 外：にぶい橙 色	ほぼ密 2mm以下の砂粒を 少し含む	良	体：回転ナデ底：回転糸切り		P7-1
第69図 5			-	土・鍋	残：8.4	にぶい黄褐色 ～にぶい黄褐 色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：タテハケのちナデ	体部外面にスス附着、 内面にコゲ痕跡。	P7-2
第69図 6	25	8号 ビット	-	陶・碗	高台：(6.2) 残：3.35	素：浅黄褐色 ～橙色 釉：オリーブ 灰色～灰白色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体：ロクロ引き、施釉 高台：削り出し、無釉		P8-2
第69図 7		17号 ビット	-	土・皿	底：(7.7) 残：1.4	内：にぶい褐 色 外：にぶい黄 褐色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	体：回転ナデ 底：回転糸切り		P17-1
第69図 8		19号 ビット	-	土・坏	口：(11.8) 残：3.05	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ	口縁部にスス附着。	P19-1
第69図 9		25号 ビット	-	土・皿	残：1.75	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り		P25-2
第69図 10		29号 ビット	-	土・皿?	底：(8.5) 残：0.85	にぶい橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り		P29-1
第69図 11		30号 ビット	-	土・皿?	底：(7.6) 残：1.6	にぶい黄褐色	やや粗 1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り		P30-1
第69図 12		36号 ビット	-	土・皿	残：2.65	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ		P36-1
第69図 13		40号 ビット	-	土・皿	残：2.5	浅黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り		P40-1
第69図 14	25	43号 ビット	-	土・皿	口：(7.9) 底：(6.7) 高：1.45	内：灰黄褐色 外：灰黄褐色 ～にぶい黄橙 色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り	底部外面に板状圧痕。	P43-1
第69図 15		47号 ビット	-	土・皿	口：(7.6) 底：(6.1) 高：1.25	にぶい黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り		P47-1
第69図 16		51号 ビット	-	土・坏	残：2.85	にぶい黄褐色 ～浅黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り		P51-1
第69図 17		57号 ビット	-	瓦・火鉢	残：5.7	内：灰白色 外：灰色	粗 2mm以下の砂粒を 多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：ヨコナデ	体部外面に印花紋。	P57-1
第69図 18			-	白・皿	残：2.6	素：灰白色 釉：灰白色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	体：ロクロ引き、施釉	口縁端部は釉カキ。	P58-3
第69図 19		58号 ビット	-	土・皿	口：(9.5) 底：(5.5) 高：1.9	橙色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り		P58-1
第69図 20		62号 ビット	-	土・皿	口：(6.3) 底：(3.9) 高：2.0	浅黄褐色	ほぼ密 1mm以下の砂粒を 少し含む	良	口・体：回転ナデ 底：回転糸切り	底部外面に板状圧痕。	P62-1
第69図 21		63号 ビット	-	土・鍋	残：6.05	内：にぶい橙 色～橙色 外：にぶい橙 色～にぶい褐 色	粗 2mm以下の砂粒を 多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：ナデ	体部外面にスス附着。	P63-1
第69図 22			-	土・鍋	残：3.8	内：にぶい橙 色 外：黒褐色	粗 3mm以下の砂粒を 多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：タテハケ	体部外面にスス附着、 内面にコゲ痕跡。	検出面 -1
第69図 23		表採	-	土・鍋	残：5.35	内：浅黄褐色 外：浅黄褐色 ～にぶい黄褐 色	やや粗 3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	口：ヨコナデ 体・内：ヨコハケ 体・外：タテハケのちナデ	体部外面にスス附着。	検出面 -3
第70図 1	25	24号 ビット	-	鉄製釣針	幅：2.2 長さ：(4.4) 厚さ：0.6 重量：14.2						P24
第70図 2	25	63号 ビット	-	鉄製刀子	幅：1.9 長さ：(6.8) 厚さ：0.3 重量：19.0						P63
第70図 3	25	15号 ビット	-	砥石	幅：(3.7) 長さ：(4.9) 厚さ：0.4 重量：14.6				花崗岩		P15-イ①
第70図 4	25	10号 土坑	-	砥石	幅：(4.9) 長さ：(5.3) 厚さ：(1.7) 重量：46.0				花崗岩		SK10-イ①



① A区全景（西から）



② 1号土坑 遺物出土状況（北東から）



③ 2号土坑 土層断面・完掘状況（南東から）



④ 1号住居 土層断面（南から）



⑤ 1号住居 完掘状況（南東から）



① B区南側全景（北西から）



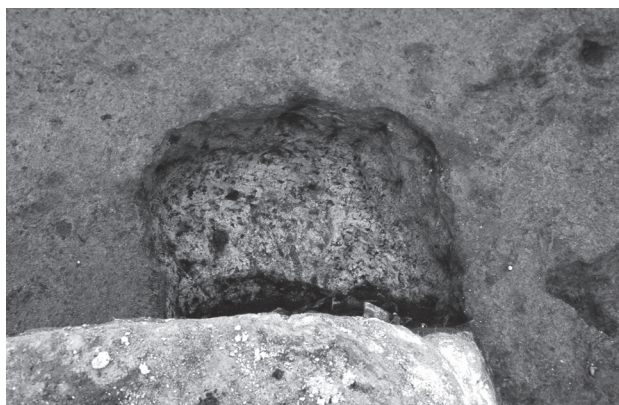
② B区全景（南東から）



① 10号土坑 遺物出土状況（北東から）



② 10号土坑 土層断面（北東から）



③ 10号土坑 完掘状況（南西から）



④ 11号土坑 遺物出土状況（北西から）



⑤ 11号土坑 完掘状況（南西から）



⑥ 11号土坑 土層断面（北西から）



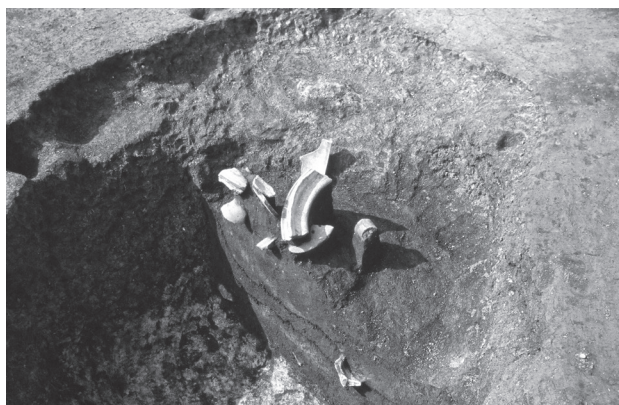
⑦ 6号溝状遺構 完掘状況（北西から）



① C区全景 (1) (南西から)



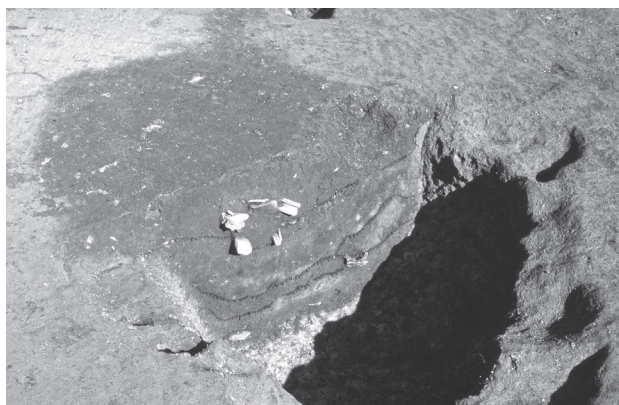
② C区全景 (2) (北東から)



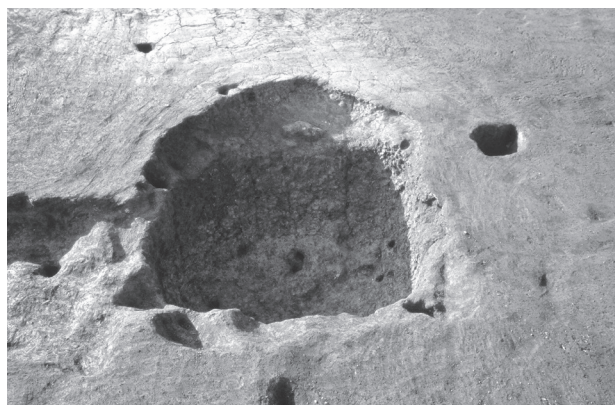
① 7号土坑北半部 遺物出土状況 (南から)



② 7号土坑南半部 遺物出土状況 (南から)



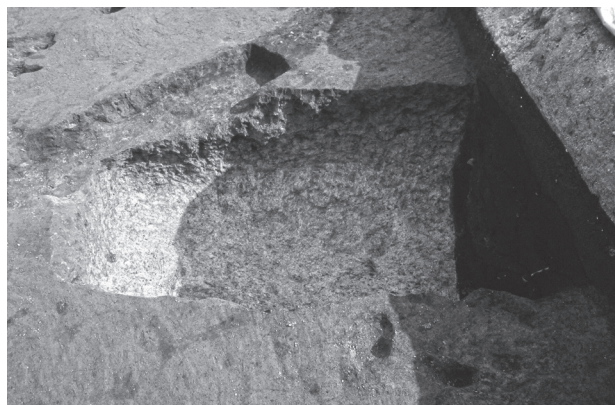
③ 7号土坑 土層断面 (南から)



④ 7号土坑 完掘状況 (南西から)



⑤ 8号土坑 土層断面 (北東から)



⑥ 8号土坑 完掘状況 (北西から)



⑦ 9号土坑 土層断面 (北東から)



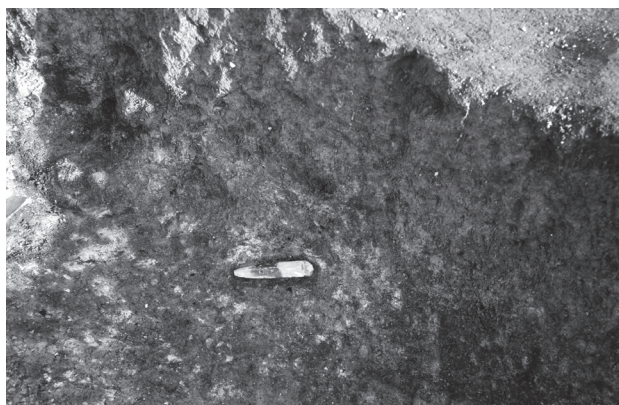
⑧ 9号土坑 遺物出土状況 (南西から)



① 9号土坑 完掘状況 (南東から)



② 2号住居 遺物出土状況 (1) (南西から)



③ 2号住居 遺物出土状況 (2) (西から)



④ 2号住居 遺物出土状況 (3) (南東から)



⑤ 2号住居 遺物出土状況 (4) (南西から)



⑥ 2号住居 遺物出土状況 (5) (南西から)



⑦ 2号住居 遺物出土状況 (6) (北西から)



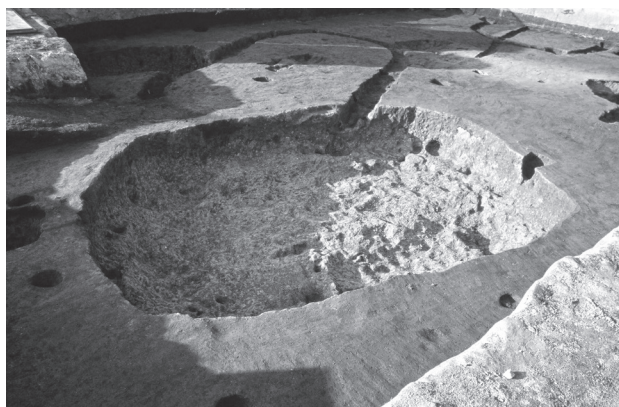
⑧ 2号住居 土層断面 (1) (北東から)



① 2号住居 土層断面 (2) (北西から)



② 2号住居 全景 (北西から)



③ 2号住居 完掘状況 (南東から)



④ 1号甕棺墓 検出状況 (東から)



⑤ 2号溝状遺構 完掘状況 (北西から)



⑥ 3号溝状遺構 完掘状況 (南から)



⑦ 4号溝状遺構 完掘状況 (北東から)



⑧ 5号溝状遺構 完掘状況 (北西から)

図版 8



①2トレンチ 全景 (北から)



②3トレンチ 全景 (南から)



③8号溝状遺構 完掘状況 (北西から)



④15号土坑 完掘状況 (南西から)



⑤4トレンチ 全景 (1) (北西から)



⑥4トレンチ 全景 (2) (南西から)



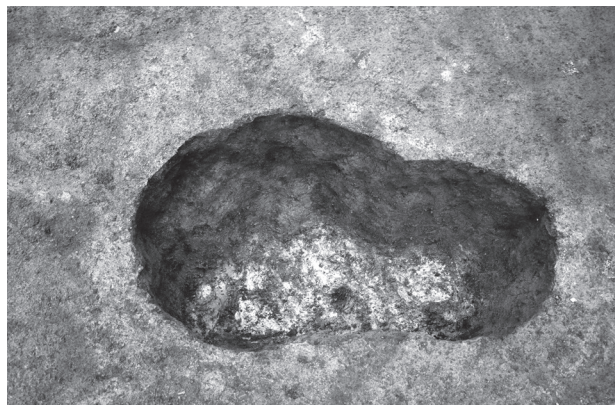
① E区全景（1）（西から）



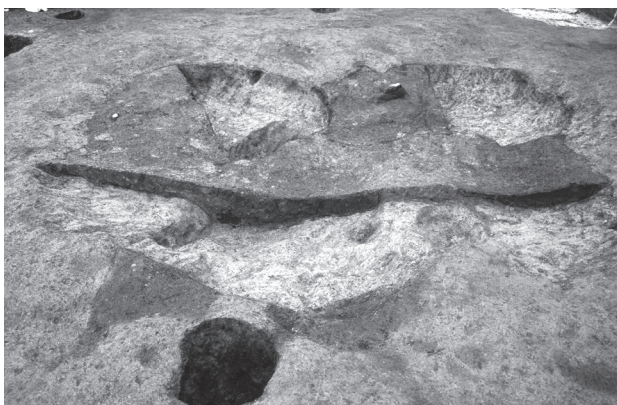
② E区全景（2）（南東から）



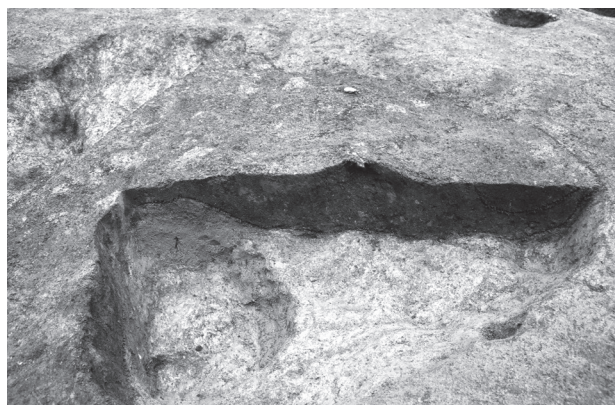
① 1号土坑 土層断面（北西から）



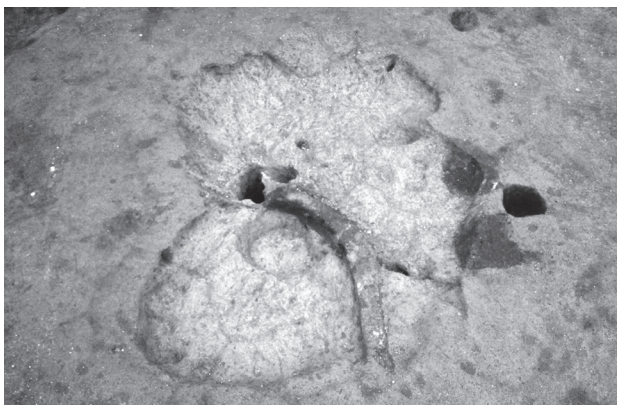
② 1号土坑 完掘状況（北西から）



③ 2号土坑 土層断面（北東から）



④ 3号土坑 土層断面（西から）



⑤ 2・3号土坑 完掘状況（東から）



⑥ 1・2号ピット 土層断面（西から）



⑦ 8・9号ピット 完掘状況（南西から）



⑧ 発掘作業風景



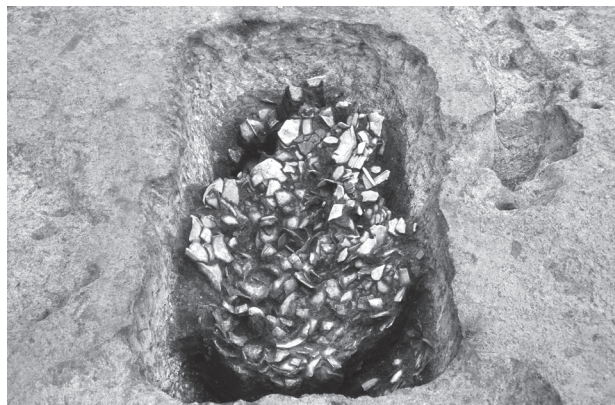
① F区全景（1）（北東から）



② F区全景（2）（南東から）



① 1号祭祀土坑 土層断面 (東から)



② 1号祭祀土坑 遺物出土状況 (南から)



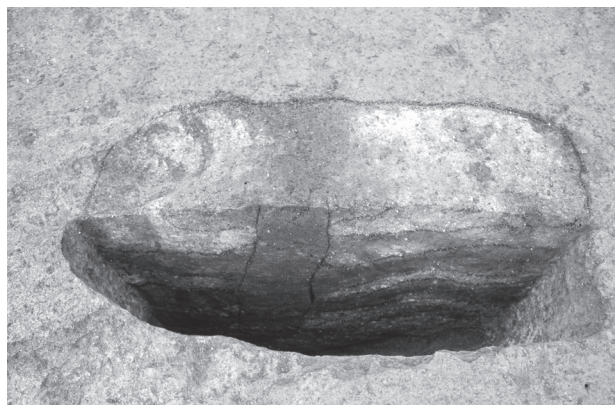
③ 2号祭祀土坑 土層断面 (北から)



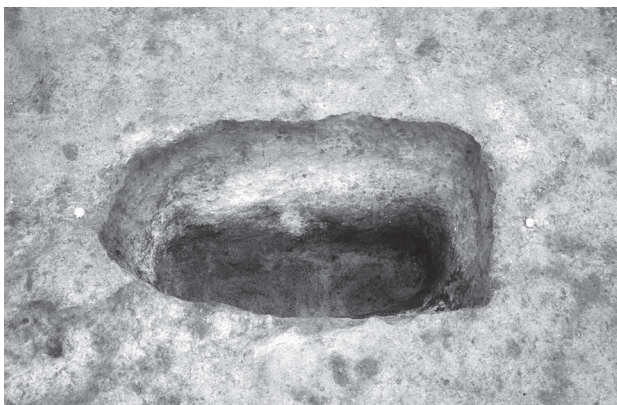
④ 2号祭祀土坑 完掘状況 (北から)



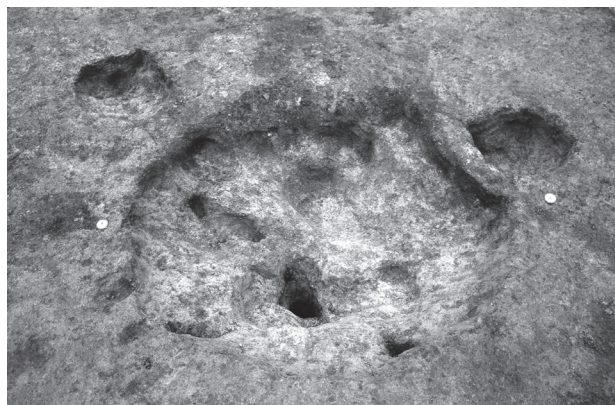
⑤ 1号土坑 完掘状況 (南から)



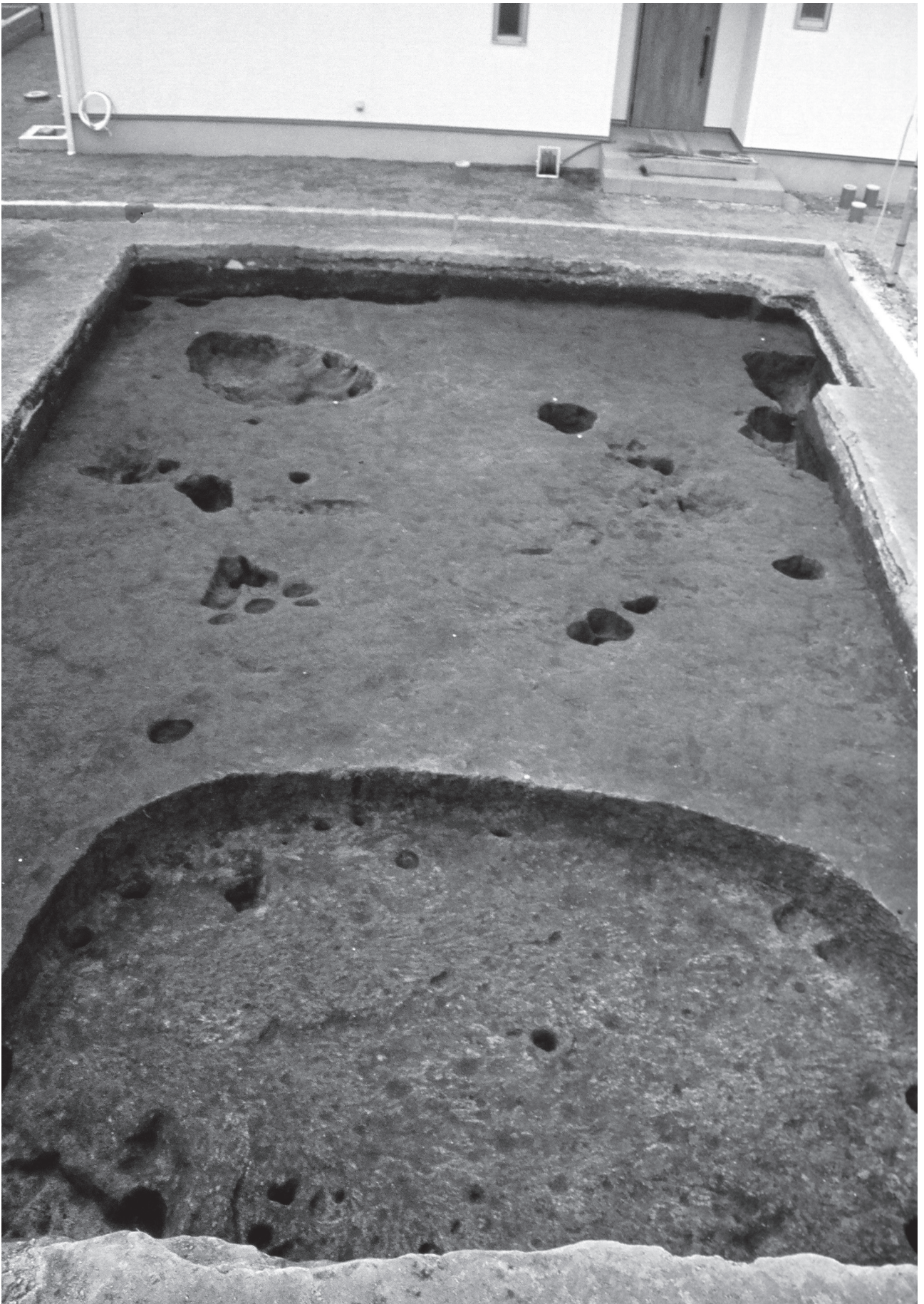
⑥ 4号土坑 土層断面 (北から)



⑦ 4号土坑 完掘状況 (北から)



⑧ 5号土坑 完掘状況 (北西から)



G区全景（東から）



① 1号住居 土層断面 (1) (西から)



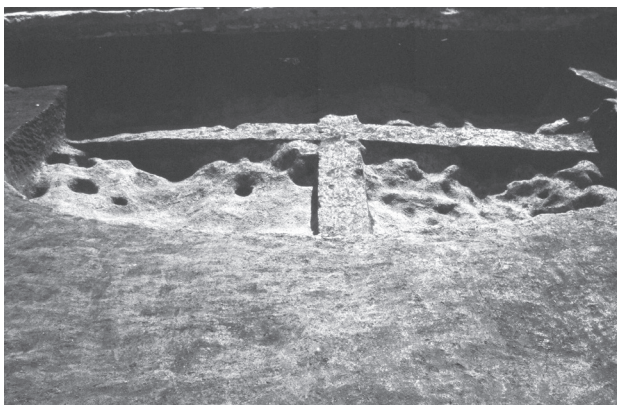
② 1号住居 土層断面 (2) (北から)



③ 1号住居 全景 (1) (東から)



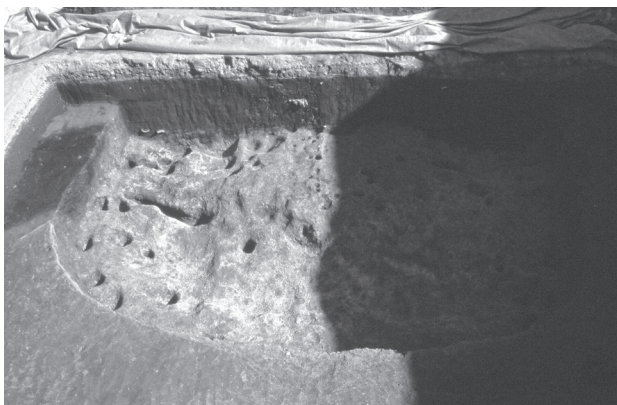
④ 1号住居 全景 (2) (西から)



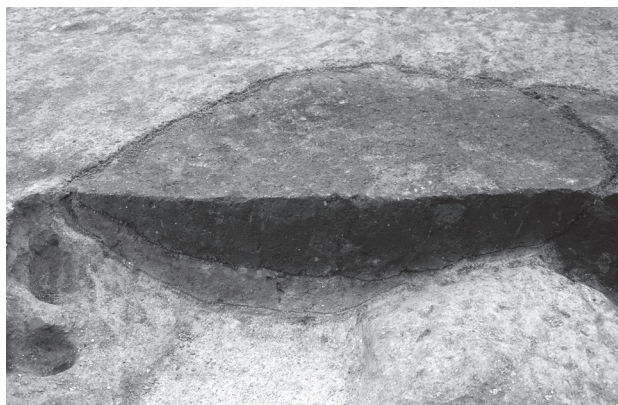
⑤ 1号住居 貼床土層断面 (1) (西から)



⑥ 1号住居 貼床土層断面 (2) (北から)



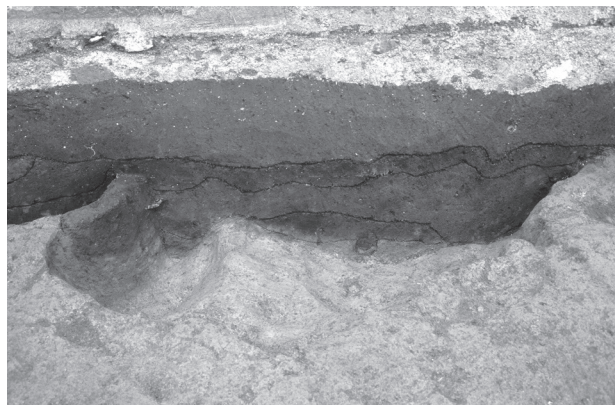
⑦ 1号住居 完掘状況 (西から)



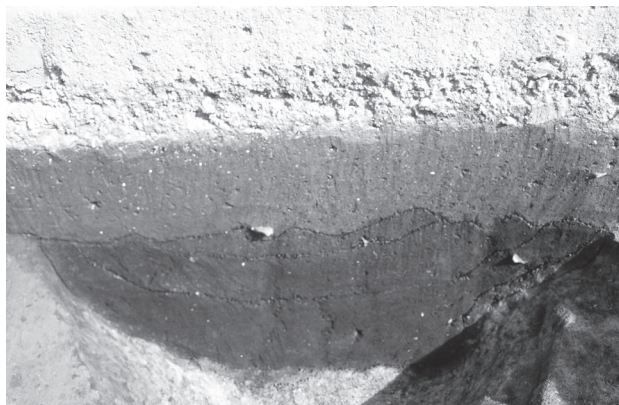
⑧ 1号土坑 土層断面 (西から)



① 1号土坑完掘状況（北から）



② 3号土坑土層断面（南から）



③ 4号土坑土層断面（南から）



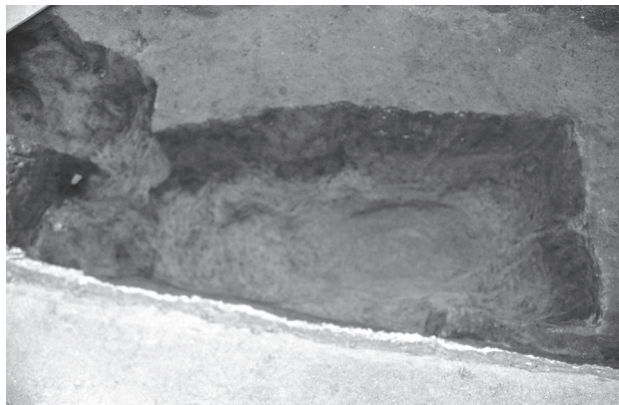
④ 4号土坑完掘状況（北から）



⑤ 1号甕棺墓 土層断面（南から）



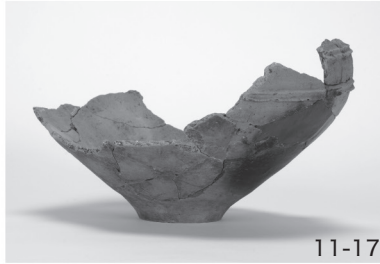
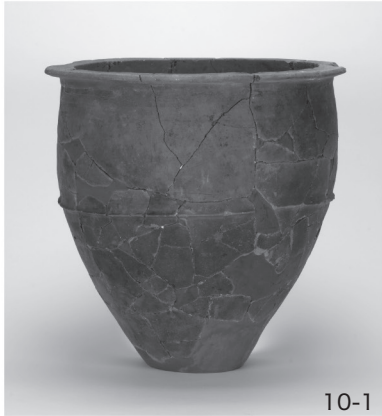
⑥ 1号甕棺墓 完掘状況（南から）



⑦ 1号甕棺墓 墓壇完掘状況（北から）



⑧ 発掘調査風景





23-3



23-4



23-5



23-6



23-7



23-8



24-1



24-2



24-3



24-4



24-5



24-7



24-8



24-12



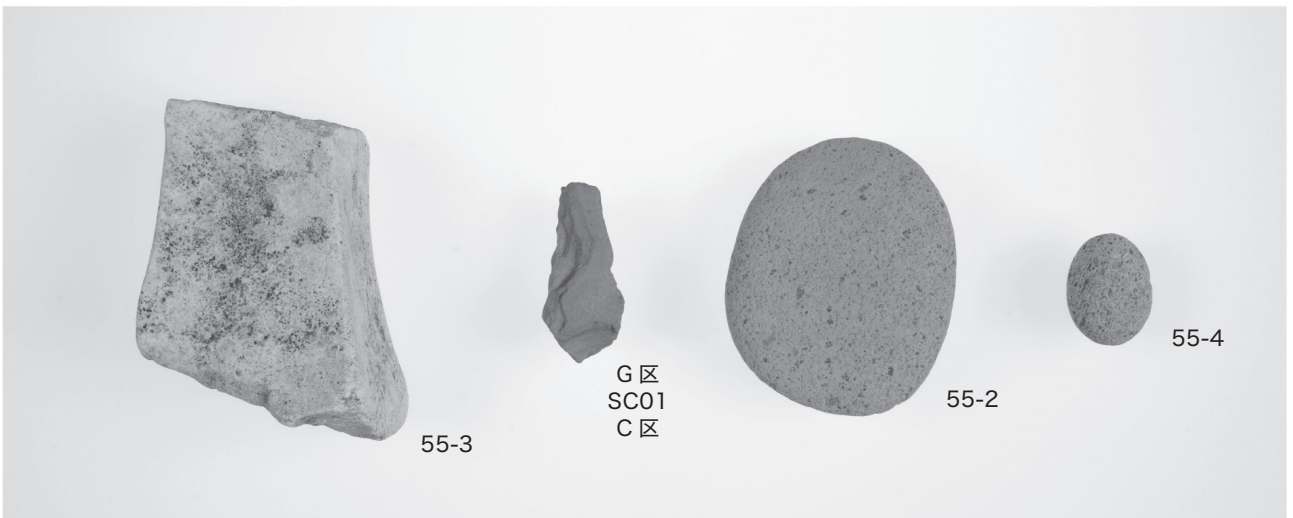
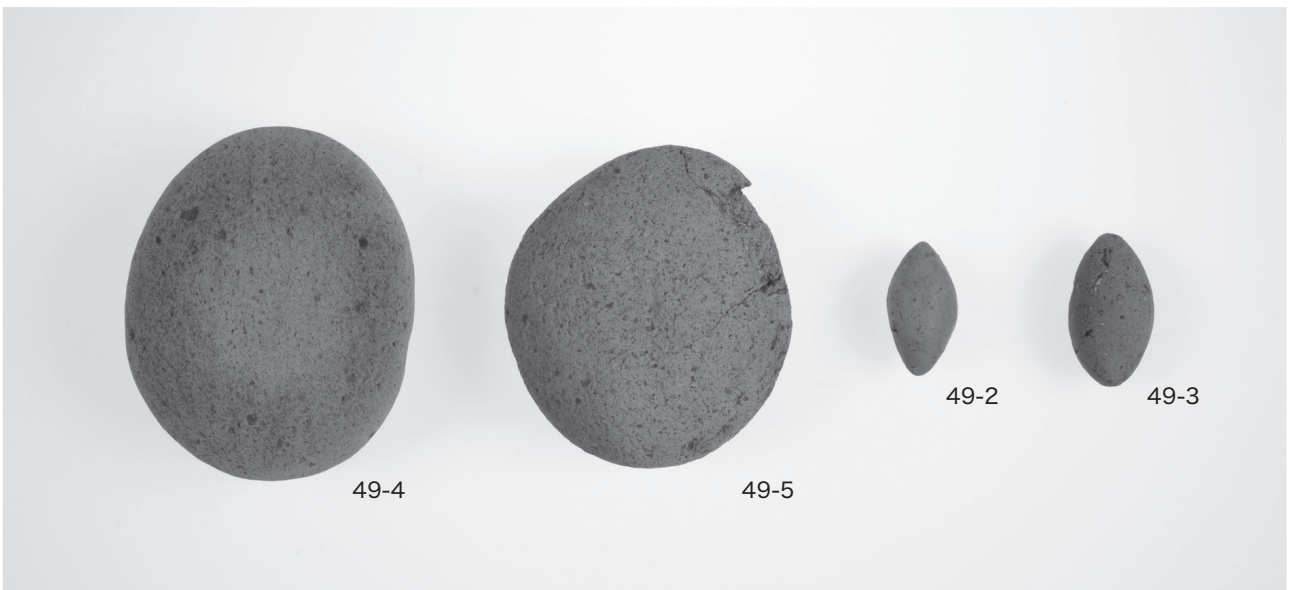
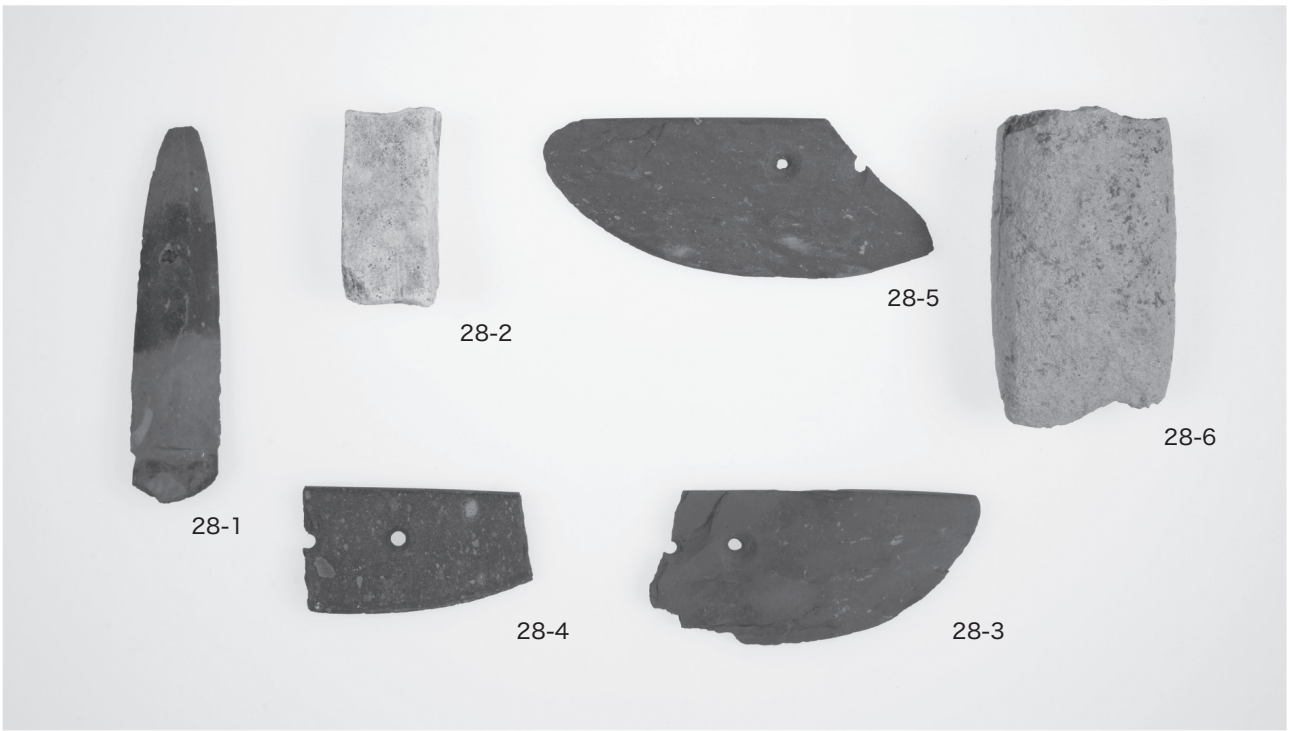
24-13



25-1









①調査区全景（1）（南から）



②調査区全景（2）（南西から）



③西壁土層断面（東から）



①調査区全景（西から）



②1号土坑 東西土層断面（北から）



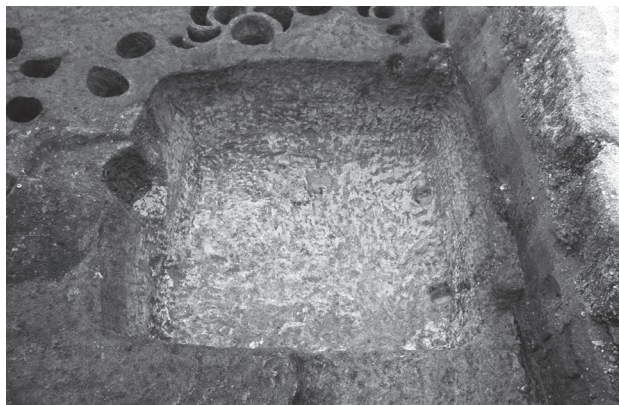
③1号土坑 南北土層断面（西から）



④1号土坑 完掘状況（南から）



⑤2号土坑 土層断面（北から）



① 2号土坑 完掘状況 (南から)



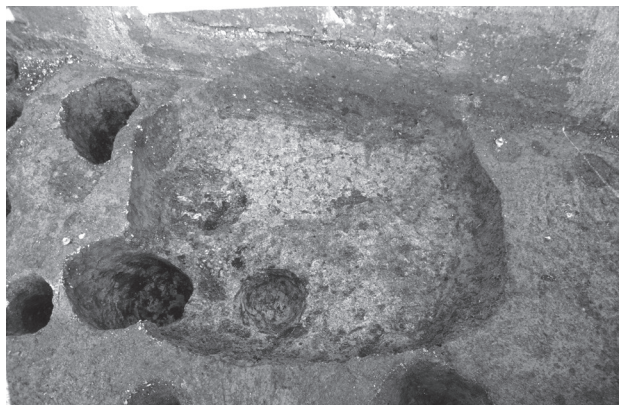
② 3号土坑 南北土層断面 (西から)



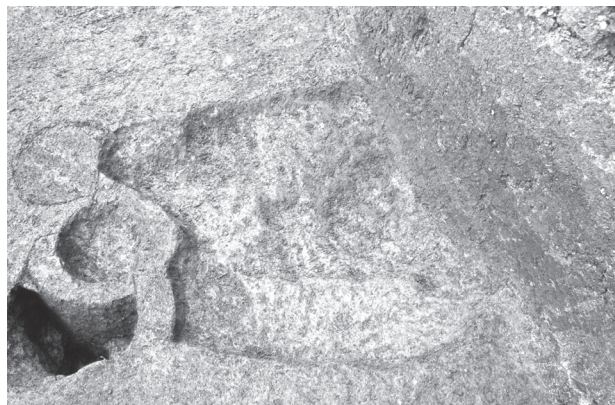
③ 3号土坑 東西土層断面 (南から)



④ 3号土坑 完掘状況 (西から)



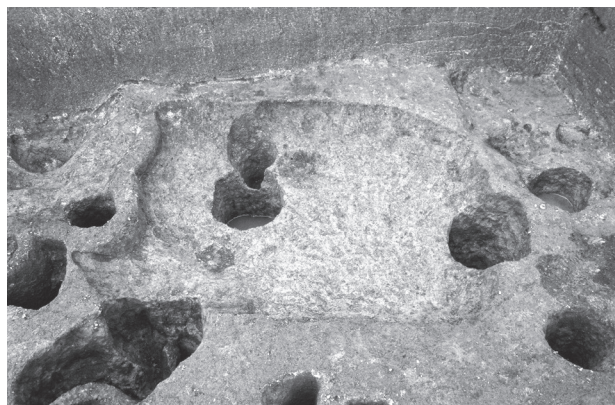
⑤ 4号土坑 完掘状況 (南西から)



⑥ 5号土坑 完掘状況 (東から)



⑦ 6号土坑 土層断面 (南から)



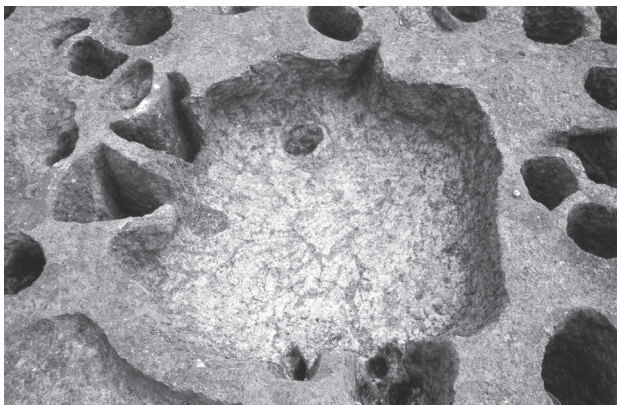
⑧ 6号土坑 完掘状況 (南から)



① 7号土坑 完掘状況 (北から)



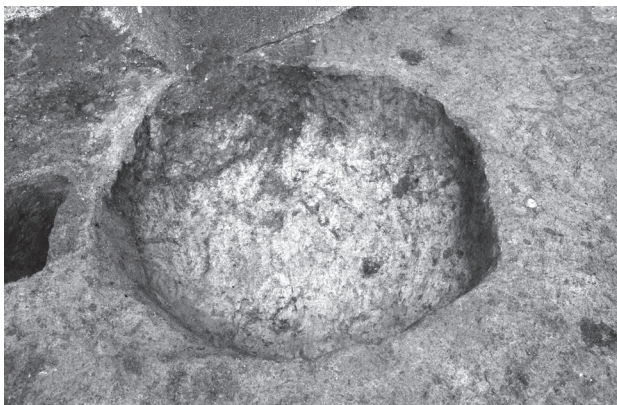
② 8号土坑 土層断面 (西から)



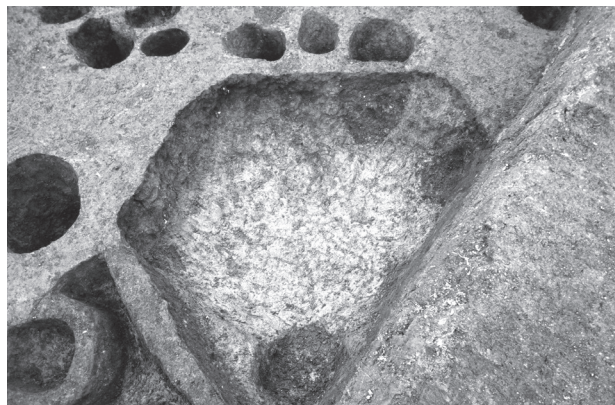
③ 8号土坑 完掘状況 (西から)



④ 9号土坑 土層断面 (南東から)



⑤ 9号土坑 完掘状況 (南東から)



⑥ 10号土坑 完掘状況 (北西から)



⑦ 1号溝 土層断面 (西から)



⑧ 1号溝 完掘状況 (南西から)



69-4



69-6



69-14



68-12



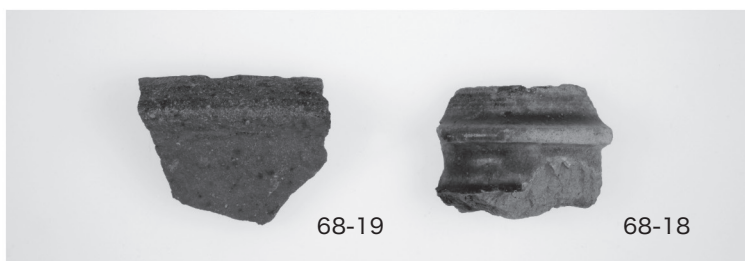
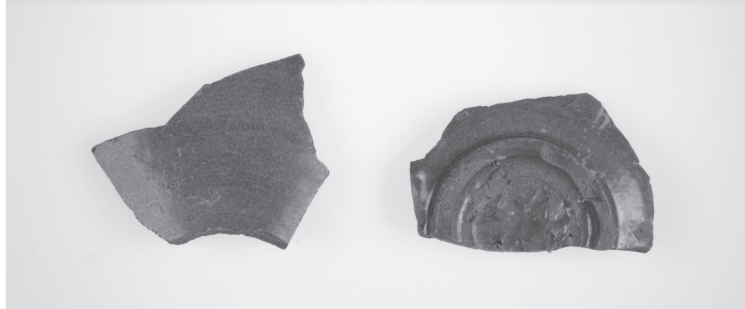
68-14

68-13



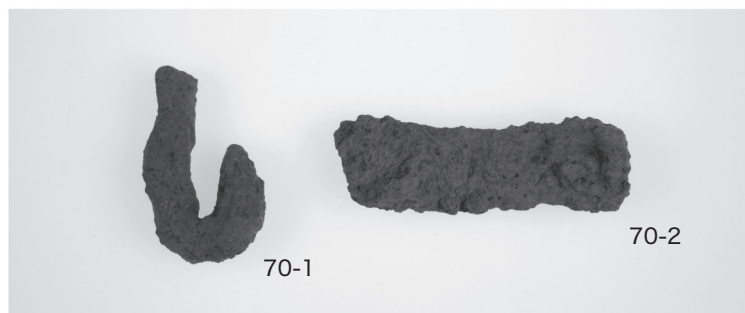
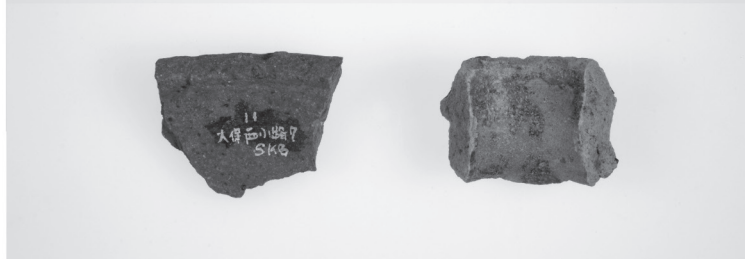
68-17

68-1



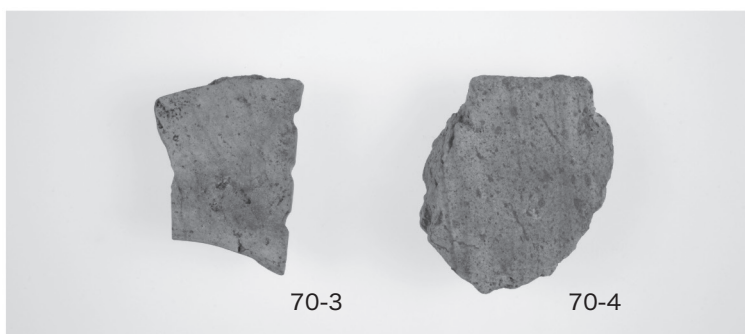
68-19

68-18



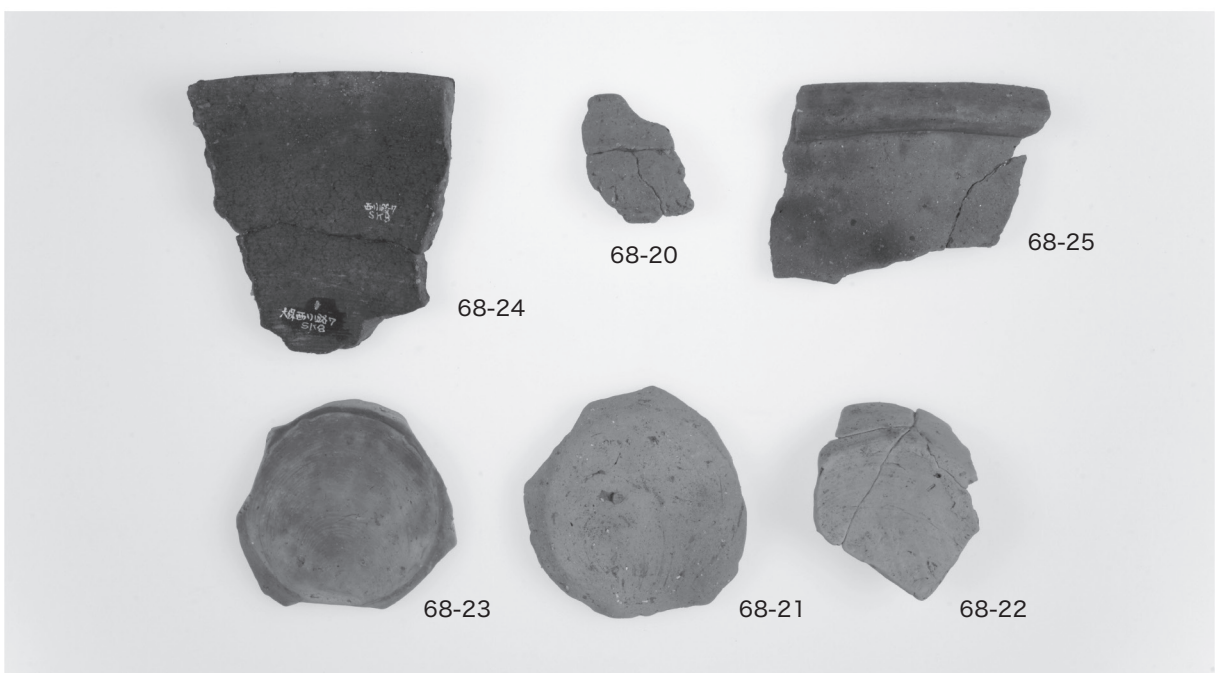
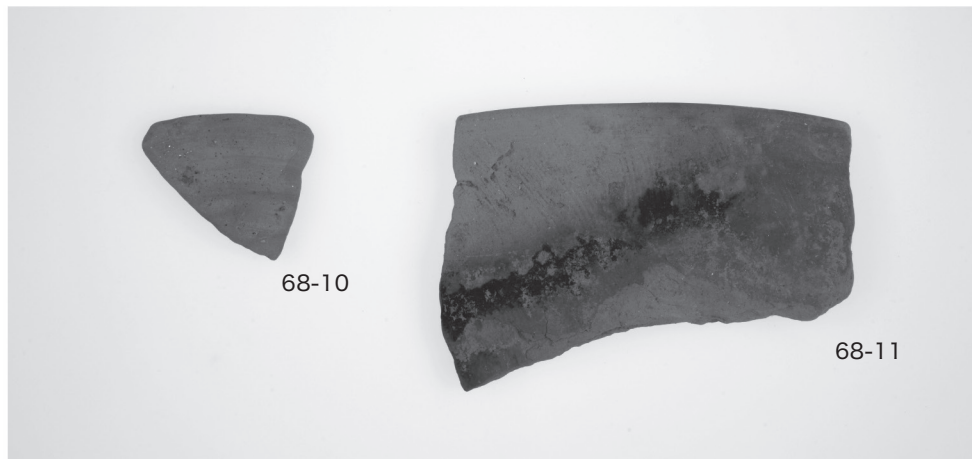
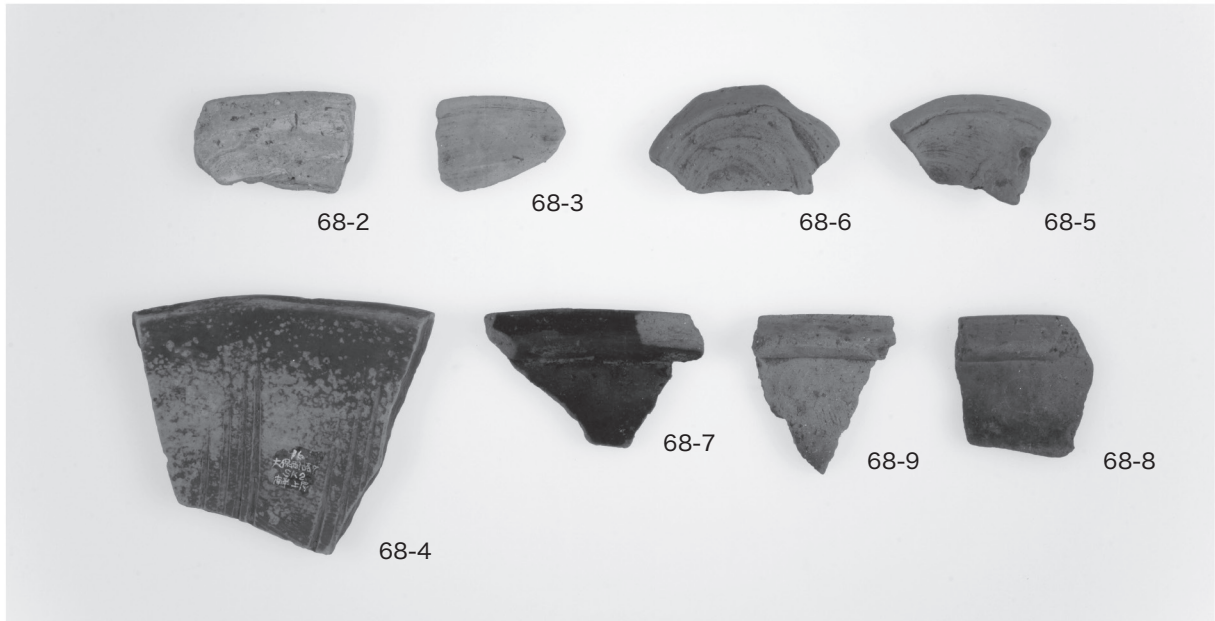
70-1

70-2



70-3

70-4



報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	埋蔵文化財調査報告書9							
副書名	平成26・27年度 国庫補助事業 市内遺跡調査報告書							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第310集							
編著者名	上田 恵/杉本岳史							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838 - 0198 福岡県小郡市小郡 255 - 1 Tel. 0942 - 72 - 2111							
発行年月日	2017 (平成29) 年3月31日							
保管場所	〔写真・図面・遺物〕小郡市埋蔵文化財調査センター							
保管場所所在地	〒838 - 0106 福岡県小郡市三沢 5147 - 3 Tel. 0942 - 75 - 7555							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村 コード	遺跡 番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
小郡若山遺跡8A	小郡市 小郡	40216		33° 40' 30"	130° 55' 52"	20150107 ～ 20150121	55 m ²	個人住宅 建設
小郡若山遺跡8B	小郡市 小郡	40216		33° 40' 28"	130° 55' 52"	20150120 ～ 20150311	96.48 m ²	個人住宅 建設
小郡若山遺跡8C	小郡市 小郡	40216		33° 40' 29"	130° 55' 54"	20150120 ～ 20150225	115.91 m ²	個人住宅 建設
小郡若山遺跡8D	小郡市 小郡	40216		33° 40' 29~31"	130° 55' 52~56"	20140910 ～ 20140911	69.6 m ²	下水工事 立会
小郡若山遺跡8E	小郡市 小郡	40216		33° 24' 10"	130° 33' 20"	20150602 ～ 20150626	50 m ²	個人住宅 建設
小郡若山遺跡8F	小郡市 小郡	40216		33° 24' 11"	130° 33' 20"	20150608 ～ 20150626	73 m ²	個人住宅 建設
小郡若山遺跡8G	小郡市 小郡	40216		33° 24' 11"	130° 33' 20"	20150924 ～ 20151020	120 m ²	個人住宅 建設
福童町遺跡13	小郡市 福童	40216		33° 22' 53"	130° 32' 45"	20150511 ～ 20150522	63 m ²	個人住宅 建設
大保西小路遺跡7	小郡市 三沢	40216		33° 24' 46"	130° 33' 35"	20160118 ～ 20160226	69.63 m ²	個人住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			
小郡若山遺跡8	集落 墓地	弥生	竪穴住居・土坑 甕棺墓		弥生土器・石器・甕棺			
特記事項	弥生時代中期の墓地・祭祀場所を伴う集落域を確認した。							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			
福童町遺跡13	集落	中世・近世	ピット		土器			
特記事項	近隣で確認されている集落域の空閑地であることを確認した。							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			
大保西小路遺跡7	集落	中世	地下式土坑・土坑 ピット		土師器・磁器・鉄器			
特記事項	中世集落域の中心部であり、鎌倉時代を最盛期としていたと考えられる。							

埋蔵文化財調査報告書 9

—平成 26・27 年度 国庫補助事業 市内遺跡調査報告書—
小郡市文化財調査報告書第 310 集

編集 小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡 225-1
印刷 スマートファイブ
福岡県小郡市小郡 1572-9

